

# 四街道市 障害者福祉に関する調査

## 報告書

令和3年3月

四街道市



# 目次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査実施の目的 .....	3
2. 調査の種類 .....	3
3. 調査方法と回収状況 .....	3
4. 調査項目 .....	3
5. 調査結果を見る上での注意事項 .....	5
<b>第2章 調査結果の詳細／身体障害者</b> .....	7
1. 回答者属性 .....	9
(1) 調査票記入者 .....	9
(2) 性別と年齢 .....	9
(3) 障害の程度 .....	10
(4) 障害の種類 .....	11
(5) 最も重い障害 .....	11
(6) 生活場所 .....	12
(7) 同居人の続柄 .....	12
(8) 障害福祉サービスの利用状況 .....	13
(9) 利用しているサービス .....	14
(10) その他の介護保険サービスの利用状況 .....	17
(11) 該当する要介護度 .....	17
(12) 現在受けている医療ケア .....	18
2. 介助 .....	20
(1) 各種生活状況 .....	20
(2) 主な介助者 .....	21
(3) 主な介助者がいない場合の対処法 .....	22
3. 日中の過ごし方 .....	23
(1) 平日日中の過ごし方 .....	23
(2) 通園・通学先 .....	24
(3) 通園・通学していて困っていること .....	25
4. 就労状況 .....	26
(1) 就業状況 .....	26
(2) 仕事の形態 .....	27
(3) 1週間の勤務日数 .....	27
(4) 仕事への不安や不満 .....	28
(5) 働いていない理由 .....	30
5. 外出・社会参加の状況 .....	31
(1) 外出時の交通手段 .....	31
(2) 外出の際に困っていること .....	33

(3) 各種活動状況	35
(4) 今後充実させたいこと	36
(5) 地域活動や社会参加のために必要なこと	37
(6) 差別や人権侵害、虐待の有無	37
(7) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき	38
(8) 障害に対する市民の理解	39
(9) 「障害者差別解消法」の認知度	39
6. ふだんの生活の困りごとなど	40
(1) 現在の生活で困っている、不安を感じていること	40
(2) 相談先	41
(3) 相談したいことの有無	41
(4) 相談したい内容	42
(5) 相談支援事業所の利用状況	43
(6) 具体的な利用内容	43
(7) 利用していない理由	44
(8) 相談支援事業所に期待すること	45
7. 福祉情報などの入手状況	46
(1) 福祉に関する情報の入手先	46
(2) 情報が取得できないことでの困難経験の有無	46
(3) 困難経験の具体的内容	47
(4) 今後ほしい情報	48
8. 今後、希望する暮らし方	49
(1) 希望する生活形態	49
(2) 自宅での生活を続けるための条件	50
9. 洪水や地震等の災害時の対応	51
(1) 非常食と水の準備状況	51
(2) 災害時における一人での避難	51
(3) 災害時での周囲への伝達	52
(4) 近所で助けてくれる人の有無	52
(5) 災害発生時に支援してほしいこと	53
(6) 避難所での生活で配慮してほしいこと	54
(7) 災害時に困ると思われること、不安なこと	55
(8) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度	56
(9) 個別支援計画作成の有無	57
(10) 作成していない理由	57
10. 福祉施策	58
(1) 市への要望	58
11. 自由記述	59

第3章 調査結果の詳細／知的障害者	61
1. 回答者属性	63
(1) 調査票記入者	63
(2) 性別と年齢	63
(3) 障害の程度	64
(4) 身体障害者手帳の有無と等級	65
(5) 生活場所	66
(6) 同居人の続柄	66
(7) 障害福祉サービスの利用状況	67
(8) 利用しているサービス	68
(9) その他の介護保険サービスの利用状況	71
(10) 該当する要介護度	71
(11) 現在受けている医療ケア	72
2. 介助	73
(1) 各種生活状況	73
(2) 主な介助者	74
(3) 主な介助者がいない場合の対処法	76
3. 日中の過ごし方	77
(1) 平日日中の過ごし方	77
(2) 通園・通学先	78
(3) 通園・通学していて困っていること	78
4. 就労状況	80
(1) 就業状況	80
(2) 仕事の形態	80
(3) 1週間の勤務日数	81
(4) 仕事への不安や不満	82
(5) 働いていない理由	84
5. 外出・社会参加の状況	85
(1) 外出時の交通手段	85
(2) 外出の際に困っていること	86
(3) 各種活動状況	87
(4) 今後充実させたいこと	88
(5) 地域活動や社会参加のために必要なこと	89
(6) 差別や人権侵害、虐待の有無	89
(7) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき	90
(8) 障害に対する市民の理解	91
(9) 「障害者差別解消法」の認知度	91
6. ふだんの生活の困りごとなど	92
(1) 現在の生活で困っている、不安を感じていること	92
(2) 相談先	93

(3) 相談したいことの有無	93
(4) 相談したい内容	94
(5) 相談支援事業所の利用状況	95
(6) 具体的な利用内容	95
(7) 利用していない理由	96
(8) 相談支援事業所に期待すること	96
(9) 成年後見制度の認知度	97
(10) 成年後見制度の利用意向	98
7. 福祉情報などの入手状況	99
(1) 福祉に関する情報の入手先	99
(2) 情報が取得できないことでの困難経験の有無	100
(3) 困難経験の具体的内容	100
(4) 今後ほしい情報	101
8. 今後、希望する暮らし方	102
(1) 希望する生活形態	102
(2) 自宅での生活を続けるための条件	103
9. 洪水や地震等の災害時の対応	104
(1) 非常食と水の準備状況	104
(2) 災害時における一人での避難	104
(3) 災害時での周囲への伝達	105
(4) 近所で助けてくれる人の有無	105
(5) 災害発生時に支援してほしいこと	106
(6) 避難所での生活で配慮してほしいこと	107
(7) 災害時に困ると思われること、不安なこと	108
(8) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度	109
(9) 個別支援計画作成の有無	110
(10) 作成していない理由	110
10. 福祉施策	111
(1) 市への要望	111
11. 自由記述	112

#### 第4章 調査結果の詳細／精神障害者 115

1. 回答者属性	117
(1) 調査票記入者	117
(2) 性別と年齢	117
(3) 障害の程度	118
(4) 生活場所	119
(5) 同居人の続柄	119
(6) 障害福祉サービスの利用状況	120
(7) 利用しているサービス	121

(8) その他の介護保険サービスの利用状況	123
(9) 該当する要介護度	123
2. 精神科または神経科の病院への入院	124
(1) 入院回数	124
(2) これまでの入院期間	124
3. 介助	126
(1) 各種生活状況	126
(2) 主な介助者	127
(3) 主な介助者がいない場合の対処法	128
4. 日中の過ごし方、就労状況	129
(1) 平日日中の過ごし方	129
5. 就労状況	130
(1) 就業状況	130
(2) 仕事の形態	130
(3) 1週間の勤務日数	131
(4) 仕事への不安や不満	132
(5) 働いていない理由	133
6. 外出・社会参加の状況	134
(1) 外出時の交通手段	134
(2) 外出の際に困っていること	134
(3) 各種活動状況	135
(4) 今後充実させたいこと	136
(5) 地域活動や社会参加のために必要なこと	137
(6) 差別や人権侵害、虐待の有無	137
(7) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき	138
(8) 障害に対する市民の理解	139
(9) 「障害者差別解消法」の認知度	139
7. ふだんの生活の困りごとなど	140
(1) 現在の生活で困っている、不安を感じていること	140
(2) 相談先	141
(3) 相談したいことの有無	141
(4) 相談したい内容	142
(5) 相談支援事業所の利用状況	143
(6) 具体的な利用内容	143
(7) 利用していない理由	144
(8) 相談支援事業所に期待すること	145
(9) 成年後見制度の認知度	146
(10) 成年後見制度の利用意向	147
8. 福祉情報の入手状況	148
(1) 福祉に関する情報の入手先	148

(2) 情報が取得できないことでの困難経験の有無	149
(3) 困難経験の具体的内容	149
(4) 今後ほしい情報	150
9. 今後、希望する暮らし方	151
(1) 希望する生活形態	151
(2) 自宅での生活を続けるための条件	152
10. 洪水や地震等の災害時の対応	153
(1) 非常食と水の準備状況	153
(2) 災害時における一人での避難	153
(3) 災害時での周囲への伝達	154
(4) 近所で助けてくれる人の有無	154
(5) 災害発生時に支援してほしいこと	155
(6) 避難所での生活で配慮してほしいこと	156
(7) 災害時に困ると思われること、不安なこと	156
(8) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度	157
(9) 個別支援計画作成の有無	158
(10) 作成していない理由	158
11. 福祉施策	159
(1) 市への要望	159
12. 自由記述	160



# 第1章 調査の概要



## 1. 調査実施の目的

四街道市では平成28年度に第4次障害者基本計画を策定し、この計画を基に、障害のある人へ向けた各施策に取り組んでおり、計画策定から5年経過した現在、皆様の生活状況や障害施策に対する意識がどのように変化したかを調査・検証し、今後の施策に活用するため、アンケート調査を実施した。

## 2. 調査の種類

調査名	調査対象
身体障害者調査	市内在住の身体障害者手帳所持者2,473名
知的障害者調査	市内在住の療育手帳所持者657名
精神障害者調査	市内在住の精神障害者保健福祉手帳所持者779名

## 3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：令和2年10月14日（水）～11月4日（水）

<回収状況>

調査名	発送数	回収数	回収率
身体障害者調査	2,473件	1,718件	69.5%
知的障害者調査	657件	426件	64.8%
精神障害者調査	779件	434件	55.7%

## 4. 調査項目

	設問項目	身体障害者	知的障害者	精神障害者
回答者属性	調査票記入者	問38	問40	問39
	性別と年齢	問1	問1	問1
	障害の程度	問2	問2	問2
	障害の種類	問3	—	—
	最も重い障害	問3-1	—	—
	身体障害者手帳の有無と等級	—	問3	—
	生活場所	問4	問4	問3
	同居人の続柄	問5	問5	問4
	障害福祉サービスの利用状況	問6	問6	問5
	利用しているサービス	問6-1	問6-1	問5-1
	その他の介護保険サービスの利用状況	問6-2	問6-2	問5-2
	該当する要介護度	問6-3	問6-3	問5-3
	現在受けている医療ケア	問7	問7	—

第1章 調査の概要

精神科・神経科 病院への入院	入院回数	—	—	問6
	これまでの入院期間	—	—	問6-1
介助	各種生活状況	問8	問8	問7
	主な介助者	問8-1	問8-1	問7-1
	主な介助者がいない場合の対処法	問8-2	問8-2	問7-2
ご日中の方の過	平日日中の過ごし方	問9	問9	問8
	通園・通学先	問9-1	問9-1	—
	通園・通学していて困っていること	問9-2	問9-2	—
就労状況	就業状況	問10	問10	問9
	仕事の形態	問10-1	問10-1	問9-1
	1週間の日数	問10-2	問10-2	問9-2
	仕事への不安や不満	問10-3	問10-3	問9-3
	働いていない理由	問10-4	問10-4	問9-4
外出・社会参加の状況	外出の際の交通手段	問11	問11	問10
	外出の際に困っていること	問12	問12	問11
	各種活動状況	問13	問13	問12
	今後充実させたいこと	問14	問14	問13
	地域活動や社会参加のために必要なこと	問15	問15	問14
	差別や人権侵害、虐待の有無	問16	問16	問15
	差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき	問17	問17	問16
	障害に対する市民の理解	問18	問18	問17
	「障害者差別解消法」の認知度	問19	問19	問18
ふだんの生活の困りごとなど	現在の生活で困っている、不安に感じていること	問20	問20	問19
	相談先	問21	問21	問20
	相談したいことの有無	問22	問22	問21
	相談したい内容	問22-1	問22-1	問21-1
	相談支援事業所の利用状況	問23	問23	問22
	具体的な利用内容	問23-1	問23-1	問22-1
	利用していない理由	問23-2	問23-2	問22-2
	相談支援事業所に期待すること	問24	問24	問23
成年後見制度	成年後見制度の認知度	—	問25	問24
	成年後見制度の利用意向	—	問26	問25
福祉情報への入手状況	福祉に関する情報の入手先	問25	問27	問26
	情報が取得できないことでの困難経験の有無	問26	問28	問27
	困難経験の具体的な内容	問26-1	問28-1	問27-1
	今後ほしい情報	問27	問29	問28

今後、希望する暮らし方	希望する生活形態	問28	問30	問29
	自宅での生活を続けるための条件	問28-1	問30-1	問29-1
洪水や地震等の災害時の対応	非常食と水の準備状況	問29	問31	問30
	災害時における一人での避難	問30	問32	問31
	災害時での周囲への伝達	問31	問33	問32
	近所で助けてくれる人の有無	問32	問34	問33
	災害発生時に支援してほしいこと	問33	問35	問34
	避難所での生活で配慮してほしいこと	問34	問36	問35
	災害時に困ると思われること、不安なこと	問35	問37	問36
	「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度	問36	問38	問37
	個別支援計画作成の有無	問36-1	問38-1	問37-1
作成していない理由	問36-2	問38-2	問37-2	
福祉施策	市に要望すること	問37	問39	問38
	自由記述			

## 5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。



## 第2章 調査結果の詳細／身体障害者

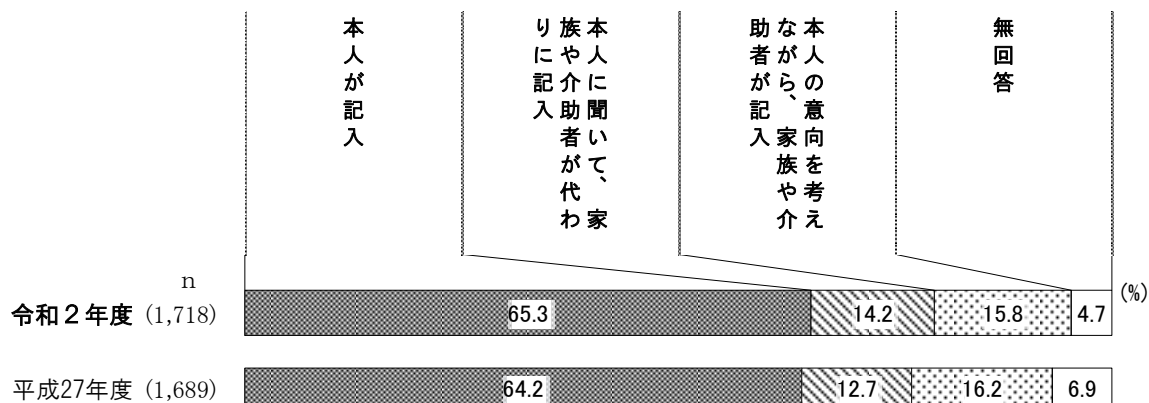




## 1. 回答者属性

### (1) 調査票記入者

問38 この調査票はどなたが記入されましたか。(○は1つ)



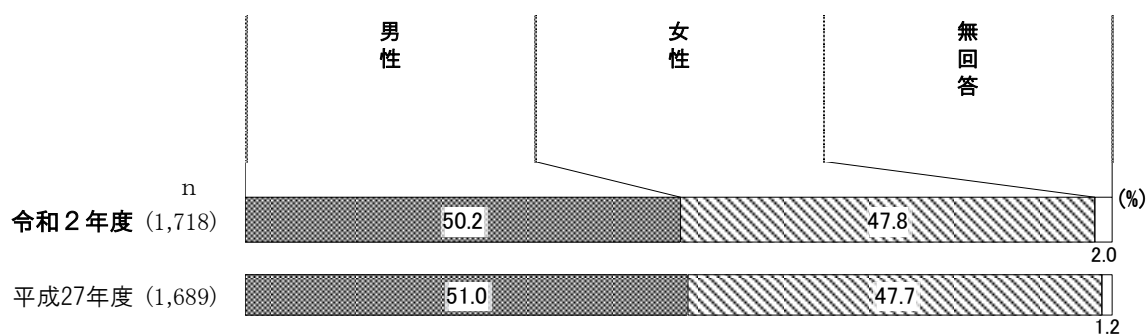
調査票記入者では、「本人が記入」が65.3%を占め、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が15.8%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が14.2%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

### (2) 性別と年齢

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。(令和2年10月1日現在)

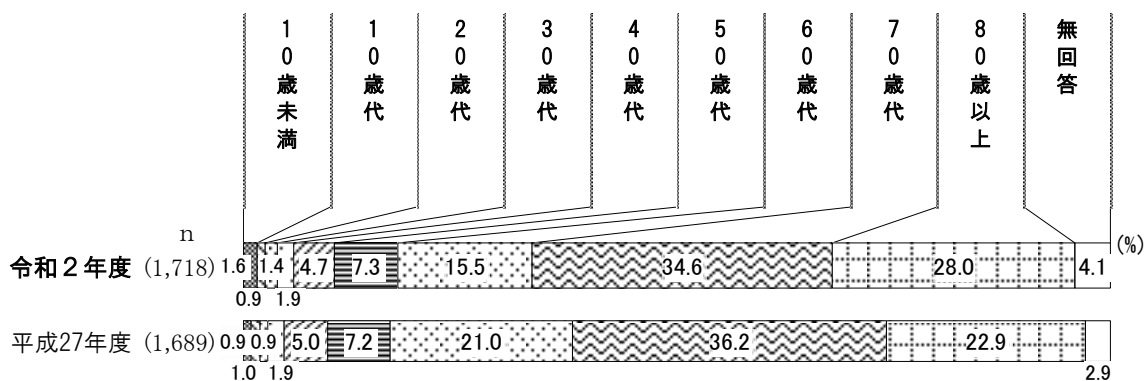
#### ①性別



性別では、「男性」が50.2%、「女性」が47.8%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

②年齢

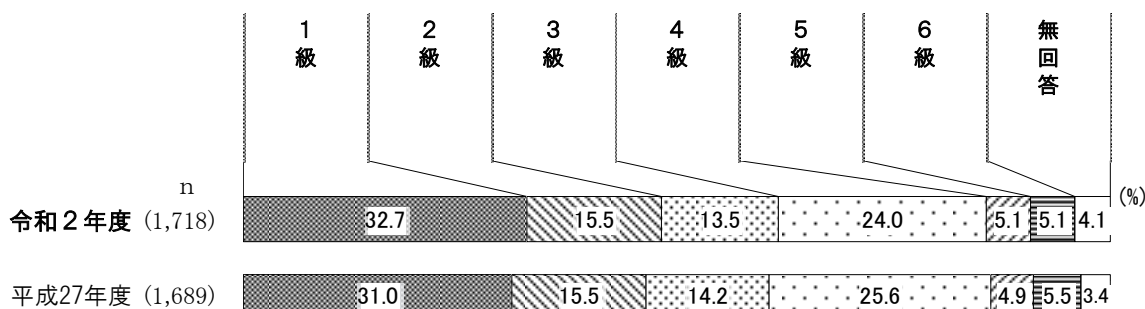


年齢では、「70歳代」が34.6%で最も多く、以下、「80歳以上」(28.0%)、「60歳代」(15.5%)、「50歳代」(7.3%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「60歳代」が5.5ポイント減、「80歳以上」が5.1ポイント増となっている。

(3) 障害の程度

問2 「身体障害者手帳」に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

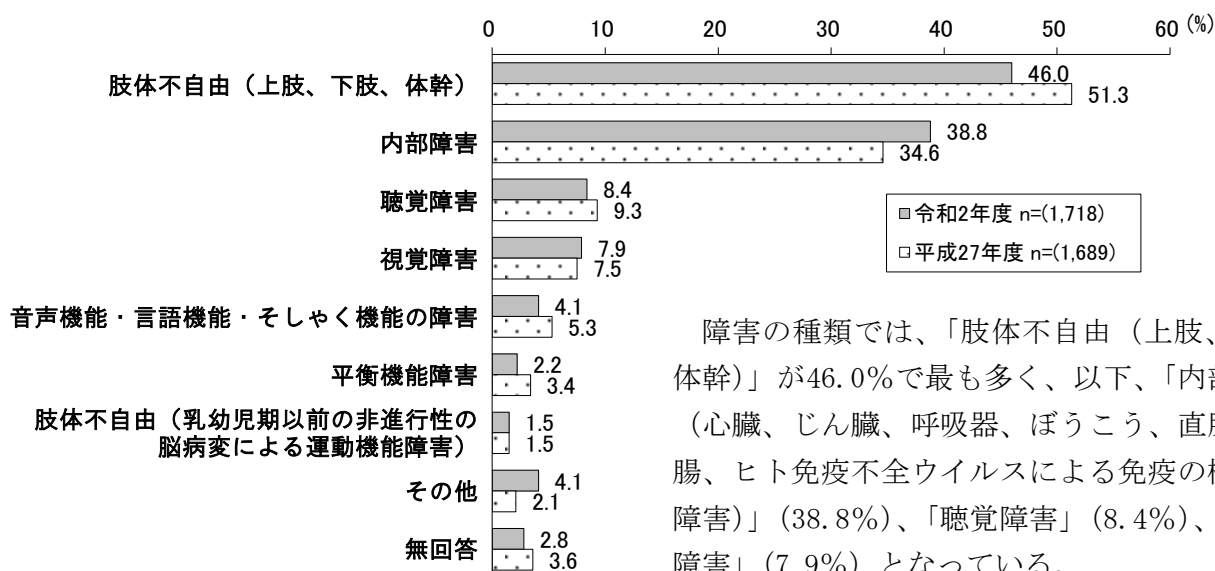


障害の程度では、「1級」が32.7%で最も多く、以下、「4級」(24.0%)、「2級」(15.5%)、「3級」(13.5%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(4) 障害の種類

問3 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。該当するものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

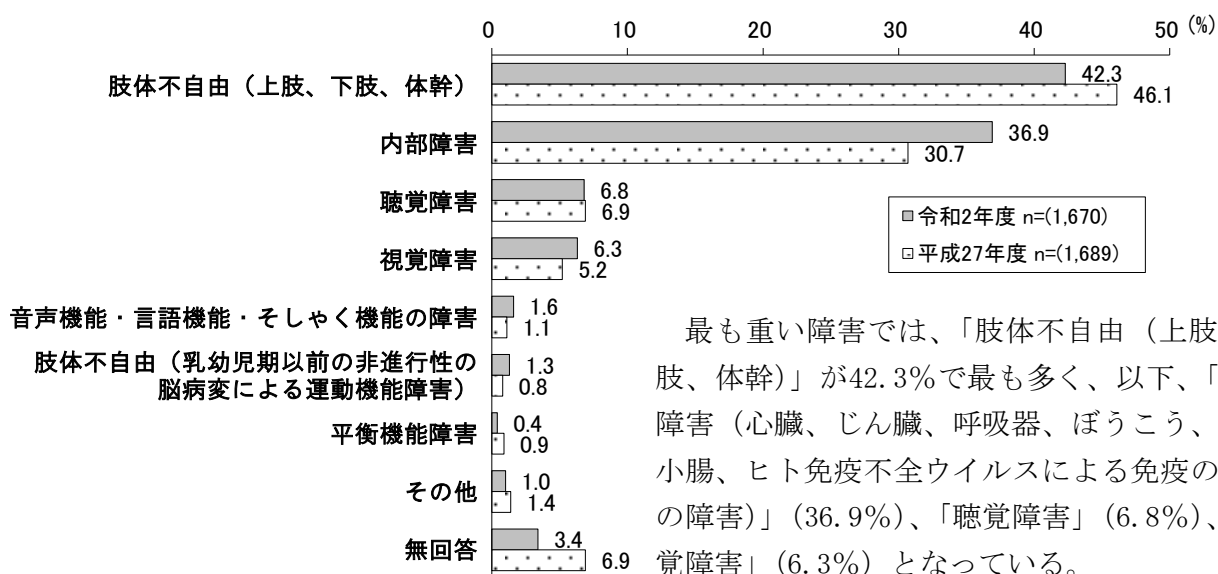


障害の種類では、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹）」が46.0%で最も多く、以下、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害）」(38.8%)、「聴覚障害」(8.4%)、「視覚障害」(7.9%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹）」で5.3ポイント減となっている。

(5) 最も重い障害

問3-1 上記問3で○を付けた中から、最も重いものを1つ選びその番号をご記入ください。

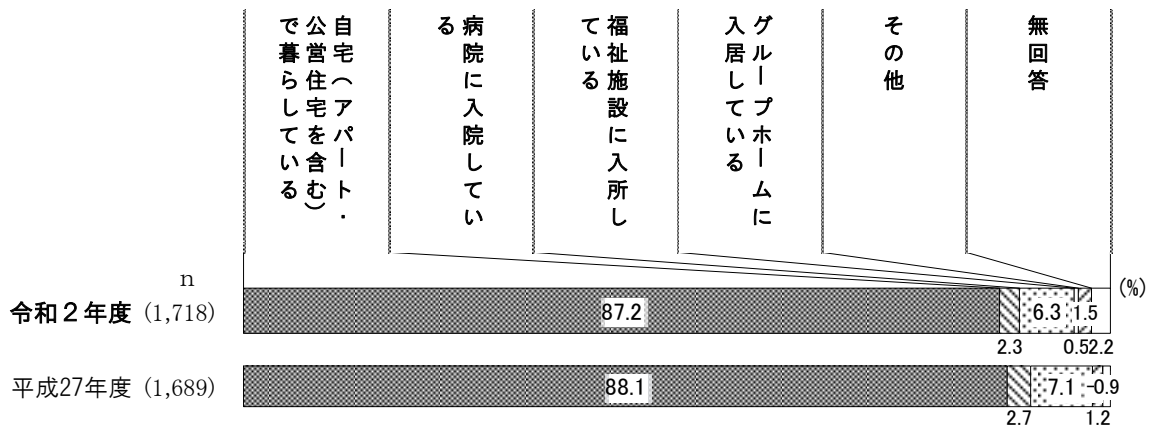


最も重い障害では、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹）」が42.3%で最も多く、以下、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害）」(36.9%)、「聴覚障害」(6.8%)、「視覚障害」(6.3%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害）」で6.2ポイント増となっている。

(6) 生活場所

問4 あなたは現在、どこで生活していますか。(○は1つ)

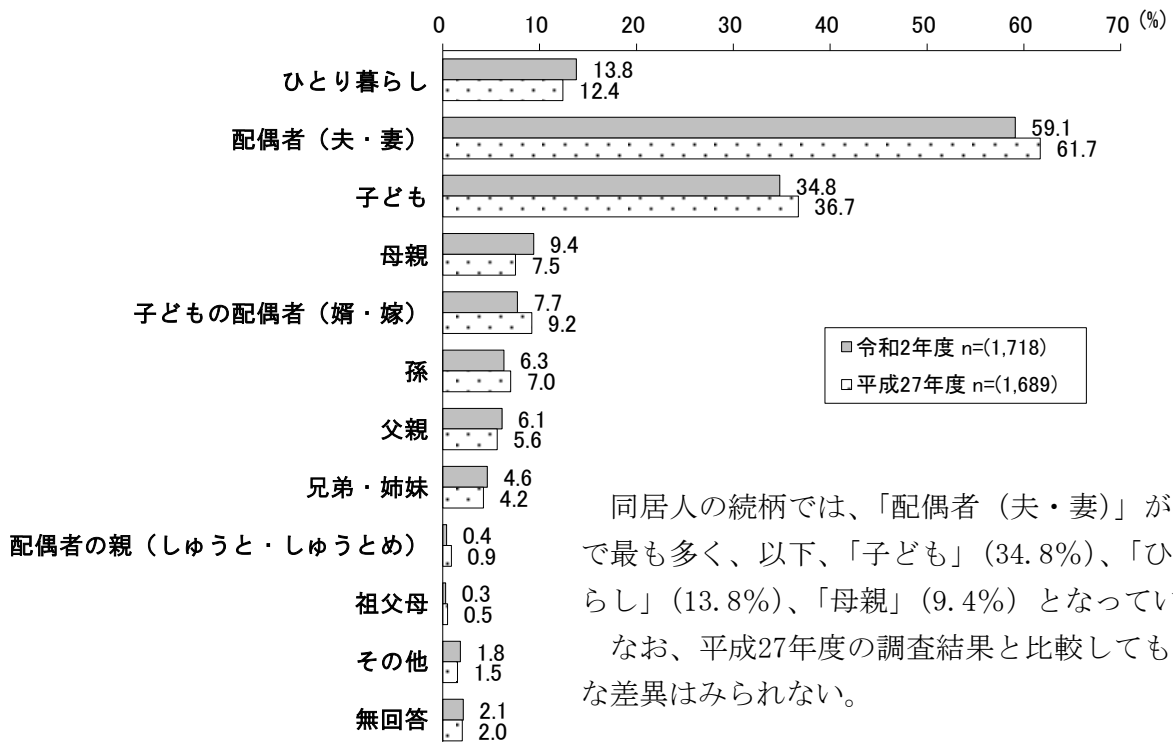


※選択肢「グループホームに入居している」は、平成27年度調査では設けていない。

生活場所では、「自宅（アパート・公営住宅を含む）で暮らしている」が87.2%を占めている。なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(7) 同居人の続柄

問5 現在一緒にお住まいの家族はどなたですか。あなたからみた関係であてはまる人すべてに○をつけてください。施設・病院に入所・入院している人は、退所・退院したときのことを想定してお答えください。(○はいくつでも)



同居人の続柄では、「配偶者（夫・妻）」が59.1%で最も多く、以下、「子ども」（34.8%）、「ひとり暮らし」（13.8%）、「母親」（9.4%）となっている。

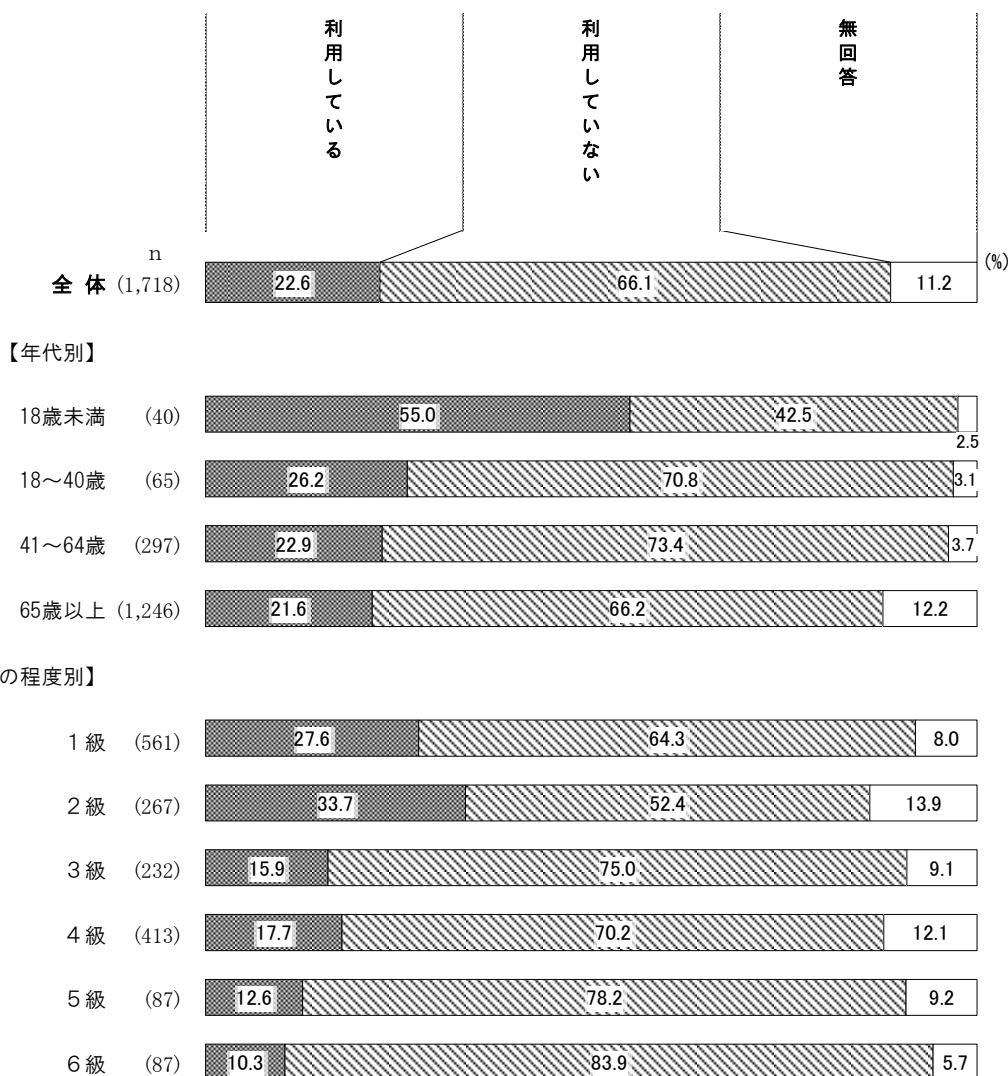
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

年代別でみると、“18歳未満”“18～40歳”で「母親」「父親」が多くなっている。

		n	ひとり暮らし	配偶者 (夫・妻)	子ども	母親	子どもの 配偶者 (婿・嫁)	孫	父親	兄弟・姉 妹	配偶者の 親 (しゅうと・ しゅうとめ)	祖父母	その他	無回答
全体		1718	13.8	59.1	34.8	9.4	7.7	6.3	6.1	4.6	0.4	0.3	1.8	2.1
年代別	18歳未満	40	-	-	-	97.5	-	-	85.0	57.5	-	10.0	5.0	2.5
	18～40歳	65	9.2	30.8	23.1	55.4	-	-	47.7	24.6	-	3.1	1.5	-
	41～64歳	297	15.5	54.5	32.3	23.9	1.3	1.0	11.4	7.7	1.7	-	2.0	1.0
	65歳以上	1246	14.3	64.6	38.0	0.9	9.9	8.2	0.2	1.3	0.2	-	1.6	0.7

(8) 障害福祉サービスの利用状況

問6 あなたは障害者総合支援法による障害福祉サービスを利用していますか。(○は1つ)



障害福祉サービスの利用状況では、「利用している」が22.6%、「利用していない」が66.1%となっている。

年代別でみると、“18歳未満”で「利用している」が55.5%と多くなっている。

障害の程度別でみると、「利用している」は“2級”で33.7%、“1級”で27.6%となっている。

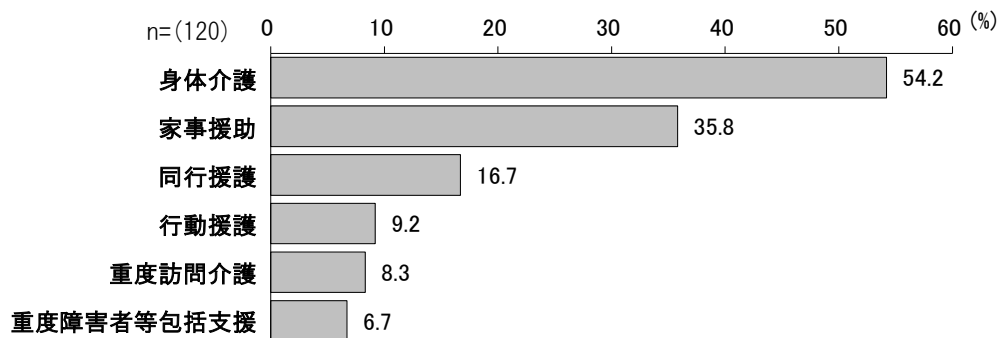
(9) 利用しているサービス

問6で「1. 利用している」を選んだ人にうかがいます。

問6-1 利用しているサービスに○をつけてください。(○はいくつでも)

※問6-1は、無回答を除いて集計している

①訪問系サービス

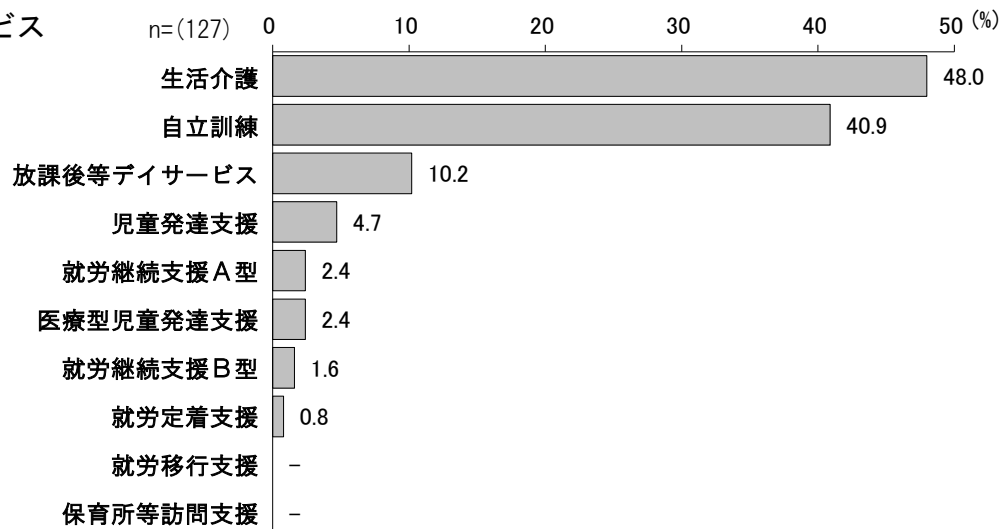


訪問系サービスでは、「身体介護」が54.2%、「家事援助」が35.8%となっている。

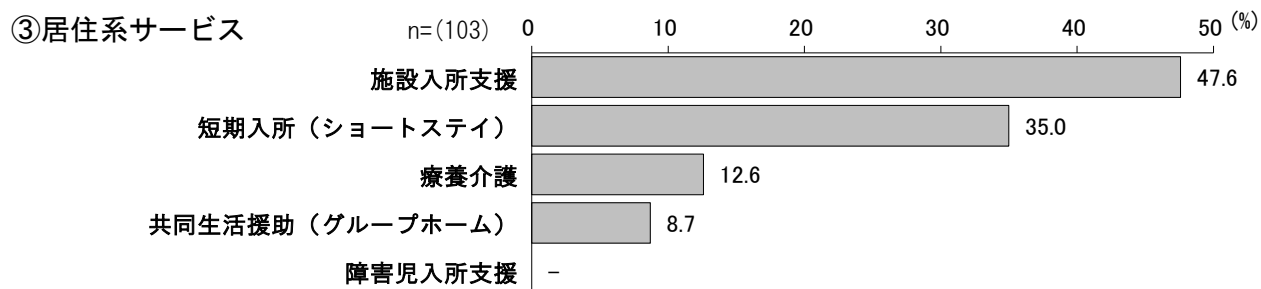
年代別でみると、「65歳以上」で大きな差異はみられない。

		n	身体介護	家事援助	同行援護	行動援護	重度訪問介護	重度障害者等包括支援
全体		120	54.2	35.8	16.7	9.2	8.3	6.7
年代別	18歳未満	4	75.0	-	25.0	-	-	-
	18～40歳	4	25.0	25.0	100.0	25.0	25.0	25.0
	41～64歳	27	55.6	51.9	29.6	11.1	14.8	-
	65歳以上	78	53.8	34.6	6.4	9.0	5.1	7.7

②日中活動系サービス



日中活動系サービスでは、「生活介護」が48.0%、「自立訓練」が40.9%となっている。

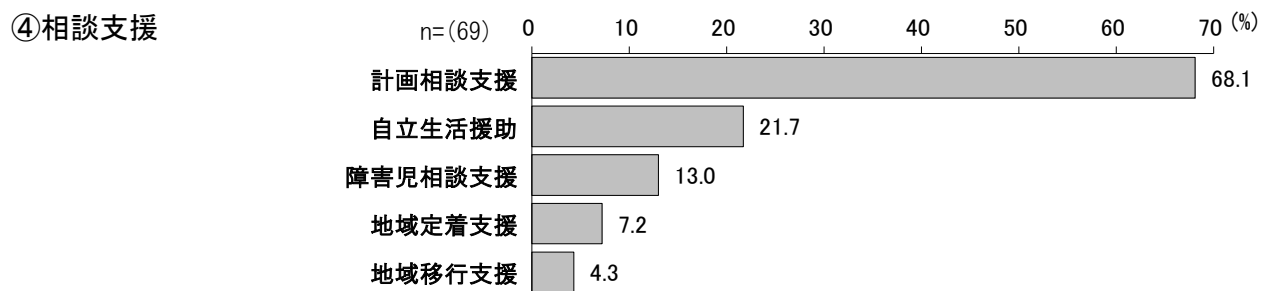


居住系サービスでは、「施設入所支援」が47.6%、「短期入所 (ショートステイ)」が35.0%となっている。

年代別でみると、“65歳以上”で大きな差異はみられない。

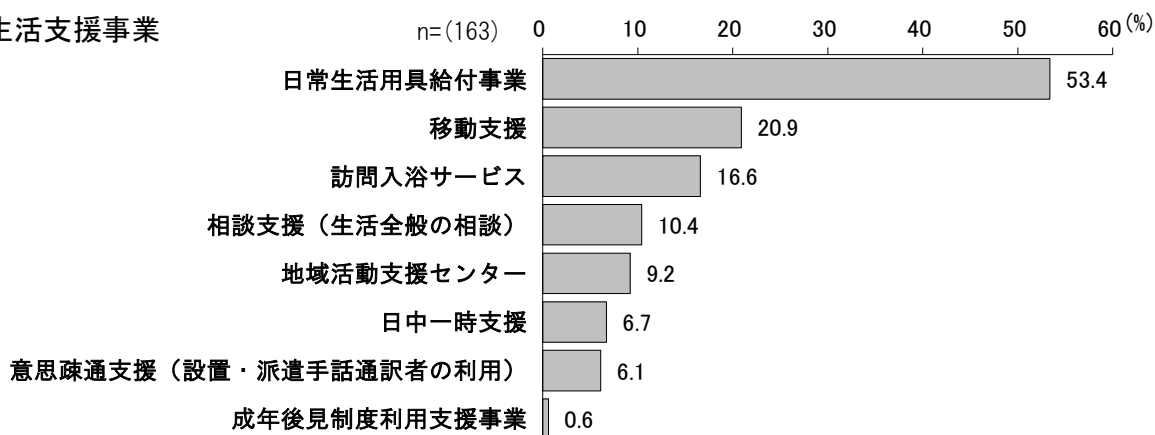
(%)

		n	施設入所支援	短期入所 (ショートステイ)	療養介護	共同生活援助 (グループホーム)	障害児入所支援
全体		103	47.6	35.0	12.6	8.7	-
年代別	18歳未満	2	-	100.0	-	-	-
	18～40歳	3	66.7	33.3	33.3	-	-
	41～64歳	19	42.1	31.6	21.1	5.3	-
	65歳以上	74	51.4	35.1	9.5	8.1	-



相談支援では、「計画相談支援」が68.1%となっている。

⑤地域生活支援事業



地域生活支援事業では、「日常生活用具給付事業」が53.4%となっている。

年代別でみると、“41～64歳”で「日常生活用具給付事業」が73.3%と多くなっている。

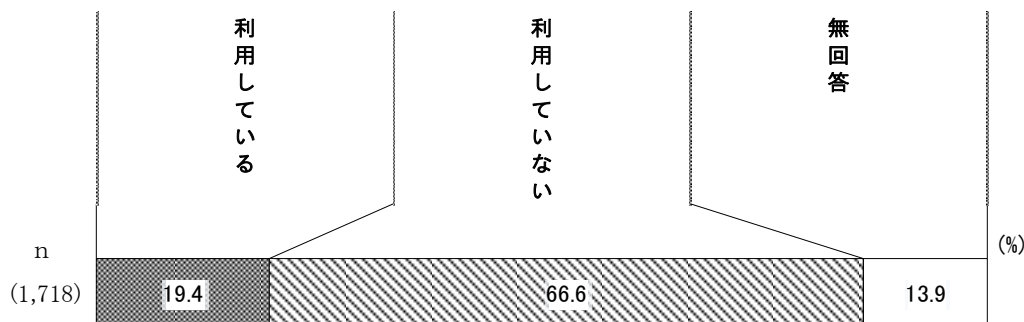
		n	日常生活用具給付事業	移動支援	訪問入浴サービス	相談支援 (生活全般の相談)	地域活動支援センター	日中一時支援	意思疎通支援 (設置・派遣手話通訳者の利用)	成年後見制度利用支援事業
全体		163	53.4	20.9	16.6	10.4	9.2	6.7	6.1	0.6
年代別	18歳未満	9	88.9	11.1	-	-	-	11.1	-	-
	18～40歳	12	50.0	16.7	8.3	16.7	-	16.7	25.0	8.3
	41～64歳	30	73.3	16.7	13.3	16.7	3.3	10.0	13.3	-
	65歳以上	107	45.8	23.4	18.7	9.3	13.1	4.7	2.8	-



(10) その他の介護保険サービスの利用状況

問6-2 障害福祉サービスの他に介護保険によるサービスを利用していますか。

(○は1つ)

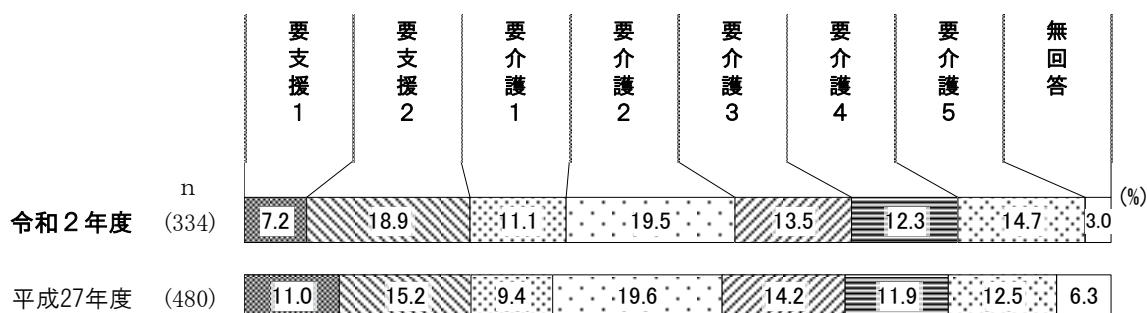


その他の介護保険サービスの利用状況では、「利用している」が19.4%、「利用していない」が66.6%となっている。

(11) 該当する要介護度

問6-2で「1. 利用している」を選んだ人にうかがいます。

問6-3 該当する要介護度はどれですか。(○は1つ)

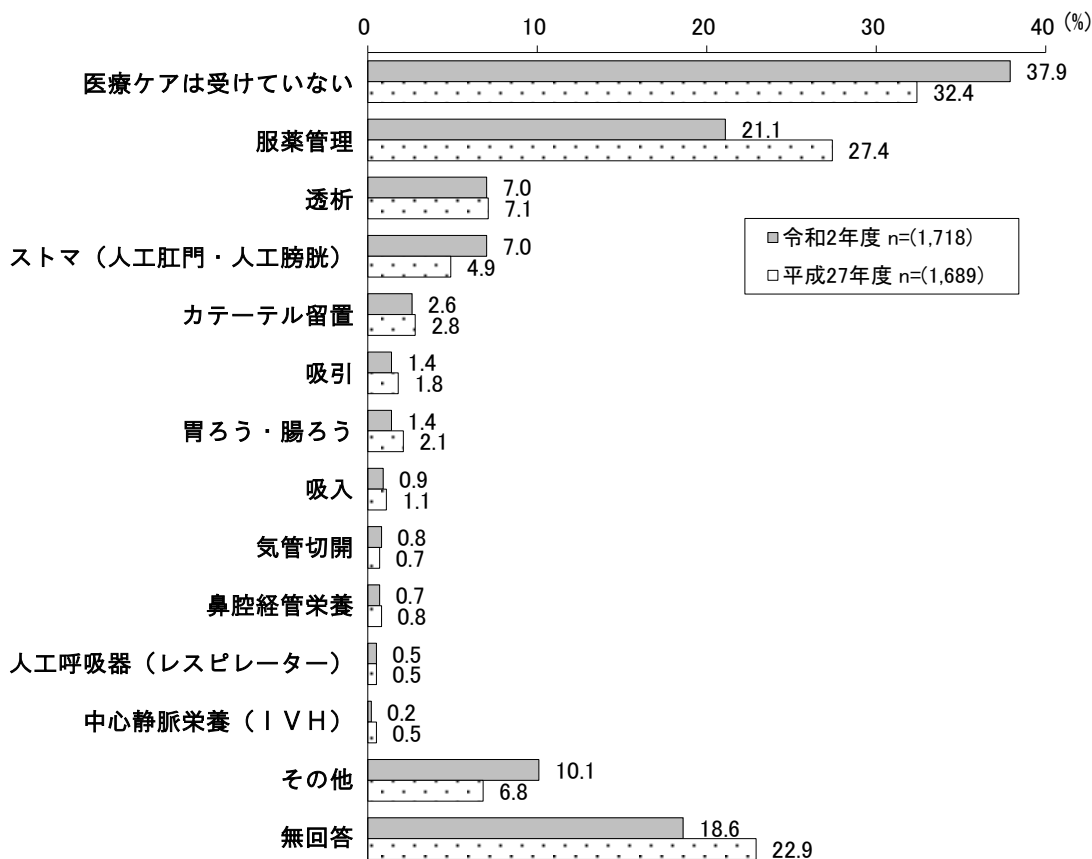


該当する要介護度では、「要介護2」が19.5%で最も多く、以下、「要支援2」(18.9%)、「要介護5」(14.7%)、「要介護3」(13.5%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(12) 現在受けている医療ケア

問7 あなたは、現在、どのような医療ケアを受けていますか。(〇はいくつでも)



現在受けている医療ケアでは、「医療ケアは受けていない」が37.9%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「服薬管理」(21.1%)が最も多く、以下、「その他」(10.1%)、「透析」「ストマ (人工肛門・人工膀胱)」(ともに7.0%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「医療ケアは受けていない」が5.5ポイント増、「服薬管理」が6.3ポイント減となっている。

最も重い障害別でみると、“視覚障害”“聴覚障害”“肢体不自由（上肢、下肢、体幹）”で「医療ケアは受けていない」が多く、“聴覚障害”では60.5%となっている。また、“内部障害”では「透析」「ストマ（人工肛門・人工膀胱）」が1割台後半となっている。

		n	医療ケアは受けていない	服薬管理	透析	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	カテーテル留置	吸引	胃ろう・腸ろう
全体		1670	38.4	21.4	7.2	7.1	2.7	1.4	1.4
最も重い障害別	視覚障害	106	51.9	14.2	-	-	2.8	-	-
	聴覚障害	114	60.5	8.8	-	-	-	0.9	-
	平衡機能障害	7	28.6	-	-	-	-	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	23.1	26.9	-	-	7.7	7.7	11.5
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	49.1	21.8	0.1	1.6	2.1	1.7	1.6
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	52.4	14.3	9.5	4.8	-	-	-
	内部障害	616	20.9	23.9	18.2	16.9	4.1	1.1	0.8
	その他	17	23.5	23.5	5.9	5.9	-	5.9	5.9

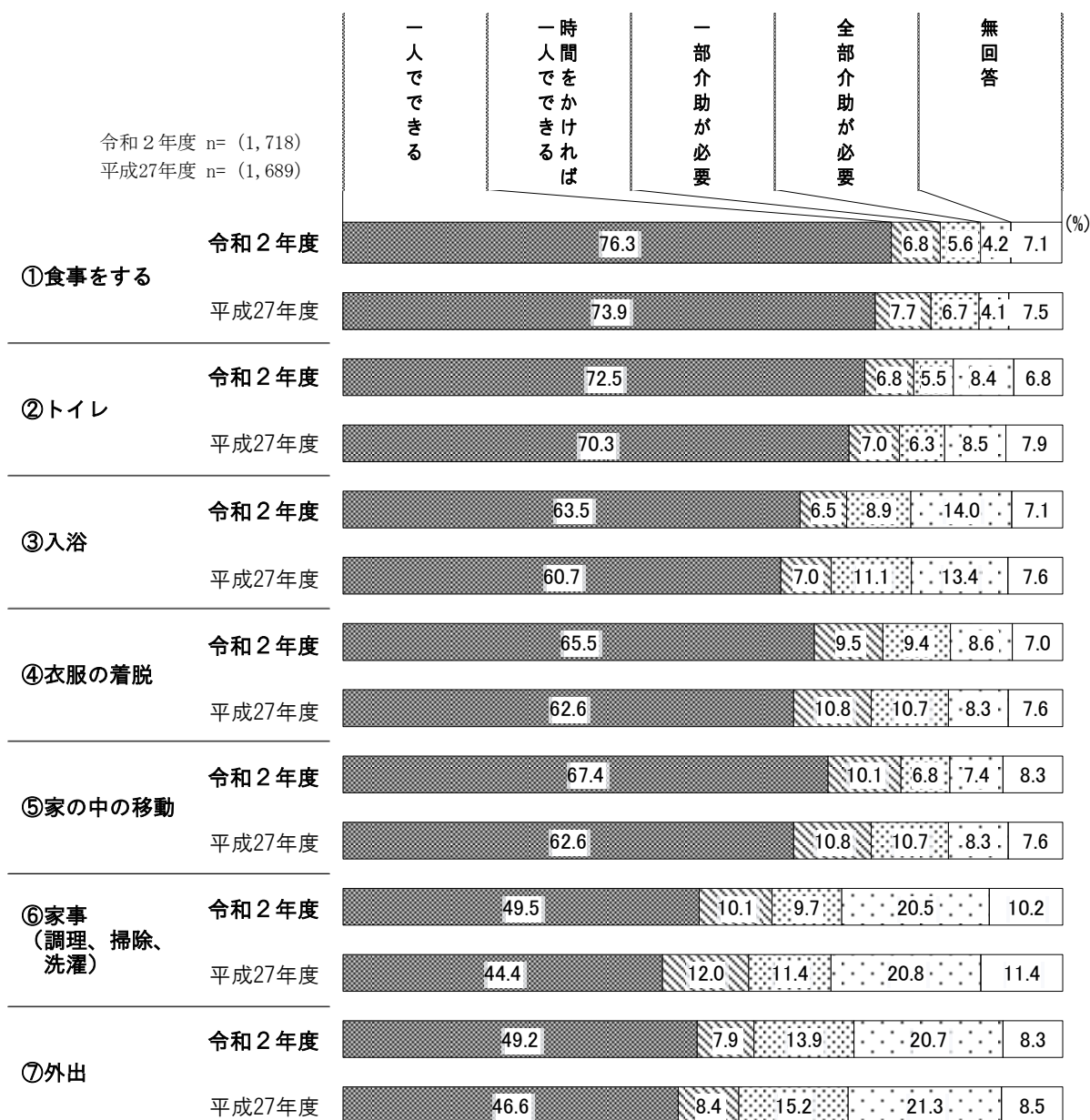
		n	吸入	気管切開	鼻腔経管栄養	人工呼吸器(レスピレーター)	中心静脈栄養(IVH)	その他	無回答
全体		1670	0.9	0.8	0.7	0.5	0.2	10.3	17.4
最も重い障害別	視覚障害	106	-	-	-	-	-	4.7	29.2
	聴覚障害	114	0.9	1.8	0.9	-	0.9	8.8	21.1
	平衡機能障害	7	-	-	-	-	-	57.1	14.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	15.4	11.5	-	-	-	-	26.9
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	0.6	0.6	0.7	0.8	-	8.3	18.5
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	-	-	-	-	-	19.0	14.3
	内部障害	616	0.8	0.6	1.0	0.5	0.3	13.1	12.5
	その他	17	-	-	-	-	-	23.5	23.5

## 2. 介助

### (1) 各種生活状況

問8 日常生活状況についてうかがいます。次の(1)～(7)のそれぞれの状況について、1～4のいずれか1つに○をつけてください。(障害を補うための装具や機器を使用している人は、これらを使用した状態のことをお答えください)。

(○は(1)～(7)にそれぞれ1つずつ)



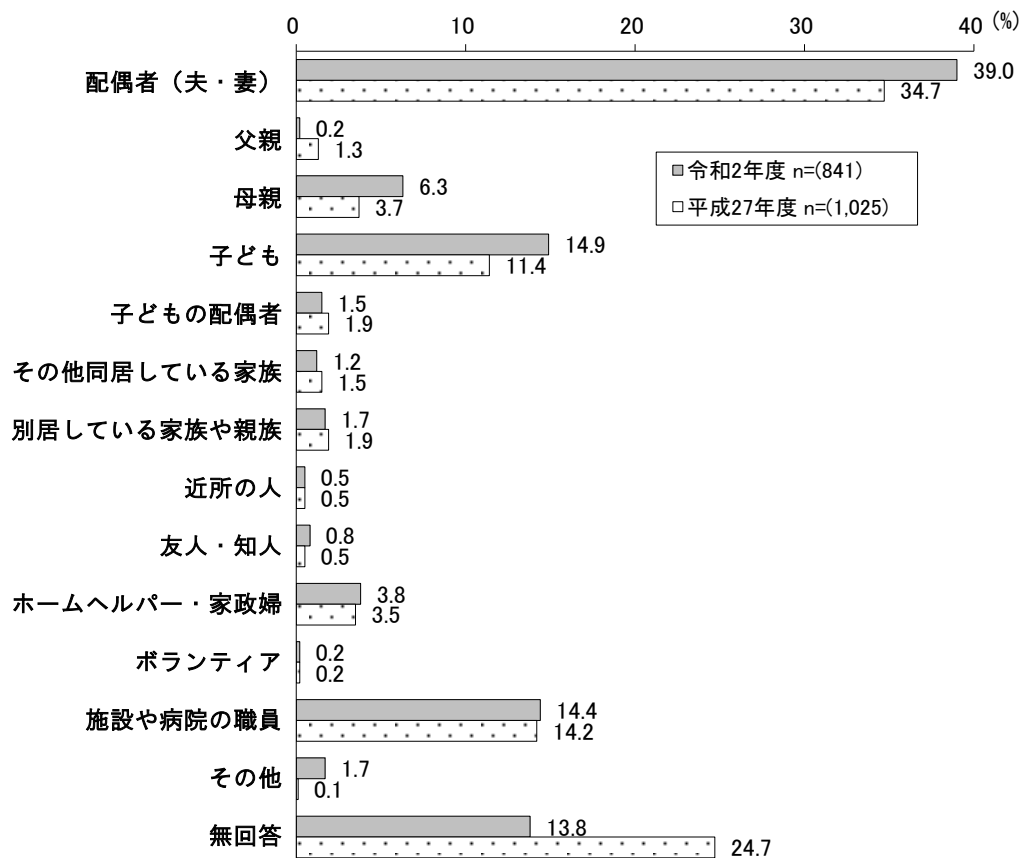
各種の生活状況を見ると、「一人で行える」が最も多いのは〈食事〉で76.3%となっている。また、少ないのは〈家事(調理、掃除、洗濯)〉〈外出〉で5割を切っており、ともに「全部介助が必要」が2割を超えていることがわかる。

平成27年度の調査結果と比較すると、〈家事(調理、掃除、洗濯)〉で「一人で行える」が44.4%から49.5%と5.1ポイント増となっている。

(2) 主な介助者

問8の(1)～(7)の中で、1つでも2、3、4に○をつけた人に伺います。

問8-1 主な介助者はどなたですか。(○は1つ)



主な介助者では、「配偶者(夫・妻)」が39.0%で最も多く、以下、「子ども」(14.9%)、「施設や病院の職員」(14.4%)、「母親」(6.3%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

年代別でみると、「18歳未満」で「母親」が多くなっている。

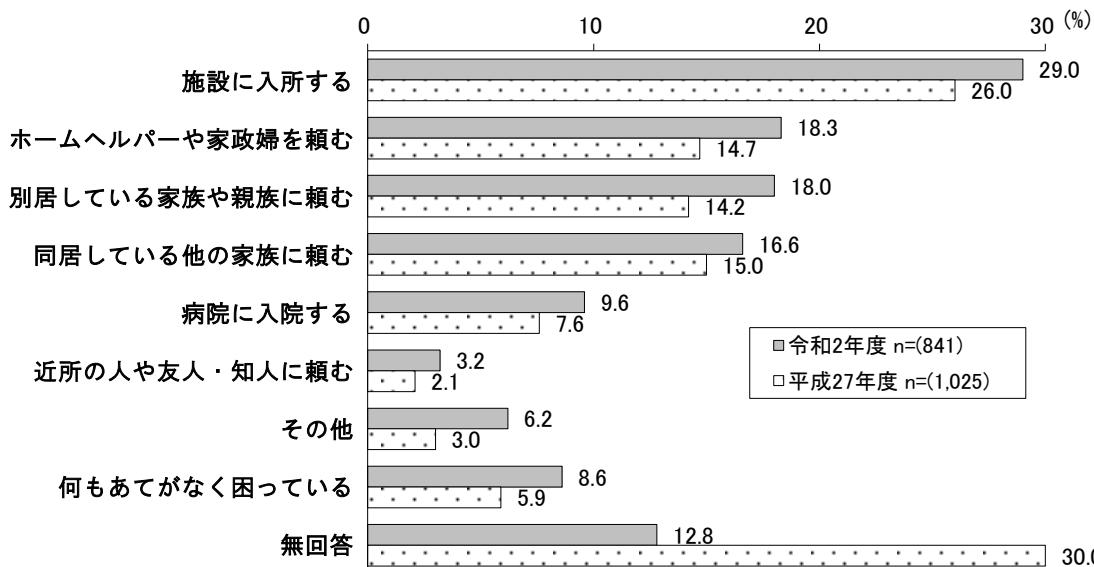
		n	配偶者(夫・妻)	子ども	施設や病院の職員	母親	ホームヘルパー・家政婦	別居している家族や親族	子どもの配偶者
全体		841	39.0	14.9	14.4	6.3	3.8	1.7	1.5
年代別	18歳未満	31	-	-	6.5	67.7	-	-	-
	18～40歳	26	11.5	3.8	11.5	61.5	-	3.8	-
	41～64歳	130	35.4	6.9	14.6	10.8	10.0	1.5	-
	65歳以上	616	43.0	18.5	14.6	0.2	2.8	1.8	1.8
		n	その他同居している家族	友人・知人	近所の人	父親	ボランティア	その他	無回答
全体		841	1.2	0.8	0.5	0.2	0.2	1.7	13.8
年代別	18歳未満	31	-	-	-	-	-	-	25.8
	18～40歳	26	3.8	3.8	-	-	-	-	-
	41～64歳	130	2.3	-	-	-	-	3.8	14.6
	65歳以上	616	1.0	1.0	0.3	0.2	0.3	1.3	13.3

(3) 主な介助者がいない場合の対処法

問8の(1)～(7)の中で、1つでも2、3、4に○をつけた人に伺います。

問8-2 いつも介助している人が介助できなくなったとき、どうされますか。

(○は主なもの2つ以内)



主な介助者がいない場合の対処法では、「施設に入所する」が29.0%で最も多く、以下、「ホームヘルパーや家政婦を頼む」(18.3%)、「別居している家族や親族に頼む」(18.0%)、「同居している他の家族に頼む」(16.6%)となっている。一方、「何もあてがなく困っている」は8.6%だった。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

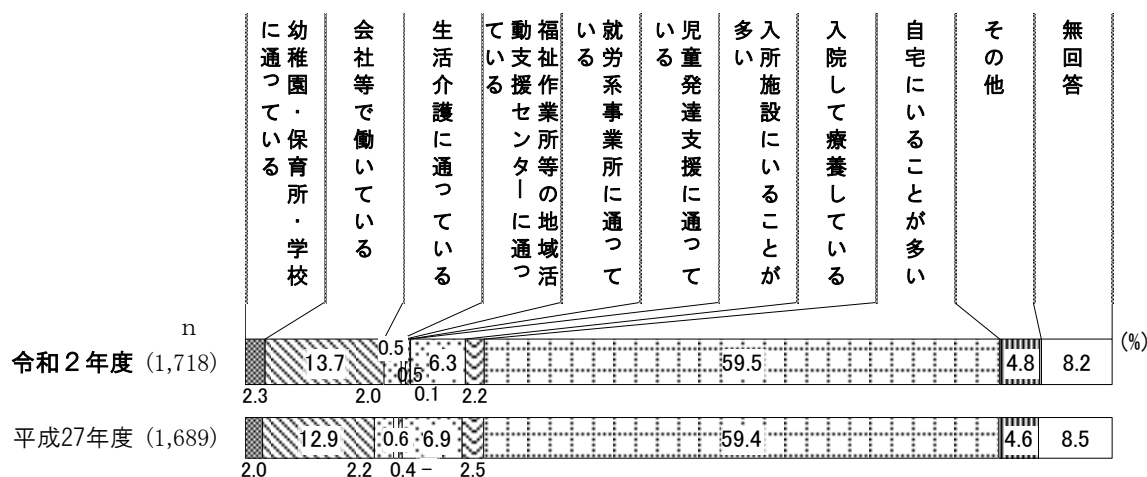
年代別でみると、“18歳未満”で「別居している家族や親族に頼む」が51.6%、「同居している他の家族に頼む」が41.9%と多くなっている。一方、「何もあてがなく困っている」はどの年代でも一定数みられる。

		n	施設に入所する	ホームヘルパーや家政婦を頼む	別居している家族や親族に頼む	同居している他の家族に頼む	病院に入院する	近所の人や友人・知人に頼む	その他	何もあてがなく困っている	無回答
全体		841	29.0	18.3	18.0	16.6	9.6	3.2	6.2	8.6	12.8
年代別	18歳未満	31	9.7	6.5	51.6	41.9	12.9	3.2	6.5	6.5	3.2
	18～40歳	26	11.5	7.7	30.8	34.6	7.7	11.5	7.7	11.5	-
	41～64歳	130	16.2	23.8	15.4	14.6	8.5	5.4	8.5	10.0	17.7
	65歳以上	616	33.3	18.5	16.9	15.4	9.6	2.6	6.0	7.3	12.7

### 3. 日中の過ごし方

#### (1) 平日日中の過ごし方

問9 あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(〇は1つ)



※選択肢「児童発達支援に通っている」は、平成27年度調査では設けていない。

平日日中の過ごし方では、「自宅にすることが多い」が59.5%と多く、「会社等で働いている」(13.7%) が次いでいる。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

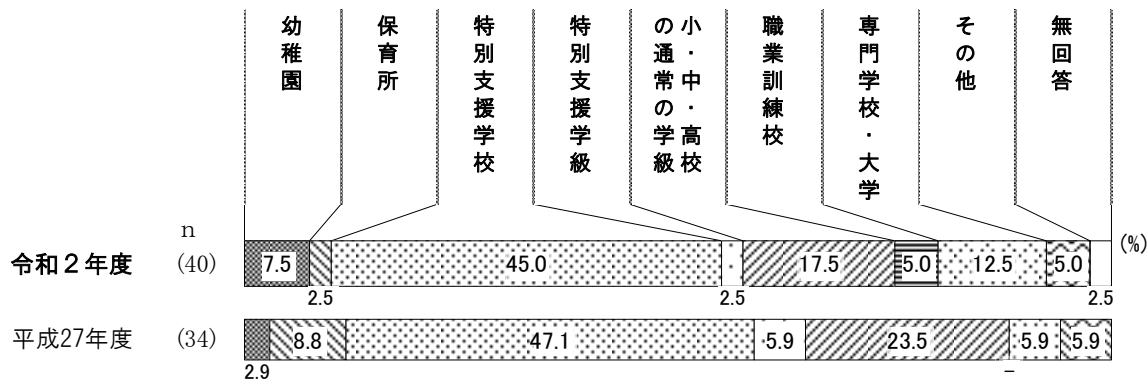
年代別でみると、“18歳未満”で「幼稚園・保育所・学校に通っている」が75.0%、“18～40歳”“41～64歳”で「会社等で働いている」が多くなっている。

		n	幼稚園・保育所・学校に通っている	会社等で働いている	生活介護に通っている	福祉作業所等の地域活動支援センターに通っている	就労系事業所に通っている	児童発達支援に通っている	入所施設に多い	入院して療養している	自宅にすることが多い	その他	無回答
全体		1718	2.3	13.7	2.0	0.5	0.5	0.1	6.3	2.2	59.5	4.8	8.2
年代別	18歳未満	40	75.0	-	-	-	-	5.0	-	2.5	15.0	-	2.5
	18～40歳	65	13.8	60.0	1.5	1.5	3.1	-	1.5	3.1	12.3	-	3.1
	41～64歳	297	-	41.1	1.7	0.3	1.0	-	5.1	2.7	41.4	2.7	4.0
	65歳以上	1246	-	5.5	2.0	0.5	0.1	-	7.1	1.9	67.7	5.5	9.6

(2) 通園・通学先

問9で「1. 幼稚園・保育所・学校に通っている」を選んだ人にうかがいます。

問9-1 通園・通学先はどこですか。(〇は1つ)



通園・通学先では、「特別支援学校」が45.0%と多く、「小・中・高校の通常の学級」が17.5%、「専門学校・大学」が12.5%、「幼稚園」が7.5%となっている。

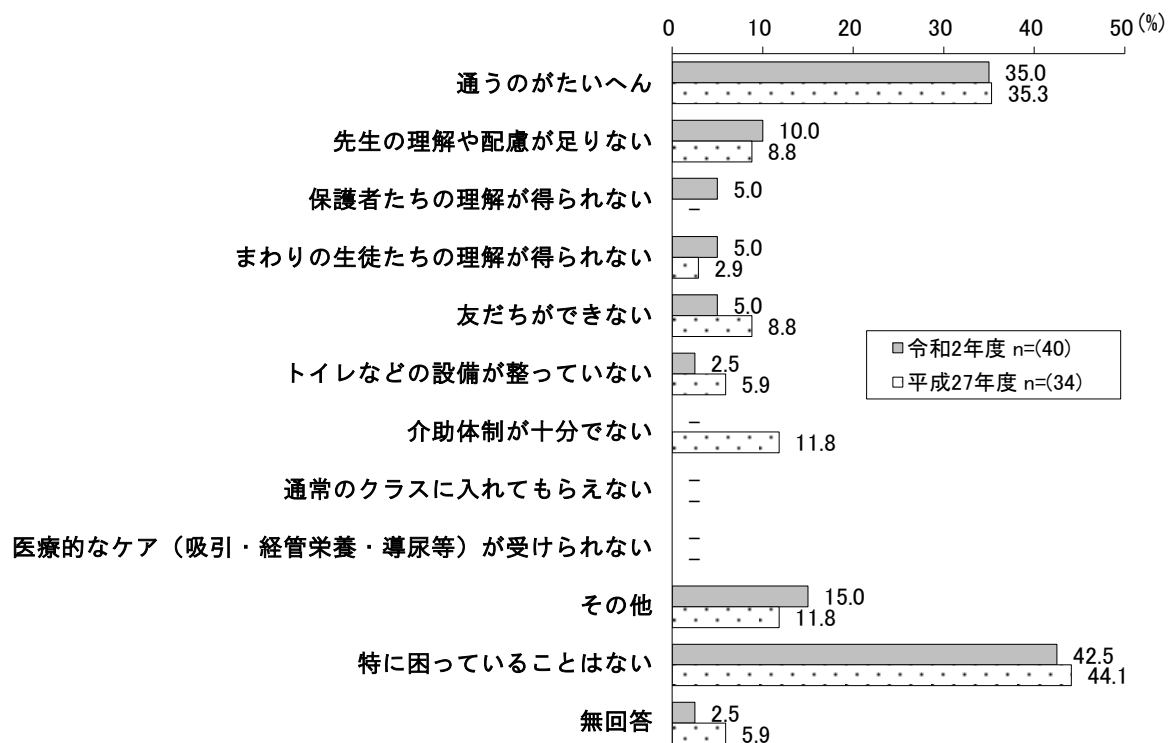
平成27年度の調査結果と比較すると、「小・中・高校の通常の学級」が23.5%から17.5%と6.0ポイント減となっている。



(3) 通園・通学して困っていること

問9で「1. 幼稚園・保育所・学校に通っている」を選んだ人にうかがいます

問9-2 通園・通学して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

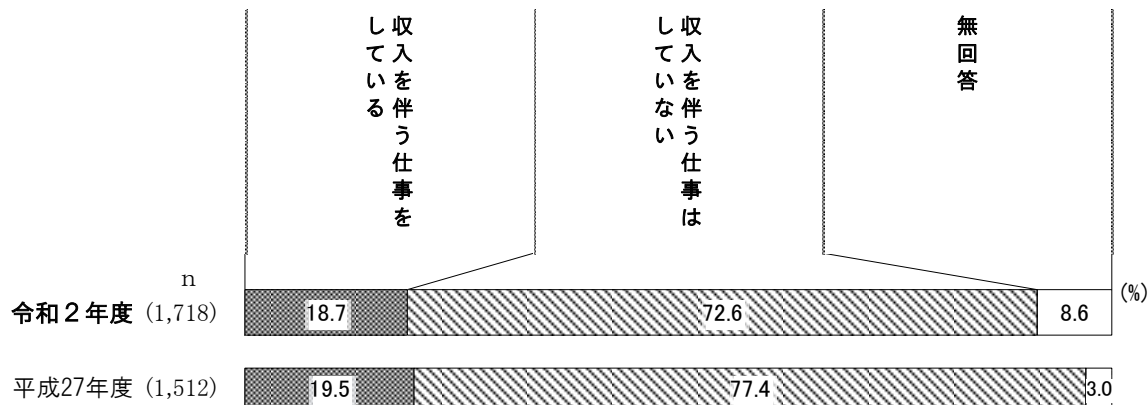


通園・通学して困っていることでは、「特に困っていることはない」が42.5%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「通うのがたいへん」(35.0%)が最も多くなっている。平成27年度の調査結果と比較すると、「介助体制が十分でない」は11.8%となっていたが、今回回答者0となっている。

## 4. 就労状況

### (1) 就業状況

問10 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)



就業状況では、「収入を伴う仕事をしています」が18.7%、「収入を伴う仕事はしていません」が72.6%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

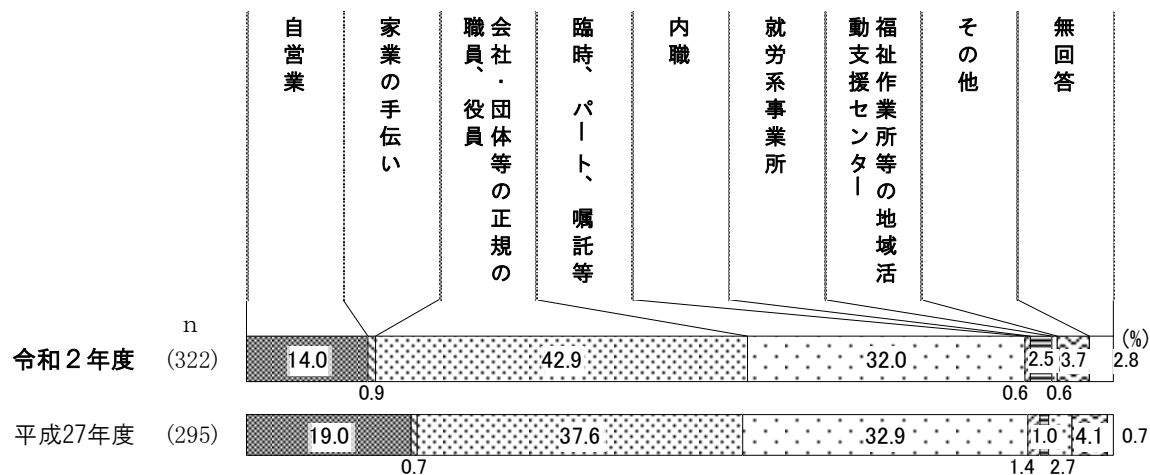
最も重い障害別でみると、「平衡機能障害」で「収入を伴う仕事はしていません」が85.7%と多くなっている。

		n	収入を伴う仕事をしています (%)	収入を伴う仕事はしていません (%)	無回答 (%)
全体		1718	18.7	72.6	8.6
最も重い障害別	視覚障害	106	18.9	74.5	6.6
	聴覚障害	114	26.3	63.2	10.5
	平衡機能障害	7	14.3	85.7	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	23.1	73.1	3.8
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	18.5	72.8	8.6
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	14.3	76.2	9.5
	内部障害	616	19.3	72.7	8.0
	その他	17	23.5	64.7	11.8

### (2) 仕事の形態

問10で「1. 収入を伴う仕事をしている」を選んだ人にかがいます。

問10-1 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)



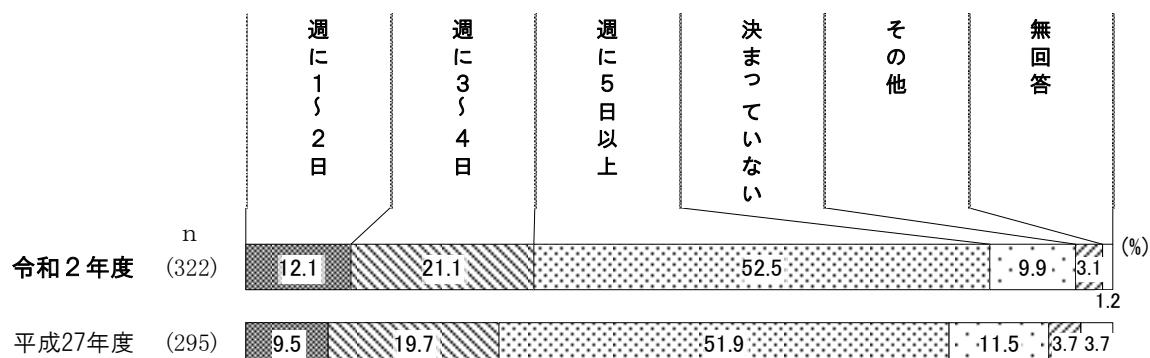
仕事の形態では、「会社・団体等の正規の職員、役員」が42.9%と多く、「臨時、パート、嘱託等」が32.0%、「自営業」が14.0%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「会社・団体等の正規の職員、役員」が37.6%から42.9%で5.3ポイント増、「自営業」が19.0%から14.0%で5.0ポイント減となっている。

### (3) 1週間の勤務日数

問10で「1. 収入を伴う仕事をしている」を選んだ人にかがいます。

問10-2 週に何日くらい働いていますか。(○は1つ)



1週間の勤務日数では、「週に5日以上」が52.5%で最も多く、以下、「週に3～4日」(21.1%)、「週に1～2日」(12.1%)、「決まっていない」(9.9%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

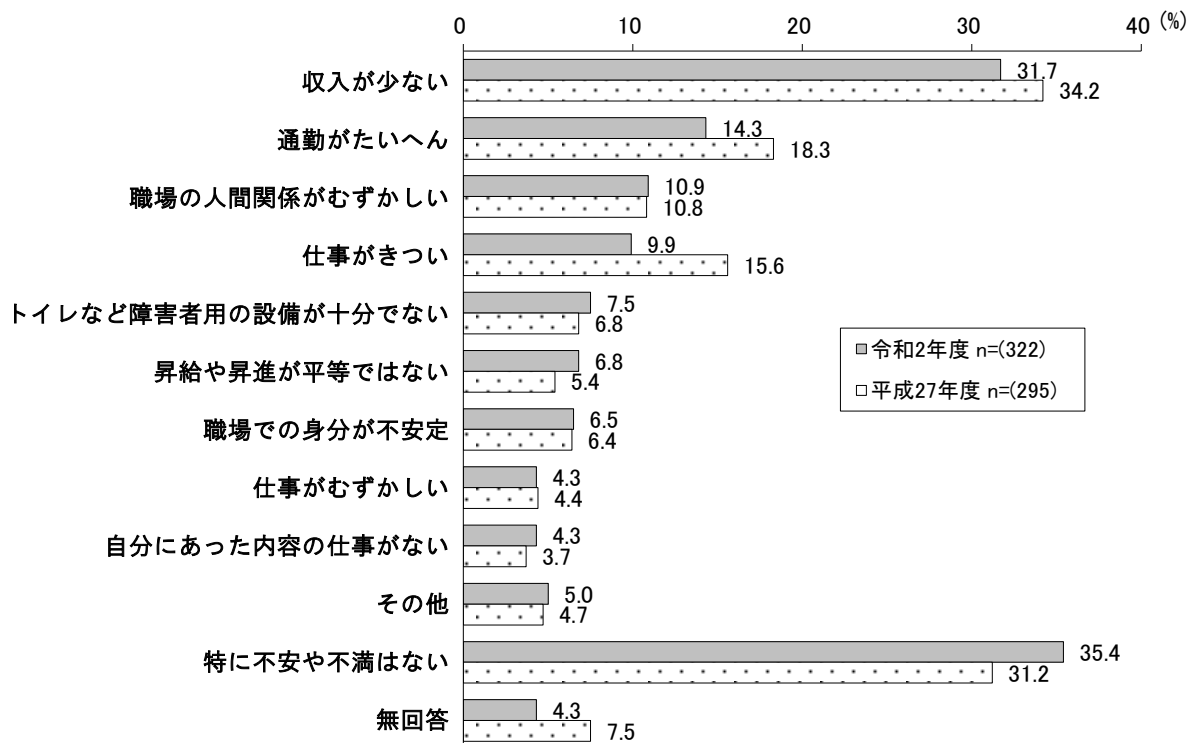
仕事の形態別でみると、“会社・団体等の正規の職員、役員”では「週に5日以上」、 “臨時、パート、嘱託等”では「週に3～4日」、 “自営業”では「決まっていない」が、他の形態より多くなっている。

		n	週に1～2日	週に3～4日	週に5日以上	決まっていない	その他	無回答
全体		322	12.1	21.1	52.5	9.9	3.1	1.2
仕事の形態別	自営業	45	6.7	8.9	51.1	31.1	2.2	-
	家業の手伝い	3	66.7	-	33.3	-	-	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	138	5.8	11.6	77.5	2.2	2.2	0.7
	臨時、パート、嘱託等	103	20.4	43.7	26.2	7.8	1.9	-
	内職	2	50.0	-	-	-	50.0	-
	就労系事業所	8	12.5	12.5	62.5	12.5	-	-
	福祉作業所等の地域活動支援センター	2	-	50.0	50.0	-	-	-
	その他	12	25.0	-	8.3	41.7	25.0	-

(4) 仕事への不安や不満

問10で「1. 収入を伴う仕事をしている」を選んだ人にうかがいます。

問10-3 仕事をする上で不安や不満がありますか。(○はいくつでも)



仕事をする上で不安や不満では、「特に不安や不満はない」が35.4%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「収入が少ない」(31.7%)が最も多くなっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「仕事がきつい」が15.6%から9.9%で5.7ポイント減となっている。

仕事の形態別でみると、“自営業”で「収入が少ない」が46.7%と多くなっている。

最も重い障害別でみると、“聴覚障害”で「職場の人間関係がむずかしい」が30.0%と比較的多くなっている。

		n	収入が 少ない	通勤がた いへん	職場の 人間関 係がむず かしい	仕事がき つい	トイレなど 障害者 用の設 備が十 分でない	昇給や 昇進が 平等で はない
全体		322	31.7	14.3	10.9	9.9	7.5	6.8
仕事の 形態別	自営業	45	46.7	2.2	-	13.3	6.7	-
	家業の手伝い	3	66.7	-	-	-	33.3	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	138	21.7	19.6	14.5	11.6	9.4	12.3
	臨時、パート、嘱託等	103	36.9	15.5	8.7	7.8	5.8	3.9
	内職	2	50.0	-	-	-	-	-
	就労系事業所	8	75.0	12.5	37.5	12.5	-	-
	福祉作業所等の地域活動支援センター	2	50.0	-	50.0	-	-	-
	その他	12	25.0	-	8.3	8.3	8.3	8.3
最も 重い 障害別	視覚障害	20	15.0	25.0	15.0	5.0	-	10.0
	聴覚障害	30	23.3	3.3	30.0	-	-	13.3
	平衡機能障害	1	100.0	-	100.0	-	-	-
	音声機能・言語機能・ そしゃく機能の障害	6	33.3	16.7	16.7	-	-	-
	肢体不自由 (上肢、下肢、体幹)	131	32.1	16.8	9.2	12.2	8.4	6.9
	肢体不自由(非進行性の 脳病変による運動機能障害)	3	33.3	33.3	66.7	-	-	-
	内部障害	119	33.6	12.6	5.9	11.8	10.1	5.0
	その他	4	75.0	-	-	-	25.0	-

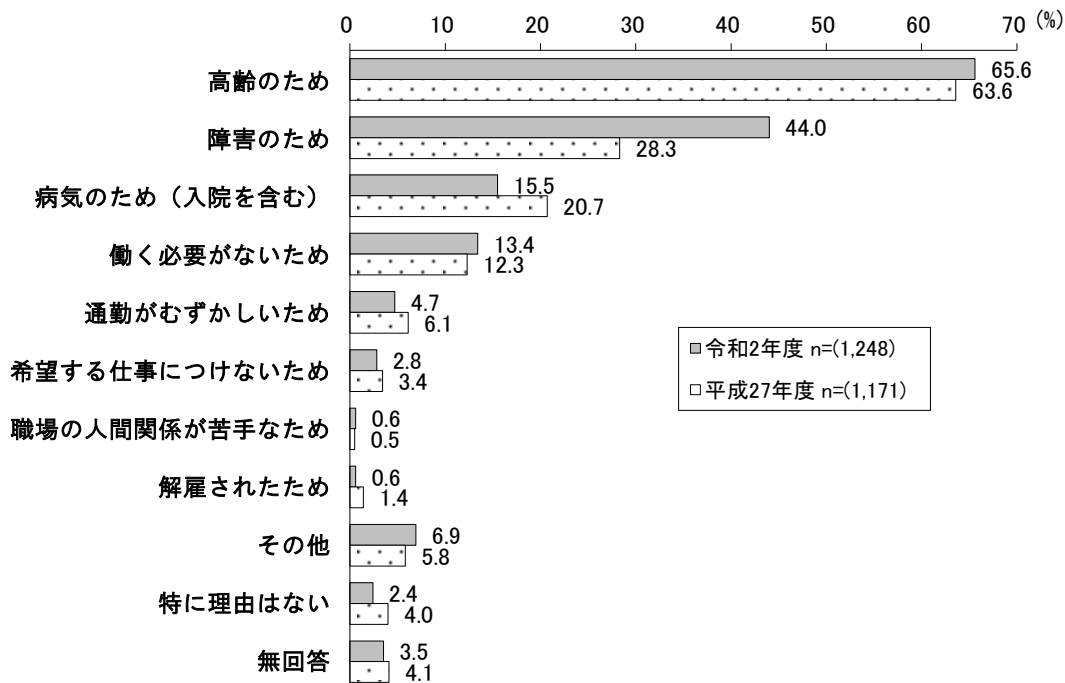
  

		n	職場での 身分が 不安定	仕事がむ ずかしい	自分に あった 内容の 仕事がない	その他	特に不安 や不満は ない	無回答
全体		322	6.5	4.3	4.3	5.0	35.4	4.3
仕事の 形態別	自営業	45	-	4.4	-	6.7	31.1	6.7
	家業の手伝い	3	-	-	-	-	33.3	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	138	8.7	5.1	3.6	5.8	31.9	1.4
	臨時、パート、嘱託等	103	7.8	3.9	4.9	2.9	40.8	4.9
	内職	2	-	-	-	-	50.0	-
	就労系事業所	8	12.5	12.5	25.0	-	25.0	-
	福祉作業所等の地域活動支援センター	2	-	-	50.0	-	50.0	-
	その他	12	-	-	8.3	-	66.7	-
最も 重い 障害別	視覚障害	20	10.0	10.0	20.0	5.0	45.0	-
	聴覚障害	30	13.3	3.3	6.7	6.7	36.7	3.3
	平衡機能障害	1	-	-	100.0	-	-	-
	音声機能・言語機能・ そしゃく機能の障害	6	16.7	-	-	-	50.0	-
	肢体不自由 (上肢、下肢、体幹)	131	6.1	3.8	3.8	6.1	32.1	6.9
	肢体不自由(非進行性の 脳病変による運動機能障害)	3	-	-	33.3	-	33.3	-
	内部障害	119	4.2	5.0	0.8	4.2	37.8	1.7
	その他	4	-	-	-	-	-	25.0

(5) 働いていない理由

問10で「2. 収入を伴う仕事はしていない」を選んだ人にかがいます。

問10-4 あなたが働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



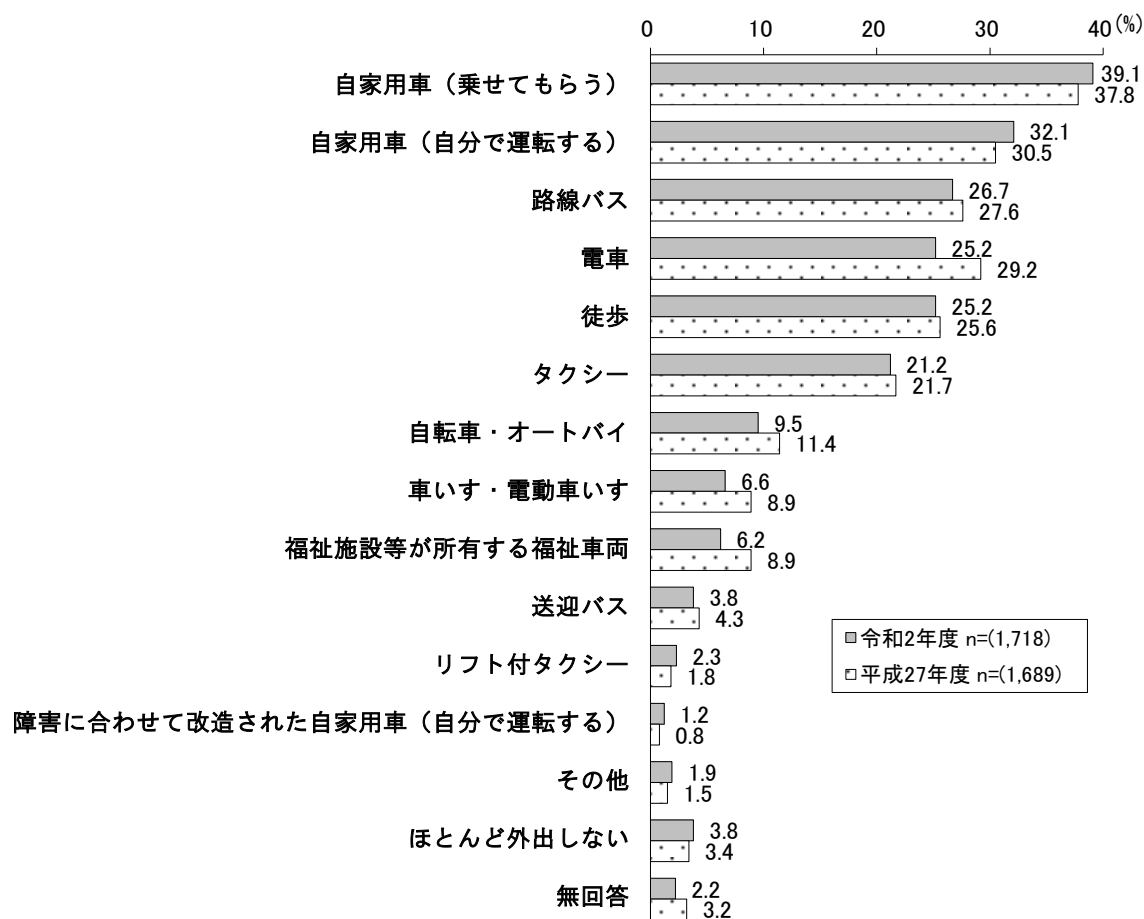
働いていない理由では、「高齢のため」が65.6%で最も多く、以下、「障害のため」(44.0%)、「病気のため (入院を含む)」(15.5%)、「働く必要がないため」(13.4%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「障害のため」が28.3%から44.0%と15.7ポイント増となっている。

## 5. 外出・社会参加の状況

### (1) 外出時の交通手段

問11 外出の際によく利用する交通手段は何ですか。(〇はいくつでも)



外出の際の交通手段では、「自家用車（乗せてもらう）」が39.1%で最も多く、以下、「自家用車（自分で運転する）」（32.1%）、「路線バス」（26.7%）、「電車」「徒歩」（ともに25.2%）となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

第2章 調査結果の詳細／身体障害者

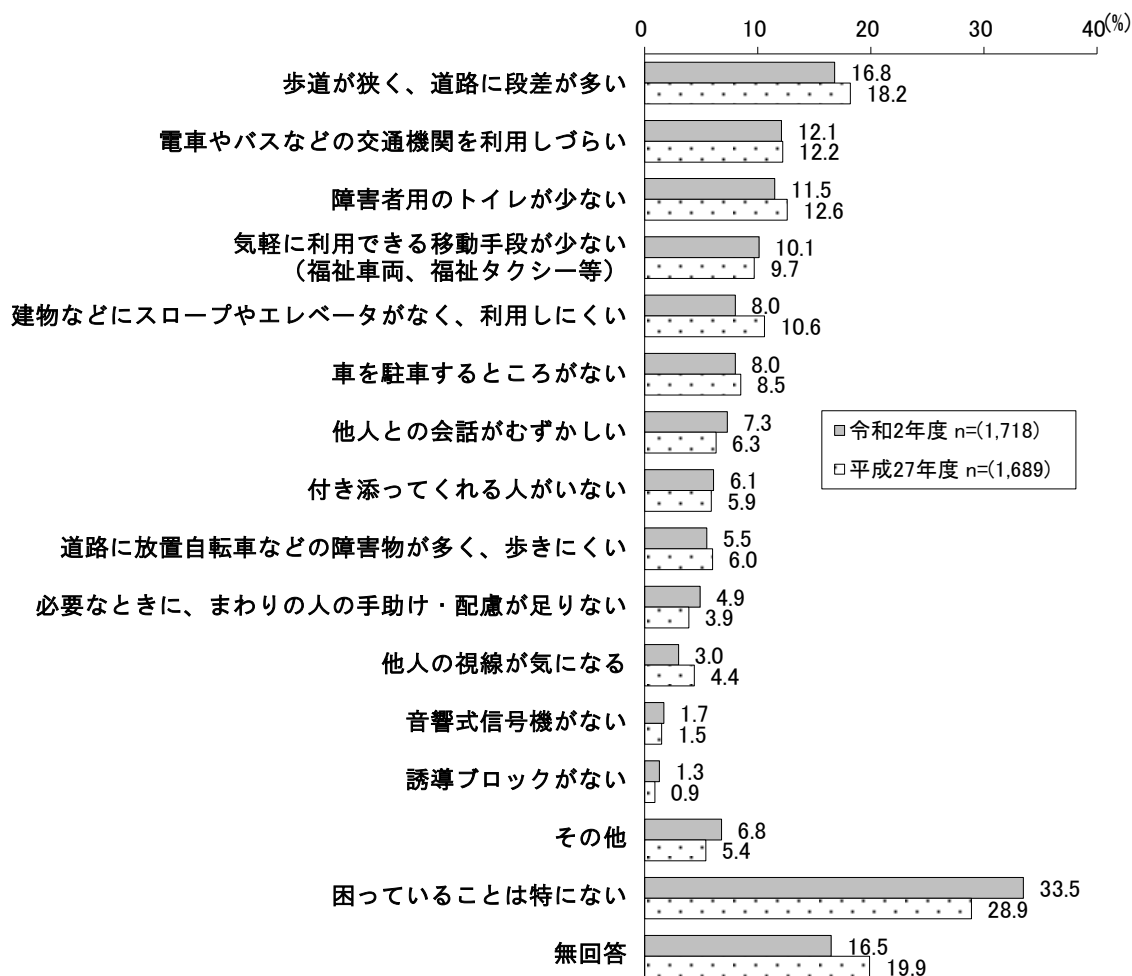
最も重い障害別では、“視覚障害”“聴覚障害”で多くなっている手段が目立ち、“視覚障害”で「自家用車（乗せてもらう）」（59.4％）が、“聴覚障害”で「路線バス」（44.7％）、「電車」（42.1％）などが多くなっている。

		n	自家用車(乗せてもらう)	自家用車(自分で運転する)	路線バス	電車	徒歩	タクシー	自転車・オートバイ	車いす・電動車いす
全体		1670	38.8	32.7	26.9	25.5	25.4	21.1	9.5	6.5
最も重い障害別	視覚障害	106	59.4	1.9	44.3	43.4	47.2	37.7	4.7	2.8
	聴覚障害	114	29.8	30.7	44.7	42.1	36.8	10.5	13.2	-
	平衡機能障害	7	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	34.6	26.9	11.5	15.4	15.4	11.5	15.4	7.7
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	40.0	29.0	20.7	20.5	17.4	20.8	6.9	10.6
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	57.1	19.0	9.5	19.0	9.5	4.8	4.8	28.6
	内部障害	616	35.1	44.5	30.4	27.4	31.2	22.4	12.7	2.6
	その他	17	11.8	35.3	11.8	5.9	5.9	11.8	5.9	11.8
		n	福祉施設等が所有する福祉車両	送迎バス	リフト付タクシー	障害に合わせて改造された自家用車(自分で運転する)	その他	ほとんど外出しない	無回答	
全体		1670	6.0	3.8	2.3	1.2	1.9	3.8	2.1	
最も重い障害別	視覚障害	106	2.8	3.8	-	0.9	3.8	-	0.9	
	聴覚障害	114	1.8	6.1	-	-	1.8	3.5	1.8	
	平衡機能障害	7	28.6	-	-	-	-	14.3	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	7.7	3.8	-	-	-	15.4	3.8	
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	8.5	3.5	4.0	2.5	1.8	4.5	2.7	
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	19.0	9.5	14.3	-	-	9.5	4.8	
	内部障害	616	2.9	3.6	0.8	0.2	1.6	3.1	1.0	
	その他	17	17.6	5.9	11.8	-	5.9	5.9	-	



(2) 外出の際に困っていること

問12 外出の際に困っていることがありますか。(〇はいくつでも)



外出の際に困っていることでは、「困っていることは特にない」が33.5%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「歩道が狭く、道路に段差が多い」(16.8%)が最も多く、以下、「電車やバスなどの交通機関を利用しづらい」(12.1%)、「障害者用のトイレが少ない」(11.5%)、「気軽に利用できる移動手段が少ない(福祉車両、福祉タクシー等)」(10.1%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

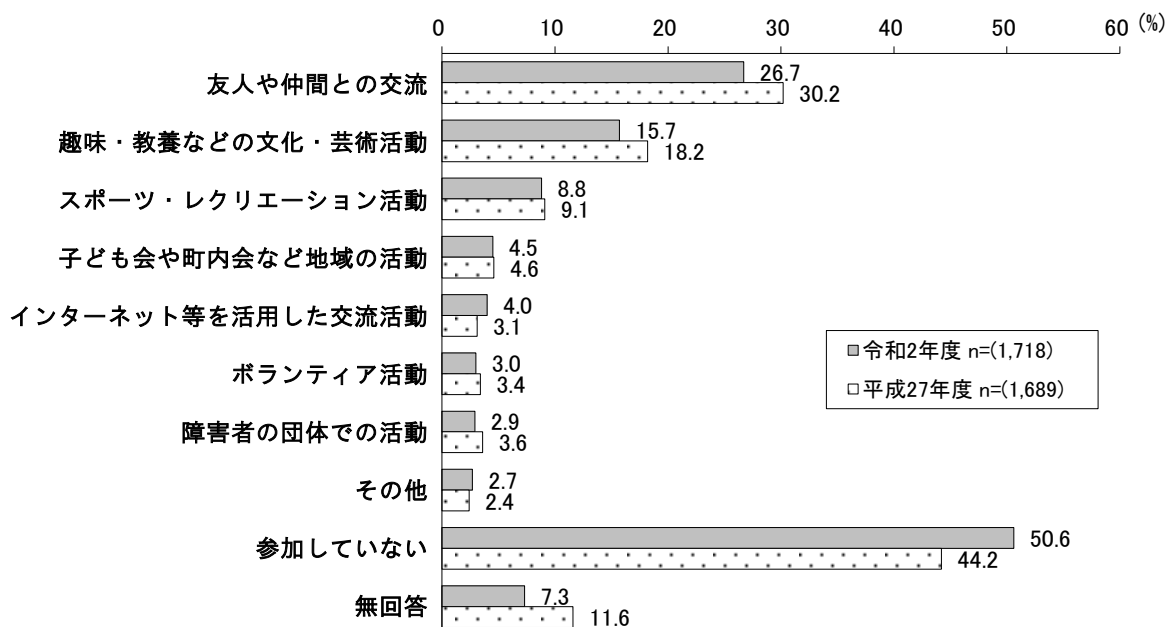
第2章 調査結果の詳細／身体障害者

最も重い障害別でみると、“視覚障害”では多岐に渡っており、なかでも「歩道が狭く、道路に段差が多い」が49.1%、「道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きにくい」が31.1%となっている。また、“聴覚障害”では「他人との会話がむずかしい」が42.1%となっている。

			(%)							
		n	歩道が狭く、道路に段差が多い	電車やバスなどの交通機関を利用しづらい	障害者の利用のトイレが少ない	気軽に利用できる移動手段が少ない(福祉車両、福祉タクシー等)	建物などにスロープやエレベーターがなく、利用しにくい	車を駐車するところがない	他人との会話がむずかしい	付き添ってくれる人がいない
全体		1670	16.9	12.2	11.4	10.0	8.0	8.0	7.5	6.0
最も重い障害別	視覚障害	106	49.1	23.6	12.3	17.9	9.4	4.7	3.8	11.3
	聴覚障害	114	7.0	7.0	-	5.3	2.6	5.3	42.1	3.5
	平衡機能障害	7	14.3	14.3	42.9	14.3	28.6	14.3	-	28.6
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	7.7	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	38.5	-
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	17.7	13.6	13.3	12.6	11.7	11.0	5.1	6.4
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	19.0	23.8	19.0	4.8	14.3	-	4.8	9.5
	内部障害	616	12.8	8.8	9.9	6.2	4.1	6.0	2.9	4.7
	その他	17	5.9	11.8	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	-
		n	道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きにくい	必要などに、まわりの人の手助け・配慮が足りない	他人の視線が気になる	音響式信号機がない	誘導ブロックがない	その他	困っていることは特にない	無回答
全体		1670	5.6	5.0	2.9	1.7	1.3	6.8	33.9	16.0
最も重い障害別	視覚障害	106	31.1	15.1	6.6	22.6	16.0	7.5	17.9	7.5
	聴覚障害	114	2.6	8.8	2.6	0.9	1.8	5.3	27.2	9.6
	平衡機能障害	7	14.3	-	14.3	-	-	-	-	28.6
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	-	-	3.8	-	-	3.8	19.2	19.2
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	5.0	5.2	3.7	-	0.3	7.2	30.4	17.4
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	9.5	9.5	-	-	-	9.5	33.3	19.0
	内部障害	616	2.6	2.4	1.3	0.3	-	6.8	43.8	15.6
	その他	17	-	-	-	-	-	11.8	29.4	17.6

## (3) 各種活動状況

問13 あなたは、次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

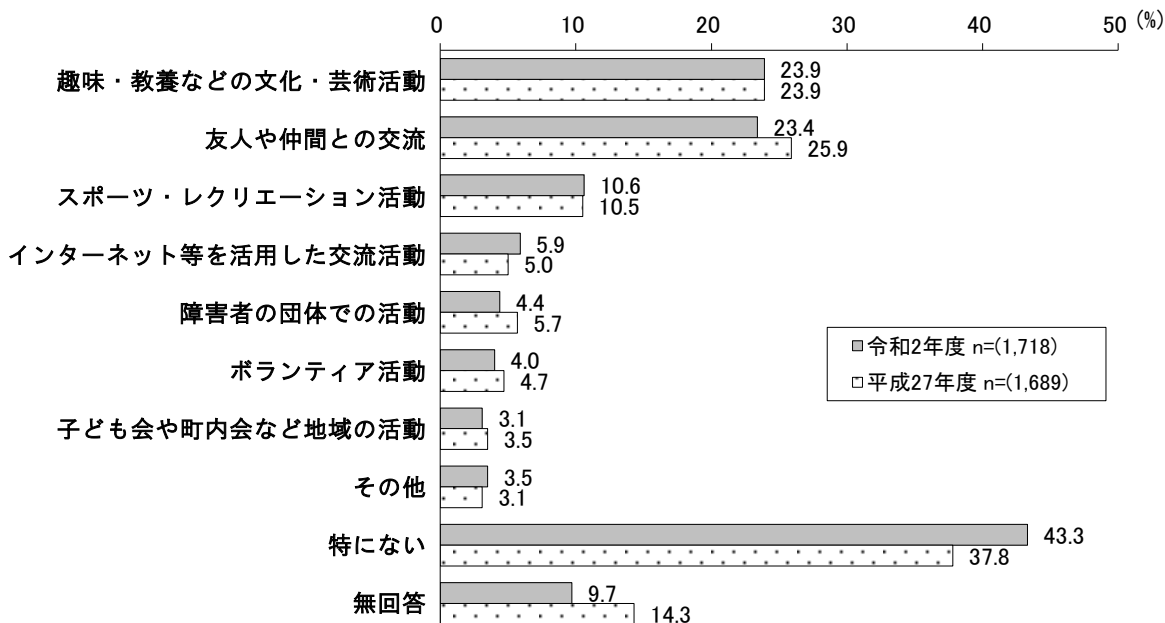


各種活動状況では、「参加していない」が50.6%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「友人や仲間との交流」(26.7%)が最も多く、「趣味・教養などの文化・芸術活動」(15.7%)が次いでいる。

平成27年度の調査結果と比較すると、「参加していない」は44.2%から50.6%と6.4ポイント増となっている。

(4) 今後充実させたいこと

問14 今後の生活の中で、どのような面をもっと充実させたいですか。また、新たに始めたいことはありますか。(〇はいくつでも)



今後充実させたいことでは、「特にない」が43.3%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「趣味・教養などの文化・芸術活動」(23.9%)が最も多く、「友人や仲間との交流」(23.4%)が僅差で次いでいる。

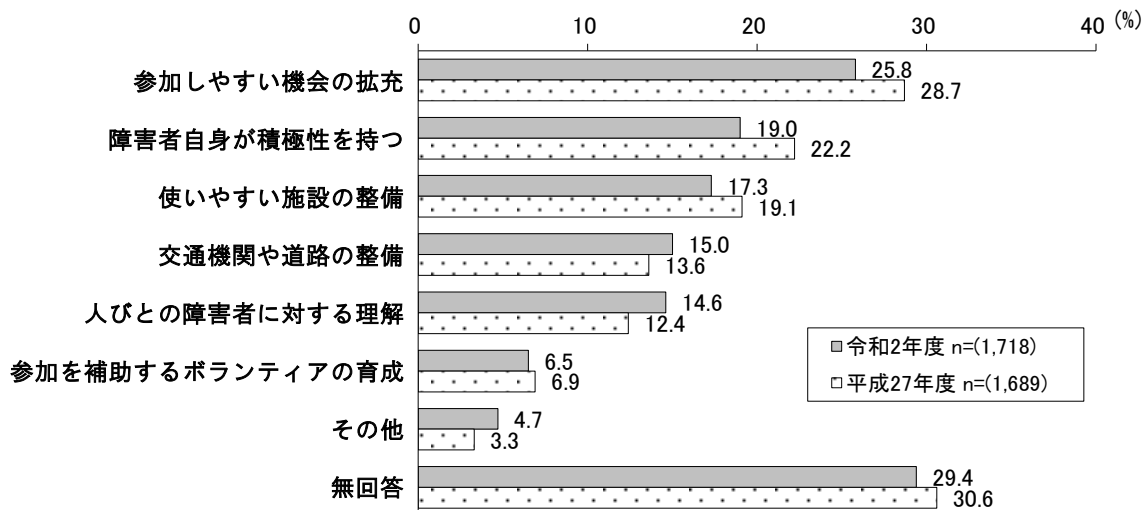
平成27年度の調査結果と比較すると、「特にない」は37.8%から43.3%と5.5ポイント増となっている。

年代で見ると、“18歳未満”で「友人や仲間との交流」が42.5%と多くなっている。“18～40歳”では「スポーツ・レクリエーション活動」「インターネットを活用した交流活動」「障害者の団体での活動」が比較的多くなっている。

		n	趣味・教養などの文化・芸術活動	友人や仲間との交流	スポーツ・レクリエーション活動	インターネット等を活用した交流活動	障害者の団体での活動	ボランティア活動	子ども会や町内会など地域の活動	その他	特にない	無回答
全体		1718	23.9	23.4	10.6	5.9	4.4	4.0	3.1	3.5	43.3	9.7
年代別	18歳未満	40	15.0	42.5	20.0	15.0	15.0	2.5	20.0	2.5	30.0	7.5
	18～40歳	65	30.8	30.8	24.6	16.9	16.9	6.2	6.2	-	36.9	3.1
	41～64歳	297	28.3	20.2	17.5	9.4	5.4	5.4	2.0	2.4	43.8	4.7
	65歳以上	1246	22.7	23.1	8.0	3.9	3.5	3.5	2.6	3.8	44.3	11.2

(5) 地域活動や社会参加のために必要なこと

問15 あなたが、地域や社会に積極的に参加できるようにするため、特に大切なことは何ですか。(〇は主なもの2つ以内)

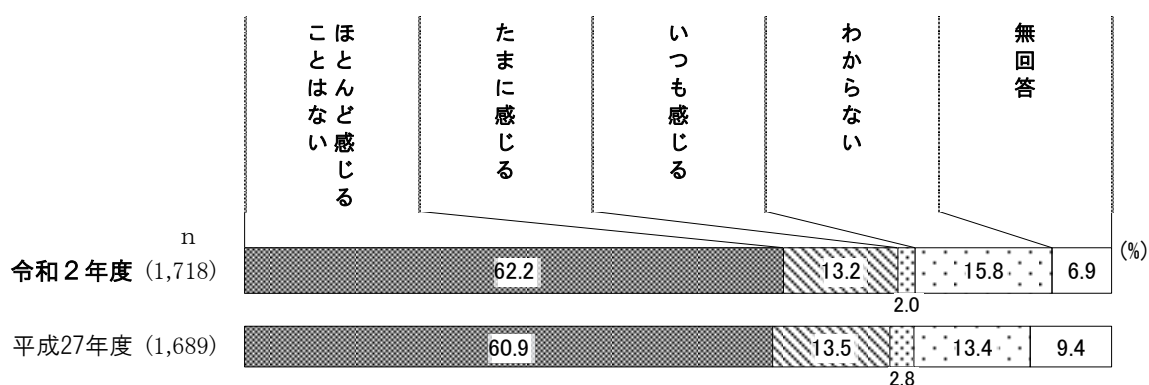


地域活動や社会参加のために必要なことでは、「参加しやすい機会の拡充」が25.8%で最も多く、以下、「障害者自身が積極性を持つ」(19.0%)、「使いやすい施設の整備」(17.3%)、「交通機関や道路の整備」(15.0%)、「人びとの障害者に対する理解」(14.6%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(6) 差別や人権侵害、虐待の有無

問16 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(〇は1つ)



差別や人権侵害、虐待の有無では、「ほとんど感じない」が62.2%と多く、「たまに感じる」が13.2%、「いつも感じる」は2.0%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(7) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき

問17 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

【理解不足、偏見】

- ・買い物先で商品の説明に面倒くさがる。(筆談要の為) (女性・61歳・聴覚)
- ・習い事をしたい時に、視覚障害である事と、言葉(会話が出来ない)が話せない為、コミュニケーションを取る事が難しい事から、入会を拒否されてしまう。(男性・5歳・視覚)
- ・何かしようとしても、やらなくていいとか手を出さなくてもいいとか特別扱いされるような時。(男性・72歳・内部)

【周囲の言動、反応】

- ・聴覚障害のある子と一緒に通学のため電車に乗っており、声がどうしても大きくなってしまいうのですが、その際うるさいと言われたり舌うちをされたりしました。(男性・5歳・聴覚)
- ・バスで障害者手帳を見せると面倒・厄介といった様子の運転手さんに会う事がある。(女性・77歳・肢体)
- ・通勤中に自転車とぶつかったが、視覚障害があるとわかったからか何も言わずに逃げられてしまったことがあった。(男性・37歳・視覚)

【雇用、就業の場】

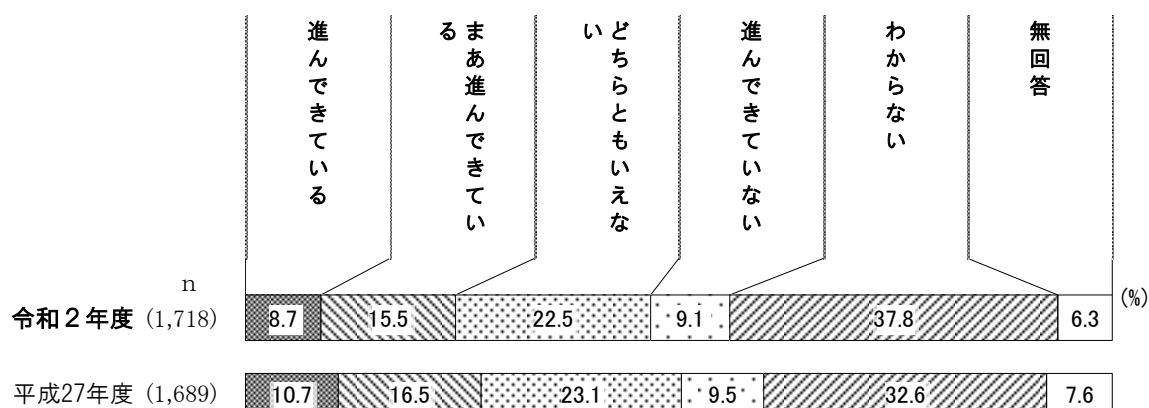
- ・面接に行っても障害の為、採用されない。(女性・67歳・肢体)
- ・仕事の量、仕事の内容、会議の時などの配慮、等級(評価されない)。(男性・44歳・聴覚)
- ・内部障害だと、分かりにくい為か、仕事をさぼってるように言われる。(女性・51歳・内部)

【その他】

- ・見た目の障害が無いと健康にみられる為、体調が悪くてもわかってもらえない。(女性・42歳・内部)

(8) 障害に対する市民の理解

問18 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(〇は1つ)

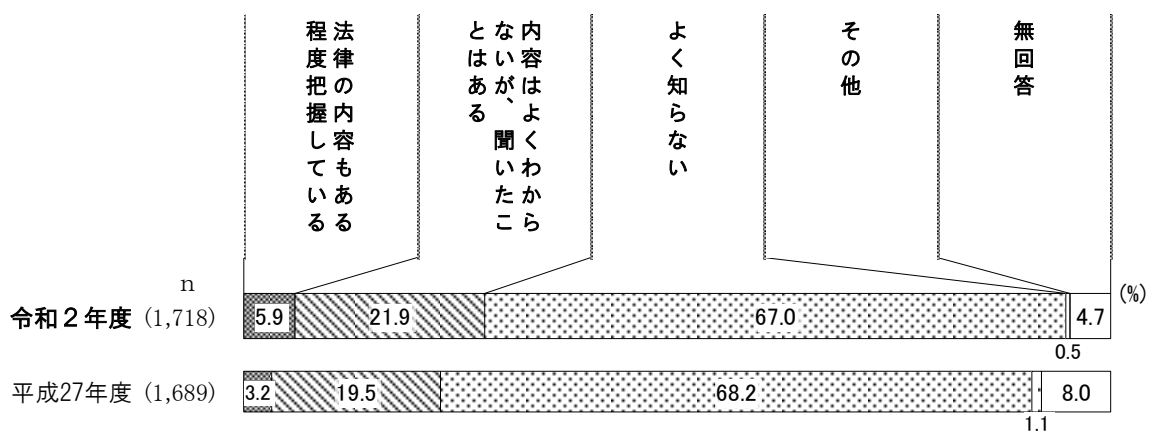


障害に対する市民の理解では、「進んできている」が8.7%、「まあ進んできている」が15.5%となり、それに対し「進んできていない」は9.1%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(9) 「障害者差別解消法」の認知度

問19 あなたは「障害者差別解消法」という法律が施行されていることをご存じですか。(〇は1つ)



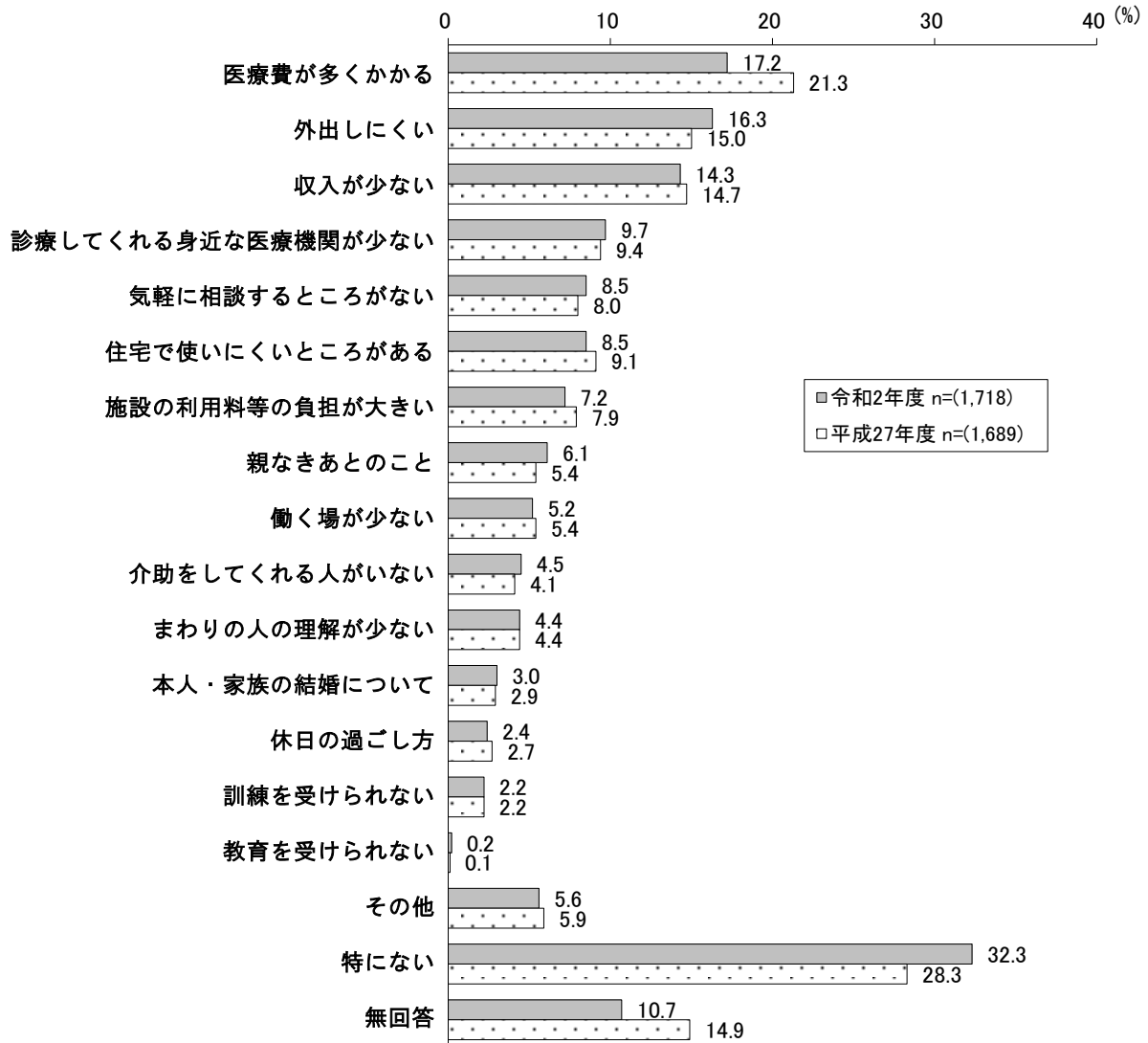
『障害者差別解消法』の認知度では、「よく知らない」が67.0%を占め、「内容はよくわからないが、聞いたことはある」が21.9%、「法律の内容もある程度把握している」が5.9%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

## 6. ふだんの生活の困りごとなど

### (1) 現在の生活で困っている、不安を感じていること

問20 あなたは、現在の生活で困っていること、あるいは不安を感じていることはありますか。(〇はいくつでも)



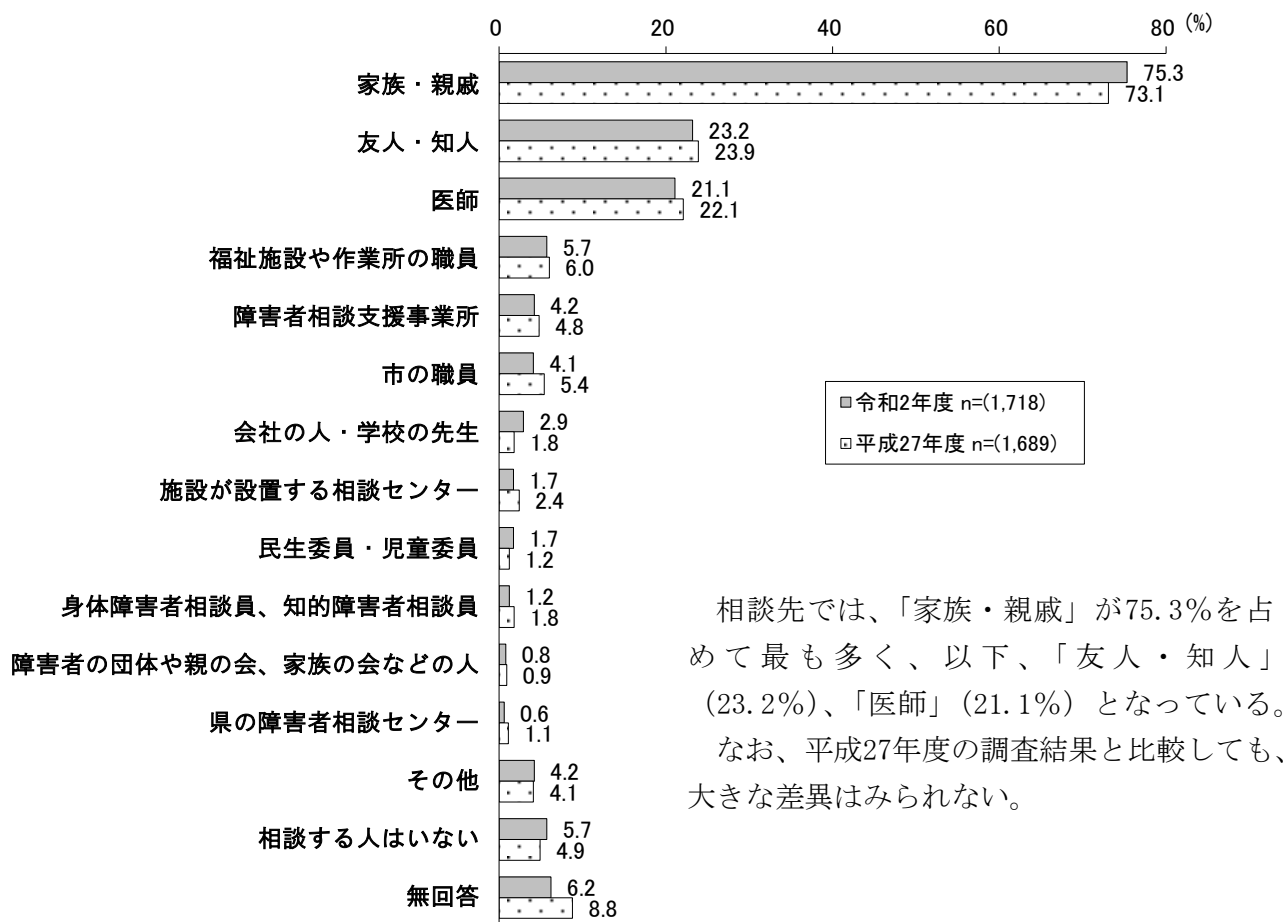
現在の生活での困りごとでは、「特にない」が32.3%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「医療費が多くかかる」(17.2%)が最も多く、以下、「外出しにくい」(16.3%)、「収入が少ない」(14.3%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。



(2) 相談先

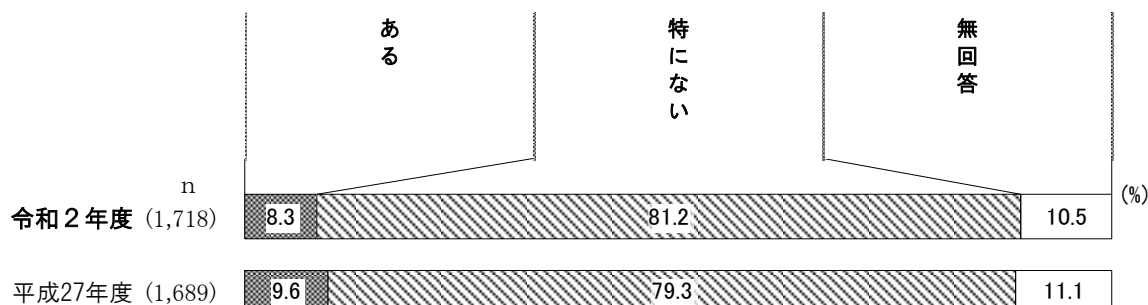
問21 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(○は主なもの3つ以内)



相談先では、「家族・親戚」が75.3%を占めて最も多く、以下、「友人・知人」(23.2%)、「医師」(21.1%)となっている。  
 なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(3) 相談したいことの有無

問22 現在、障害に関することなどで相談したいことはありますか。(○は1つ)



相談したいことの有無では、「ある」が8.3%、「特にない」が81.2%となっている。  
 なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

#### (4) 相談したい内容

問22で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問22-1 それはどのようなことですか。具体的にお書きください。

具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

##### 【介護・医療関連】

- ・親なき後の介護の事。口が聞けないので意志疎通が出来ない。(男性・音声)
- ・現在透析中ですが、通院できなくなった場合、入院ができない病院なので、どうなるのだろうという不安があります。(女性・73歳・内部)
- ・どンドン体が不自由になり、認知症も進んでいる中、いつまで1人暮らしが出来るのかと、とても不安です。(女性・77歳・肢体)
- ・配偶者(妻)が不在だったり急に病気になった時、病院へ一人では行けない(男性・87歳・内部)
- ・デイケアへ通っていますが、言語聴覚士がおらず、言葉のリハビリができていません。咀嚼への影響もでてくるので、困っていますが、またケアマネに相談してみます。(女性・72歳・音声)

##### 【制度、手続き関連】

- ・実際に障害があるのに、障害年金が受けられない。申請したが、初診日の特定ができなかった。(男性・54歳・内部)
- ・障害者年金等の手続き及び申請の煩雑さ、ハードルの高さ。(男性・29歳・内部)
- ・制度や利用できることや施設など、色々と情報不足なところ。何をどうしたらいいのか分からない。(女性・7歳・視覚)
- ・将来的に手術が必要になるが補助や助成など受けられるサービスが何もわからない。自分で調べないとならないのか、誰も教えてくれない。(女性・47歳・肢体)

##### 【経済的なこと】

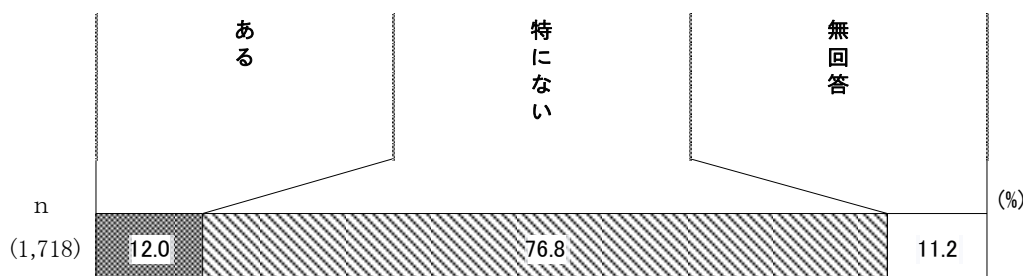
- ・病気が多いので医療費が大変。(CTや、MRI等の検査が高い)(男性・69歳・肢体)
- ・自分の場合、年金額も少なく家のローンも有り、年金からの支払の場合、どうしてもきつくなるので障害年金手当の利用を検討いただきたい。(男性・72歳・内部)

##### 【各種サービスの充実、改善】

- ・相談というより、1級・2級に比べて3級だと受けられる支援、補助に差があり過ぎる様にする。(男性・40歳・肢体)
- ・電車の割引範囲がきびしい、バス等はほとんど半額である。(男性・66歳・内部)
- ・趣味を活かしたいと思うが交通機関がない為、その場所へ行くことが出来ない。市内を回っているバスがあるらしいが、居住地には来ない。(女性・86歳)
- ・家を空けなくてはならない場合、面倒を見てくれる施設にすぐ入れないこと。(男性・82歳・視覚)

(5) 相談支援事業所の利用状況

問23 市内には、日常生活における悩みや困りごと、障害福祉サービスの利用について相談を受ける相談支援事業所があります。相談支援事業所を利用されたことはありますか。  
(○は1つ)

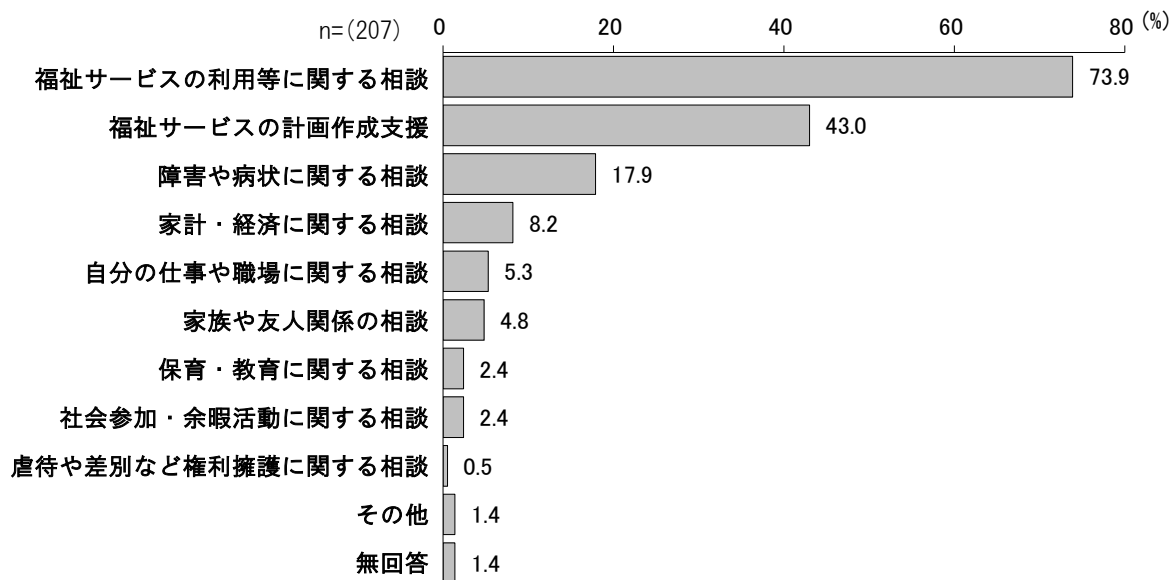


相談支援事業所の利用状況では、「ある」が12.0%、「特にない」が76.8%となっている。

(6) 具体的な利用内容

問23で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問23-1 どのようなことで利用したことがありますか。(○はいくつでも)

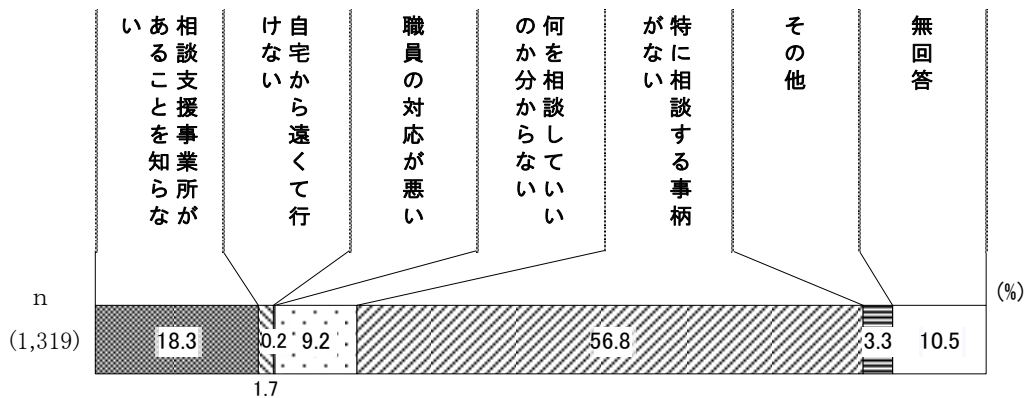


具体的な利用内容では、「福祉サービスの利用等に関する相談」が73.9%で最も多く、「福祉サービスの計画作成支援」(43.0%)が次いでいる。

(7) 利用していない理由

問23で「2. 特にない」を選んだ人にうかがいます。

問23-2 利用していない理由をお答えください。(○は1つ)



利用していない理由では、「特にない」が56.8%と多く、「相談支援事業所があることを知らない」が18.3%、「何を相談していいのかわからない」が9.2%となっている。

## (8) 相談支援事業所に期待すること

問24 今後、相談支援事業所に期待することを具体的にお書きください。

相談支援事業所に期待することの具体的な内容としては、次のような記入があった。

## 【事業所の周知、PR】

- ・ 支援活動の内容が良くわかりません。パンフレットなどがあれば見たいと思います。市政だよりなどに掲載してほしいです。(女性・58歳・肢体)
- ・ 具体的に何を相談していいのか、どこまでやってくれるのか不明。(男性・68歳・肢体)
- ・ 障害状況に応じた、受けられるサービスや補助など、お知らせの手紙的な物を送って頂けると助かります。(女性・47歳・肢体)
- ・ 支援してくれる施設を具体的に紹介して欲しい。(男性・81歳・内部)

## 【サービスの充実】

- ・ 障害者を障害別に分けなくて色々障害者が一同に話し合える期会があれば良いと思います。色々な体験を話し合うと励まされる事が沢山あります。(男性・73歳・音声)
- ・ 市の健康診断、障害者だけの健診日を設けてほしい。(女性・77歳)
- ・ 生活保護を受けたいので何とかして欲しいです。目が見えなくて一人では生活出来ないのに、誰か一緒に住んでる人がいればダメだと言われました。(男性・66歳・視覚)
- ・ 聴覚障害者は一人一人聞こえが異なるので手話、筆談など事業所の方の対応をきちんとしてもらうことが大切。(女性・71歳・聴覚)
- ・ 障害者主体の就職先の確保、作成。(男性・49歳・内部)
- ・ 今後、高齢者がもっと増えるので、買物や病院（通院）への移動手段をお願いをしたい。(男性・73歳・内部)
- ・ 老年になったり身体傷害者になった時に生活できる施設を多く紹介してもらいたい、入居後も施設の対応を細かく相談できる事。(男性・93歳・肢体)

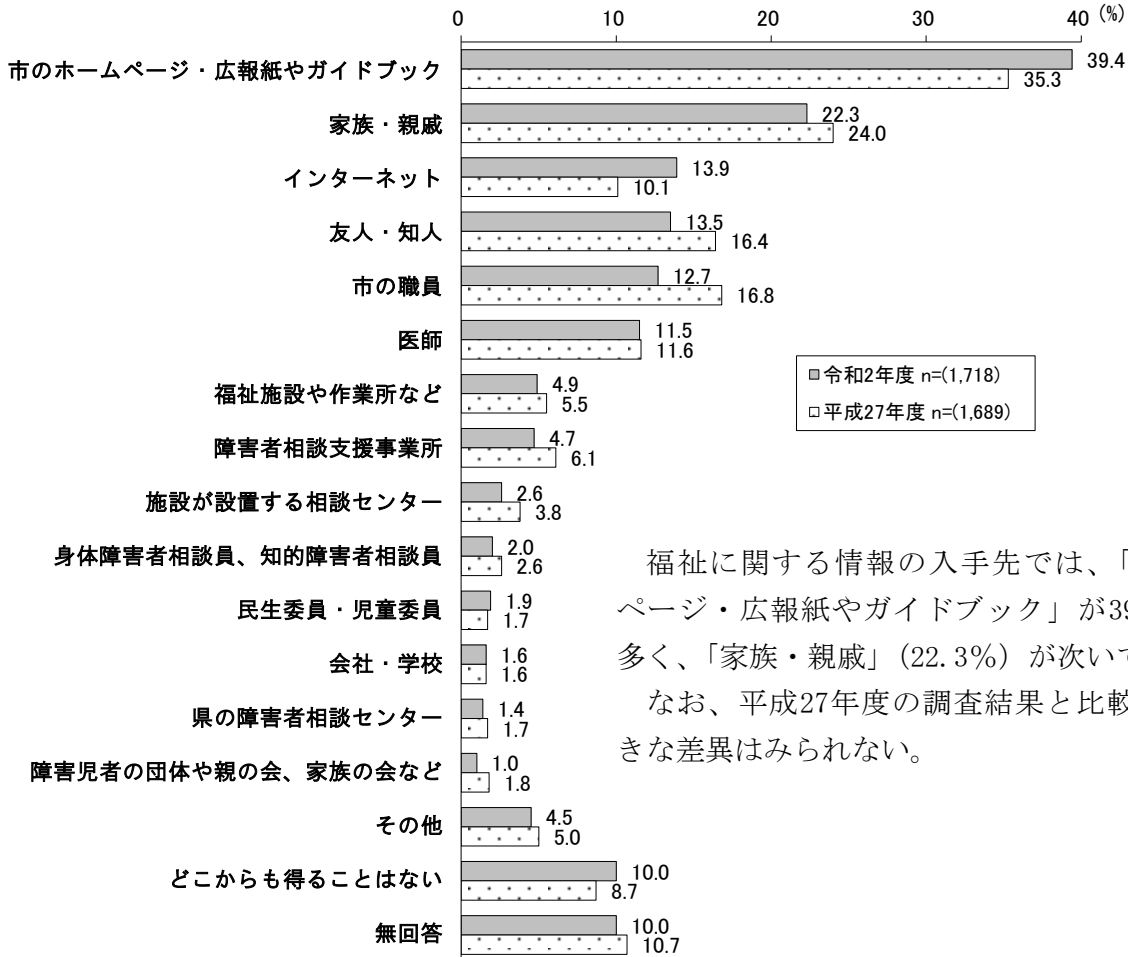
## 【その他】

- ・ 諸手続の時に書く物が多すぎるし、内容によっては、聞いてもすぐ答えてくれない（答えられない）係の人が多。(男性・65歳・肢体)
- ・ 障害者のためのトイレや交通機関の優先席が準備されているが、使いたい時に使えない。もう少し教育機関等で小さな時から相互扶助の精神を啓蒙して欲しい。(男性・63歳・内部)
- ・ 定期的Zoomでの相談等ができれば助かる。(男性・64歳・肢体)

## 7. 福祉情報などの入手状況

### (1) 福祉に関する情報の入手先

問25 あなたやご家族は、福祉に関する情報をどこから得ますか。(○は主なもの3つ以内)

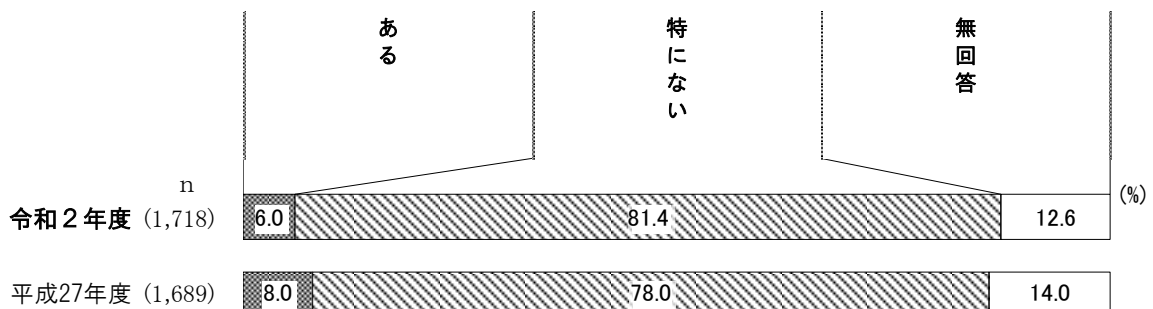


福祉に関する情報の入手先では、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」が39.4%で最も多く、「家族・親戚」(22.3%)が次いでいます。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

### (2) 情報が取得できないことでの困難経験の有無

問26 あなたが生活する上で、福祉サービスなど障害者のための情報が得られないで困ったことがありますか。(○は1つ)



情報が取得できないことでの困難経験の有無では、「ある」が6.0%、「特にない」が81.4%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

### (3) 困難経験の具体的内容

問26で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問26-1 それはどのようなときでしたか。具体的にお書きください。

情報が取得できないことで困ったことの具体的な内容としては、次のような記入があった。

#### 【情報アクセス関連】

- ・就学に向けてのアナウンスが無く、全て自分で調べなければならなかった。(男性・6歳・内部)
- ・後でこれも利用できますよ、という事がほとんどです。冊子などがあれば良いし助かると思います。(女性・57歳・肢体)
- ・どこに相談したらいいか窓口がわからなかった。(男性・2歳・肢体)
- ・特別障害者手当で福祉タクシー、介護用品引き換え券など以前から受給資格があったのに最近まで知らなかったので使えなかった。(女性・47歳・肢体)
- ・障害者の受けられる減免処置や割引サービスの一覧が古くなり、最新状況が不明で困る。(女性・67歳)

#### 【各種申請、手続き】

- ・障害者福祉と介護福祉、医療費、介護費年金等行政が縦割りがつ、複雑で理解できない。手続きも複雑なため、ワンストップで対応してほしい。(男性・84歳・内部)

#### 【非常時の対処法】

- ・台風等、避難指示が出ても、介助をしてもらえる人がそこにいるのか？歩けないのでどうすればいいのか？(女性・83歳・肢体)

#### (4) 今後ほしい情報

問27 現在または今後どのような情報がほしいですか。具体的にお書きください。

今後ほしい情報の具体的な内容としては、次のような記入があった。

##### 【福祉サービス全般】

- ・どんなサービスがあるか積極的に発信してほしい。こちらから聞かないと教えてもらえないことが多い。(男性・2歳・肢体)
- ・「よめーる」の配信サービス内容に障害者(児)のための情報枠を設けていただきたいです。(女性・14歳・肢体乳幼児期以前)
- ・新しい制度が出来た時など知らせていただけると助かります。(女性・66歳・視覚)

##### 【医療・介護施設関連】

- ・障害者対応のある病院と、その連絡方法。(男性・肢体)
- ・地域にどのくらいの障害者施設があるか、どの程度の障害から受け入れてくれるのか、空き状況等の情報がほしい。(男性・18歳・視覚)

##### 【交流情報】

- ・障害者は、それぞれ心配事や、困った事が多くさんあります。普通に話し合える機会が必要だと思います。(男性・73歳・音声)
- ・市政だより等で障害のある人の仲間作りの機会をPRをしてほしい。(男性・77歳・内部)
- ・人と会話グループとか。(男性・70歳・肢体)

##### 【その他】

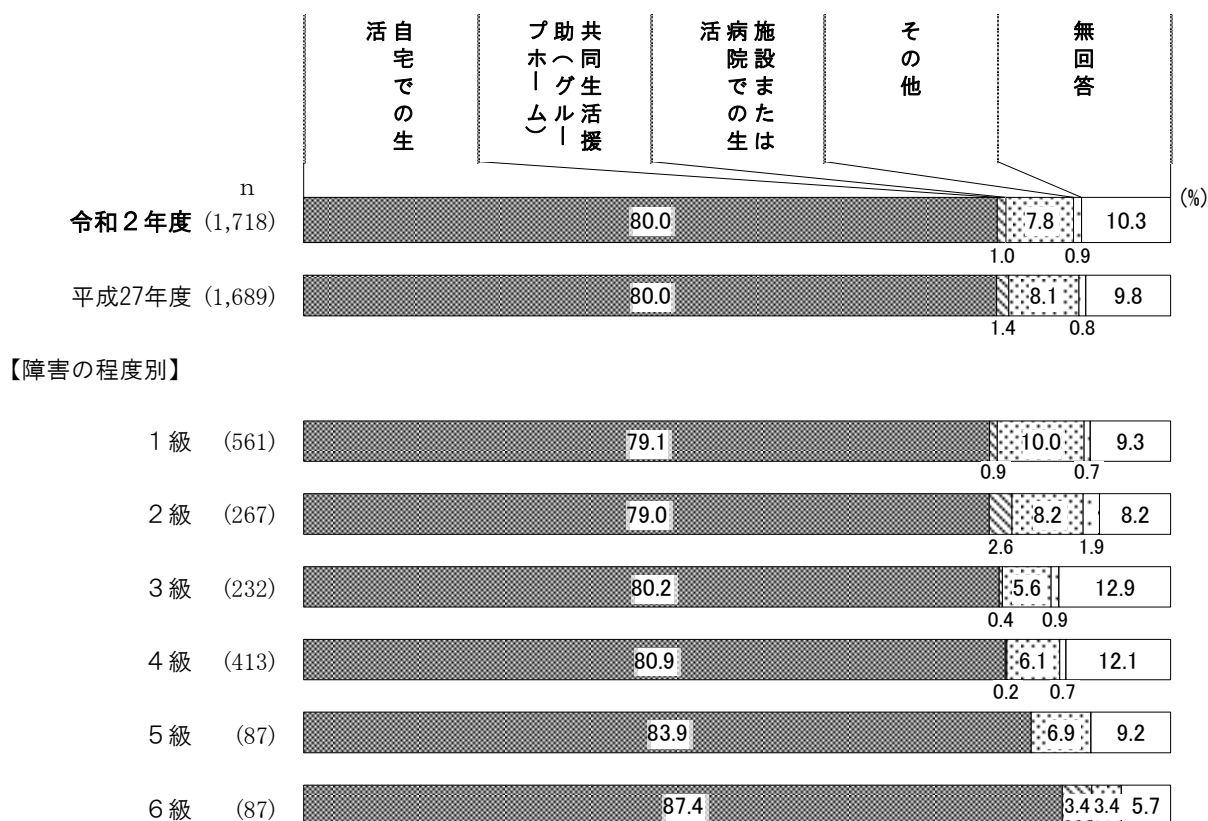
- ・経済的に困った場合の対策と相談先。(女性・52・視覚)
- ・外への散歩、ちょっとした買い物の時の移動の電動バイク、貸し出しの情報。(女性・63歳・肢体)
- ・出歩けなくなった時に、ネットで相談できるようなシステムにしてもらいたい。(女性・67歳・肢体)
- ・ボランティア活動でなく、収入のある仕事を広報に載せてもらいたい。(女性・67歳・肢体)
- ・車椅子で移動するので災害があったらどこへ避難したらよいか不安なため、避難情報がほしい。(男性・77歳・肢体)



## 8. 今後、希望する暮らし方

### (1) 希望する生活形態

問28 今後、どのような生活形態を望みますか。(○は1つ)



希望する生活形態では、「自宅での生活」が80.0%を占めている。

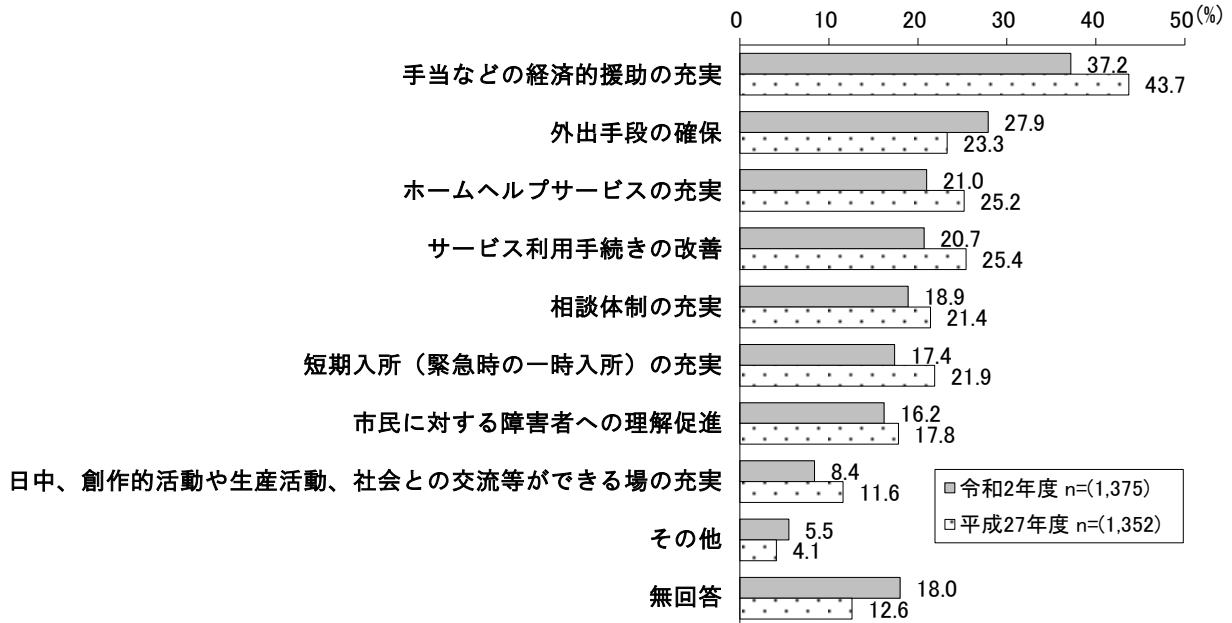
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

障害の程度別でみると、「自宅での生活」では、等級が上がるにつれて逓減傾向にある。

(2) 自宅での生活を続けるための条件

問28で「1. 自宅での生活」を選んだ人にうかがいます。

問28-1 自宅での生活を続けるための条件は何ですか。(〇はいくつでも)



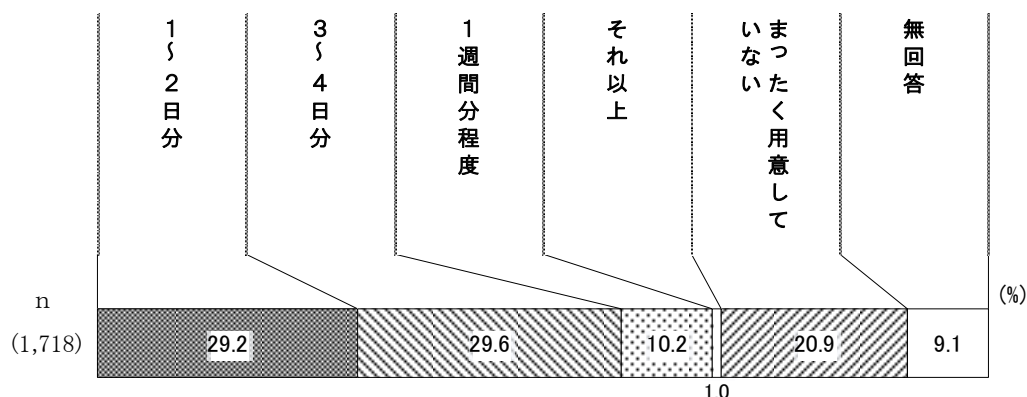
自宅での生活を続けるための条件では、「手当などの経済的援助の充実」が37.2%で最も多く、「外出手段の確保」(27.9%)が次いでいる。

平成27年度の調査結果と比較すると、「手当などの経済的援助の充実」が43.7%から37.2%と6.5ポイント減となっている。

## 9. 洪水や地震等の災害時の対応

### (1) 非常食と水の準備状況

問29 災害が起きたときのための非常食と水を、どのぐらい用意していますか。(○は1つ)

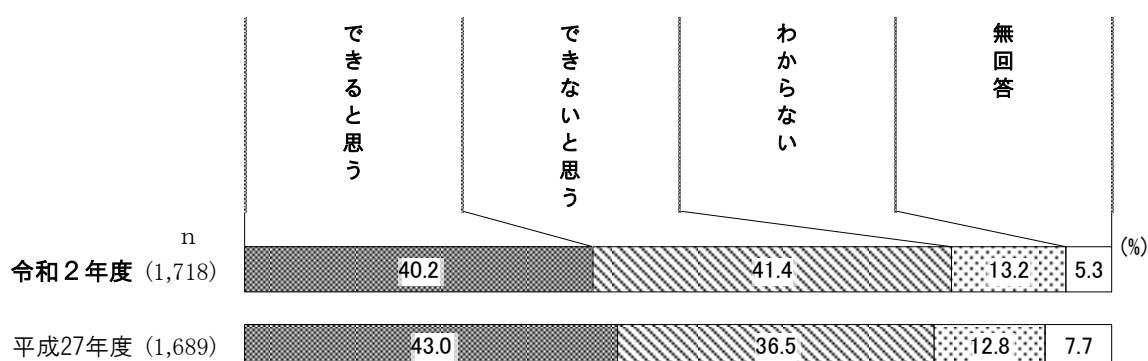


非常食と水の準備状況では、「1～2日分」が29.2%、「3～4日分」が29.6%と多く、「まったく用意していない」も20.9%となっている。

また、「それ以上」と回答した17人（1.0%）の内訳は、〈2週間分程度〉5人、〈4週間分程度〉4人、〈3週間分程度〉2人、〈無回答〉6人となっている。

### (2) 災害時における一人での避難

問30 災害時に、あなたは一人で避難できますか。(○は1つ)

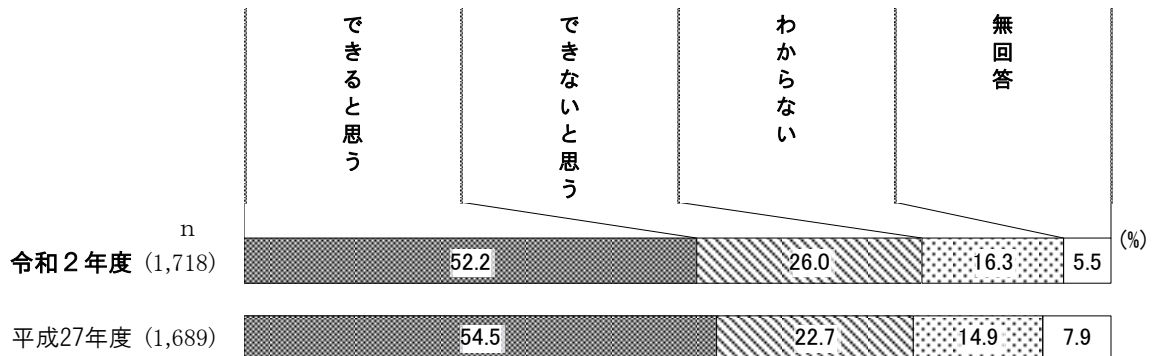


災害時に一人で避難できるかどうかでは、「できると思う」が40.2%、「できないと思う」が41.4%と、二分するような結果となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(3) 災害時での周囲への伝達

問31 災害時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(○は1つ)

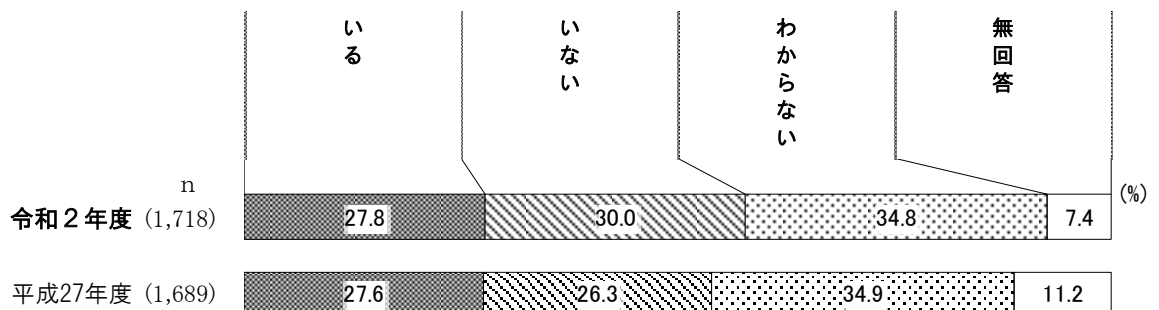


災害時での周囲への伝達では、「できると思う」が52.2%、「できないと思う」が26.0%となっている。

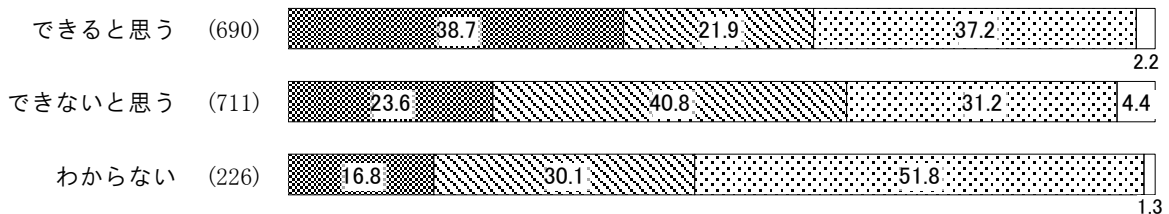
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(4) 近所で助けてくれる人の有無

問32 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)



【一人避難可不可別】



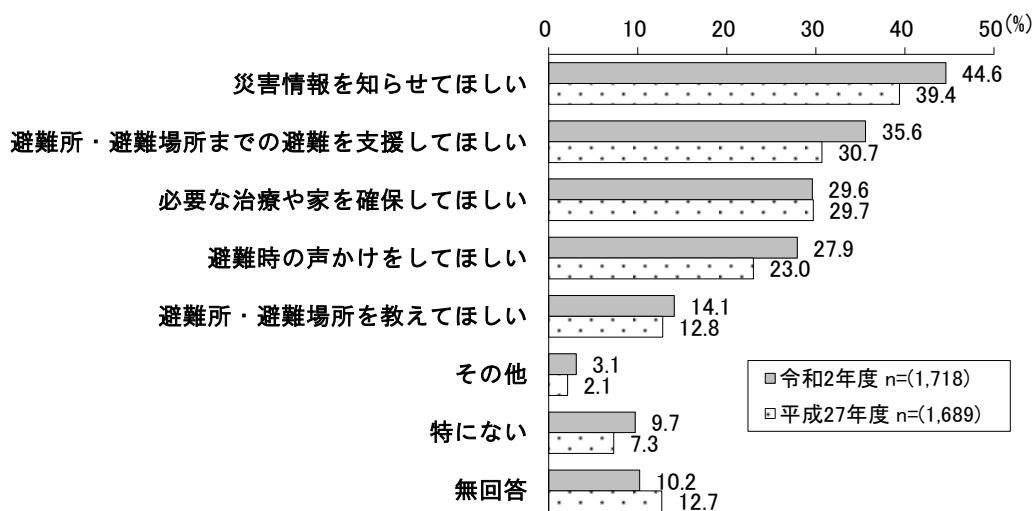
近所で助けてくれる人の有無では、「いる」が27.8%、「いない」が30.0%と、ほぼ同様の結果となっており、「わからない」も34.8%を占めている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

災害時に一人で避難ができるかどうか別でみると、“できないと思う”では「いない」が40.8%となっている。

(5) 災害発生時に支援してほしいこと

問33 あなたが、災害発生時に支援してほしいことは何ですか。(〇は3つまで)



災害発生時に支援してほしいことでは、「災害情報を知らせてほしい」が44.6%で最も多く、以下、「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」(35.6%)、「必要な治療や家を確保してほしい」(29.6%)、「避難時の声かけをしてほしい」(27.9%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「災害情報を知らせてほしい」が39.4%から44.6%と5.2ポイント増となっている。

最も重い障害別でみると、「聴覚障害」で「避難時の声かけをしてほしい」が42.1%と多くなっている。

		n	災害情報を知らせてほしい	避難所・避難場所までの避難を支援してほしい	必要な治療や家を確保してほしい	避難時の声かけをしてほしい	避難所・避難場所を教えてほしい	その他	特にない	無回答
全体		1670	44.9	35.7	29.9	27.8	14.0	3.1	9.8	9.9
最も重い障害別	視覚障害	106	43.4	43.4	16.0	36.8	17.9	4.7	12.3	10.4
	聴覚障害	114	47.4	29.8	15.8	42.1	16.7	6.1	11.4	7.0
	平衡機能障害	7	28.6	42.9	14.3	-	28.6	-	-	42.9
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	26	46.2	26.9	26.9	19.2	-	3.8	7.7	11.5
	肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	707	41.7	43.6	29.7	28.0	13.4	3.1	8.8	9.9
	肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	21	23.8	38.1	19.0	19.0	4.8	4.8	4.8	14.3
	内部障害	616	49.8	25.6	36.0	24.2	14.1	2.3	10.1	9.6
	その他	17	35.3	17.6	23.5	11.8	23.5	-	29.4	17.6

第2章 調査結果の詳細／身体障害者

障害の程度別でみると、“2級”では「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」(49.4%)、“6級”では「避難時の声かけをしてほしい」(37.9%)が、他の程度より多くなっている。

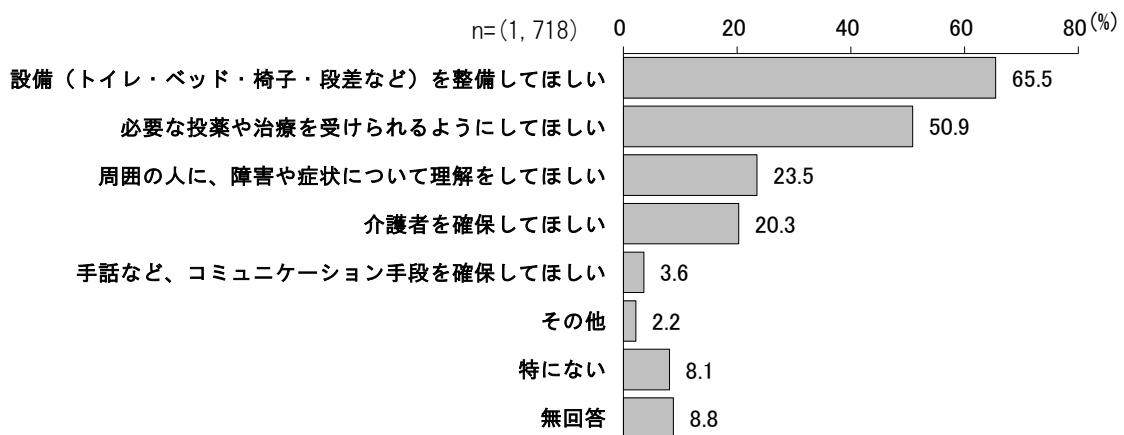
		n	災害情報を知らせてほしい	避難所・避難場所までの避難を支援してほしい	必要な治療や家を確保してほしい	避難時の声かけをしてほしい	避難所・避難場所を教えてください	その他	特になし	無回答
全体		1718	44.6	35.6	29.6	27.9	14.1	3.1	9.7	10.2
障害の程度別	1級	561	44.2	35.1	34.9	25.0	14.3	3.6	8.2	10.7
	2級	267	41.2	49.4	25.1	31.1	15.4	3.4	9.0	7.1
	3級	232	42.2	34.9	29.3	28.9	15.1	2.2	7.8	11.6
	4級	413	48.9	29.5	29.3	27.1	11.9	2.2	12.3	10.4
	5級	87	44.8	24.1	26.4	26.4	13.8	4.6	12.6	16.1
	6級	87	51.7	29.9	24.1	37.9	13.8	5.7	12.6	5.7

災害時に一人で避難ができるかどうか／近所の助けの有無別でみると、手助けの有無を問わず“避難できる”という層で「災害情報を知らせてほしい」が、“避難できない・わからない”という層では「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」が5割台で多くなっている。

		n	災害情報を知らせてほしい	避難所・避難場所までの避難を支援してほしい	必要な治療や家を確保してほしい	避難時の声かけをしてほしい	避難所・避難場所を教えてください	その他	特になし	無回答
全体		1718	44.6	35.6	29.6	27.9	14.1	3.1	9.7	10.2
一人避難可能／近所の助けの有無別	避難できる／手助けあり	267	54.7	16.5	25.8	30.3	16.9	1.1	18.0	4.5
	避難できる／手助けなし・わからない	408	56.6	15.4	35.3	24.5	16.7	2.9	15.0	3.7
	避難できない・わからない／手助けあり	206	44.7	52.4	35.4	36.4	10.2	1.0	5.8	4.9
	避難できない・わからない／手助けなし・わからない	697	40.7	54.2	30.3	30.4	14.5	5.2	5.0	6.2

(6) 避難所での生活で配慮してほしいこと

問34 あなたが、避難所での生活で配慮してほしいことは何ですか。(〇は3つまで)



避難所での生活で配慮してほしいことでは、「設備 (トイレ・ベッド・椅子・段差など) を整備してほしい」が65.5%で最も多く、以下、「必要な投薬や治療を受けられるようにしてほしい」(50.9%)、「周囲の人に、障害や症状について理解をしてほしい」(23.5%)、「介護者を確保してほしい」(20.3%)となっている。

(7) 災害時に困ると思われること、不安なこと

問35 その他災害時に困ると思われること、不安なことをお書きください。

災害時に困る具体的な内容は、次のような記入がみられた。

【移動】

- ・歩行困難なので、車椅子を介助してもらわないと避難できない。(女性・87歳・肢体)
- ・初めて行った場所では常に介護者がいないと身動き出来ない(女性・62歳・視覚)

【コミュニケーション】

- ・聴力が低い人はマイクや拡声機での情報を聞きとれない。貼り紙や回覧など目で見える情報保障を希望する。(男性・43歳・聴覚)
- ・口がほとんど話せないなので、意志が伝えられない。(女性・87歳・肢体)

【医療器具関連】

- ・透析をしなくてはいけないので、災害の時、病院へ行く手段とか、サポートしてくれるか不安である。(男性・62歳・内部)
- ・週3回の人工透析が出来なくなる事が最大の心配。(男性・79歳・内部)
- ・ストマ生活の為その生活に関する用品及用具等の手配について、又病院への連絡方法等です。(女性・82歳・内部)
- ・電気で酸素を造って呼吸しているので、災害時の停電が心配でなりません。(男性・80歳・内部)
- ・毎日薬を飲む必要があるため、手持ちの薬が無くならないようにする事を注意している。(男性・51歳・内部)
- ・半身マヒなど身体マヒがある人は起き上りが大変なので、ベットの確保がほしいです。(女性・53歳・肢体)

【その他設備関連】

- ・トイレに時間がかかるのでオストメイトトイレ専用場所がほしい。パウチ(袋)の確保等。(男性・76歳・内部)
- ・床に直接座ることができないし、しゃがむこともできないので、トイレなどが不安。(女性・60歳・肢体)

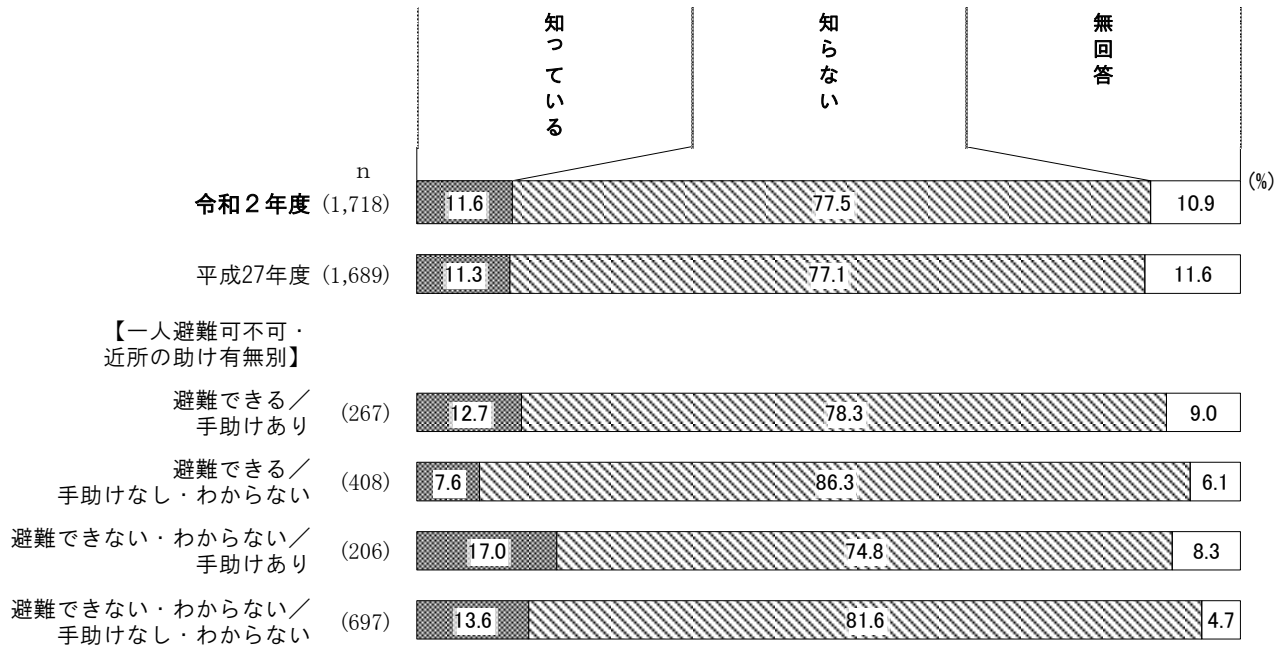
【その他】

- ・避難所等感染症が心配、多人数が心配。(男性・69歳・肢体)
- ・犬がいるので自宅にいます。(男性・75歳・内部)
- ・避難所である程度のプライバシーが守れる様に配慮がほしい。(女性・77歳・肢体)

(8) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度

問36 あなたは、市の「避難行動要支援者避難支援制度」を知っていますか。(○は1つ)

※「避難行動要支援者避難支援制度」とは、災害が発生した、または災害が発生するおそれのある時に避難行動要支援者（障害者、難病患者の一部の方が含まれます）を適切に支援するための制度です。



『避難行動要支援者避難支援制度』の認知度では、「知っている」が11.6%、「知らない」が77.5%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

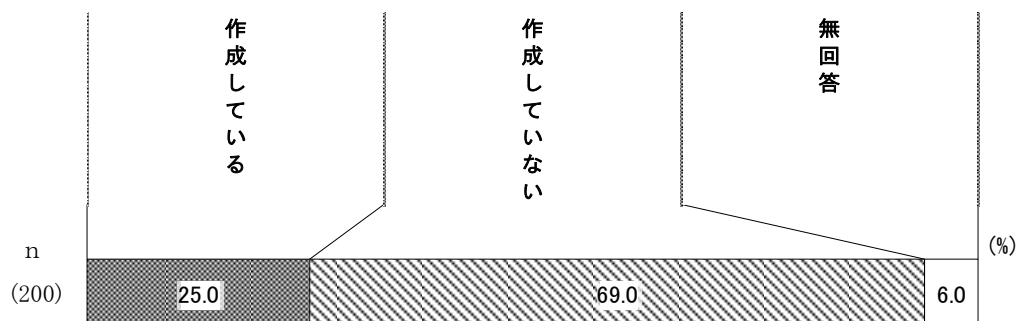
災害時に一人で避難ができるかどうか／近所の助けの有無別でみると、“避難できない・わからない／手助けなし・わからない”という層で「知らない」が8割以上となっている。



## (9) 個別支援計画作成の有無

問36で「1. 知っている」を選んだ人に伺います。

問36-1 個別支援計画作成していますか。(○は1つ)



個別支援計画作成の有無では、「作成している」が25.0%、「作成していない」が69.0%となっている。

## (10) 作成していない理由

問36-1で「2. 作成していない」を選んだ人に伺います。

問36-2 作成していない理由を具体的にお書きください。

個別支援計画作成していない理由は、具体的に次のような記入がみられた。

## 【必要ない、考えていない】

- ・現在では、普通で問題ないから (男性・78歳・肢体)
- ・今のところ必要がないから (男性・52歳・肢体)
- ・今のところ身体が動きますのでさほど重要性を感じない (女性・79歳・聴覚)

## 【知らなかった】

- ・よくわからない (男性・68歳・肢体)
- ・知らないから (女性・77歳・内部)

## 【作成方法が分からない】

- ・具体的な作成方法がわからない。(男性・71歳・内部)
- ・作成方法が不明サンプル等を市のHPで掲示してください。(男性・33歳・肢体)

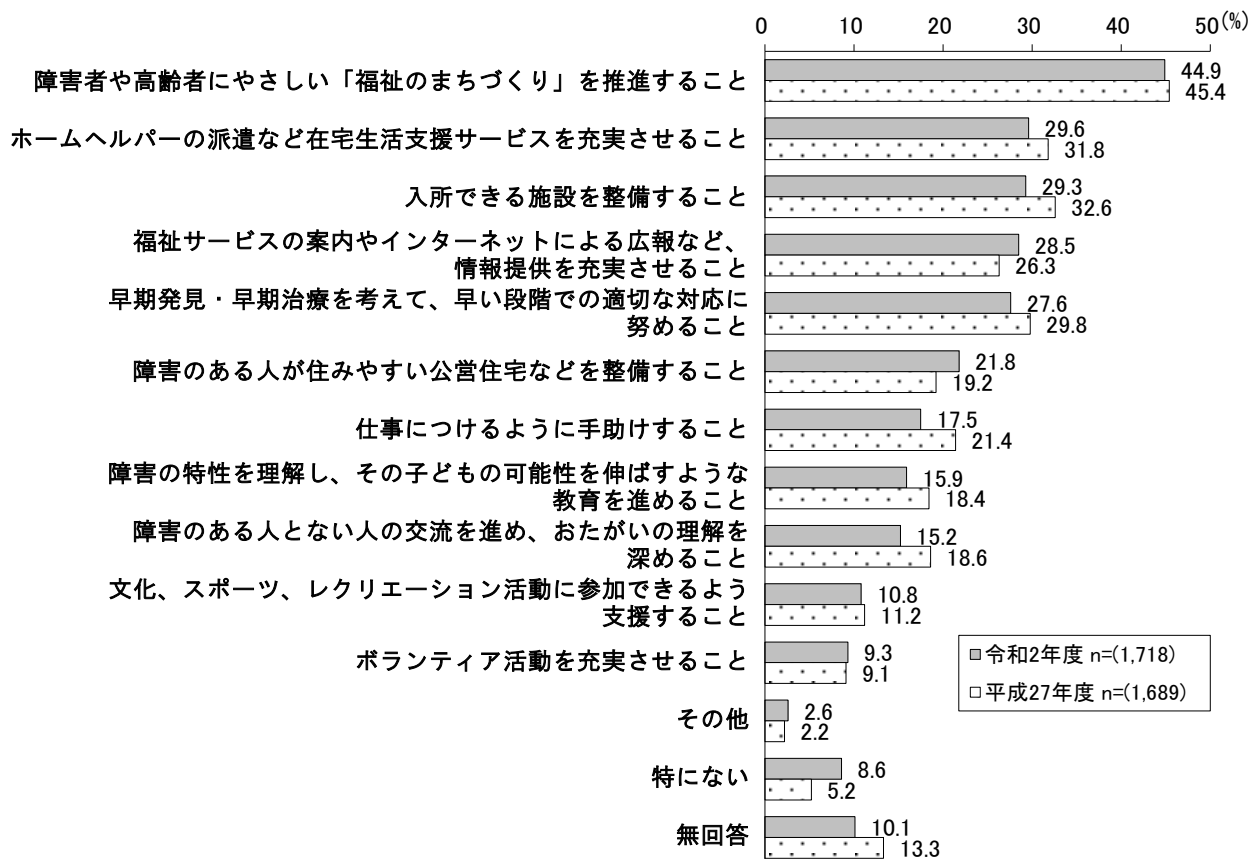
## 【その他】

- ・作成する時間が無かった。(男性・63歳・肢体)
- ・高齢となるので作成したいと思っている。(男性・80歳・肢体)

## 10. 福祉施策

### (1) 市への要望

問37 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)



市に要望することでは、「障害者や高齢者にやさしい『福祉のまちづくり』を推進すること」が44.9%で最も多く、以下、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実させること」(29.6%)、「入所できる施設を整備すること」(29.3%)、「福祉サービスの案内やインターネットによる広報など、情報提供を充実させること」(28.5%)、「早期発見・早期治療を考えて、早い段階での適切な対応に努めること」(27.6%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

## 1 1. 自由記述

最後になりますが、この調査を通じて、選択肢だけでは表現しきれなかったことや、四街道市の障害者施策に関するご意見やご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にお書きください。

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、延べ471件の意見をいただいた。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

## 【施設、設備、環境】

- ・介護施設に入所するのに、どこも一杯なので、もう少しスムーズな入所を要望します。(女性・70歳・肢体)
- ・胃ろうや吸引が障害となってディサービスやショートステイを利用できる施設が殆んどありません。安心して預ける事の出来る施設を早急に増やして下さる事を希望します。(男性・77歳・その他)
- ・外出先での車椅子・障害者専用の駐車場が少ないと思う。(男性・90・肢体)
- ・体を動かす場を設けたり、親が身体障害者でもいじめが起こらない社会にしてもらいたい。(女性・36歳・肢体)
- ・車椅子で外出する場合、歩道と車道の段差も多く、介助も大変です。(男性・73歳・肢体)
- ・難聴学級がありません。障害に合ったサポートをより細やかに対応して欲しいと思います。(男性・5歳・聴覚)

## 【情報】

- ・障害者に対する公報や関連などの資料や結果報告など重要な部分は送付して欲しい。(男性・69歳・内部)
- ・病院など人が集まり、目につきやすい所に案内パンフレットなどを置いてくれるとわかりやすいです。(女性・80歳・視覚)
- ・この5年間に行われた障害に関する新しい施策や充実させた内容を知らせて頂くとよかったですと思います。(男性・76歳・内部)
- ・どの位の費用でどのような内容の介護が受けられるのか知りたいと思います。(女性・91歳・肢体)

## 【手続き、対応】

- ・市役所を含む公的な場所（銀行、警察署、公民館などを含む）で筆談など聴覚障害者に対する対応が出来ていないのは非常に困ります。(女性・79歳・内部)
- ・市役所での各種手続きができる場所や時間帯を拡充して欲しい。(男性・63歳・内部)

【災害時の不安】

- ・災害避難で、自分が難聴であることのマークが欲しい。(女性・61歳・聴覚)
- ・災害時の避難については、地域ではほとんどあてにならないので全市的によく検討し細やかな対策をたて、安心の街にしてください。(女性・85歳・肢体)

【相談】

- ・障害者の困りごとは一人一人違うので、一人ずつ、どんなことに困っているのかを、まじめに聞いてほしい。(女性・56歳・肢体)
- ・ほぼ困った時に、こちらから出向くだけです。障害者の年に数回の訪問、聞きとりなどはできないものか。(男性・64歳・肢体)

【交流】

- ・インターネットを通じて同じ障害のある経験者から話を聞けるような場所があればいいと思います。(男性・49歳・内部)
- ・障害者、高齢者等、多世代の人達が交流出来る施設があると良いですね。(女性・77歳・内部)

【感謝】

- ・高齢化社会が進む中、福祉面での充実に向けた市職員の皆様の御苦勞に感謝です。(男性・77歳・内部)
- ・障害者手帳をいただき、今迄知らなかった市の障害者への援助を知りました。思ってもみなかった援助が色々あり本当に助かっています。感謝の日々です。(女性・68歳・内部)
- ・四街道市は、障害者福祉の先進都市と思っております。アンケート調査をしっかりと踏え施策を策定してほしい。がんばって下さい。(男性・83歳・内部)

【その他】

- ・障害手当など、金銭的な補助制度があれば良いと思います。(男性・60歳・肢体)
- ・補助のある福祉タクシーを要望します。(女性・85歳・肢体)
- ・高齢者、障害者であっても仕事、働く場があれば生きがいとなる気がします。(女性・69歳・肢体)

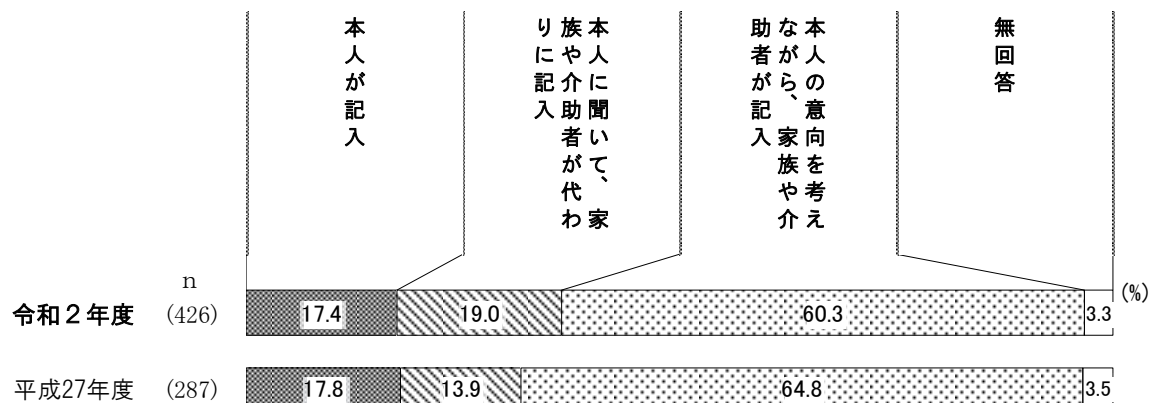
### 第3章 調査結果の詳細／知的障害者



## 1. 回答者属性

### (1) 調査票記入者

問40 この調査票はどなたが記入されましたか。(〇は1つ)



調査票記入者では、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が60.3%を占め、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が19.0%、「本人が記入」が17.4%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

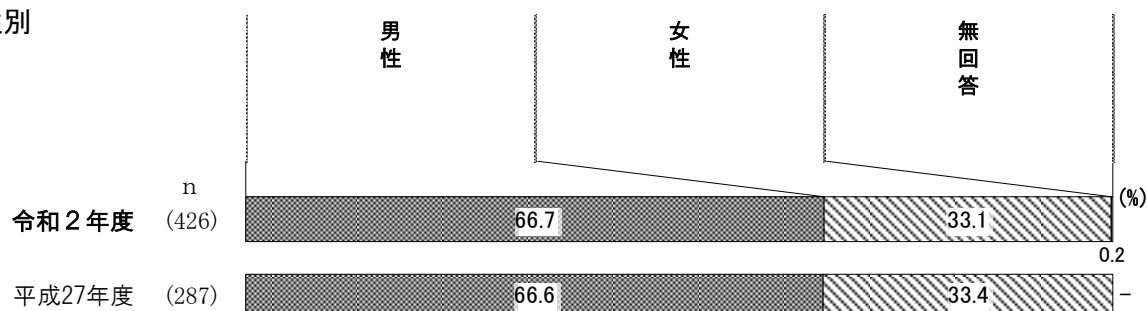
### (2) 性別と年齢

問1 あなたの性別と年齢を教えてください。

(1) あなたは男性ですか、女性ですか。(〇は1つ)

(2) あなたはおいくつですか。

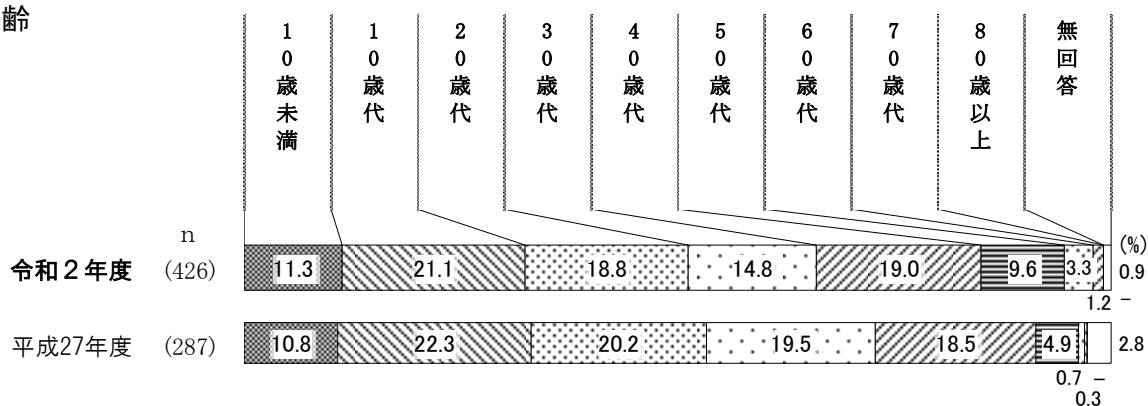
#### ①性別



性別では、「男性」が66.7%、「女性」が33.1%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

②年齢



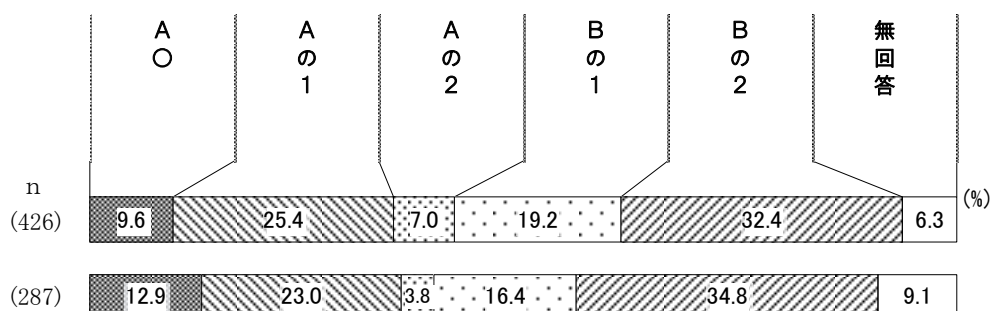
※平成27年度調査では「70歳代」まで。

年齢では、「10歳代」が21.1%で最も多く、以下、「40歳代」(19.0%)、「20歳代」(18.8%)、「30歳代」(14.8%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(3) 障害の程度

問2 「療育手帳」に書かれている障害の程度はどれですか。(○は1つ)



障害の程度では、「Bの2」が32.4%で最も多く、以下、「Aの1」(25.4%)、「Bの1」(19.2%)、「A○」(9.6%)となっている。

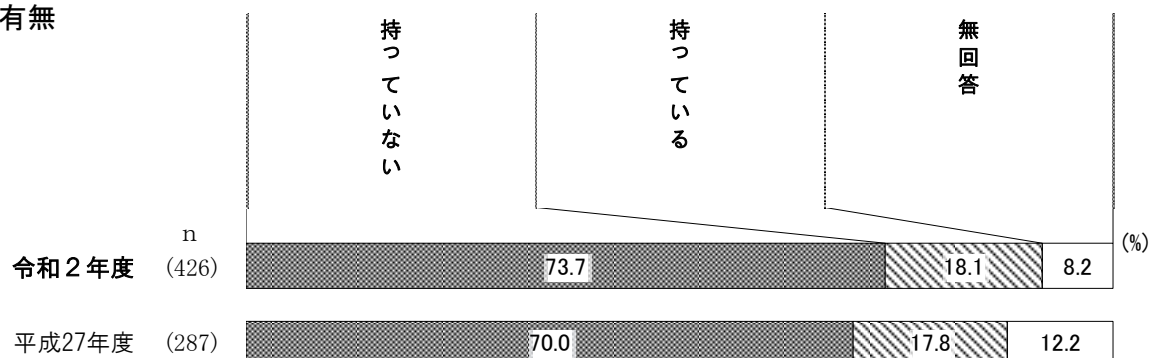
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。



(4) 身体障害者手帳の有無と等級

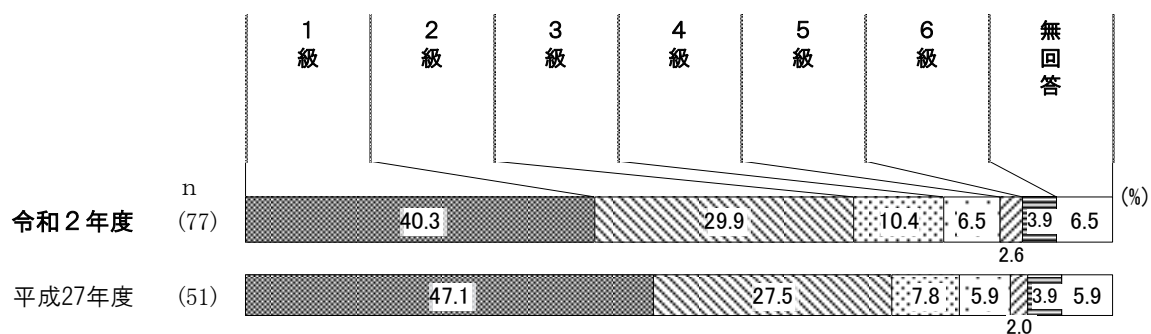
問3 あなたは身体障害者手帳を持っていますか。持っている場合には、手帳に書かれている等級にも○をつけてください。(○は1つ)

①手帳の有無



身体障害手帳の有無では、「持っていない」が73.7%、「持っている」が18.1%となっている。なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

②等級

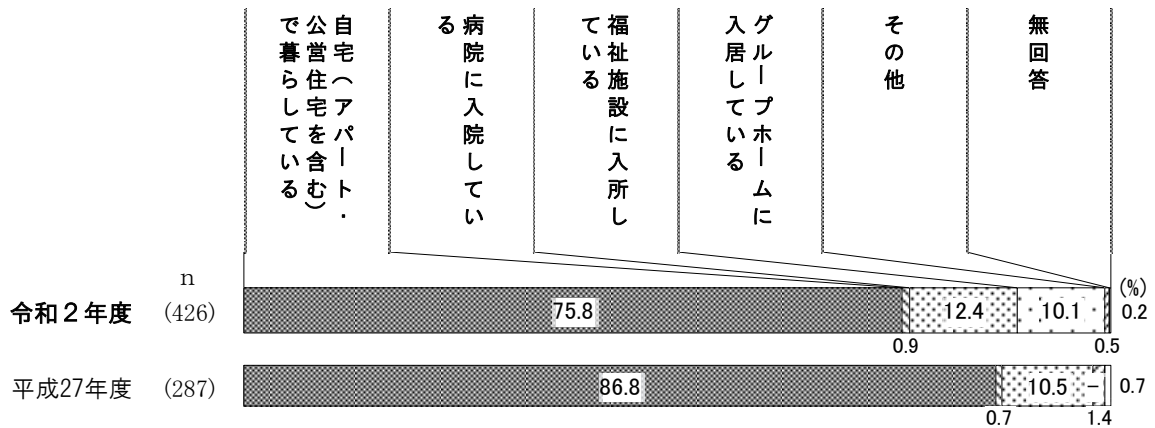


身体障害者手帳の等級では、「1級」が40.3%で最も多く、以下、「2級」(29.9%)、「3級」(10.4%)、「4級」(6.5%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「1級」で6.8ポイント減となっている。

(5) 生活場所

問4 あなたは現在、どこで暮らしていますか。(○は1つ)



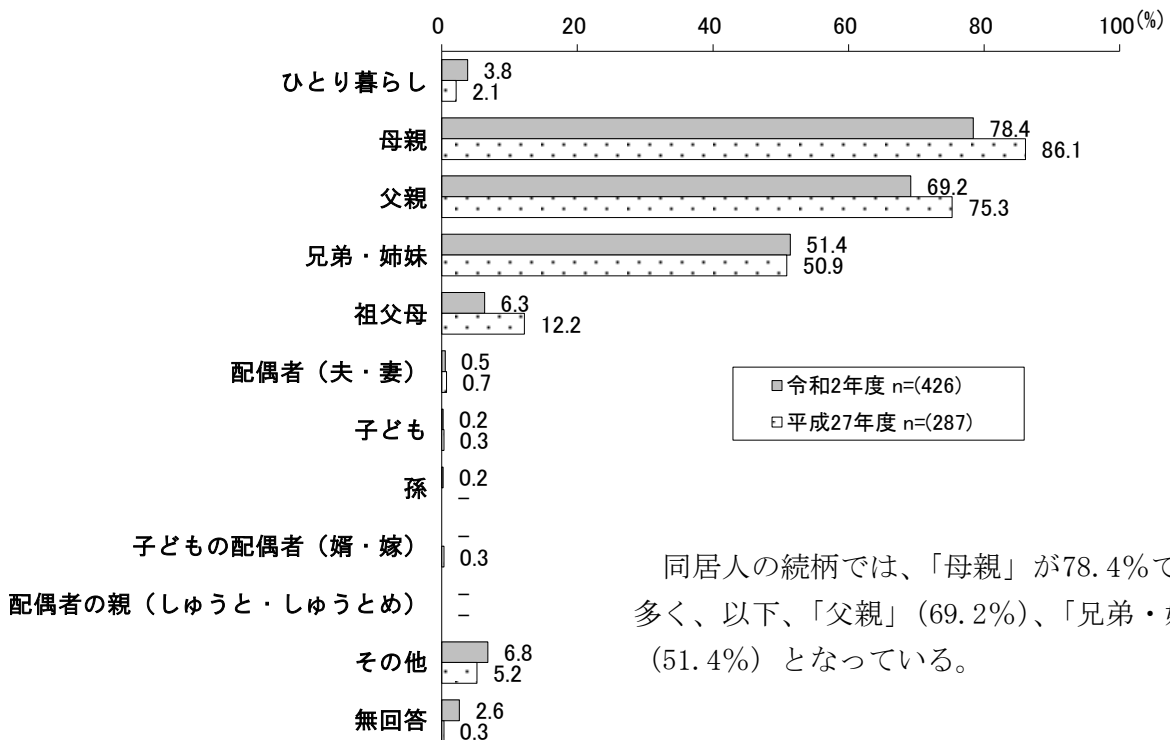
※選択肢「グループホームに入居している」は、平成27年度調査では設けていない。

生活場所では、「自宅（アパート・公営住宅を含む）で暮らしている」が75.8%を占め、「福祉施設」が12.4%、「グループホームに入居している」が10.1%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「自宅（アパート・公営住宅を含む）で暮らしている」で11.0ポイント減となっている。

(6) 同居人の続柄

問5 いっしょに暮らしている家族はどなたですか。あなたからみた関係であてはまる人すべてに○をつけてください。施設・病院に入っている人は、退所・退院したときのことを考えて教えてください。(○はいくつでも)



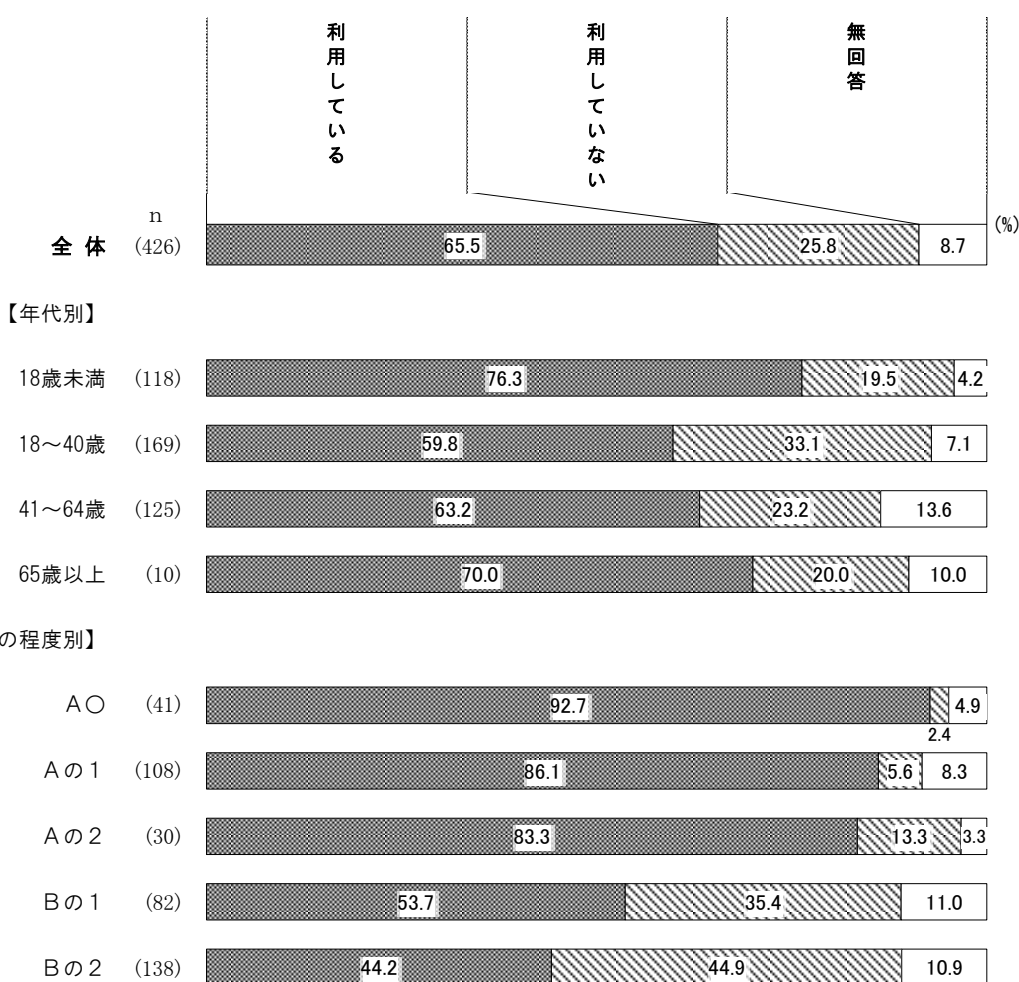
同居人の続柄では、「母親」が78.4%で最も多く、以下、「父親」(69.2%)、「兄弟・姉妹」(51.4%)となっている。

年代別でみると、“18歳未満”で「母親」「父親」「兄弟・姉妹」が多くなっている。

		n	ひとり暮らし	母親	父親	兄弟・姉妹	祖父母	配偶者(夫・妻)	子ども	孫	子どもの配偶者(婿・嫁)	配偶者の親(しゅうと・しゅうとめ)	その他	無回答
全体		426	3.8	78.4	69.2	51.4	6.3	0.5	0.2	0.2	-	-	6.8	2.6
年代別	18歳未満	118	-	96.6	92.4	78.8	9.3	-	-	-	-	-	2.5	-
	18～40歳	169	1.2	81.1	74.6	50.9	9.5	0.6	-	-	-	-	5.9	2.4
	41～64歳	125	8.8	63.2	44.8	27.2	-	0.8	0.8	0.8	-	-	11.2	4.0
	65歳以上	10	30.0	10.0	10.0	30.0	-	-	-	-	-	-	20.0	10.0

(7) 障害福祉サービスの利用状況

問6 あなたは障害者総合支援法による障害福祉サービスを利用していますか。(○は1つ)



障害福祉サービスの利用状況では、「利用している」が65.5%、「利用していない」が25.8%となっている。

年代別でみると、“18歳未満”では「利用している」が76.3%と多くなっている。

障害の程度別でみると、等級が上がるにつれ「利用している」が多くなり、「A○」では92.7%を占めている。

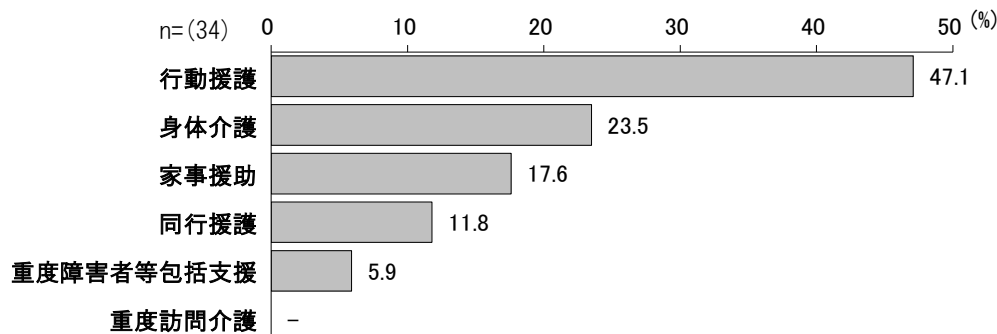
(8) 利用しているサービス

問6で「1. 利用している」を選んだ人にうかがいます。

問6-1 利用しているサービスに○をつけてください。(○はいくつでも)

※問6-1は、無回答を除いて集計している

①訪問系サービス

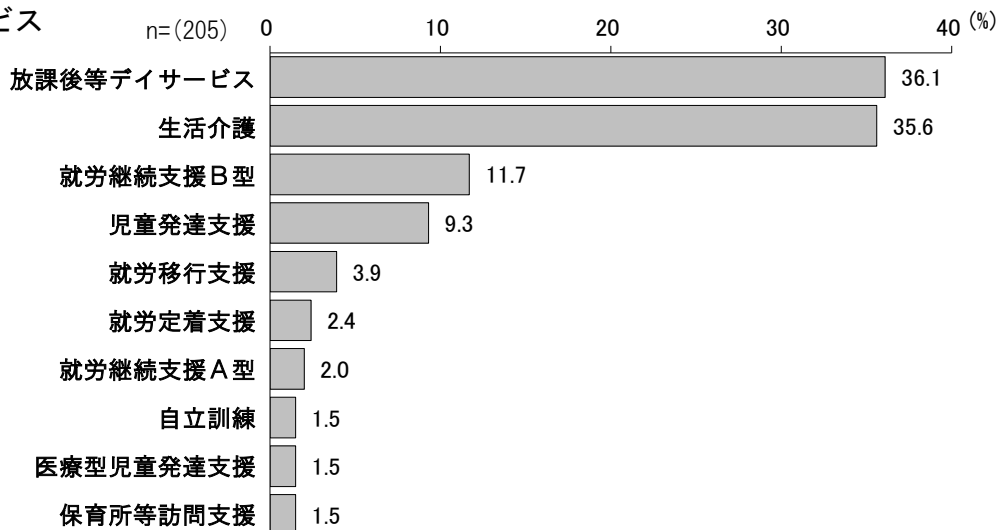


訪問系サービスでは、「行動援護」が47.1%となっている。

年代別でみると、各回答者数が少なくなるので、参考までとしておく。

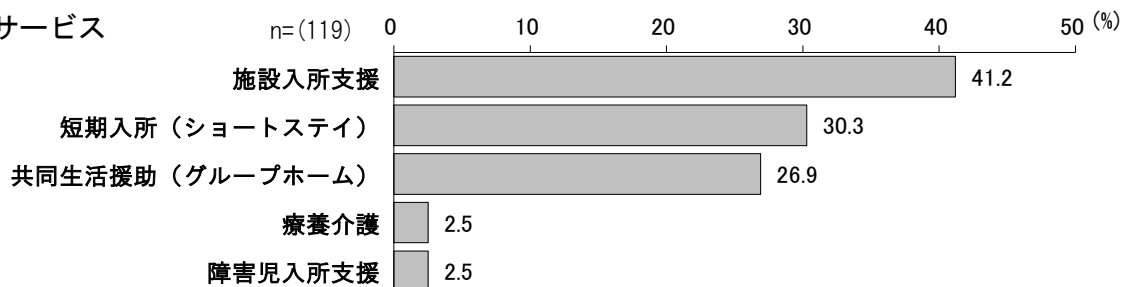
		n	行動援護	身体介護	家事援助	同行援護	重度障害者等包括支援	重度訪問介護
全体		34	47.1	23.5	17.6	11.8	5.9	-
年代別	18歳未満	6	66.7	16.7	-	16.7	0.0	-
	18～40歳	19	52.6	21.1	21.1	5.3	5.3	-
	41～64歳	8	25.0	25.0	25.0	12.5	12.5	-
	65歳以上	1	-	100.0	-	100.0	-	-

②日中活動系サービス



日中活動系サービスでは、「放課後等デイサービス」が36.1%、「生活介護」が35.6%となっている。

③居住系サービス

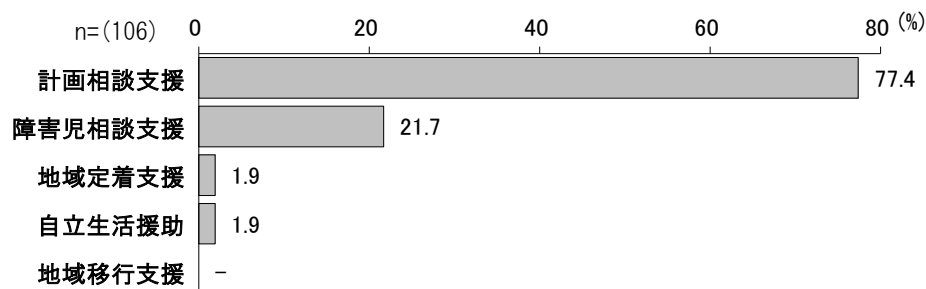


居住系サービスでは、「施設入所支援」が41.2%で最も多く、「短期入所 (ショートステイ)」が30.3%、「共同生活援助 (グループホーム)」が26.9%となっている。

年代別でみると、“41～64歳”で「施設入所支援」が52.5%と多く、“18～40歳”では「短期入所 (ショートステイ)」が46.7%と多くなっている。

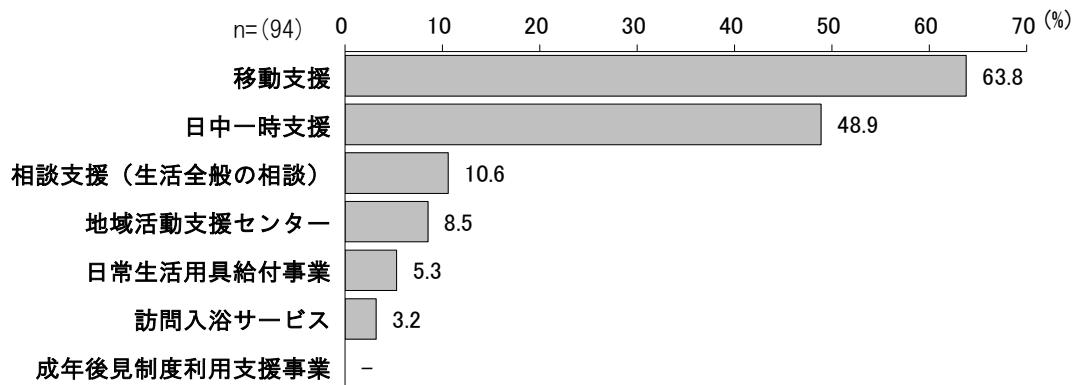
		n	施設入所支援	短期入所 (ショートステイ)	共同生活援助 (グループホーム)	療養介護	障害児入所支援
全体		119	41.2	30.3	26.9	2.5	2.5
年代別	18歳未満	6	-	66.7	-	-	33.3
	18～40歳	45	28.9	46.7	26.7	-	-
	41～64歳	61	52.5	16.4	29.5	4.9	1.6
	65歳以上	6	50.0	16.7	33.3	-	-

③相談支援



相談支援では、「計画相談支援」が77.4%を占め、「障害児相談支援」も21.7%となっている。

④地域生活支援事業



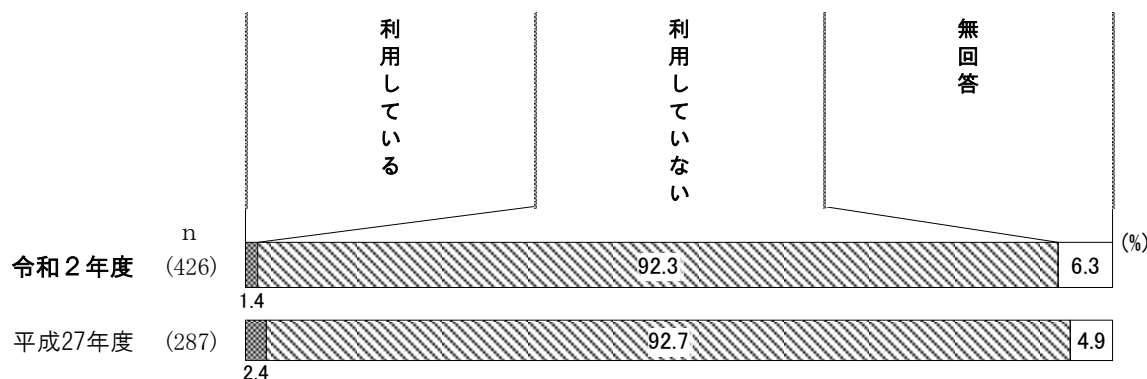
地域生活支援事業では、「移動支援」が63.8%を占め、「日中一時支援」も48.9%となっている。

年代別でみると、「18～40歳」で「日中一時支援」が58.9%と多くなっている。

		n	移動支援	日中一時支援	相談支援(生活全般の相談)	地域活動支援センター	日常生活用具給付事業	訪問入浴サービス	成年後見制度利用支援事業
全体		94	63.8	48.9	10.6	8.5	5.3	3.2	-
年代別	18歳未満	10	70.0	30.0	20.0	-	20.0	10.0	-
	18～40歳	56	66.1	58.9	10.7	5.4	3.6	3.6	-
	41～64歳	26	57.7	34.6	7.7	19.2	3.8	-	-
	65歳以上	1	100.0	-	-	-	-	-	-

(9) その他の介護保険サービスの利用状況

問6-2 (障害福祉サービスの他に) 介護保険によるサービスを利用していますか。  
(○は1つ)



その他の介護保険サービスの利用状況では、「利用している」が1.4%、「利用していない」は92.3%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(10) 該当する要介護度

問6-2で「1. 利用している」を選んだ人にうかがいます。

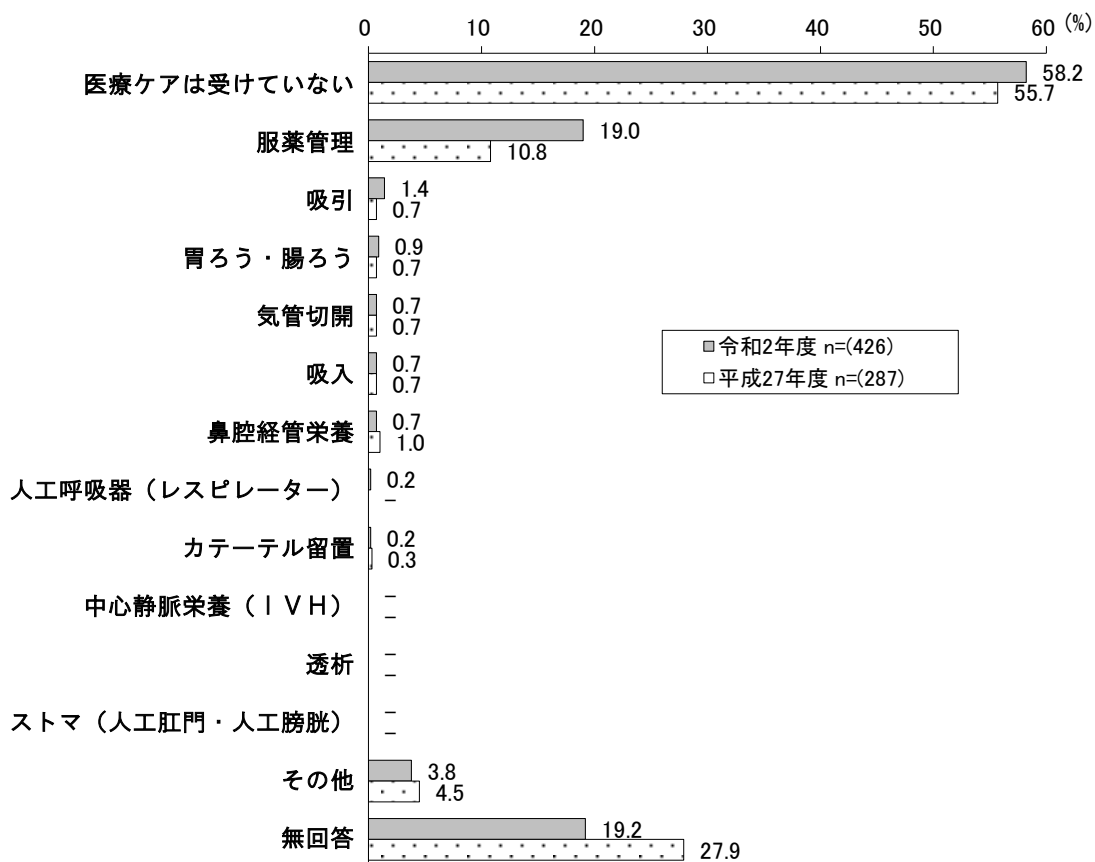
問6-3 該当する要介護度はどれですか。(○は1つ)

該当する要介護度では、「要介護5」が6人中2人、「要介護3」が1人、「無回答」が3人となっている。

また、平成27年度は、「要介護5」が7人中3人、「要支援2」「要介護1」「要介護2」「無回答」が各1人だった。

(11) 現在受けている医療ケア

問7 あなたは、現在、どのような医療ケアを受けていますか。(〇はいくつでも)



現在受けている医療ケアでは、「医療ケアは受けていない」が58.2%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「服薬管理」(19.0%)が最も多くなっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「服薬管理」で8.2ポイント増となっている。

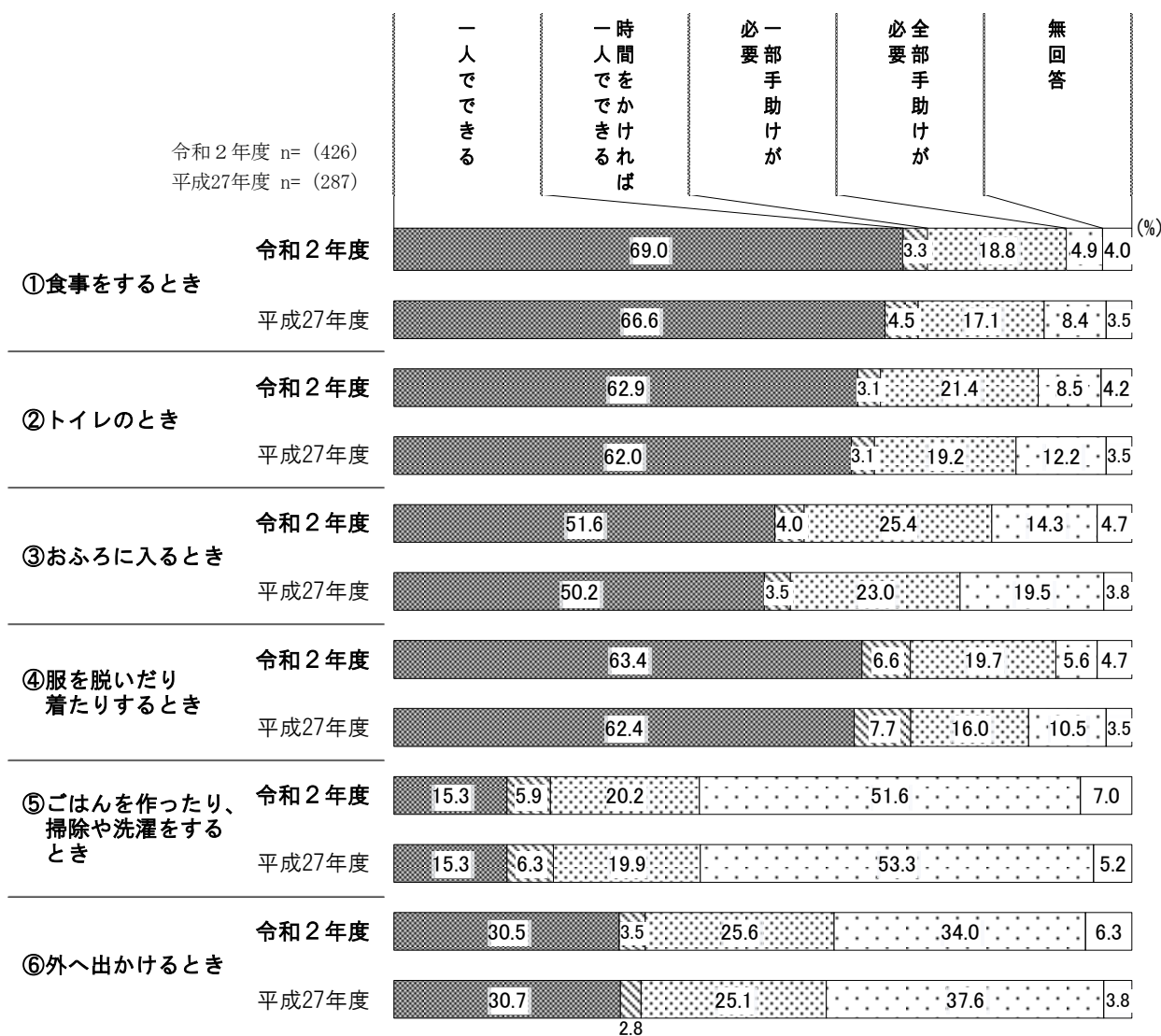


## 2. 介助

### (1) 各種生活状況

問8 ふだんの生活のことについてうかがいます。次の(1)～(7)のそれぞれについて、1～4のどれか1つに○をつけてください。(障害を補うための装具や機器を使っている人は、それらを使っているときのことを考えて教えてください)。

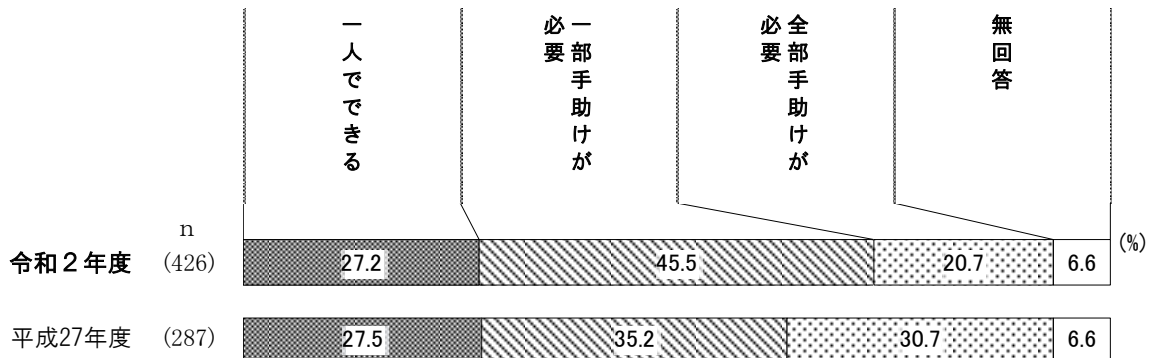
(○は(1)～(7)にそれぞれ1つずつ)



各種の生活状況をみると、「一人でできる」が最も多いのは〈食事をするとき〉で69.0%となっている。また、少ないのは〈外へ出かけるとき〉で30.5%、〈ごはんを作ったり、掃除や洗濯をするとき〉で15.3%となっており、「全部手助けが必要」が、それぞれ34.0%、51.6%と多くなっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、〈お風呂に入るとき〉で「全部手助けが必要」が19.5%から14.3%と5.2ポイント減となっている。

⑦自分の考えを伝えるとき



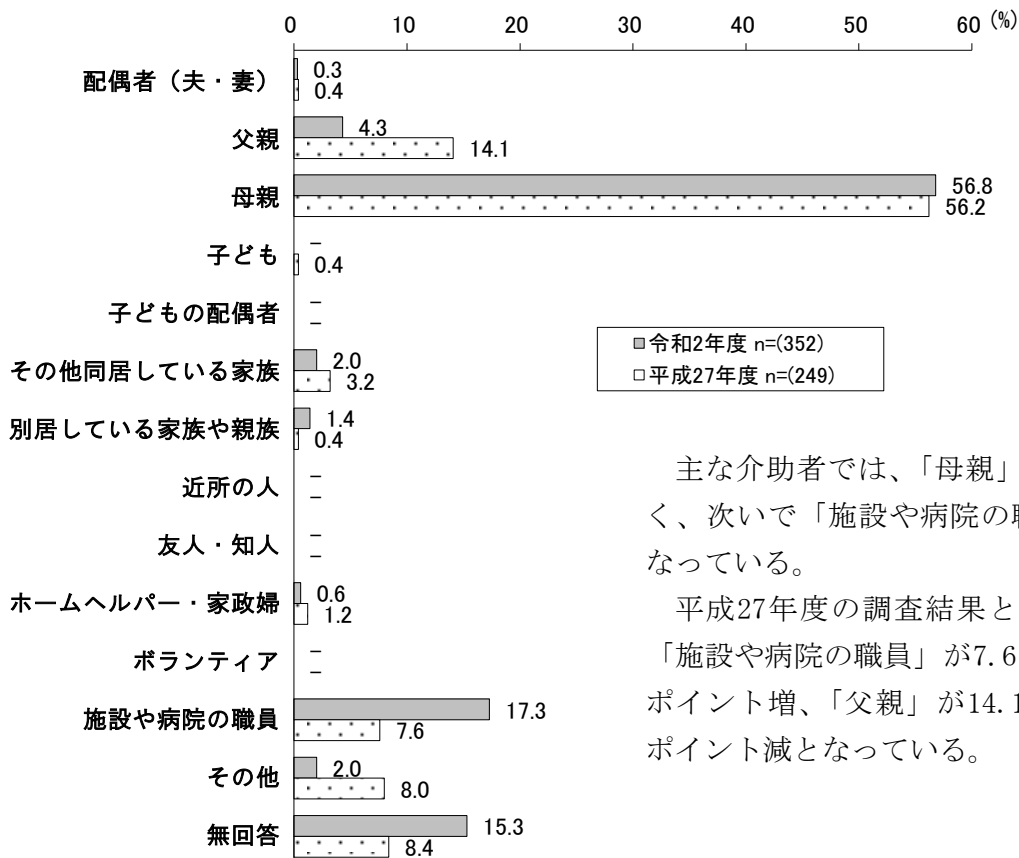
〈自分の考えを伝えるとき〉では、「一人でできる」が27.2%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、その「一部手助けが必要」が35.2%から45.5%の10.3ポイント増、「全部手助けが必要」が30.7%から20.7%と10.0ポイント減となっている。

(2) 主な介助者

問8の(1)～(7)の中で、1つでも2、3、4に○をつけた人に伺います。

問8-1 主にあなたを手助けしている人はどなたですか。(○は1つ)



主な介助者では、「母親」が56.8%で最も多く、次いで「施設や病院の職員」(17.3%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、その「施設や病院の職員」が7.6%から17.3%の9.7ポイント増、「父親」が14.1%から4.3%と9.8ポイント減となっている。

年代別でみると、“18歳未満”で「母親」が74.8%を占めている。“41～64歳”では「施設や病院の職員」が38.1%と多くなっている。

(%)

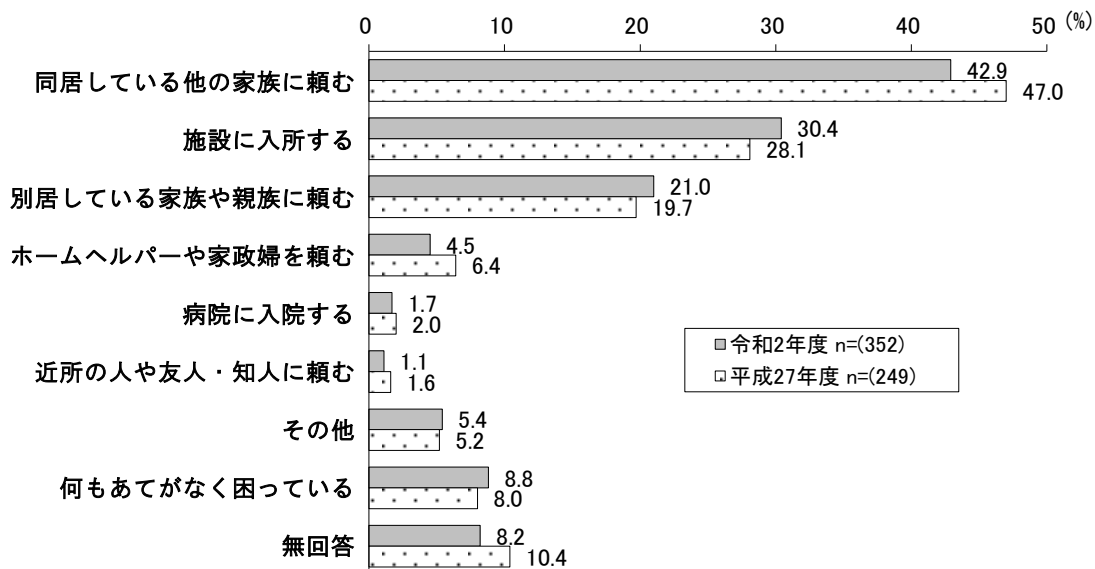
		n	母親	施設や病院の職員	父親	その他同居している家族	別居している家族や親族	ホームヘルパー・家政婦	配偶者(夫・妻)
全体		352	56.8	17.3	4.3	2.0	1.4	0.6	0.3
年代別	18歳未満	107	74.8	-	3.7	1.9	0.9	-	-
	18～40歳	134	63.4	12.7	5.2	0.7	0.7	-	0.7
	41～64歳	97	33.0	38.1	4.1	3.1	3.1	1.0	-
	65歳以上	10	-	60.0	-	10.0	-	10.0	-
		n	子ども	子どもの配偶者	近所の人	友人・知人	ボランティア	その他	無回答
全体		352	-	-	-	-	-	2.0	15.3
年代別	18歳未満	107	-	-	-	-	-	0.9	17.8
	18～40歳	134	-	-	-	-	-	2.2	14.2
	41～64歳	97	-	-	-	-	-	3.1	14.4
	65歳以上	10	-	-	-	-	-	-	20.0

(3) 主な介助者がいない場合の対処法

問8の(1)～(7)の中で、1つでも2、3、4に○をつけた人に伺います。

問8-2 いつもあなたを手助けしている人が手助けできなくなったとき、どうしますか。

(○は主なもの2つ以内)



主な介助者がいない場合の対処法では、「同居している他の家族に頼む」が42.9%で最も多く、以下、「施設に入所する」(30.4%)、「別居している家族や親族に頼む」(21.0%)となっている。一方、「何もあてがなく困っている」は8.8%だった。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

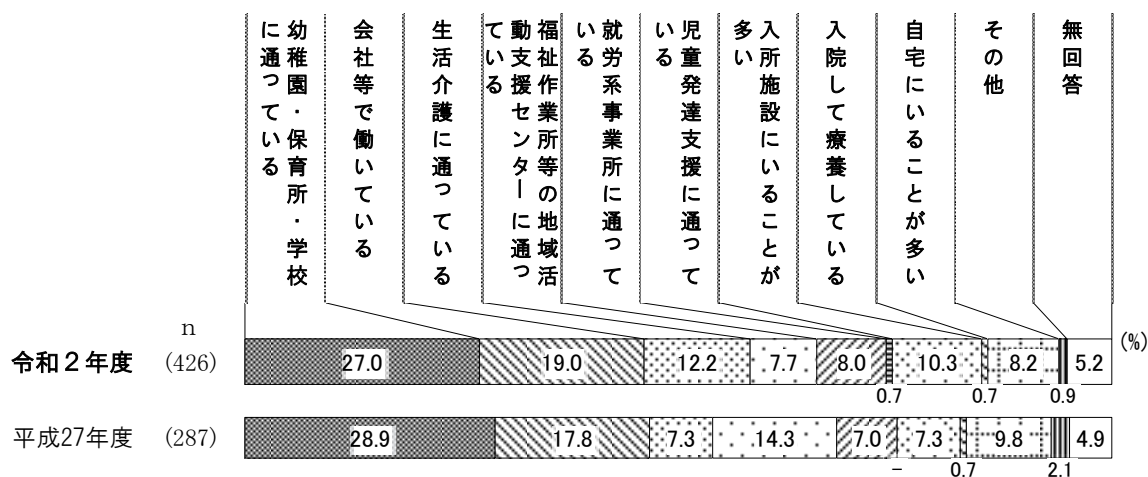
年代別でみると、“18歳未満”では「同居している他の家族に頼む」が70.1%を占め、「別居している家族や親族に頼む」も37.4%となっている。41～64歳”では「施設に入所する」が44.3%と多くなっている。

		n	同居している他の家族に頼む	施設に入所する	別居している家族や親族に頼む	ホームヘルパーや家政婦を頼む	病院に入院する	近所の人や友人・知人に頼む	その他	何もあてがなく困っている	無回答
全体		352	42.9	30.4	21.0	4.5	1.7	1.1	5.4	8.8	8.2
年代別	18歳未満	107	70.1	11.2	37.4	2.8	0.9	0.9	2.8	2.8	2.8
	18～40歳	134	44.0	33.6	16.4	4.5	0.7	1.5	6.0	13.4	7.5
	41～64歳	97	14.4	44.3	12.4	4.1	4.1	1.0	7.2	9.3	14.4
	65歳以上	10	-	60.0	-	20.0	-	-	-	-	20.0

### 3. 日中の過ごし方

#### (1) 平日日中の過ごし方

問9 あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(〇は1つ)



※選択肢「児童発達支援に通っている」は、平成27年度調査では設けていない。

平日日中の過ごし方では、「幼稚園・保育所・学校に通っている」が27.0%と多く、「会社等で働いている」は19.0%、「生活介護に通っている」が12.2%、「入所施設に多い」が10.3%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「福祉作業所等の地域活動支援センターに通っている」が14.3%から7.7%の6.6ポイント減となっている。

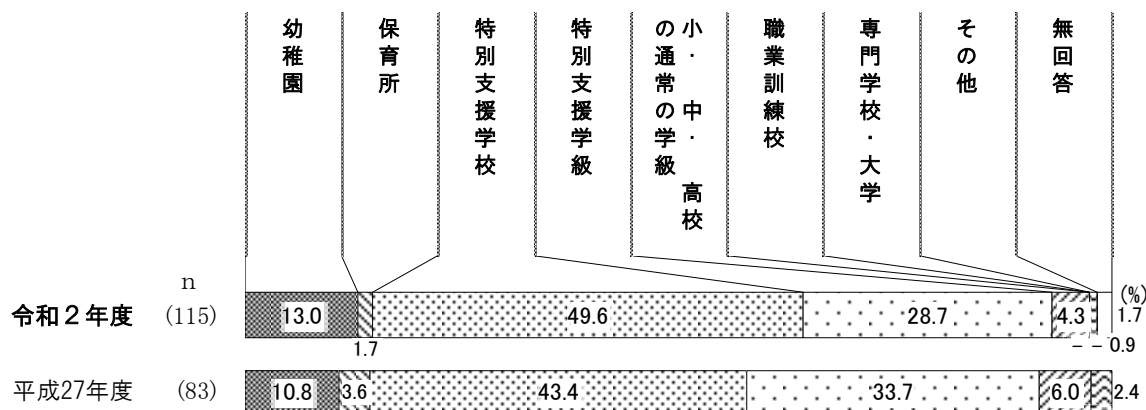
年代別にみると、“18歳未満”の92.4%が「幼稚園・保育所・学校に通っている」としている。また、“18～40歳”では「会社で働いている」が33.1%と多くなっている。

		n	幼稚園・保育所・学校に通っている	会社等で働いている	生活介護に通っている	福祉作業所等の地域活動支援センターに通っている	就労系事業所に通っている	児童発達支援に通っている	入所施設に多い	入院して療養している	自宅に多い	その他	無回答
全体		426	27.0	19.0	12.2	7.7	8.0	0.7	10.3	0.7	8.2	0.9	5.2
年代別	18歳未満	118	92.4	-	-	0.8	-	1.7	-	-	2.5	0.8	1.7
	18～40歳	169	1.8	33.1	17.8	8.3	14.2	0.6	8.9	-	9.5	0.6	5.3
	41～64歳	125	-	20.0	15.2	13.6	7.2	-	20.0	2.4	11.2	1.6	8.8
	65歳以上	10	-	-	30.0	10.0	10.0	-	30.0	-	20.0	-	-

(2) 通園・通学先

問9で「1. 幼稚園・保育所・学校に通っている」を選んだ人にうかがいます。

問9-1 どこに通園・通学していますか。(○は1つ)



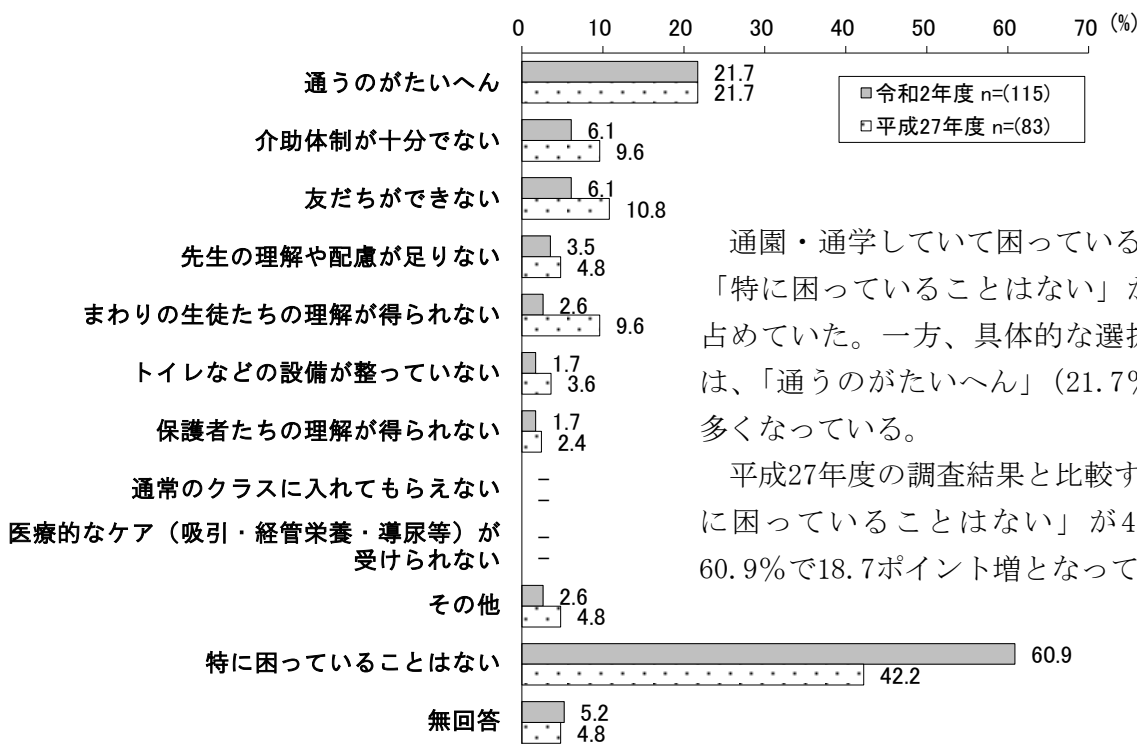
通園・通学先では、「特別支援学校」が49.6%と多く、「特別支援学級」が28.7%、「幼稚園」が13.0%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「特別支援学校」が43.4%から49.6%で6.2ポイント増、「特別支援学級」が33.7%から28.7%で5.0ポイント減となっている。

(3) 通園・通学して困っていること

問9で「1. 幼稚園・保育所・学校に通っている」を選んだ人にうかがいます。

問9-2 通園・通学して困っていることはありますか。(○はいくつでも)



通園・通学して困っていることでは、「特に困っていることはない」が60.9%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「通うのがたいへん」(21.7%)が最も多くなっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「特に困っていることはない」が42.2%から60.9%で18.7ポイント増となっている。

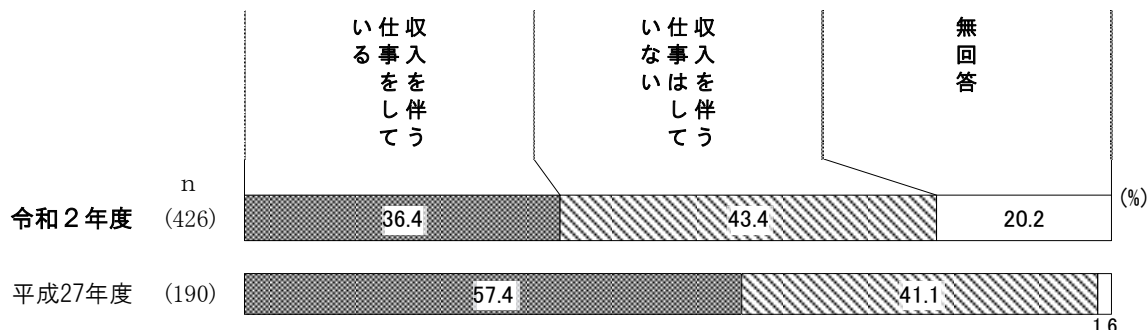
通園・通学先別にみると、“特別支援学校”では「通うのがたいへん」が、“特別支援学級”では「介助体制が十分でない」が、それぞれやや多くなっている。

		n						(%)	
			通うのがたいへん	介助体制が十分でない	友だちができない	先生の理解や配慮が足りない	まわりの生徒たちの理解が得られない	トイレなどの設備が整っていない	
全体		115	21.7	6.1	6.1	3.5	2.6	1.7	
通園・通学先別	幼稚園	15	26.7	-	-	-	-	6.7	
	保育所	2	-	50.0	-	-	-	-	
	特別支援学校	57	28.1	1.8	3.5	1.8	-	-	
	特別支援学級	33	15.2	15.2	12.1	6.1	9.1	-	
	小・中・高校の通常の学級	5	-	-	20.0	20.0	-	20.0	
	職業訓練校	-	-	-	-	-	-	-	
	専門学校・大学	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	1	-	-	-	-	-	-	
		n	保護者たちの理解が得られない	通常のクラスに入ってもらえない	医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿等）が受けられない	その他	特に困っていることはない	無回答	
全体									115
通園・通学先別	幼稚園	15	-	-	-	-	73.3	-	
	保育所	2	-	-	-	-	50.0	-	
	特別支援学校	57	1.8	-	-	3.5	66.7	1.8	
	特別支援学級	33	3.0	-	-	-	48.5	9.1	
	小・中・高校の通常の学級	5	-	-	-	20.0	40.0	20.0	
	職業訓練校	-	-	-	-	-	-	-	
	専門学校・大学	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	1	-	-	-	-	100.0	-	

## 4. 就労状況

### (1) 就業状況

問10 現在、あなたはお金をもらう仕事をしていきますか。(○は1つ)



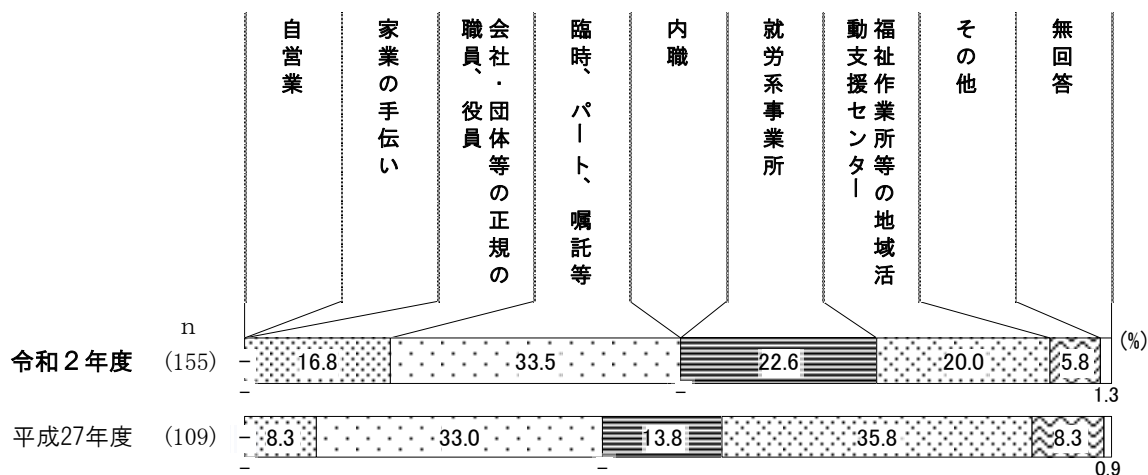
就業状況では、「収入を伴う仕事をしている」が36.4%、「収入を伴う仕事はしていない」が43.4%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「収入を伴う仕事をしている」が57.4%から36.4%で21.0ポイント減となっている。

### (2) 仕事の形態

問10で「1. お金をもらう仕事をしている」を選んだ人にうかがいます。

問10-1 あなたの仕事は次のうちどれですか。(○は1つ)



※選択肢「福祉作業所等の地域活動支援センター」は、平成27年度調査では「福祉作業所」となっている。

仕事の形態では、「臨時、パート、嘱託等」が33.5%と多く、「就労系事業所」が22.6%、「福祉作業所等の地域活動支援センター」が20.0%、「会社・団体等の正規の職員、役員」が16.8%となっている。

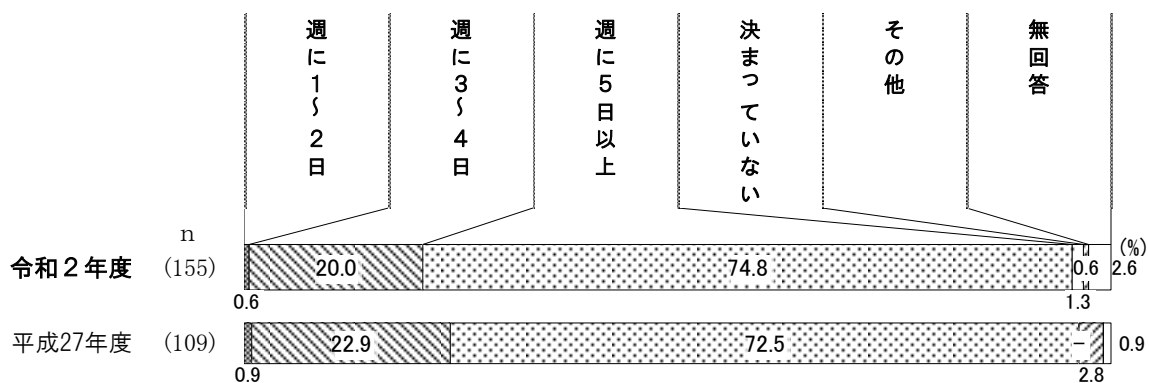
平成27年度の調査結果と比較すると、「福祉作業所等の地域活動支援センター」が35.8%から20.0%と15.8ポイント減となり、代わって「家業の手伝い」「就労系事業所」が多くなっている。



(3) 1週間の勤務日数

問10で「1. お金をもらう仕事をしている」を選んだ人にかかっています。

問10-2 週に何日くらい働いていますか。(○は1つ)



1週間の勤務日数では、「週に5日以上」が74.8%で最も多く、次いで「週に3〜4日」(20.0%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

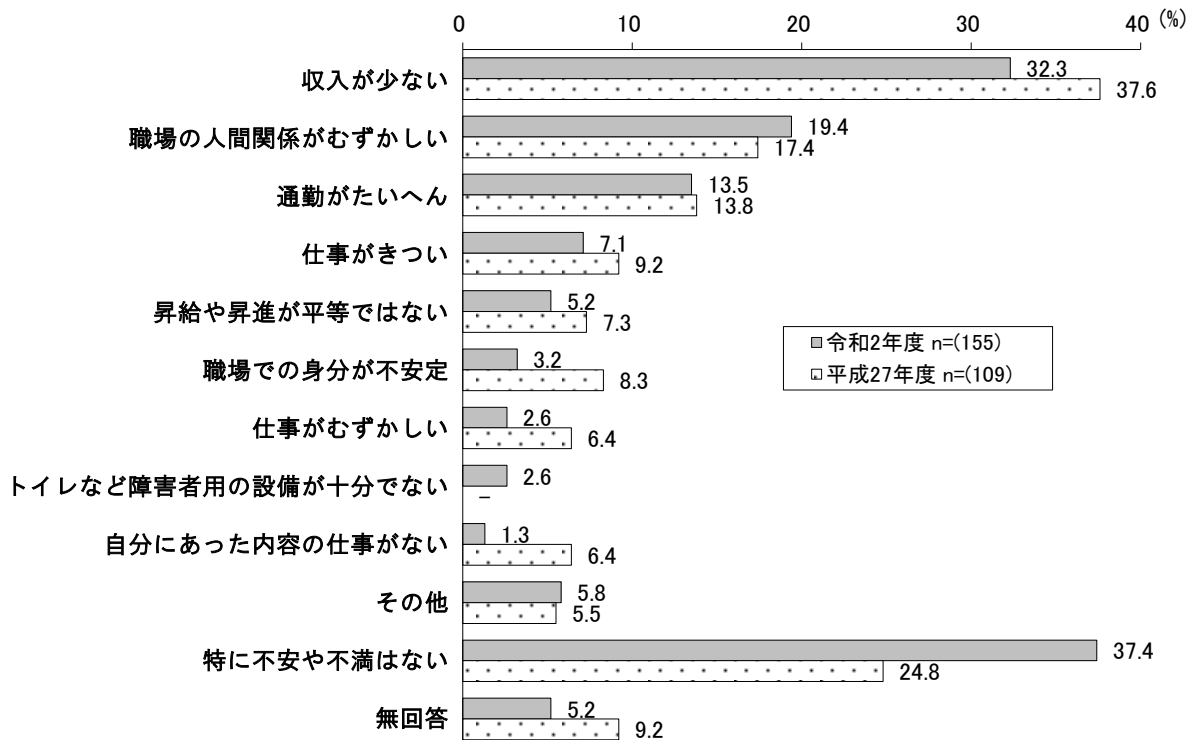
仕事の形態別でみると、“就労系事業所”で「週に5日以上」が85.7%と多くなっている。

		n	週に1〜2日 (%)	週に3〜4日 (%)	週に5日以上 (%)	決まっていない (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体		155	0.6	20.0	74.8	1.3	0.6	2.6
仕事の形態別	自営業	-	-	-	-	-	-	-
	家業の手伝い	-	-	-	-	-	-	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	26	-	7.7	92.3	-	-	-
	臨時、パート、嘱託等	52	1.9	23.1	73.1	-	-	1.9
	内職	-	-	-	-	-	-	-
	就労系事業所	35	-	11.4	85.7	-	-	2.9
	福祉作業所等の地域活動支援センター	31	-	25.8	67.7	6.5	-	-
	その他	9	-	44.4	22.2	-	11.1	22.2

(4) 仕事への不安や不満

問10で「1. お金をもらう仕事をしている」を選んだ人にかかっています。

問10-3 仕事について不安や不満がありますか。(〇はいくつでも)



仕事をする上で不安や不満では、「特に不安や不満はない」が37.4%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「収入が少ない」(32.3%)が最も多く、以下、「職場の人間関係がむずかしい」(19.4%)、「通勤がたいへん」(13.5%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「特に不安や不満はない」が24.8%から37.4%で12.6ポイント増、「収入が少ない」が37.6%から32.3%で5.3ポイント減となっている。

仕事の形態別でみると、“就労系事業所”で「特に不安や不満はない」が48.6%と多くなっている。

障害の程度別でみると、“Bの2”で「職場の人間関係がむずかしい」が27.7%と比較的多くなっている。

		n	収入が 少ない	職場の 人間関 係がむ ずかしい	通勤がた いへん	仕事がき つい	昇給や 昇進が 平等で はない	職場での 身分が 不安定
全体		155	32.3	19.4	13.5	7.1	5.2	3.2
仕事の 形態別	自営業	-	-	-	-	-	-	-
	家業の手伝い	-	-	-	-	-	-	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	26	30.8	23.1	19.2	11.5	15.4	7.7
	臨時、パート、嘱託等	52	36.5	28.8	15.4	13.5	7.7	5.8
	内職	-	-	-	-	-	-	-
	就労系事業所	35	25.7	8.6	8.6	2.9	-	-
	福祉作業所等の地域活動支援センター	31	38.7	9.7	9.7	-	-	-
	その他	9	22.2	22.2	22.2	-	-	-
障害の 程度別	A〇	8	12.5	-	25.0	-	-	-
	Aの1	32	37.5	12.5	12.5	3.1	-	-
	Aの2	6	16.7	33.3	16.7	-	-	-
	Bの1	39	35.9	15.4	10.3	12.8	5.1	5.1
	Bの2	65	33.8	27.7	13.8	7.7	9.2	4.6

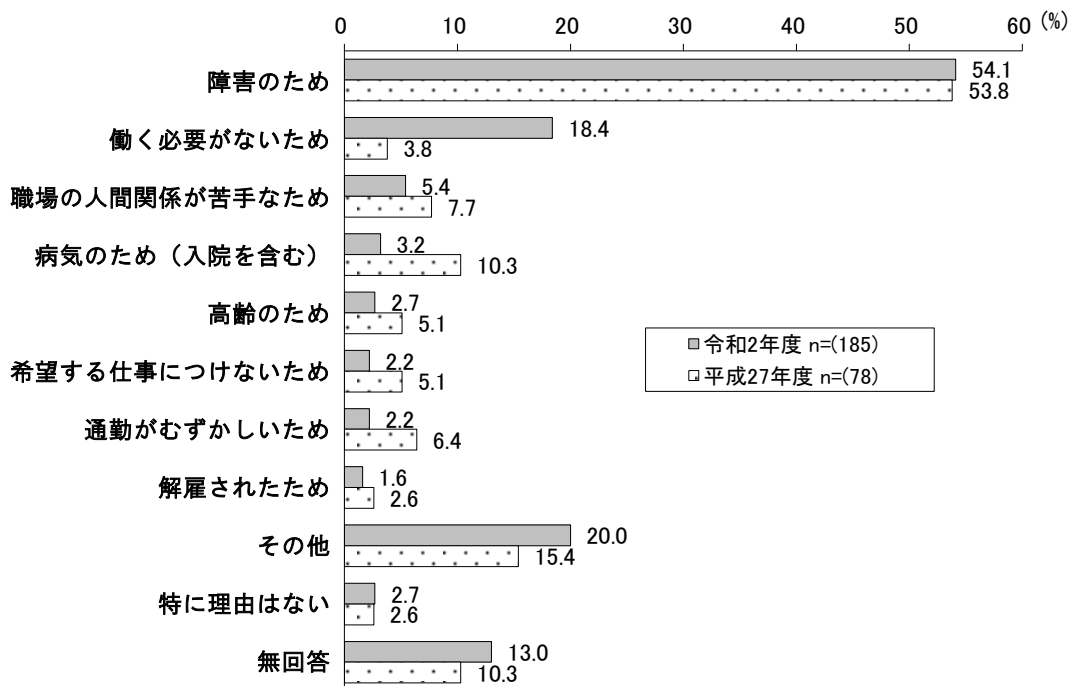
(%)

		n	仕事がむ ずかしい	トイレなど 障害者 用の設 備が十 分でない	自分に あった内 容の仕 事が ない	その他	特に不安 や不満は ない	無回答
全体		155	2.6	2.6	1.3	5.8	37.4	5.2
仕事の 形態別	自営業	-	-	-	-	-	-	-
	家業の手伝い	-	-	-	-	-	-	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	26	3.8	3.8	-	-	42.3	-
	臨時、パート、嘱託等	52	1.9	0.0	1.9	7.7	26.9	1.9
	内職	-	-	-	-	-	-	-
	就労系事業所	35	-	2.9	2.9	5.7	48.6	8.6
	福祉作業所等の地域活動支援センター	31	-	6.5	-	6.5	38.7	9.7
	その他	9	22.2	-	-	11.1	33.3	11.1
障害の 程度別	A〇	8	-	-	-	-	62.5	12.5
	Aの1	32	3.1	9.4	-	6.3	34.4	6.3
	Aの2	6	-	-	-	-	50.0	-
	Bの1	39	2.6	-	-	2.6	41.0	2.6
	Bの2	65	3.1	1.5	3.1	9.2	29.2	6.2

(5) 働いていない理由

問10で「2. お金をもらう仕事はしていない」を選んだ人にかかっています。

問10-4 働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



※選択肢「障害のため」は、平成27年度調査では「障害が重いため」となっている。

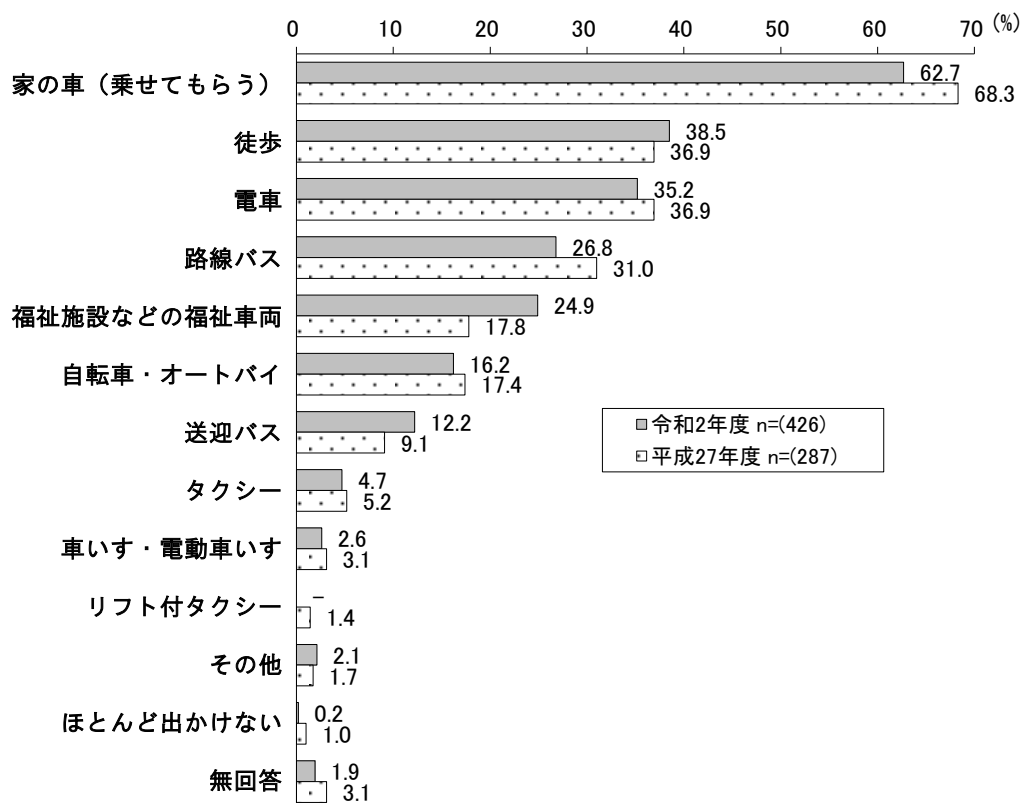
働いていない理由では、「障害のため」が54.1%で最も多く、次いで「働く必要がないため」(18.4%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「働く必要がないため」が3.8%から18.4%で14.6ポイント増、「病気のため(入院を含む)」が10.3%から3.2%で7.1ポイント減となっている。

## 5. 外出・社会参加の状況

### (1) 外出時の交通手段

問11 外に出かけるときによく利用する交通手段は何ですか。(〇はいくつでも)

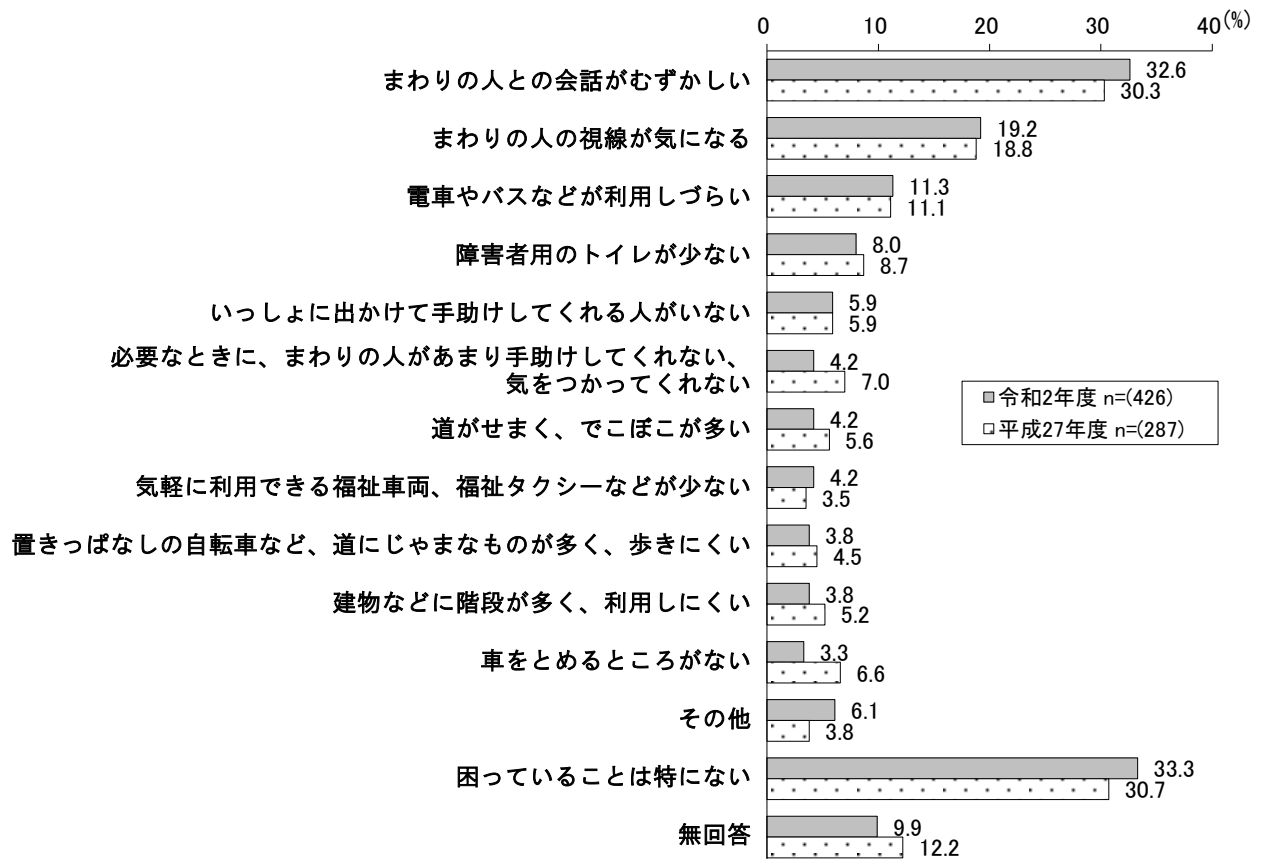


外出の際の交通手段では、「家の車（乗せてもらう）」が62.7%で最も多く、以下、「徒歩」（38.5%）、「電車」（35.2%）、「路線バス」（26.8%）、「福祉施設などの福祉車両」（24.9%）となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「福祉施設などの福祉車両」が17.8%から24.9%で7.1ポイント増、「家の車（乗せてもらう）」が68.3%から62.7%で5.6ポイント減となっている。

(2) 外出の際に困っていること

問12 外に出かけるときに困っていることがありますか。(○はいくつでも)

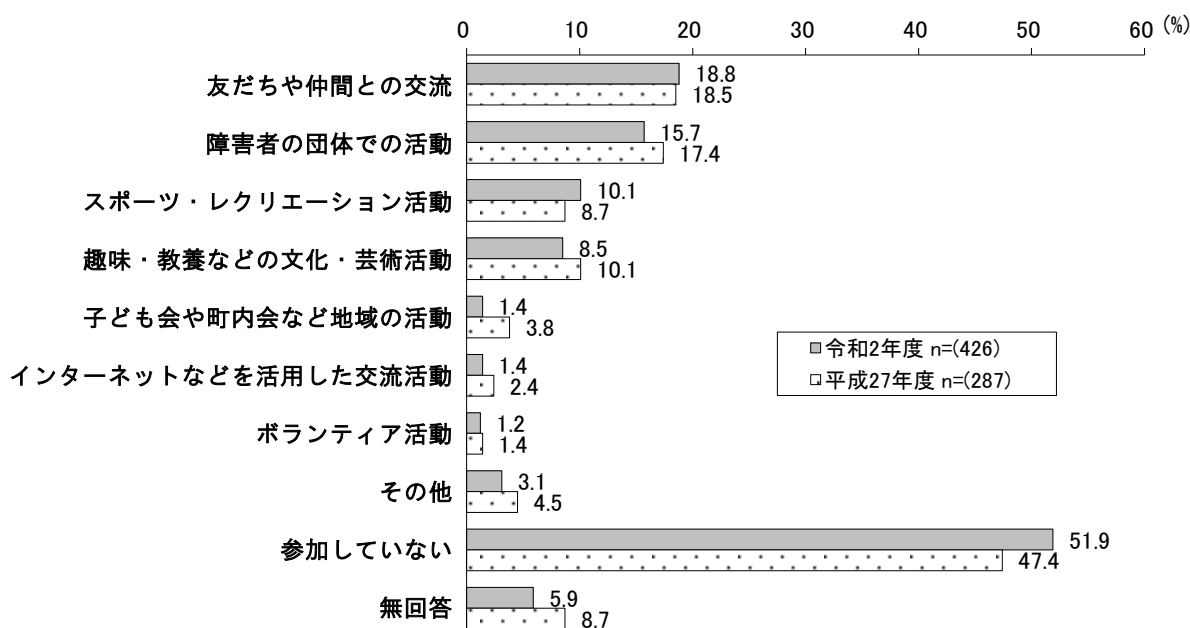


外出の際に困っていることでは、「困っていることは特にない」が33.3%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「まわりの人との会話がむずかしい」(32.6%)が最も多く、以下、「まわりの人視線が気になる」(19.2%)、「電車やバスなどが利用しづらい」(11.3%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(3) 各種活動状況

問13 あなたは、次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

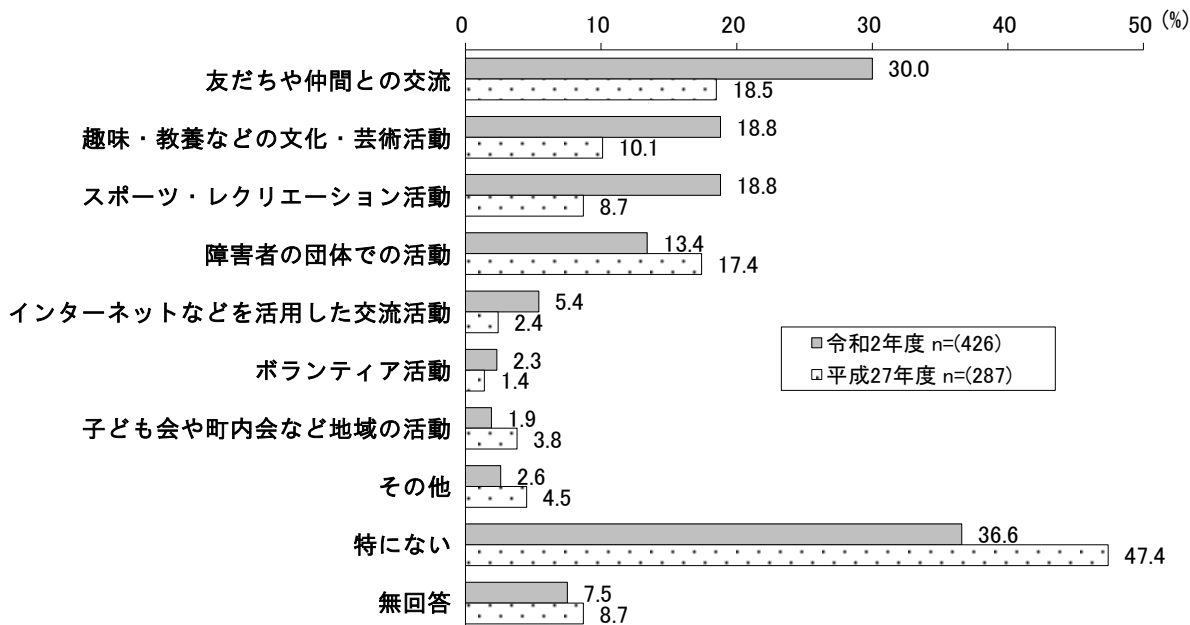


各種活動状況では、「参加していない」が51.9%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「友だちや仲間との交流」(18.8%)が最も多く、以下、「障害者の団体での活動」(15.7%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(10.1%)、「趣味・教養などの文化・芸術活動」(8.5%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(4) 今後充実させたいこと

問14 今後の生活の中で、どのようなことをもっと充実させたいですか。また、新しくはじめたいことはありますか。(〇はいくつでも)



今後充実させたいことでは、「特にない」が36.6%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「友だちや仲間との交流」(30.0%)が最も多く、以下、「趣味・教養などの文化・芸術活動」「スポーツ・レクリエーション活動」(ともに18.8%)、「障害者の団体での活動」(13.4%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「友だちや仲間との交流」が11.5ポイント、「スポーツ・レクリエーション活動」が10.1ポイント、「趣味・教養などの文化・芸術活動」が8.7ポイント、それぞれ増加している。また、「特にない」は47.4%から36.6%で10.8ポイント減となっている。

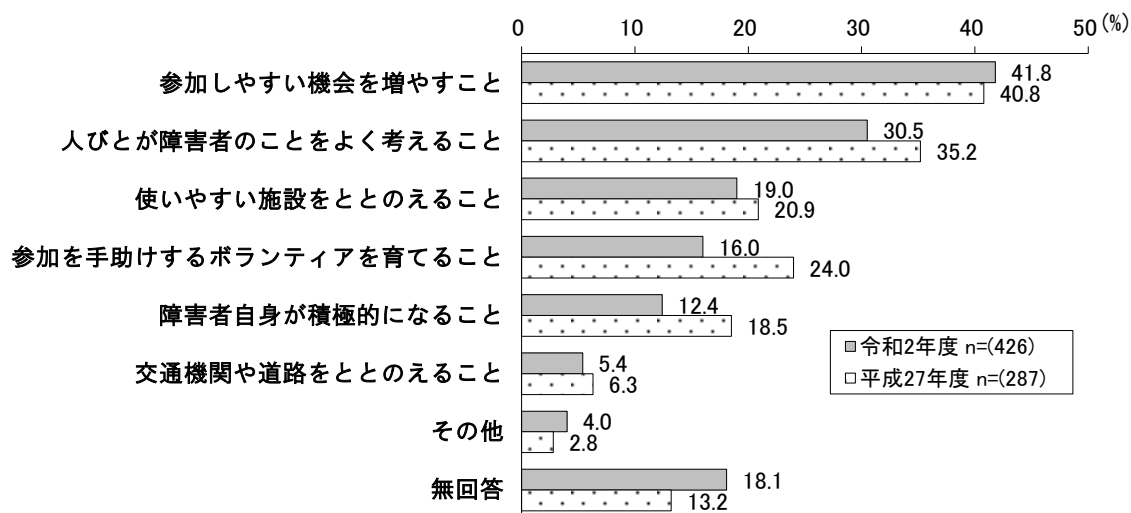
年代別でみると、“18歳未満”で「友だちや仲間との交流」が46.6%、「スポーツ・レクリエーション活動」が30.5%と多くなっている。

		n	友だちや仲間との交流	趣味・教養などの文化・芸術活動	スポーツ・レクリエーション活動	障害者の団体での活動	インターネットなどを活用した交流活動	ボランティア活動	子ども会や町内会など地域の活動	その他	特にない	無回答
全体		426	30.0	18.8	18.8	13.4	5.4	2.3	1.9	2.6	36.6	7.5
年代別	18歳未満	118	46.6	26.3	30.5	15.3	11.0	4.2	5.1	1.7	24.6	4.2
	18～40歳	169	29.0	16.0	17.8	8.9	5.3	1.8	0.6	3.6	39.1	4.7
	41～64歳	125	18.4	14.4	9.6	17.6	0.8	1.6	0.8	1.6	44.8	15.2
	65歳以上	10	10.0	30.0	20.0	-	-	-	-	10.0	40.0	-



(5) 地域活動や社会参加のために必要なこと

問15 あなたが、地域や社会に積極的に参加できるようにするため、特に大切だと思うことは何ですか。(〇は主なもの2つ以内)

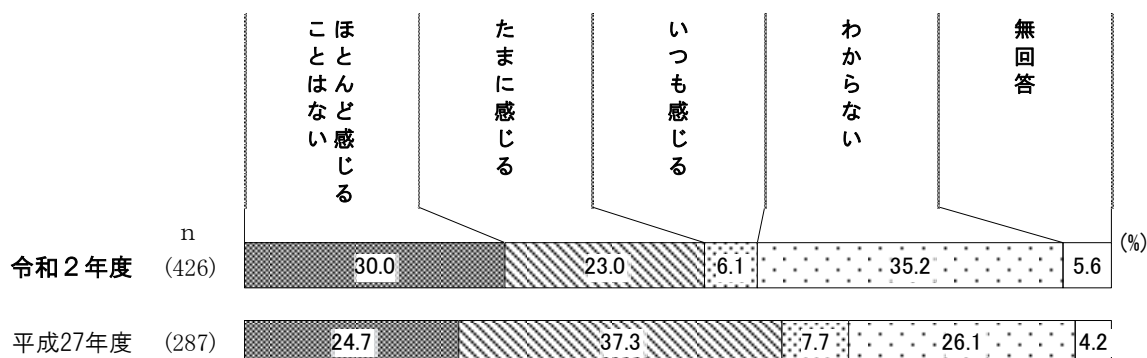


地域活動や社会参加のために必要なことでは、「参加しやすい機会を増やすこと」が41.8%で最も多く、「人びとが障害者のことをよく考えること」(30.5%)が次いでいる。

平成27年度の調査結果と比較すると、「参加を手助けするボランティアを育てること」が24.0%から16.0%で8.0ポイント、「障害者自身が積極的になること」が18.5%から12.4%で6.1ポイント、それぞれ減少している。

(6) 差別や人権侵害、虐待の有無

問16 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(〇は1つ)



差別や人権侵害、虐待の有無では、「ほとんど感じない」が30.0%、「たまに感じる」が23.0%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「ほとんど感じない」が24.7%から30.0%で5.3ポイント増、「たまに感じる」37.3%から23.0%で14.3ポイント減となっている。

(7) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき

問17 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

【周囲の言動、反応】

- ・見た目や、言葉が話せない様子をすごい目で見られたりする。(男性・8歳)
- ・どこに行っても嫌な視線を感じる。(女性・32歳)

【理解不足、偏見】

- ・会話がうまくできず笑われたりすることがよくある。(女性・39歳)
- ・外出先での移動や、多目的トイレの利用時に嫌な思いをする事がよくある。(男性・14歳)

【教育の場】

- ・就学の際に、支援級に受け入れてもらえないことがあると聞く。(男性・6歳)
- ・支援クラスへ行ってから友人が近づいて来なくなった。(女性・13歳)

【雇用、就業の場】

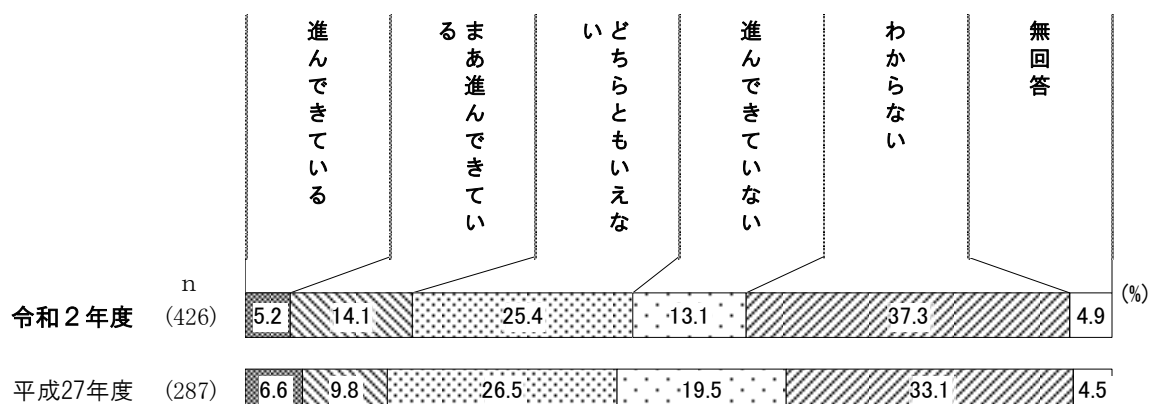
- ・職場でつらい仕事、汚ない仕事をさせられる。(男性・26歳)
- ・職場の人に障害を理解してもらえない事。(女性・47歳)

【その他】

- ・医療機関で断られる事がある。(男性・39歳)
- ・生活介護施設に通っている今はとても楽しそうに通っている。(女性・42歳)

(8) 障害に対する市民の理解

問18 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

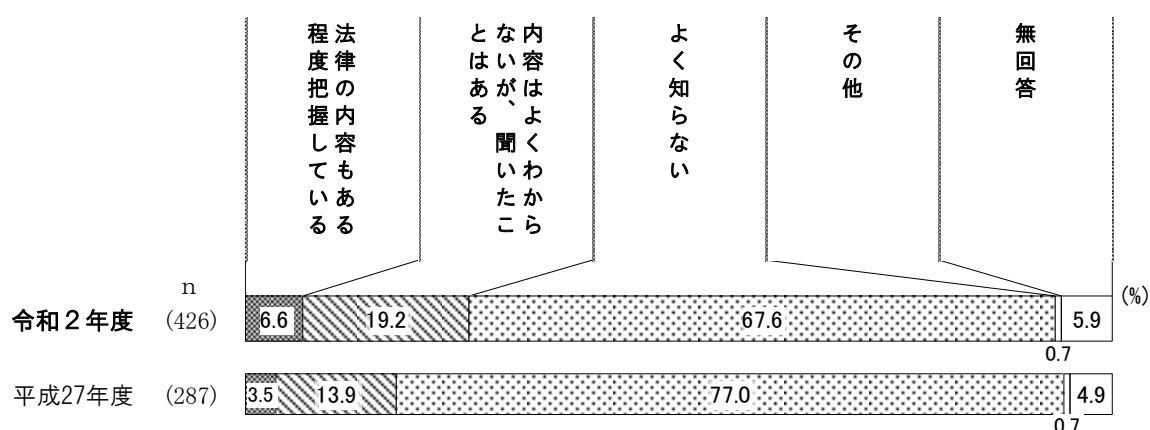


障害に対する市民の理解では、「まあ進んできている」が14.1%、「進んできていない」が13.1%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「進んできていない」が19.5%から13.1%で6.4ポイント減となっている。

(9) 「障害者差別解消法」の認知度

問19 あなたは「障害者差別解消法」という法律を知っていますか。(○は1つ)



『障害者差別解消法』の認知度では、「よく知らない」が67.6%を占め、「内容はよくわからないが、聞いたことはある」19.2%、「法律の内容もある程度把握している」6.6%となっている。

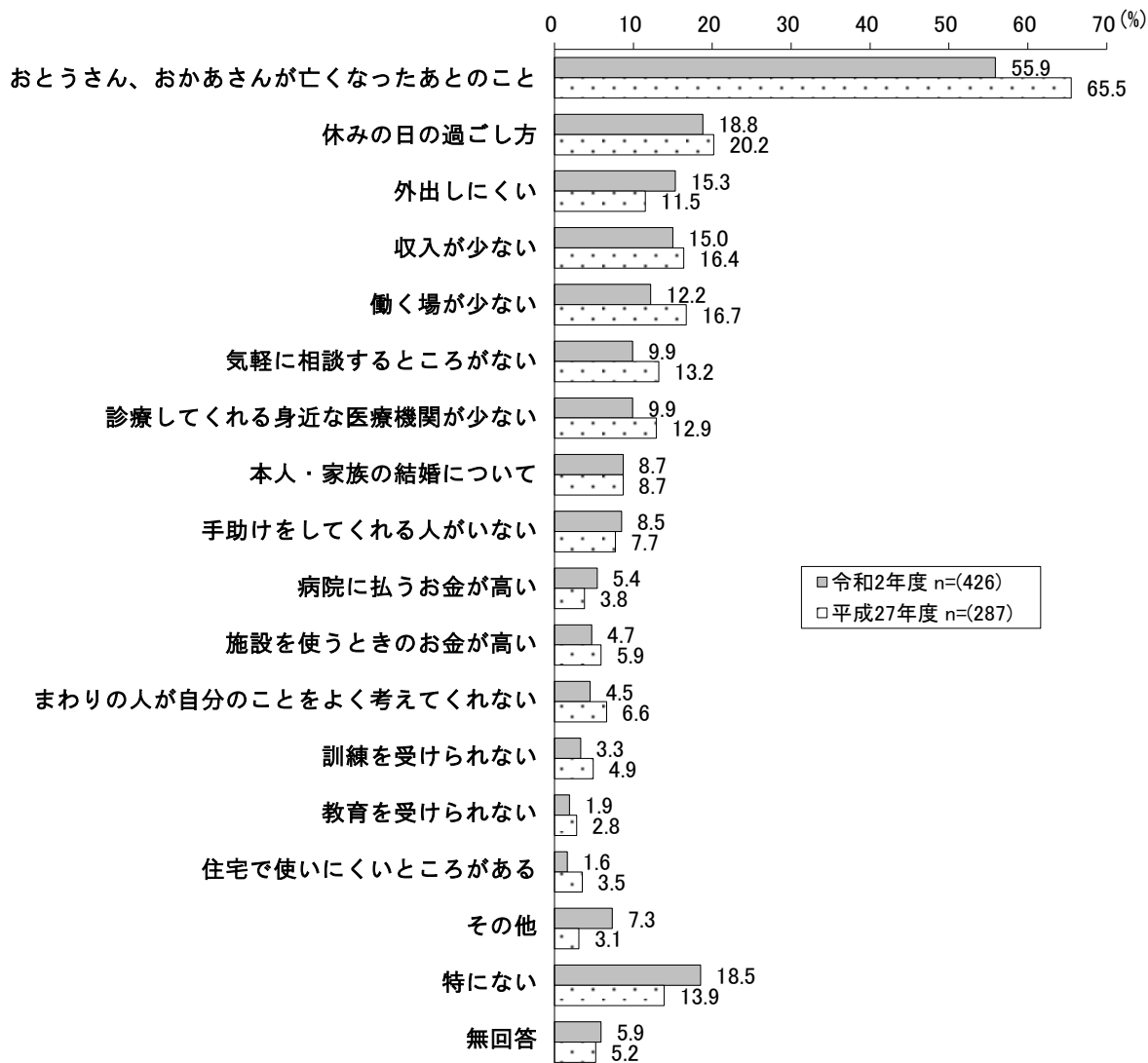
平成27年度の調査結果と比較すると、「内容はよくわからないが、聞いたことはある」が13.9%から19.2%で5.3ポイント増となっている。また、「よく知らない」が77.0%から67.6%で9.4ポイント減となっている。

## 6. ふだんの生活の困りごとなど

### (1) 現在の生活で困っている、不安を感じていること

問20 今の生活で困っていることや、不安を感じていることはありますか。

(○はいくつでも)

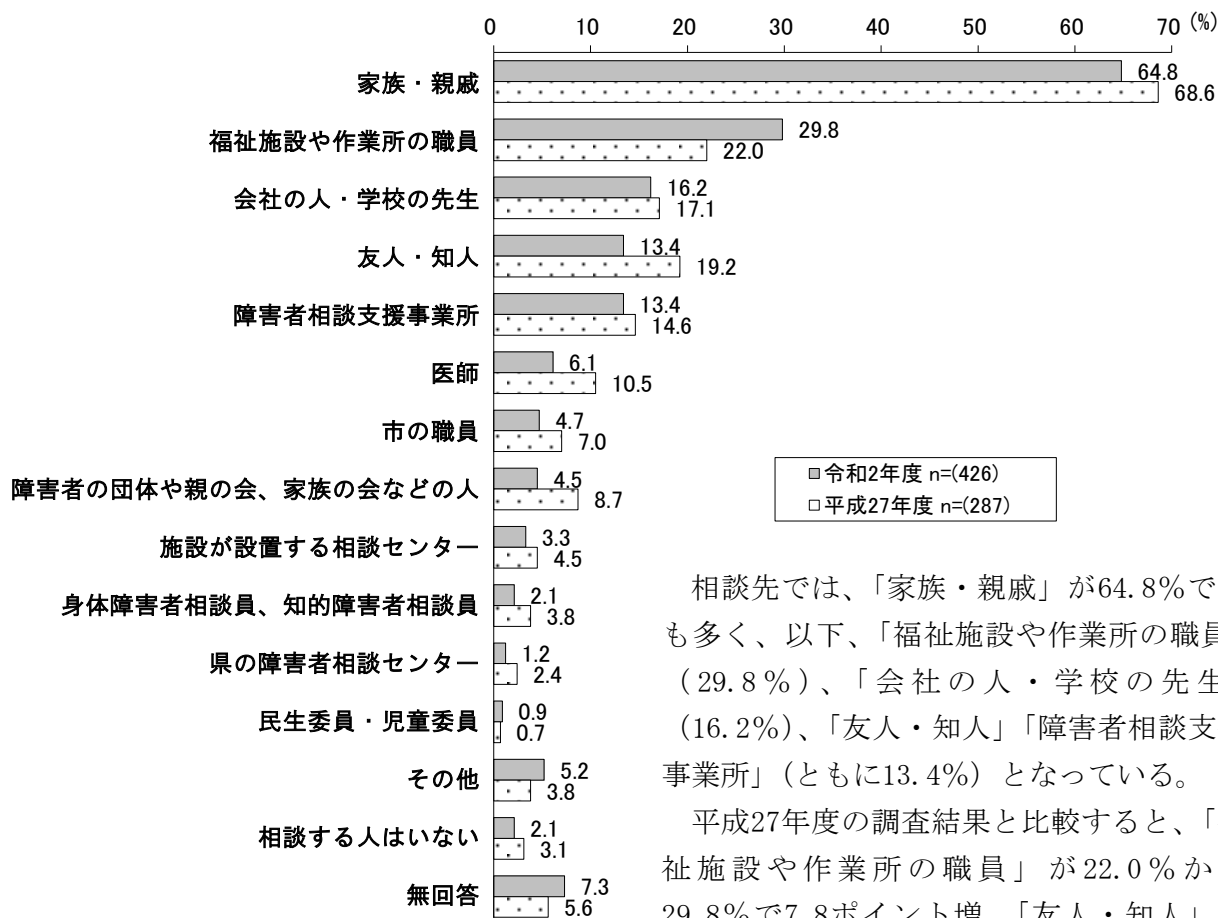


現在の生活での困りごとでは、「おとうさん、おかあさんが亡くなったあとのこと」が55.9%で最も多く、以下、「休みの日の過ごし方」(18.8%)、「外出しにくい」(15.3%)、「収入が少ない」(15.0%)、「働く場が少ない」(12.2%)となっている。一方、「特にない」は18.5%だった。

平成27年度の調査結果と比較すると、「おとうさん、おかあさんが亡くなったあとのこと」が65.5%から55.9%で9.6ポイント減となっている。

(2) 相談先

問21 悩みや困ったことは誰に相談しますか。(○は主なもの3つ以内)

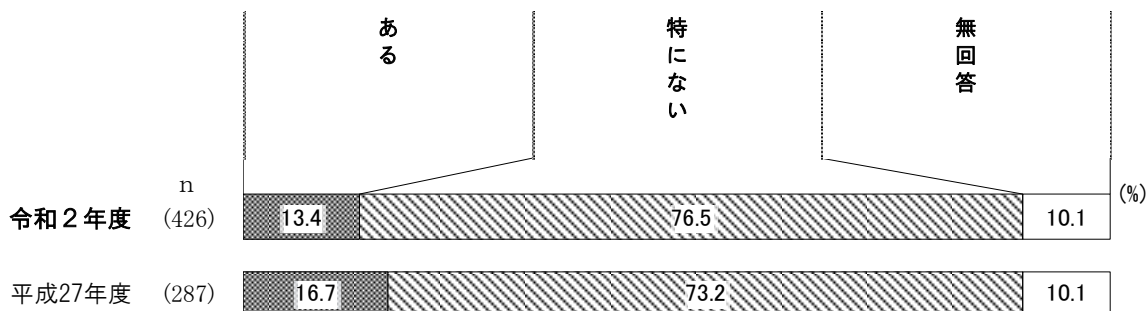


相談先では、「家族・親戚」が64.8%で最も多く、以下、「福祉施設や作業所の職員」(29.8%)、「会社の人・学校の先生」(16.2%)、「友人・知人」「障害者相談支援事業所」(ともに13.4%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「福祉施設や作業所の職員」が22.0%から29.8%で7.8ポイント増、「友人・知人」が19.2%から13.4%で5.8ポイント減となっている。

(3) 相談したいことの有無

問22 現在、障害に関することなどで相談したいことはありますか。(○は1つ)



相談したいことの有無では、「ある」が13.4%、「特にない」が76.5%となっている。なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

#### (4) 相談したい内容

問22で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問22-1 それはどのようなことですか。具体的に書いてください。

具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

##### 【療育、進学関連】

- ・知的の遅れに関するリハビリテーションや訓練等について。(女性・11歳)
- ・支援学校も重度なお子さんを優先されるとなると軽度・中度な子の居場所はどこにあるのか不安です。(女性・10歳)
- ・放課後デイサービスがどこも満員で利用できる所が少ない。(男性・6歳)

##### 【介護内容関連】

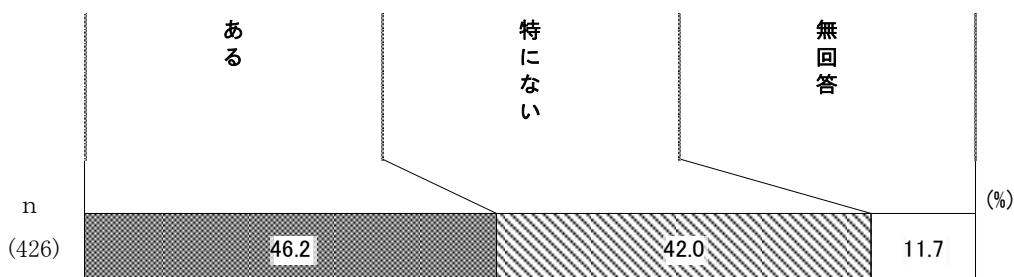
- ・全介助している母が動けなくなった時、受け入れてもらえる所がない。(女性・28歳)
- ・看護師がいないと介護できないことがあり、入所施設も空きがないと入れない。(女性・42歳)
- ・障害の程度が進んでいて、介護が大変になっている。(女性・27歳)
- ・気分が不安定になりやすい。自傷、他害をしてしまう。(男性・11歳)

##### 【その他】

- ・職場の人に障害を理解してもらえない事で、なかなか仕事が決まらない。(女性・47歳)
- ・今飲んでいる薬は適正なのか等、精神科の先生に相談したいが、怒らせてしまいそうで怖くて話せない。(男性・27歳)

(5) 相談支援事業所の利用状況

問23 市内には、日常生活での悩みや困りごと、障害福祉サービスの利用について相談を受ける相談支援事業所があります。利用したことはありますか。(○は1つ)

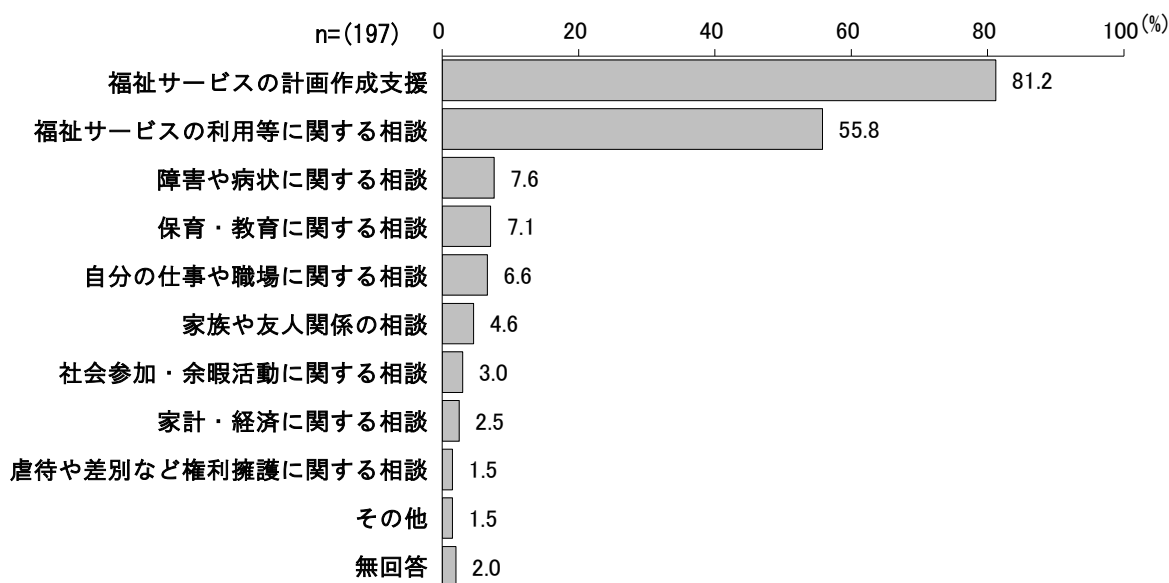


相談支援事業所の利用状況では、「ある」が46.2%、「特にない」が42.0%となっている。

(6) 具体的な利用内容

問23で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問23-1 どのようなことで利用したことがありますか。(○はいくつでも)

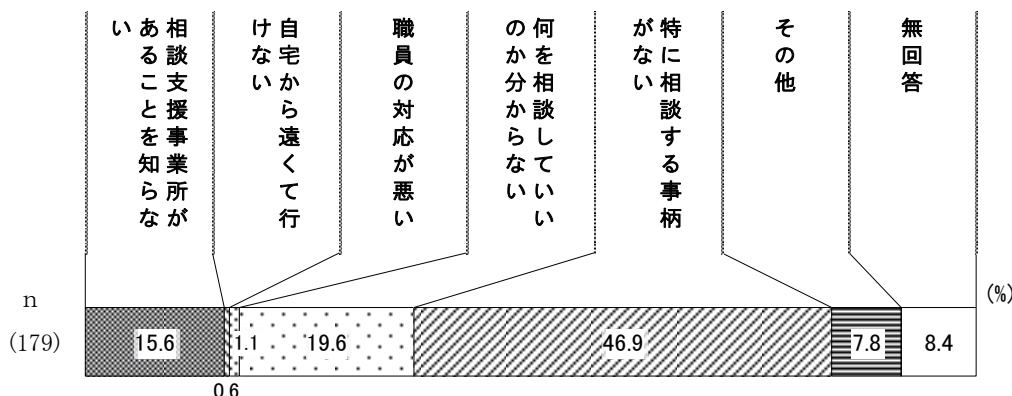


具体的な利用内容では、「福祉サービスの計画作成支援」が81.2%で最も多く、「福祉サービスの利用等に関する相談」(55.8%)が次いでいる。

(7) 利用していない理由

問23で「2. 特にない」を選んだ人にうかがいます。

問23-2 利用していない理由を教えてください。(○は1つ)



利用していない理由では、「特にない」が46.9%で最も多く、以下、「何を相談していいのかわからない」が19.6%、「相談支援事業所があることを知らない」が15.6%となっている。

(8) 相談支援事業所に期待すること

問24 今後、相談支援事業所に期待することを具体的に書いてください。

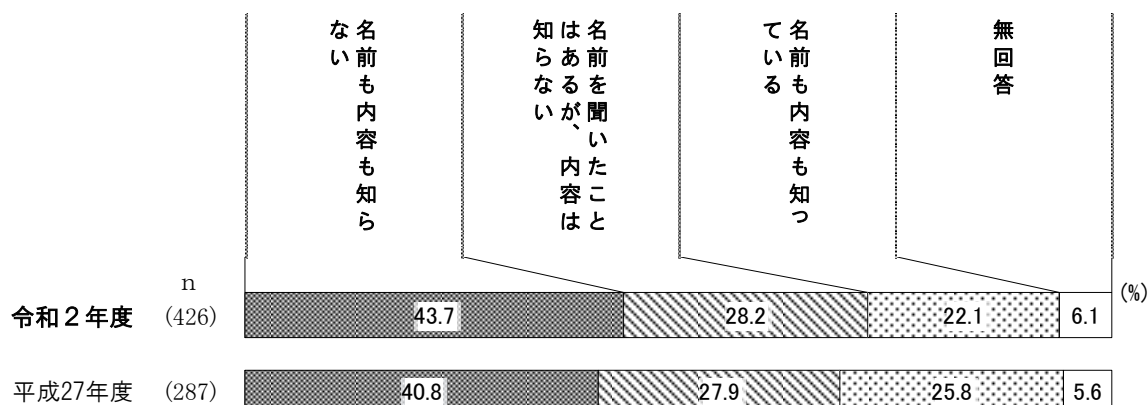
相談支援事業所に期待することの具体的な内容としては、次のような記入があった。

- ・実際に通所している生活介護の訪問などは行なわれていないので、現状の理解や共有に努めてほしい。(男性・21歳)
- ・市町村をまたいで福祉サービスを利用したい時の調整や、必要な時に必要な福祉サービスが受けられるように、継続的に支援していただく事を期待します。(女性・27歳)
- ・突然困った状態になった時、相談にのってもらえると助かります。(男性・26歳)
- ・親なき後の施設の入所や生活について。(男性・39歳)
- ・家などに来てくれて話を聞いてくれるといい。(女性・16歳)
- ・障害の内容別に応じた施設を増やして欲しい。(女性・28歳)
- ・具体的な提案や情報を下さるキーパーソンとなってほしい(女性・11歳)
- ・相談する人の気持ちに寄りそって、具体的に確実な方法での支援案を示してほしい。(女性・40歳)



(9) 成年後見制度の認知度

問25 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない人の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。  
(○は1つ)



成年後見制度の認知度では、「名前も内容も知らない」が43.7%と多く、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」は28.2%、「名前も内容も知っている」は22.1%となっている。

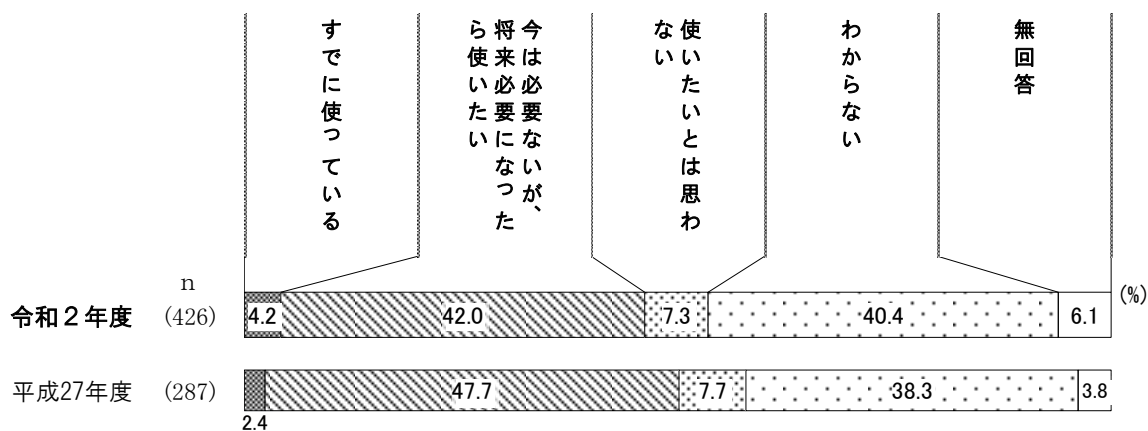
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

年代別にみると、どの年代でも「名前も内容も知らない」が多くなっている。また“41～64歳”で「名前も内容も知らない」と「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた《内容を知らない》割合は67.2%と多くなっている。

		n	名前も内容も知らない	名前を聞いたことはあるが、内容は知らない	名前も内容も知っている	無回答
全体		426	43.7	28.2	22.1	6.1
年代別	18歳未満	118	46.6	35.6	16.9	0.8
	18～40歳	169	45.0	23.7	24.9	6.5
	41～64歳	125	38.4	28.8	22.4	10.4
	65歳以上	10	50.0	10.0	30.0	10.0

(10) 成年後見制度の利用意向

問26 あなたは、成年後見制度を使いたいと思いますか。(○は1つ)



成年後見制度の利用意向では、「今は必要ないが、将来必要になったら使いたい」が42.0%と多く、「使いたいとは思わない」は7.3%、「すでに使っている」は4.2%となっている。一方、「わからない」は40.4%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「今は必要ないが、将来必要になったら使いたい」が47.7%から42.0%で5.7ポイント減となっている。

年代別にみると、“41～64歳”で「すでに使っている」は1割程度となっている。

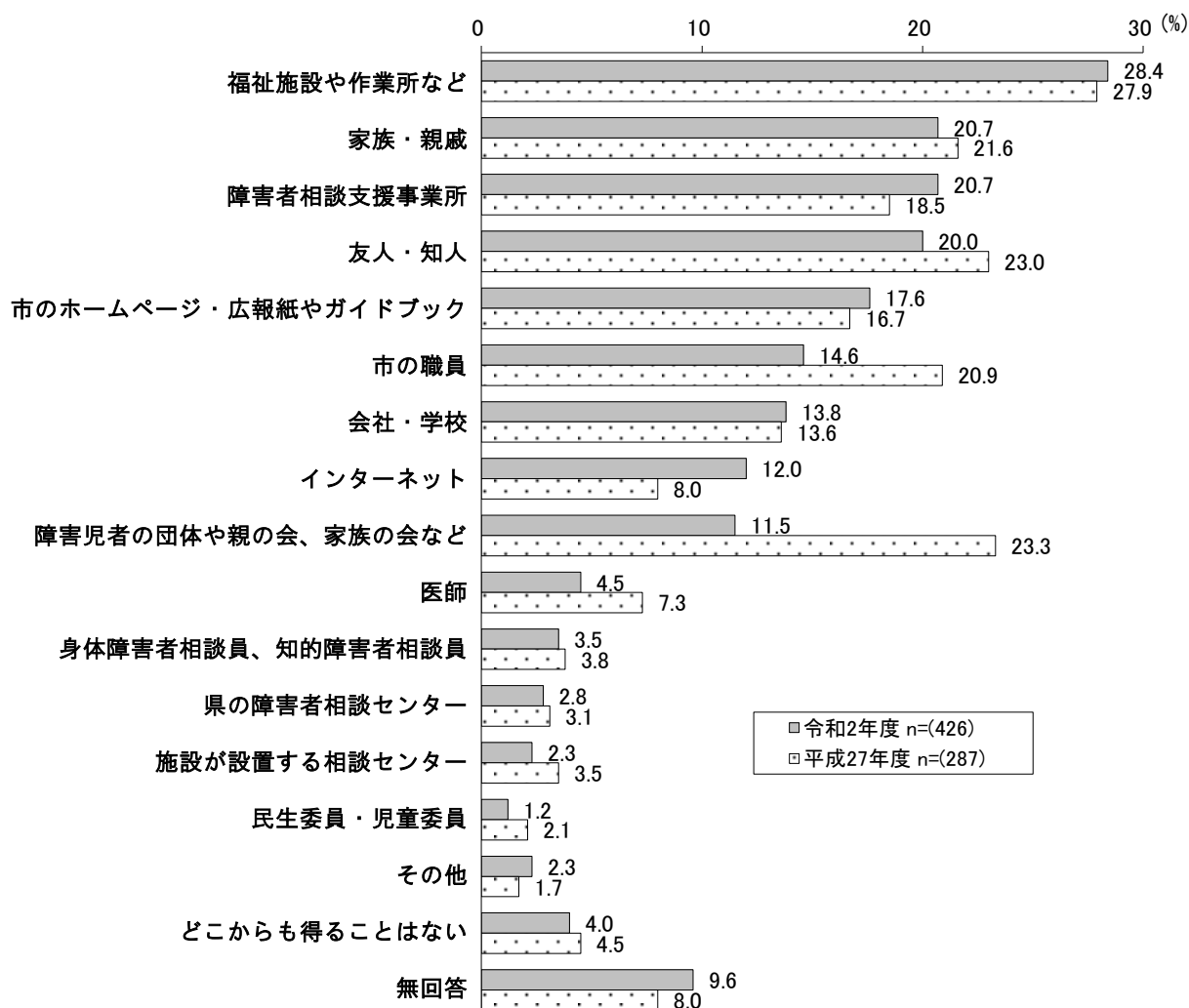
		n	すでに使っている	今は必要ないが、将来必要になったら使いたい	使いたいとは思わない	わからない	無回答
全体		426	4.2	42.0	7.3	40.4	6.1
年代別	18歳未満	118	-	66.1	2.5	30.5	0.8
	18～40歳	169	0.6	39.1	10.1	44.4	5.9
	41～64歳	125	10.4	26.4	8.0	44.0	11.2
	65歳以上	10	30.0	10.0	10.0	40.0	10.0

## 7. 福祉情報などの入手状況

### (1) 福祉に関する情報の入手先

問27 あなたやご家族は、福祉についての情報をどこから得ますか。

(○は主なもの3つ以内)

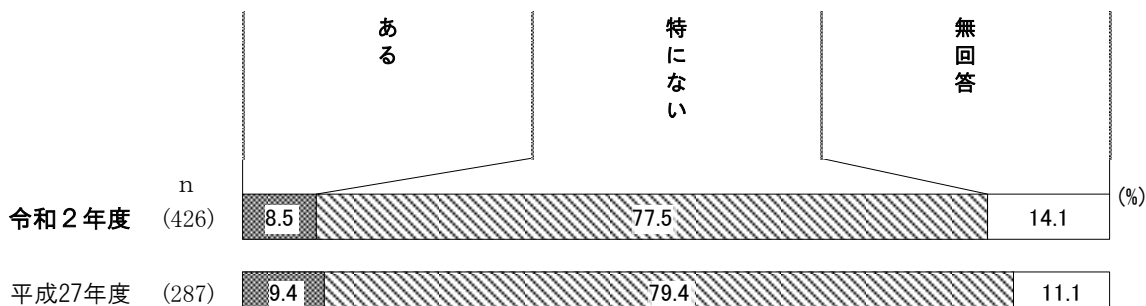


福祉に関する情報の入手先では、「福祉施設や作業所など」が28.4%で最も多く、以下、「家族・親戚」「障害者相談支援事業所」（ともに20.7%）、「友人・知人」（20.0%）、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」（17.6%）となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「障害児者の団体や親の会、家族の会など」が23.3%から11.5%で11.8ポイント、「市の職員」が20.9%から14.6%で6.3ポイント、それぞれ減少している。

(2) 情報が取得できないことでの困難経験の有無

問28 あなたが生活する上で、福祉サービスなど障害者のための情報が得られないで困ったことがありますか。(○は1つ)



情報が取得できないことでの困難経験の有無では、「ある」が8.5%、「特にない」が77.5%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(3) 困難経験の具体的内容

問28で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問28-1 それはどのようなときでしたか。具体的に書いてください。

情報が取得できないことで困ったことの内容としては、次のような記入があった。

- ・どこに行けば情報が手に入るのかわからない。市の公報やふくしだよりなどで載せたり、HPがあるとよい。(女性・39歳)
- ・新しい療育の施設など自分で気づいたり、見かけたりしないとずっと知らないまま。(男性・5歳)
- ・制度が変わって、受けられなかった助成が受けられるようになった時などはできれば連絡がほしいです。(男性・5歳)
- ・車椅子から降りてトイレまで移動するだけでも大変な生活であるが、ヘルパーさんなどに来ていただくような内容ではないと思うと相談する気になれない。(女性・27歳)

## (4) 今後ほしい情報

問29 現在または今後どのような情報がほしいですか。具体的に書いてください。

今後ほしい情報の具体的な内容としては、次のような記入があった。

## 【医療・介護施設関連】

- ・グループホーム等、親が高齢になった時に住める場所。←病気になったり等面倒を見る事が難しくなった時含む。(男性・19歳)
- ・入所が可能な施設の情報や、空きがあるかどうか、何才から入所できるかなど。(男性・39歳)
- ・入所はいっぱい、親亡き後に必ず利用できるとは限らない。(女性・27歳)

## 【福祉サービス全般】

- ・利用できるサービスにもれがないように、1人1人に合った、利用可能性のあるサービスを案内してほしい。(女性・9歳)
- ・これから成長すると共に必要になってくる支援や困った時などに解決の手がかりになるような情報がほしい。(男性・12歳)
- ・制度改正のとき。(男性・3歳)
- ・自立するに向けて今後の進学や、お金に関する手当等。(男性・6歳)
- ・地域の障害者事情、障害別人数、どのように生活しているのか、どんな支援を選び、どこで相談しているのか知りたいです。(男性・21歳)

## 【教育、進学】

- ・具体的にどのような進路があるのか、そこに進むための条件等の情報。(男性・7歳)
- ・公立学校におけるインクルーシブ教育や合理的配慮について。(男性・17歳)
- ・同じ障害者(障害児)の方がどのように成長していったのか。先輩の話を知りたい。(男性・6歳)
- ・支援学校卒業後の進路状況など(女性・13歳)
- ・障害者枠でもいいので就職情報が欲しい。地域は問わないので幅広い情報が欲しい。(男性・46歳)

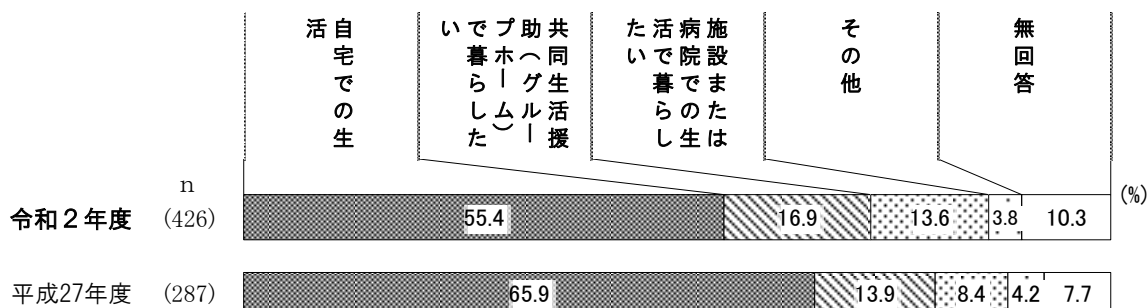
## 【その他】

- ・障害のある人たちとの交流や、交流場所の情報。(女性・39歳)
- ・成人になってからどのように生活したら良いか、サービスがあるのか相談に乗って貰えたら良いと思います。(男性・14歳)
- ・災害時の情報。(女性・40歳)

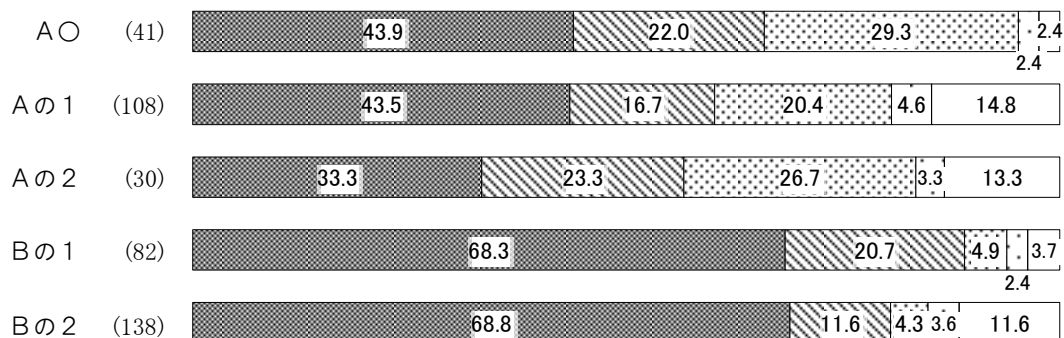
## 8. 今後、希望する暮らし方

### (1) 希望する生活形態

問30 今後、どのようなところで暮らしたいですか。(○は1つ)



#### 【障害の程度別】



希望する生活形態では、「自宅での生活」が55.4%と多く、「共同生活援助（グループホーム）で暮らしたい」は16.9%、「施設または病院での生活で暮らしたい」は13.6%となっている。

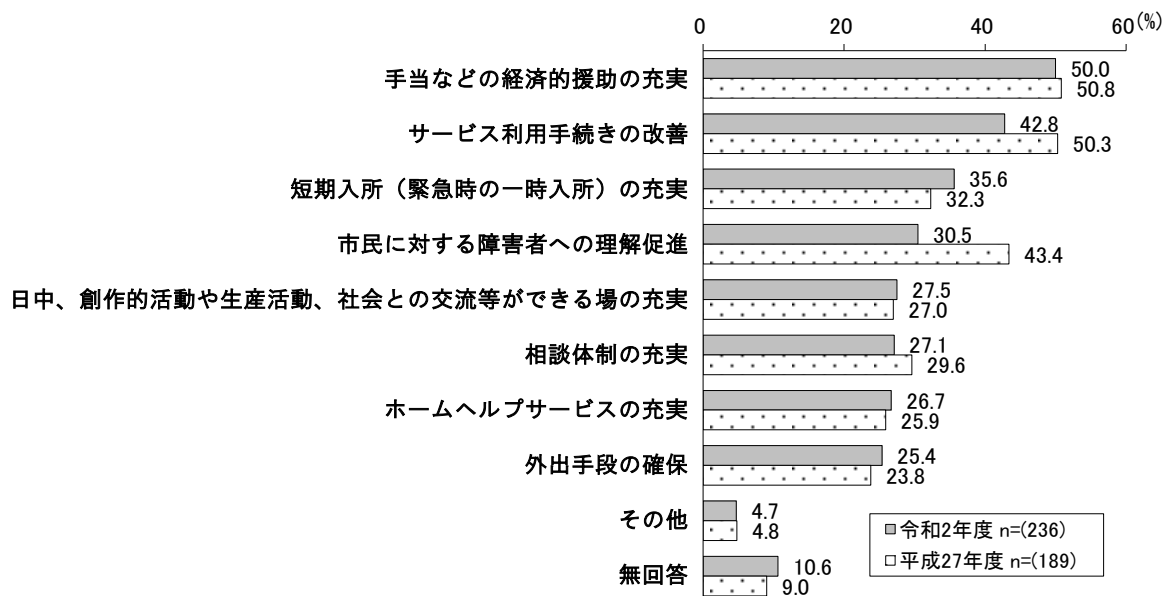
平成27年度の調査結果と比較すると、「自宅での生活」が65.9%から55.4%で10.5ポイント減となっている。

障害の程度別で見ると、“A0”“Aの1”“Aの2”で「施設または病院での生活で暮らしたい」が2割台と多くなっている。また、“Bの1”“Bの2”では「自宅での生活」が6割台後半を占めている。

(2) 自宅での生活を続けるための条件

問30で「1. 自宅で暮らしたい」を選んだ人にうかがいます。

問30-1 自宅で暮らし続けるための条件は何ですか。(〇はいくつでも)



自宅での生活を続けるための条件では、「手当などの経済的援助の充実」が50.0%で最も多く、以下、「サービス利用手続きの改善」(42.8%)、「短期入所（緊急時の一時入所）の充実」(35.6%)、「市民に対する障害者への理解促進」(30.5%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「市民に対する障害者への理解促進」が43.4%から30.5%で12.9ポイント、「サービス利用手続きの改善」が50.3%から42.8%で7.5ポイント、それぞれ減少している。

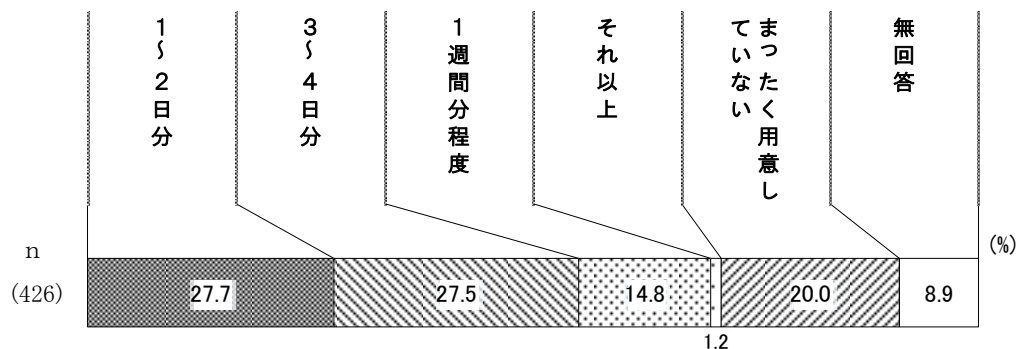
障害の程度別でみると、“Aの1”で「短期入所（緊急時の一時入所）の充実」が55.3%と多くなっている。

		n	手当などの経済的援助の充実	サービス利用手続きの改善	短期入所(緊急時の一時入所)の充実	市民に対する障害者への理解促進	日中、創作的活動や生産活動、社会との交流等ができる場の充実	相談体制の充実	ホームヘルプサービスの充実	外出手段の確保	その他	無回答
全体		236	50.0	42.8	35.6	30.5	27.5	27.1	26.7	25.4	4.7	10.6
障害の程度別	A〇	18	61.1	61.1	66.7	27.8	44.4	33.3	50.0	38.9	-	-
	Aの1	47	51.1	44.7	55.3	31.9	34.0	19.1	31.9	25.5	6.4	10.6
	Aの2	10	40.0	60.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	30.0	10.0	10.0
	Bの1	56	50.0	41.1	37.5	30.4	33.9	19.6	26.8	26.8	3.6	8.9
	Bの2	95	49.5	36.8	18.9	32.6	17.9	34.7	20.0	23.2	5.3	11.6

## 9. 洪水や地震等の災害時の対応

### (1) 非常食と水の準備状況

問31 災害が起きたときのための非常食と水を、どのぐらい用意していますか。(○は1つ)

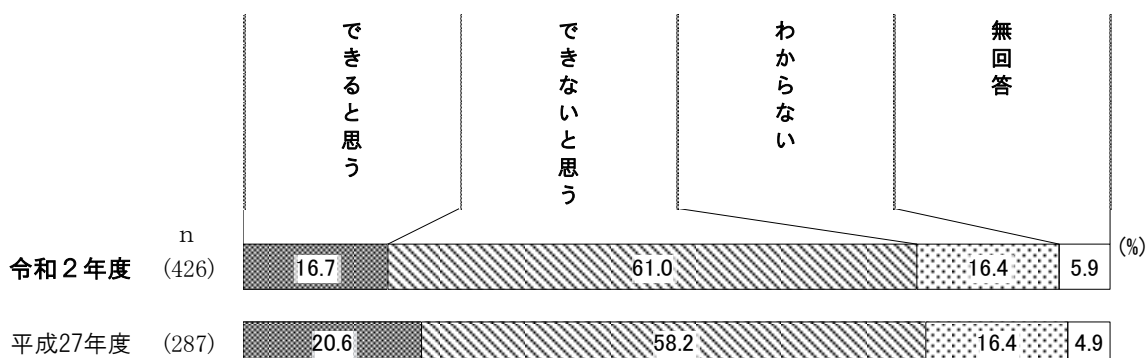


非常食と水の準備状況では、「1～2日分」が27.7%、「3～4日分」が27.5%と多く、「まったく用意していない」は20.0%となっている。

また、「それ以上」と回答した5人のうち2人は〈2週間分程度〉としている。

### (2) 災害時における一人での避難

問32 災害時に、あなたはひとりで避難できますか。(○は1つ)



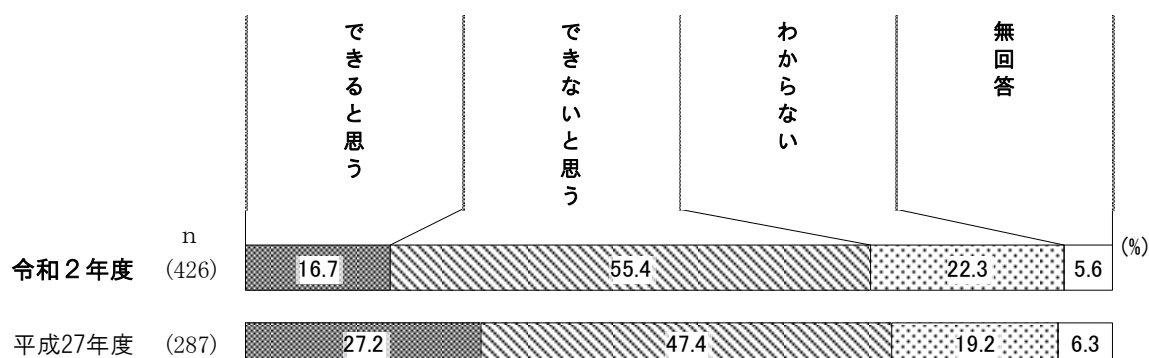
災害時に一人で避難できるかどうかでは、「できると思う」が16.7%、「できないと思う」が61.0%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。



### (3) 災害時での周囲への伝達

問33 災害時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(○は1つ)

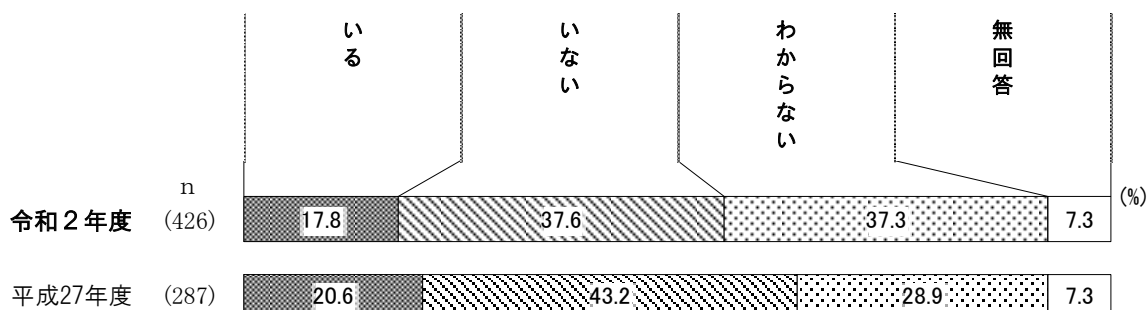


災害時での周囲への伝達では、「できると思う」が16.7%、「できないと思う」が55.4%となっている。

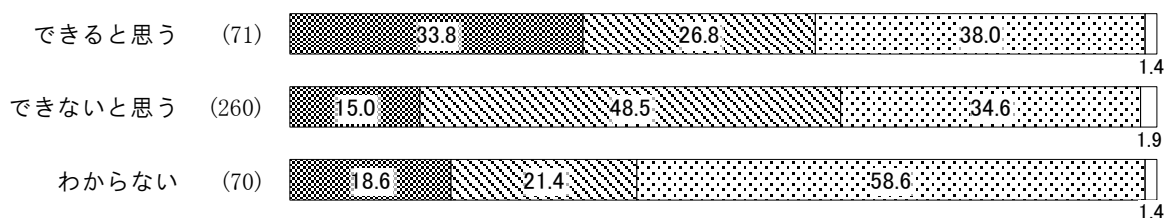
平成27年度の調査結果と比較すると、「できないと思う」が8.0ポイント増、「できると思う」が10.5ポイント減となっている。

### (4) 近所で助けてくれる人の有無

問34 家族が出かけている場合、またはひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)



#### 【一人避難可不可別】



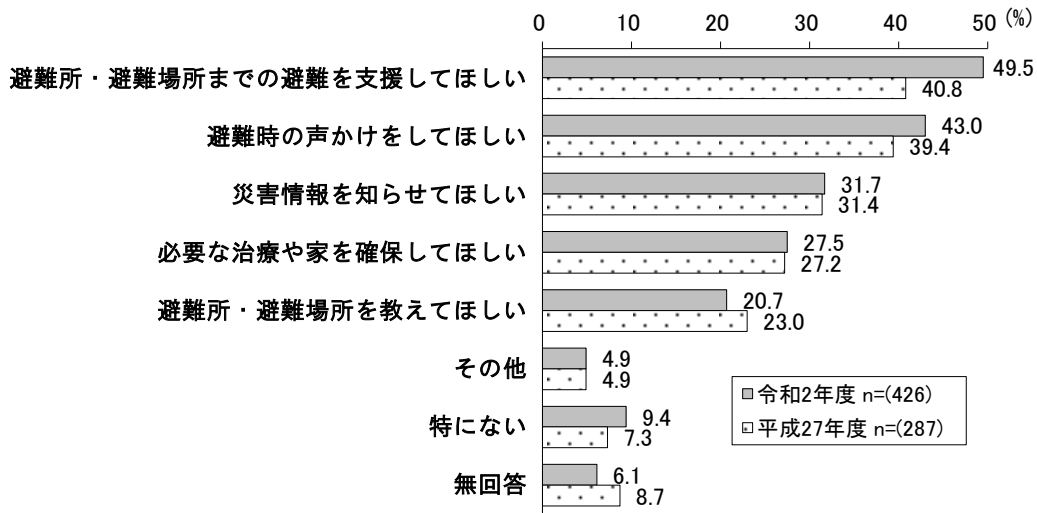
近所で助けてくれる人の有無では、「いる」が17.8%、「いない」が37.6%となっており、「わからない」も37.3%を占めている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「いない」が5.6ポイント減となっている。

災害時に一人で避難ができるかどうか別でみると、“できないと思う”で「いない」が48.5%となっている。

(5) 災害発生時に支援してほしいこと

問35 あなたが、災害発生時に支援してほしいことは何ですか。(〇は3つまで)



災害発生時に支援してほしいことでは、「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」が49.5%で最も多く、以下、「避難時の声かけをしてほしい」(43.0%)、「災害情報を知らせてほしい」(31.7%)、「必要な治療や家を確保してほしい」(27.5%)となっている。

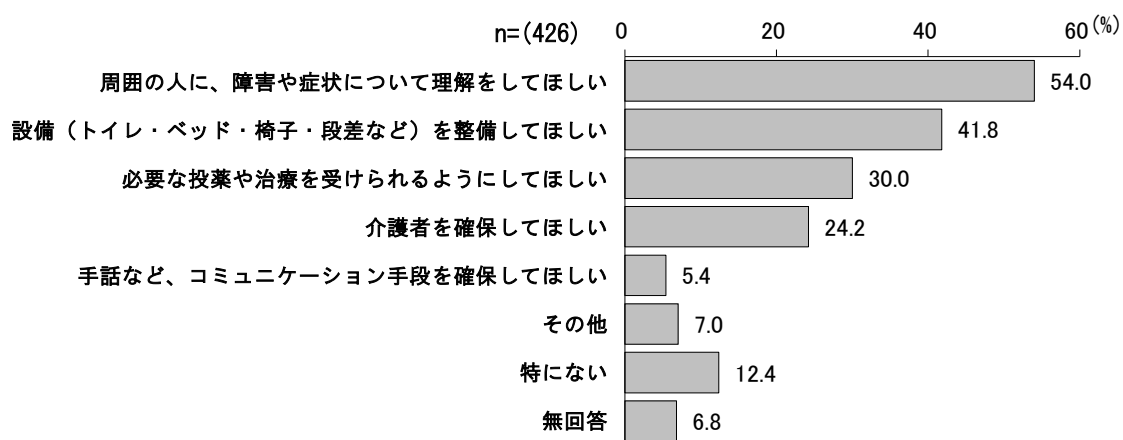
平成27年度の調査結果と比較すると、「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」が40.8%から49.5%で8.7ポイント増となっている。

災害時に一人で避難ができるかどうか／近所の助けの有無別でみると、“避難できない・わからない／手助けあり”という層で「避難時の声かけをしてほしい」が61.5%、「災害情報を知らせてほしい」が42.3%と多くなっている。また、“避難できる／手助けなし・わからない”という層でも「災害情報を知らせてほしい」(47.8%)が多くなっている。

		n	避難所・避難場所までの避難を支援してほしい	避難時の声かけをしてほしい	災害情報を知らせてほしい	必要な治療や家を確保してほしい	避難所・避難場所を教えてほしい	その他	特にない	無回答
全体		426	49.5	43.0	31.7	27.5	20.7	4.9	9.4	6.1
一人の避難が可能な有無別・近所	避難できる／手助けあり	24	20.8	37.5	50.0	8.3	16.7	-	20.8	-
	避難できる／手助けなし・わからない	46	21.7	26.1	47.8	30.4	26.1	2.2	23.9	4.3
	避難できない・わからない／手助けあり	52	55.8	61.5	42.3	36.5	25.0	7.7	3.8	-
	避難できない・わからない／手助けなし・わからない	272	58.5	45.2	26.5	27.9	21.0	4.8	7.7	4.4

## (6) 避難所での生活で配慮してほしいこと

問36 あなたが、避難所での生活で配慮してほしいことは何ですか。(〇は3つまで)



避難所での生活で配慮してほしいことでは、「周囲の人に、障害や症状について理解をしてほしい」が54.0%で最も多く、以下、「設備（トイレ・ベッド・椅子・段差など）を整備してほしい」（41.8%）、「必要な投薬や治療を受けられるようにしてほしい」（30.0%）、「介護者を確保してほしい」（24.2%）となっている。

(7) 災害時に困ると思われること、不安なこと

問37 その他災害時に困ると思われること、不安なことをお書きください。

災害時に困る具体的な内容は、次のような記入がみられた。

【環境適応】

- ・人が沢山いる避難所だと気分が落ちつかず不安になり、大声で騒いでしまうかもしれない。(男性・29歳)
- ・順応性が低いいためパニックになる。自傷・他害の可能性があるので、集団での生活や行動は難しい。(男性・21歳)
- ・1人ではどうすることもできない(女性・48歳)

【コミュニケーション】

- ・1時間おきくらいに、食事、トイレ、困っていることがないか、聞いてほしい。自分からは発信できないので。(男性・21歳)
- ・耳がよく聞こえない。大きな声で掛けて欲しいです。(女性・53歳)

【移動】

- ・スロープを使用しないと外に出られないので、その時の手助けをお願いしたい。(男性・14歳)
- ・車に乗れない。遠くへは避難できない。(男性・49歳)

【医療環境関連】

- ・薬を飲まないと痙攣を起こしてしまう。(男性・17歳)
- ・医療機器が使えなくなることが何より不安です。(男性・5歳)
- ・食事制限があるので避難所の食事が心配。(男性・23歳)

【その他設備関連】

- ・洋式のお手洗い。(男性・44歳)

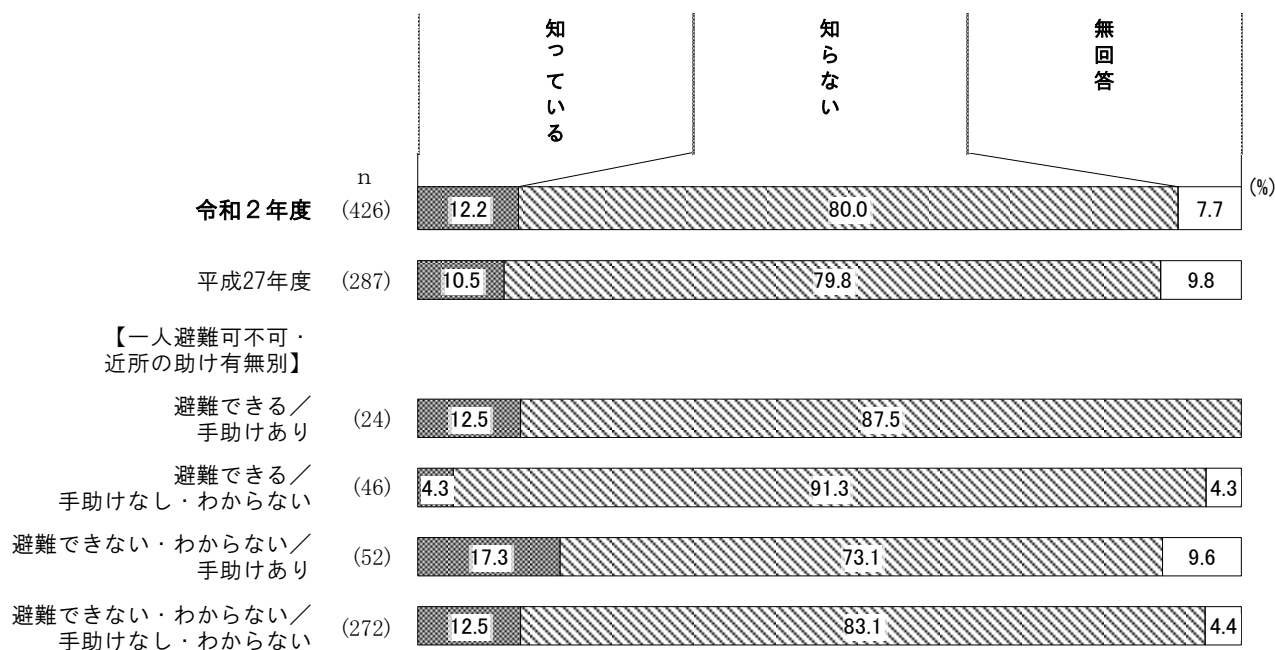
【その他】

- ・障害に対する理解が少なく、変な人として非難される事。(男性・33歳)
- ・知的障害者は周りに理解されにくいので専用の避難所があったら嬉しいです。(男性・20歳)
- ・狭い避難所での、感染症及び病気にかかりやすい事(リスク)だと思います。(男性・28歳)
- ・知らない人と同じ空間にいることが苦痛になるので、別の部屋、仕切りがあると安心する。(男性・8歳)

(8) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度

問38 あなたは、市の「避難行動要支援者避難支援制度」を知っていますか。(○は1つ)

※「避難行動要支援者避難支援制度」とは、災害が発生した、または災害が発生するおそれのある時に避難行動要支援者（障害者、難病患者の一部の方が含まれます）を適切に支援するための制度です。



『避難行動要支援者避難支援制度』の認知度では、「知っている」が12.2%、「知らない」が80.0%となっている。

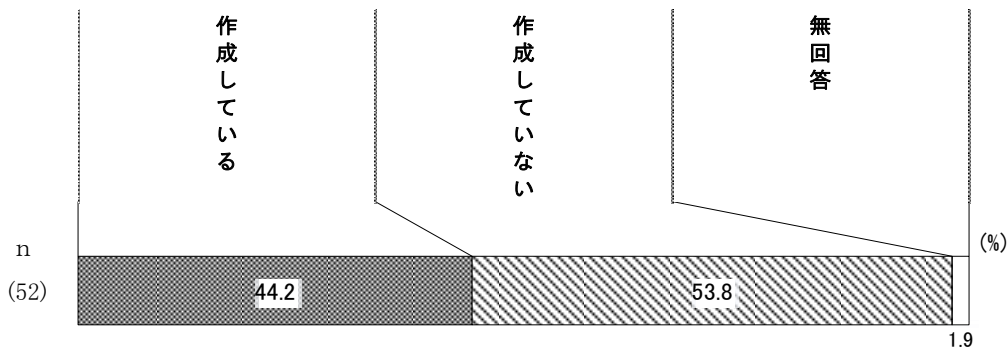
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

災害時に一人で避難ができるかどうか／近所の助けの有無別でみると、“避難できない・わからない／手助けなし・わからない”という層では「知らない」が83.1%となっている。

(9) 個別支援計画作成の有無

問38で「1. 知っている」を選んだ人にうかがいます。

問38-1 個別支援計画作成していますか。(○は1つ)



個別支援計画作成の有無では、「作成している」が44.2%、「作成していない」が53.8%となっている。

(10) 作成していない理由

問38-1で「2. 作成していない」を選んだ人にうかがいます。

問38-2 作成していない理由を具体的に書いてください。

個別支援計画作成していない理由は、具体的に次のような記入がみられた。

【必要ない、考えていない】

- ・「声かけ」程度の支援で、行動できると思うので。(男性・45歳)
- ・今のところ家族と同居なので必要とは感じていない(男性・16歳)
- ・グループホーム入所しているから。(男性・54歳)

【内容に問題がある】

- ・市の個別支援の内容では、作成してもしなくても同じ支援しか受けられないので、わざわざ作成し、プライバシーを公開しなくても良いと思います。(男性・19歳)
- ・作成しても確実に助けて貰える訳ではないので無駄だと思いあきらめました。(女性・9歳)

【知らない】

- ・制度の名称は知っていたものの個別支援計画についての理解が不十分な為。(女性・27歳)

【作成方法が分からない】

- ・何をどう書いたら良いのかの覚え書きノートを配布して頂けたらよいと思う。(男性・39歳)

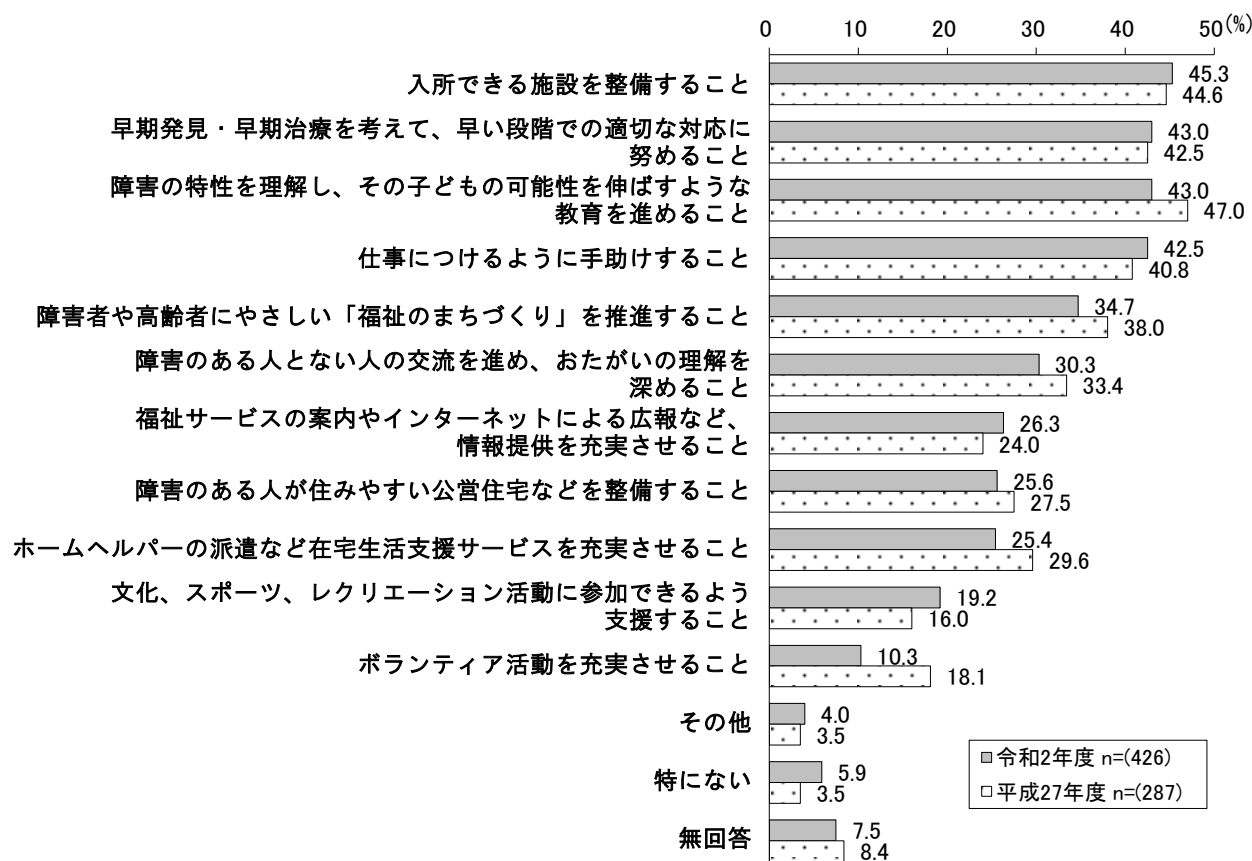
【その他】

- ・避難所で他の人達に迷惑をかけてしまい、親のストレスになるから。(男性・33歳)

## 10. 福祉施策

### (1) 市への要望

問39 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)



市に要望することでは、「入所できる施設を整備すること」が45.3%で最も多く、以下、「早期発見・早期治療を考えて、早い段階での適切な対応に努めること」「障害の特性を理解し、その子どもの可能性を伸ばすような教育を進めること」（ともに43.0%）、「仕事につけるように手助けすること」（42.5%）が僅差で続いている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「ボランティア活動を充実させること」が18.1%から10.3%で7.8ポイント減となっはいるが、上位項目で大きな差異はみられない。

## 1.1. 自由記述

最後になりますが、この調査の質問だけではうまく答えられなかったことや、四街道市の障害者施策に関するご意見やご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にお書きください。

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、延べ148件の意見をいただいた。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

### 【施設関連】

- ・施設が足りていない。入所施設以外の夜間のサービスが皆無。(男性・36歳)
- ・個々の生活習慣等が守られるような施設、公営住宅を作っていただきたいと願います。(男性・49歳)
- ・利用している施設の職員の入れ替わりが激しく不安になります。(女性・9歳)
- ・福祉作業所、日中一時支援や短期入所のサービスが受けられる事業所がもっとあると良い。(女性・27歳)

### 【各種福祉サービス】

- ・本人が自力で通学や通院、生活にかかわる移動の訓練も支援の内容も入れてくほしい。(女性・8歳)
- ・障害のある「子供」にも目を向けて欲しい。お年寄りばかり優遇されているので差別を受けていると感じる。(女性・9歳)
- ・障害者であっても、身体と知的とのサービスがあまりにも違いすぎる。(男性・19歳)
- ・障害者の免除されるサービスが少ないと感じます。(男性・29歳)

### 【療育、教育】

- ・母子家庭なので、地域小学校の学童と同じレベルの預り対応であってほしいと願っています。(男性・12歳)
- ・教育やリハビリ施設が全く充実していない。(女性・10歳)
- ・交流級とサポート学級の担任の連携が不十分。(男性・11歳)

### 【交流、理解】

- ・地域の人達との関わりや理解が深まるような、楽しく気軽に参加しやすいようなイベントや活動がもっと増えるといいと思います。(男性・12歳)

### 【情報】

- ・障害者に対する情報が入るシステムを作ってほしい。(男性・33歳)
- ・成年後見制度は、内容は聞いたことがないので、詳しく調べてほしいです。(男性・47歳)



【手続き、対応】

- ・市の障害者福祉課の場所が、人目が気になる場所になってしまい、話が聞かれていそうで雰囲気がよくない。(女性・39歳)
- ・書類などの更新が多い。何も変化がない時は、省略してもらいたい。(男性・33歳)

【相談】

- ・本人がいつでも相談したい時に相談して、それに対してちゃんと聞いてさまざまな提案をしてくれる窓口の充実。(女性・18歳)

【感謝】

- ・今もとてもよくやってくれていて助かっています。今後も色々と力になって頂けると助かります。(女性・16歳)
- ・いつも窓口で親切に対応してくださりありがとうございます。(女性・7歳)

【その他】

- ・市営住宅の入居について、障害者の優先入居枠を作ってほしい。(女性・48歳)
- ・現行の成年後見制度は人権や財産の侵害や犯罪すら起こりうる制度となっている。市で促進したり勧めないでほしい。(男性・17歳)
- ・福祉タクシー助成だけではなく自動車燃料費助成もやってもらいたいです。(男性・11歳)



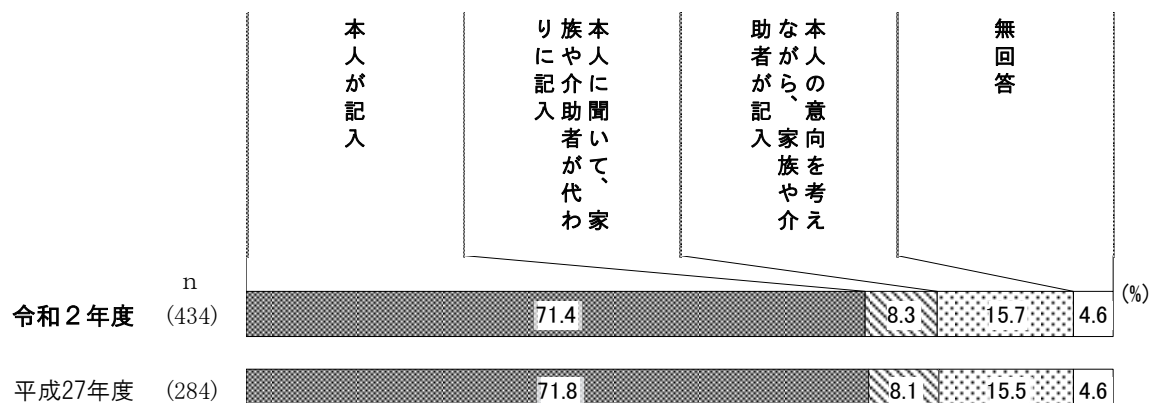
## 第4章 調査結果の詳細／精神障害者



## 1. 回答者属性

### (1) 調査票記入者

問39 この調査票はどなたが記入されましたか。(〇は1つ)



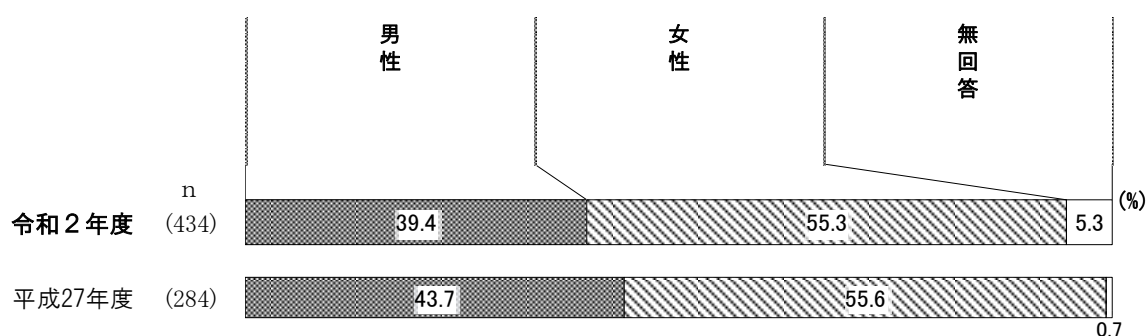
調査票記入者では、「本人が記入」が71.4%を占め、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が15.7%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が8.3%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

### (2) 性別と年齢

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。(令和2年10月1日現在)

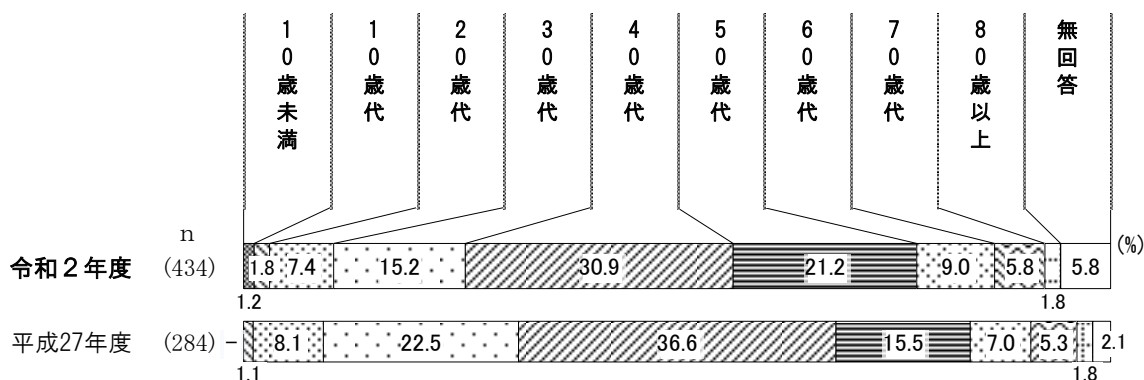
#### ①性別



性別では、「男性」が39.4%、「女性」が55.3%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

②年齢

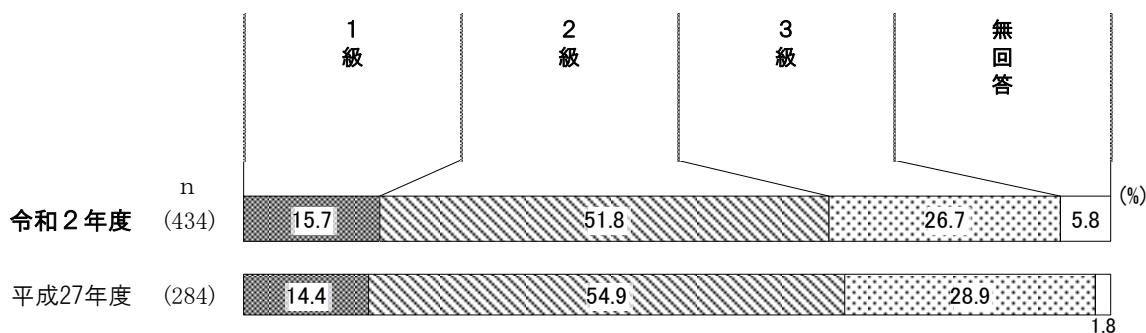


年齢では、「40歳代」が30.9%で最も多く、以下、「50歳代」(21.2%)、「30歳代」(15.2%)、「60歳代」(9.0%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「50歳代」では5.7ポイント増加し、「30歳代」で7.3ポイント、「40歳代」で5.7ポイント、それぞれ減少している。

(3) 障害の程度

問2 「精神障害者保健福祉手帳」に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

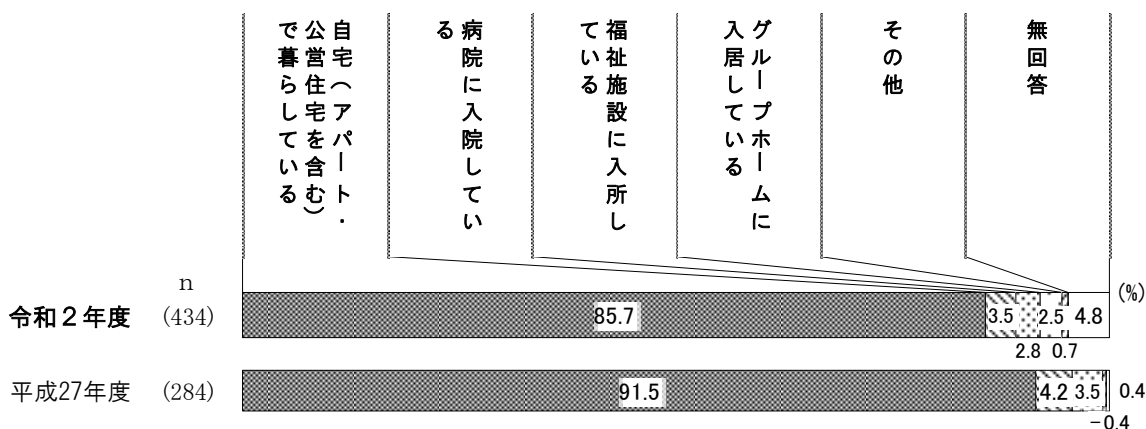


障害の程度では、「2級」が51.8%で最も多く、「3級」が26.7%、「1級」が15.7%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(4) 生活場所

問3 あなたは現在、どこで生活していますか。(○は1つ)

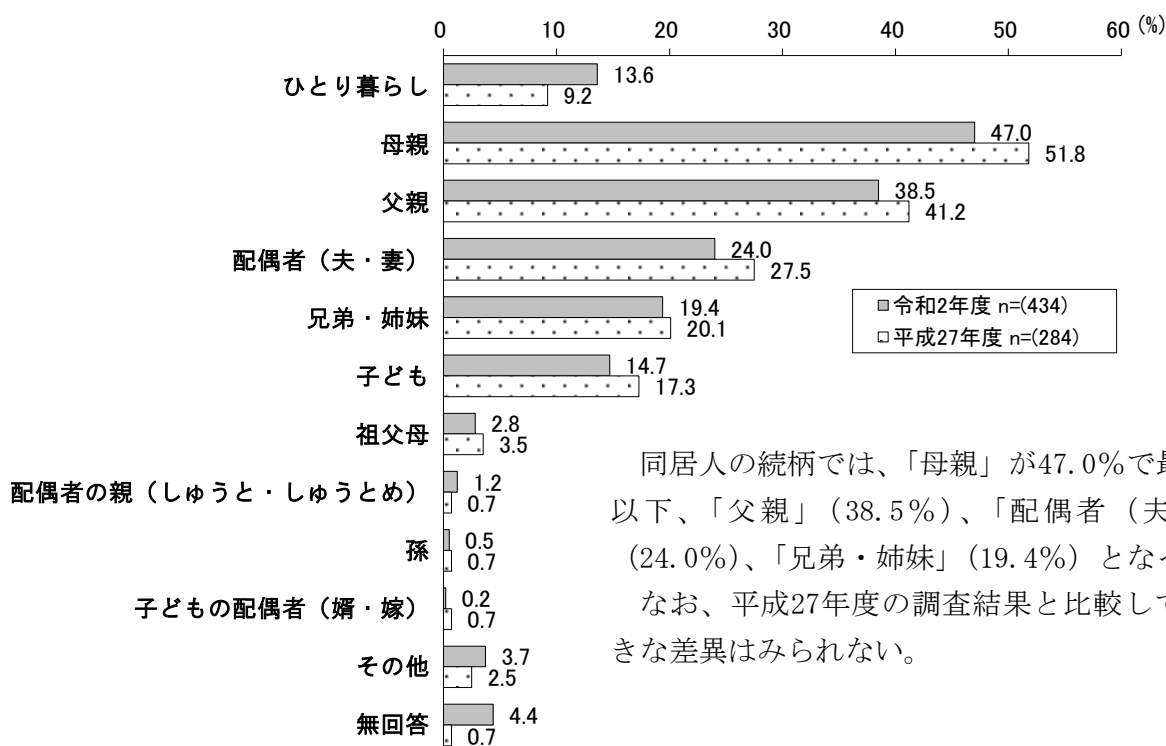


※選択肢「福祉施設に入所している」「グループホームに入居している」は、平成27年度調査では「福祉施設(グループホーム含む)に入居している」となっていて、その回答率3.5%は、便宜上、「福祉施設に入所している」として扱っている。したがって「グループホームに入居している」は回答者0としている。

生活場所では、「自宅(アパート・公営住宅を含む)で暮らしている」が85.7%を占めている。平成27年度の調査結果と比較すると、「自宅(アパート・公営住宅を含む)で暮らしている」が5.8ポイント減となっている。

(5) 同居人の続柄

問4 現在一緒にお住まいの家族はどなたですか。あなたからみた関係であてはまる人すべてに○をつけてください。施設・病院に入院・入所している人は、退院・退所したときのことを想定してお答えください。(○はいくつでも)



同居人の続柄では、「母親」が47.0%で最も多く、以下、「父親」(38.5%)、「配偶者(夫・妻)」(24.0%)、「兄弟・姉妹」(19.4%)となっている。

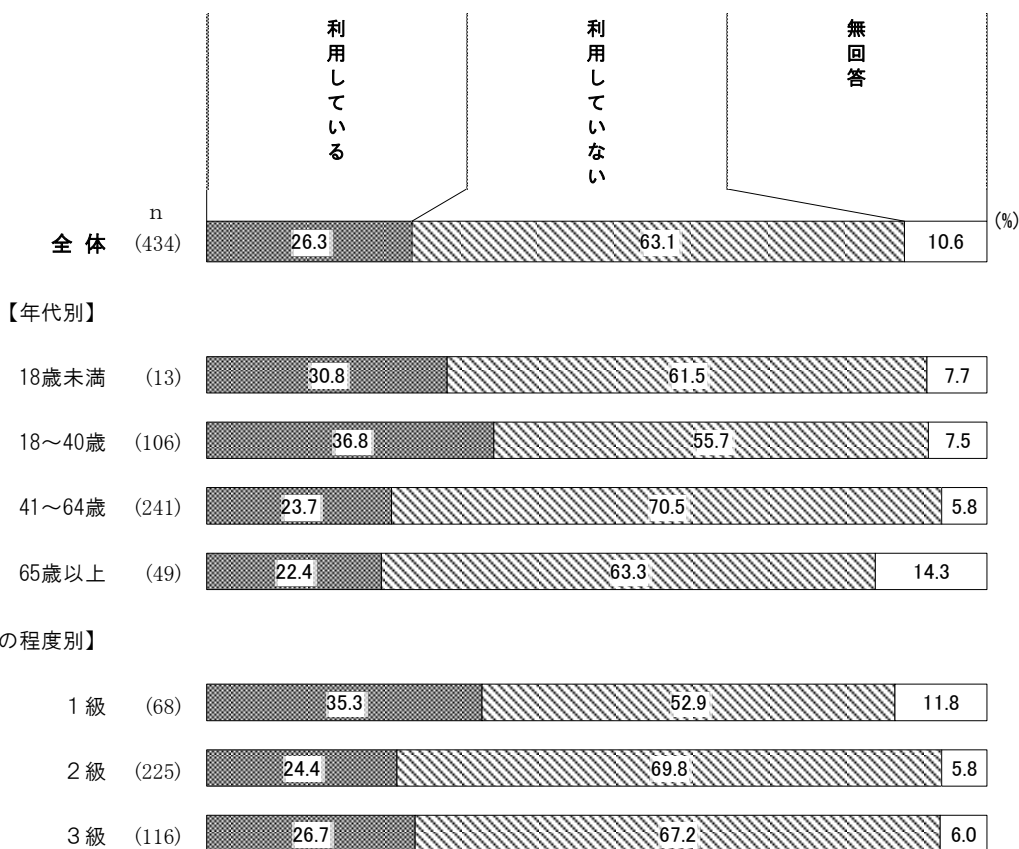
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、“18～40歳”で「母親」と「父親」が6割を超え多くなっている。

		n	ひとり暮らし	母親	父親	配偶者 (夫・妻)	兄弟・姉妹	子ども	祖父母	配偶者の親 (しゅうと・しゅうとめ)	孫	子どもの配偶者 (婿・嫁)	その他	無回答
全体		434	13.6	47.0	38.5	24.0	19.4	14.7	2.8	1.2	0.5	0.2	3.7	4.4
年代別	18歳未満	13	-	92.3	100.0	-	84.6	-	-	-	-	-	-	-
	18～40歳	106	10.4	66.0	65.1	10.4	34.0	9.4	10.4	0.9	-	-	4.7	-
	41～64歳	241	16.6	49.4	34.0	26.1	14.1	14.5	0.4	1.7	-	-	2.9	0.4
	65歳以上	49	16.3	2.0	-	55.1	2.0	36.7	-	-	4.1	2.0	8.2	2.0

(6) 障害福祉サービスの利用状況

問5 あなたは障害者総合支援法による障害福祉サービスを利用していますか。(○は1つ)



障害福祉サービスの利用状況では、「利用している」が26.3%、「利用していない」が63.1%となっている。

年代別でみると、“18～40歳”で「利用している」が36.8%と多くなっている。

障害の程度別でみると、“1級”で「利用している」が35.3%と多くなっている。



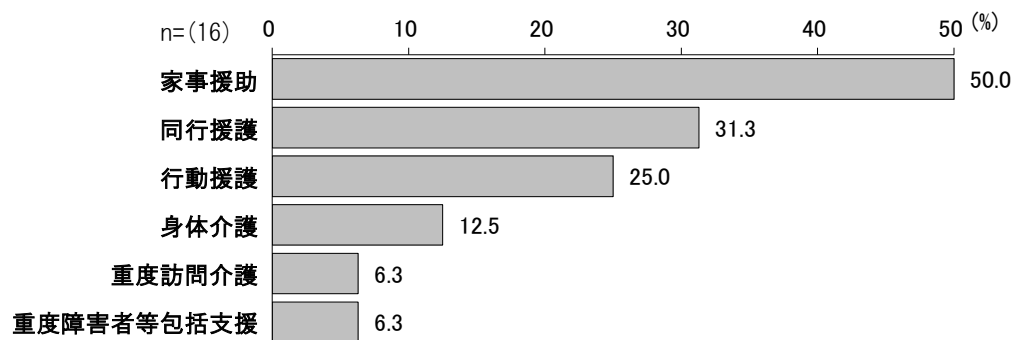
(7) 利用しているサービス

問5で「1. 利用している」を選んだ人にうかがいます。

問5-1 利用しているサービスに○をつけてください。(○はいくつでも)

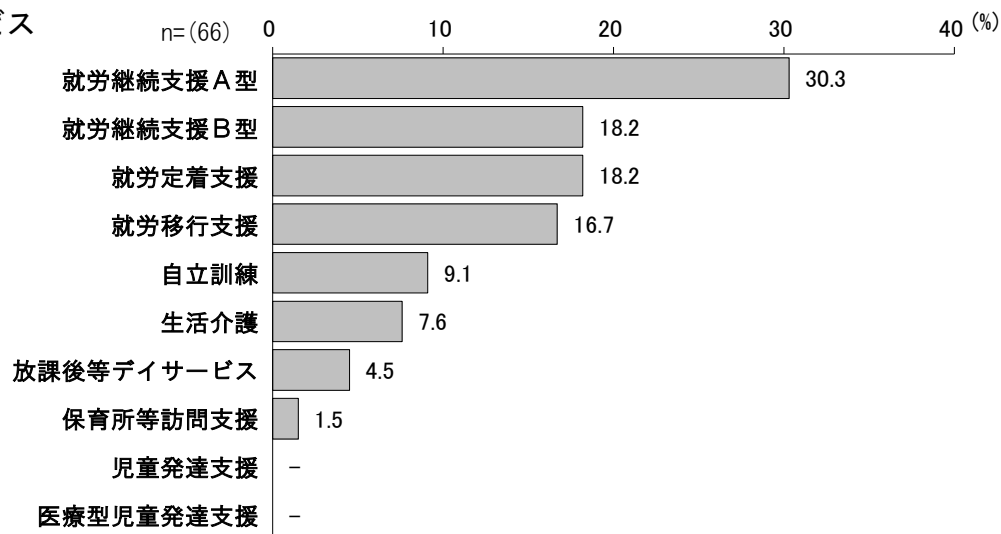
※問5-1は、無回答を除いて集計している

①訪問系サービス



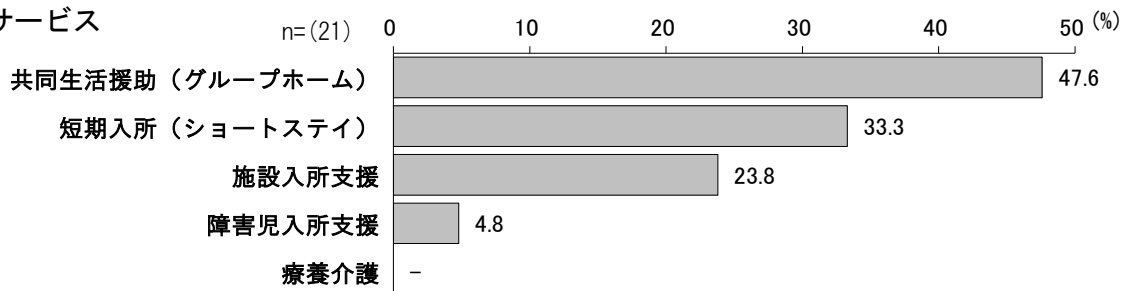
訪問サービス系は回答者数が少ないので参考までとしておくが、「家事援助」が50.0%、「同行援護」は31.3%、「行動援護」は25.0%となっている。

②日中活動系サービス



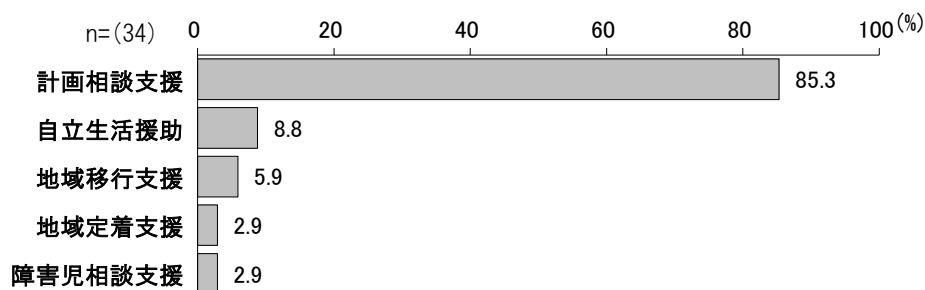
日中活動系サービスでは、「就労継続支援A型」が30.3%で最も多く、以下、「就労継続支援B型」「就労定着支援」(ともに18.2%)、「就労移行支援」(16.7%)となっている。

③居住系サービス



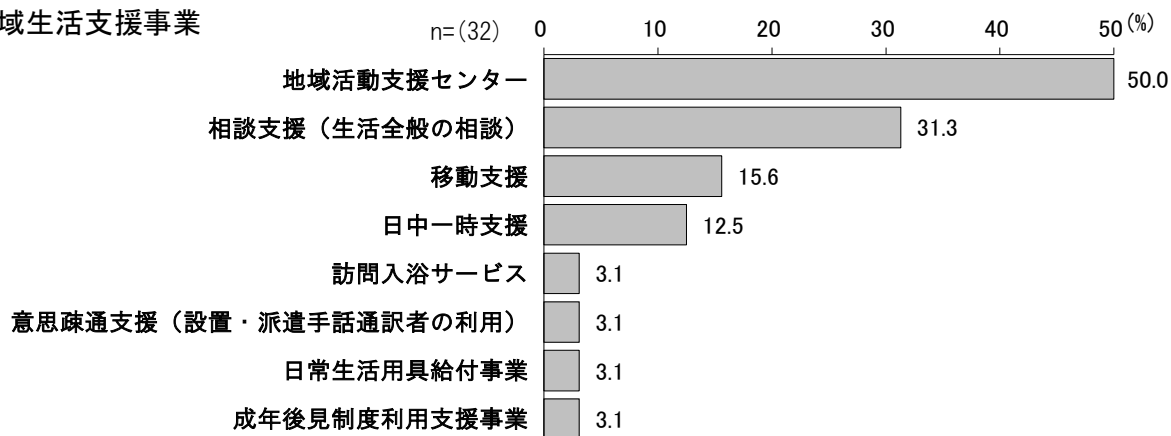
居住系サービスは回答者数が少ないので参考までとしておくが、「共同生活援助（グループホーム）」が47.6%となっている。

④相談支援



相談支援では、「計画相談支援」が85.3%を占めている。

⑤地域生活支援事業

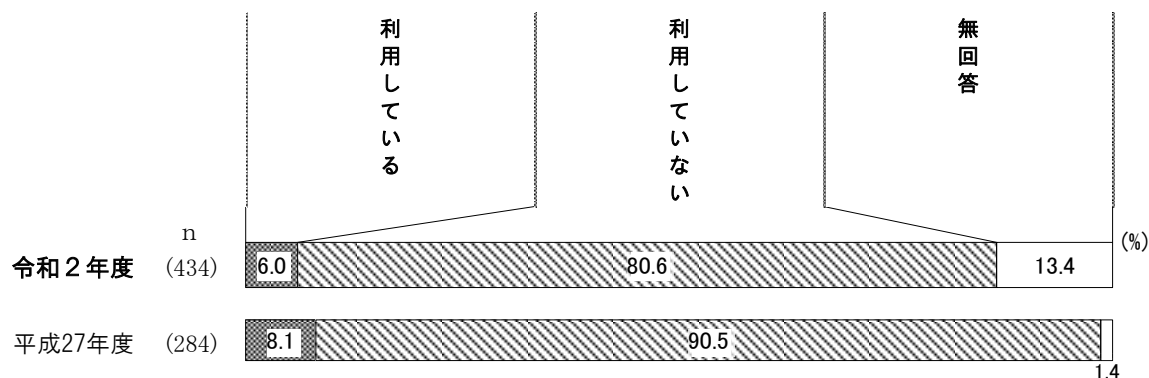


地域生活支援事業では、「地域活動支援センター」が50.0%で最も多く、「相談支援（生活全般の相談）」（31.3%）が次いでいる。

(8) その他の介護保険サービスの利用状況

問5-2 障害福祉サービスの他に介護保険によるサービスを利用していますか。

(○は1つ)



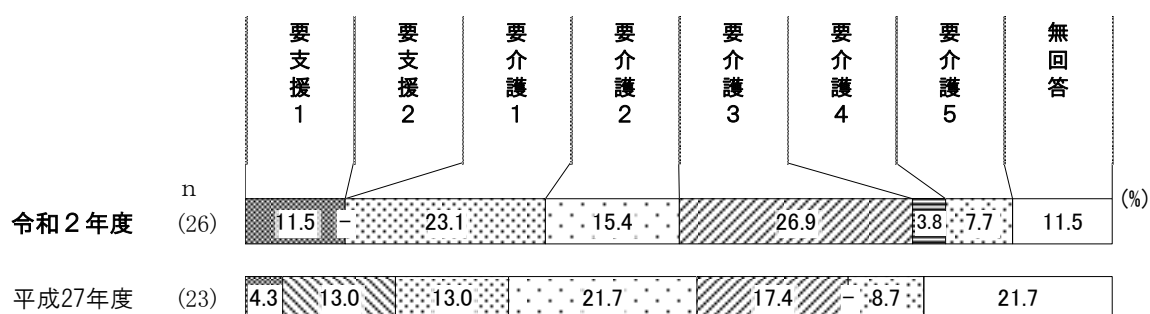
その他の介護保険サービスの利用状況では、「利用している」が6.0%、「利用していない」が80.6%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「利用していない」が9.9ポイント減となっている。

(9) 該当する要介護度

問5-2で「1. 利用している」を選んだ人にうかがいます。

問5-3 該当する要介護度はどれですか。(○は1つ)

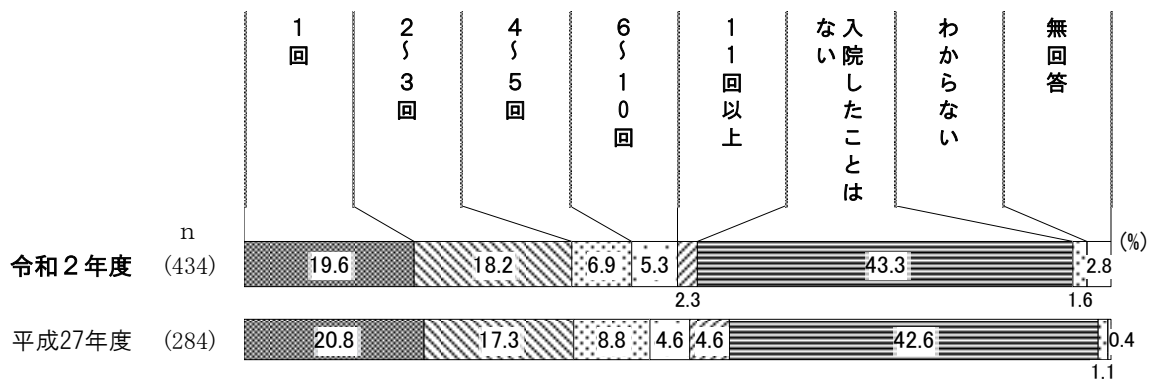


該当する要介護度は、回答者数が少ないことに留意する必要があるが、「要介護3」が26.9%、「要介護1」は23.1%、「要介護2」は15.4%、「要支援1」は11.5%となっている。

## 2. 精神科または神経科の病院への入院

### (1) 入院回数

問6 今までに何回くらい入院したことがありますか。(〇は1つ)



精神科への入院回数では、「1回」が19.6%、「2～3回」が18.2%となっている。一方、「入院したことはない」は43.3%だった。

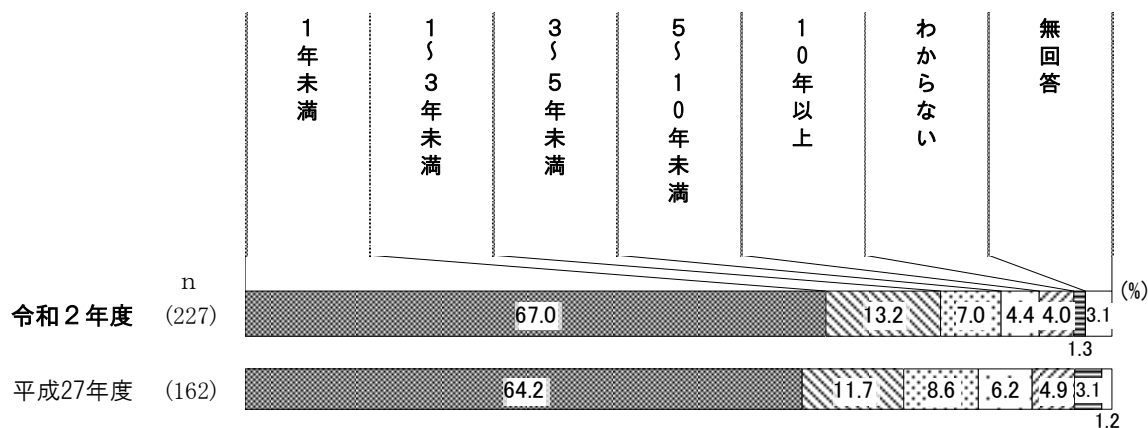
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

### (2) これまでの入院期間

入院したことがある人にうかがいます。

問6-1 これまでの入院期間を全部合わせるとどれくらいになりますか。

(〇は(1)～(7)にそれぞれ1つずつ)



これまでの入院期間では、「1年未満」が67.0%を占め、「1～3年未満」が13.2%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、“18～40歳”で「1年未満」が81.0%と多くなっている。  
 障害の程度別でみると、“3級”で「1年未満」が86.8%と多くなっている。

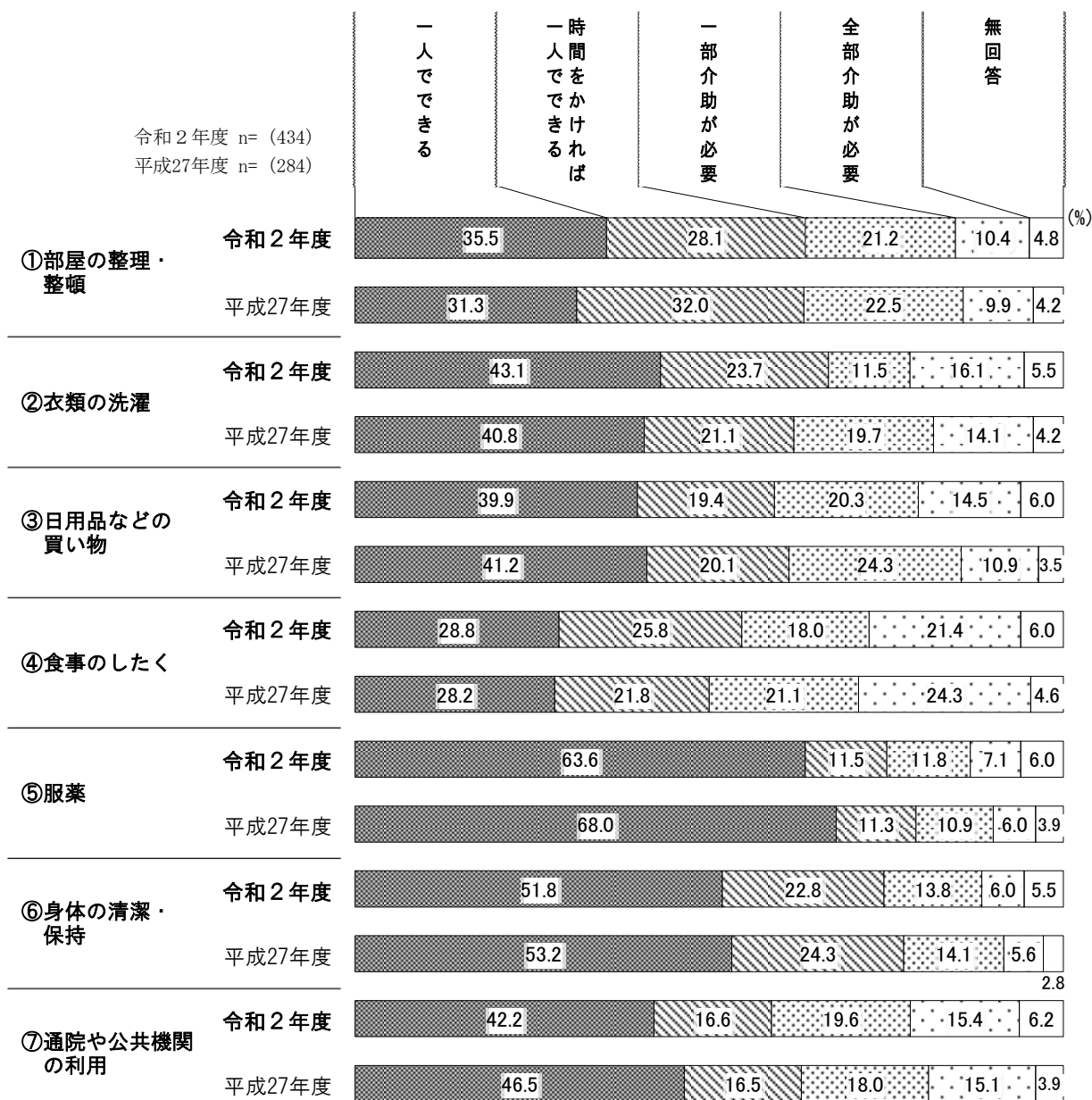
(%)

		n	1年未満	1～3年 未満	3～5年 未満	5～10年 未満	10年以 上	わからな い	無回答
全 体		227	67.0	13.2	7.0	4.4	4.0	1.3	3.1
年 代 別	18歳未満	1	-	100.0	-	-	-	-	-
	18～40歳	42	81.0	7.1	-	4.8	-	2.4	4.8
	41～64歳	143	64.3	15.4	8.4	4.2	4.9	1.4	1.4
	65歳以上	28	60.7	10.7	10.7	7.1	3.6	-	7.1
程 度 害 別 の	1級	46	52.2	13.0	10.9	8.7	13.0	-	2.2
	2級	130	66.9	13.8	7.7	3.8	1.5	2.3	3.8
	3級	38	86.8	10.5	-	2.6	-	-	-

### 3. 介助

#### (1) 各種生活状況

問7 あなたは日常の生活で、次の(1)～(7)のような生活動作をするときに、どれくらい介助が必要ですか。(○は(1)～(7)にそれぞれ1つずつ)



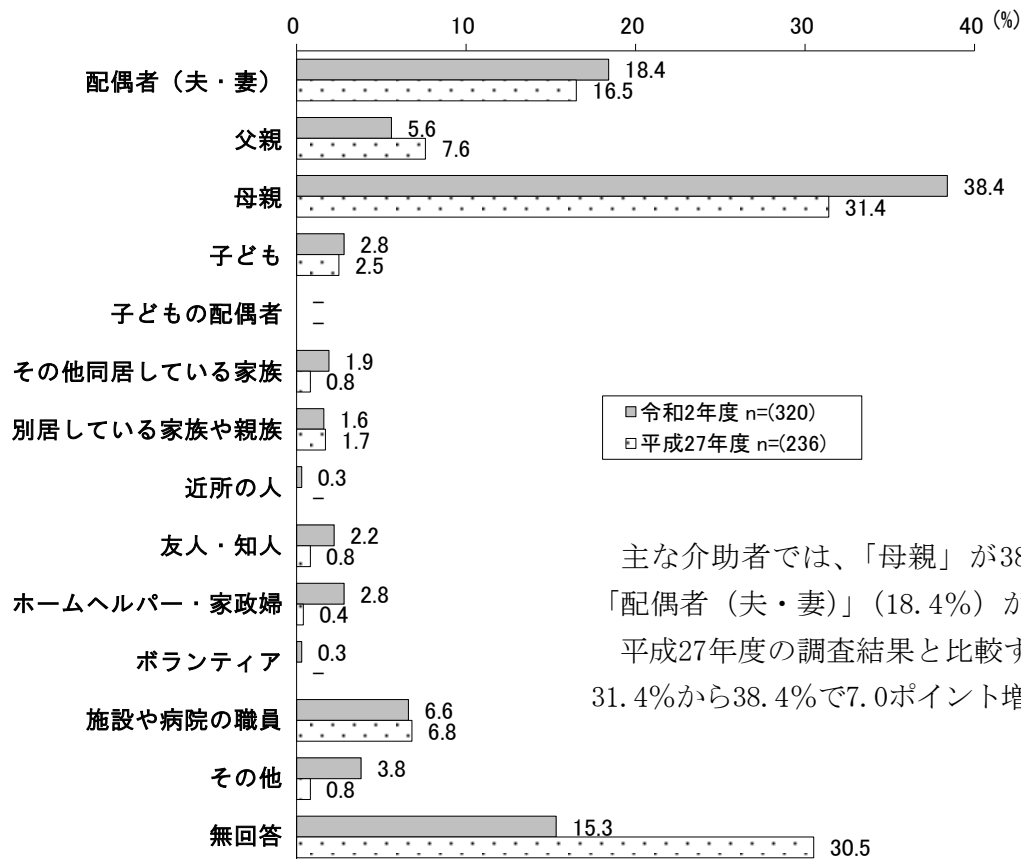
各種の生活状況を見ると、「一人でできる」が最も多いのは〈服薬〉で63.6%となっている。また、少ないのは〈食事のしたく〉の28.8%で、その「全部介助が必要」は21.4%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、〈衣類の洗濯〉の一部で差異がみられるが、特筆すべき点は認められない。

(2) 主な介助者

問7の(1)～(7)の中で、1つでも2、3、4に○をつけた人に伺います。

問7-1 主な介助者はどなたですか。(○は1つ)



主な介助者では、「母親」が38.4%で最も多く、「配偶者(夫・妻)」(18.4%)が次いでいる。平成27年度の調査結果と比較すると、「母親」が31.4%から38.4%で7.0ポイント増となっている。

年代別でみると、「18～40歳」で「母親」が54.8%と多く、「65歳以上」では「配偶者(夫・妻)」、「施設や病院の職員」、「子ども」が多くなっている。

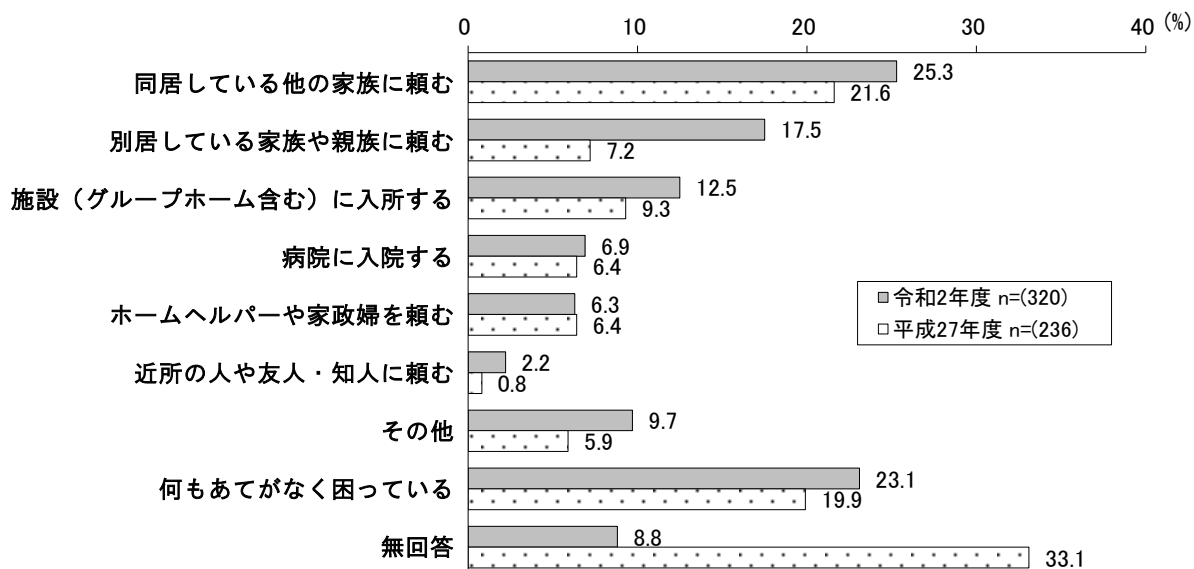
		n	母親	配偶者(夫・妻)	施設や病院の職員	父親	子ども	ホームヘルパー・家政婦	友人・知人
全体		320	38.4	18.4	6.6	5.6	2.8	2.8	2.2
年代別	18歳未満	9	66.7	-	-	22.2	-	-	-
	18～40歳	84	54.8	8.3	-	8.3	1.2	2.4	2.4
	41～64歳	170	38.8	19.4	5.3	4.7	1.8	3.5	2.4
	65歳以上	35	-	40.0	28.6	-	14.3	-	-
		n	その他同居している家族	別居している家族や親族	近所の人	ボランティア	子どもの配偶者	その他	無回答
全体		320	1.9	1.6	0.3	0.3	-	3.8	15.3
年代別	18歳未満	9	-	-	-	-	-	-	11.1
	18～40歳	84	1.2	-	-	-	-	6.0	15.5
	41～64歳	170	0.6	2.4	0.6	0.6	-	3.5	16.5
	65歳以上	35	2.9	2.9	-	-	-	-	11.4

(3) 主な介助者がいない場合の対処法

問7の(1)～(7)の中で、1つでも2、3、4に○をつけた人に伺います。

問7-2 いつも介助している人が介助できなくなったとき、どうされますか。

(○は主なもの2つ以内)



主な介助者がいない場合の対処法では、「同居している他の家族に頼む」が25.3%で最も多く、以下、「別居している家族や親族に頼む」(17.5%)、「施設（グループホーム含む）に入所する」(12.5%)となっている。一方、「何もあてがなく困っている」は23.1%だった。

平成27年度の調査結果と比較すると、「別居している家族や親族に頼む」が7.2%から17.5%で10.3ポイント増となっている。

年代別で見ると、“65歳以上”で「施設（グループホーム含む）に入所する」、「ホームヘルパーや家政婦を頼む」が多くなっている。

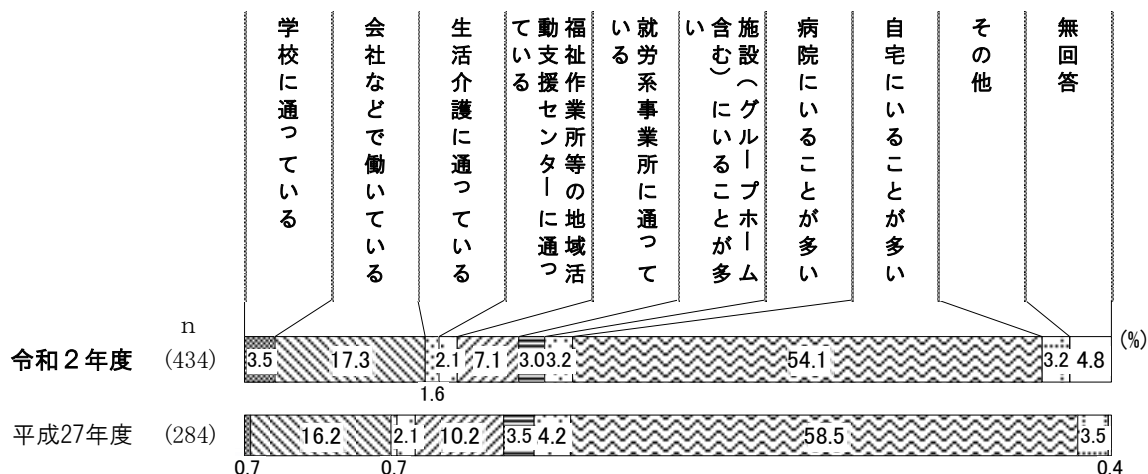
		n	同居している他の家族に頼む	別居している家族や親族に頼む	施設(グループホーム含む)に入所する	病院に入院する	ホームヘルパーや家政婦を頼む	近所の人や友人・知人に頼む	その他	何もあてがなく困っている	無回答
全体		320	25.3	17.5	12.5	6.9	6.3	2.2	9.7	23.1	8.8
年代別	18歳未満	9	55.6	66.7	-	-	-	-	-	11.1	-
	18～40歳	84	32.1	17.9	7.1	7.1	4.8	4.8	7.1	26.2	6.0
	41～64歳	170	24.1	14.7	10.0	7.6	5.3	1.2	12.9	25.9	9.4
	65歳以上	35	8.6	14.3	40.0	8.6	17.1	-	2.9	11.4	8.6



## 4. 日中の過ごし方、就労状況

### (1) 平日日中の過ごし方

問8 あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(〇は1つ)



平日日中の過ごし方では、「自宅に多い」が54.1%と多く、「会社などで働いている」(17.3%)が次いでいる。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

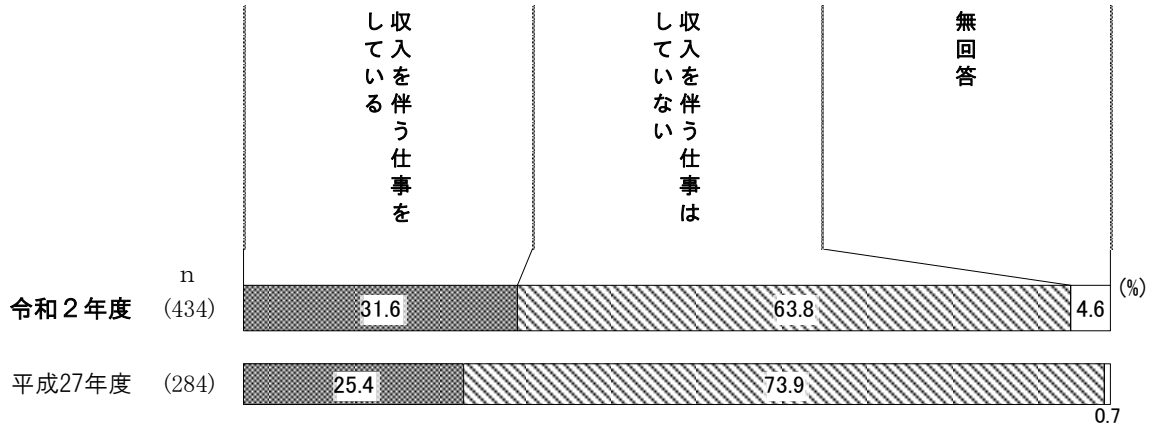
年代別にみると、“65歳以上”で「施設(グループホーム含む)に多い」が20.4%と多くなっている。

		n	学校に通っている	会社などで働いている	生活介護に通っている	福祉作業所等の地域活動支援センターに通っている	就労系事業所に通っている	施設(グループホーム含む)に多い	病院に多い	自宅に多い	その他	無回答
全体		434	3.5	17.3	1.6	2.1	7.1	3.0	3.2	54.1	3.2	4.8
年代別	18歳未満	13	92.3	-	-	-	-	-	-	7.7	-	-
	18~40歳	106	0.9	24.5	1.9	1.9	11.3	-	0.9	53.8	1.9	2.8
	41~64歳	241	0.4	17.8	0.8	2.5	7.5	0.8	3.7	56.8	3.7	5.8
	65歳以上	49	-	-	6.1	-	-	20.4	4.1	59.2	6.1	4.1

## 5. 就労状況

### (1) 就業状況

問9 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)



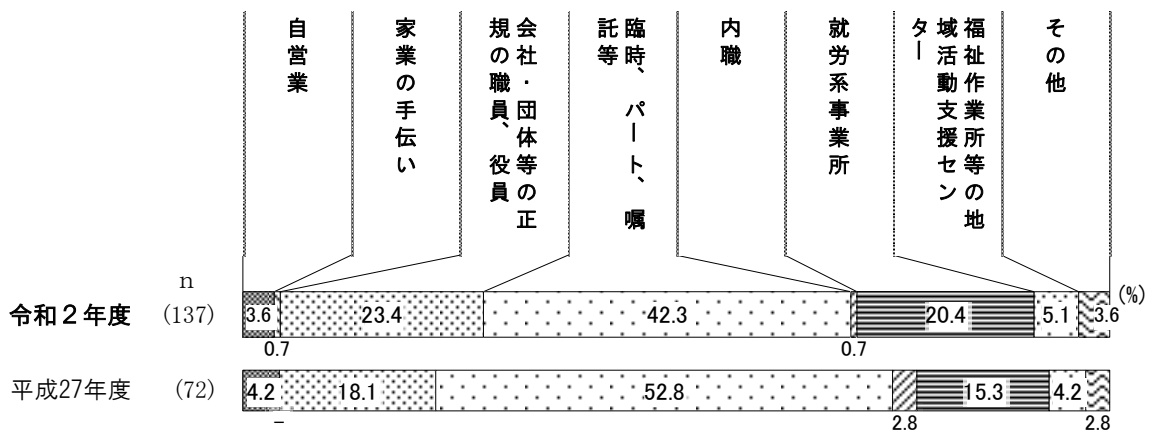
就業状況では、「収入を伴う仕事をしている」が31.6%、「収入を伴う仕事はしていない」が63.8%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「収入を伴う仕事をしている」が6.2ポイント増加し、それに伴い「収入を伴う仕事はしていない」は10.1ポイントの減少となっている。

### (2) 仕事の形態

問9で「1. 収入を伴う仕事をしている」を選んだ人にうかがいます。

問9-1 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)



※選択肢「福祉作業所等の地域活動支援センター」は、平成27年度調査では「福祉作業所」となっている。

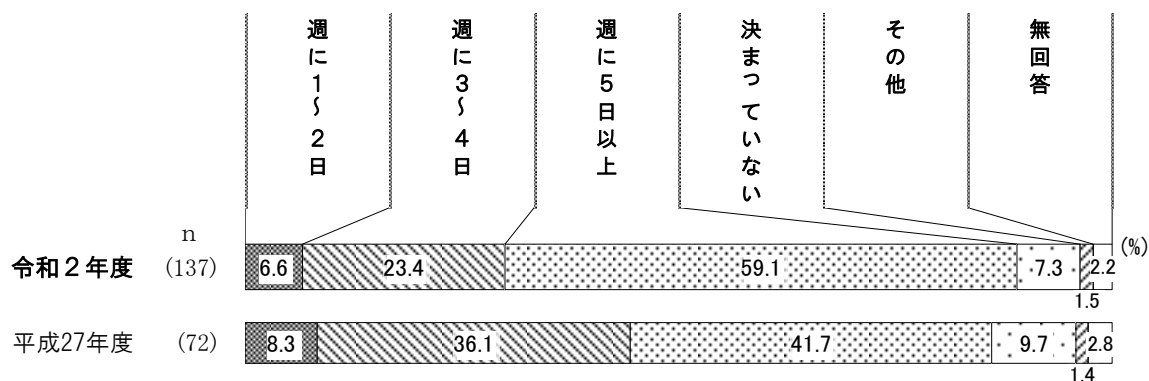
仕事の形態では、「臨時、パート、嘱託等」が42.3%と多く、「会社・団体等の正規の職員、役員」が23.4%、「就労系事業所」が20.4%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「会社・団体等の正規の職員、役員」は5.3ポイント、「就労系事務所」は5.1ポイント増加している。一方、「臨時、パート、嘱託等」は10.5ポイント減少している。

(3) 1週間の勤務日数

問9で「1. 収入を伴う仕事をしている」を選んだ人にかかっています。

問9-2 週に何日くらい働いていますか。(〇は1つ)



1週間の勤務日数では、「週に5日以上」が59.1%で最も多く、「週に3~4日」(23.4%)が次いでいる。

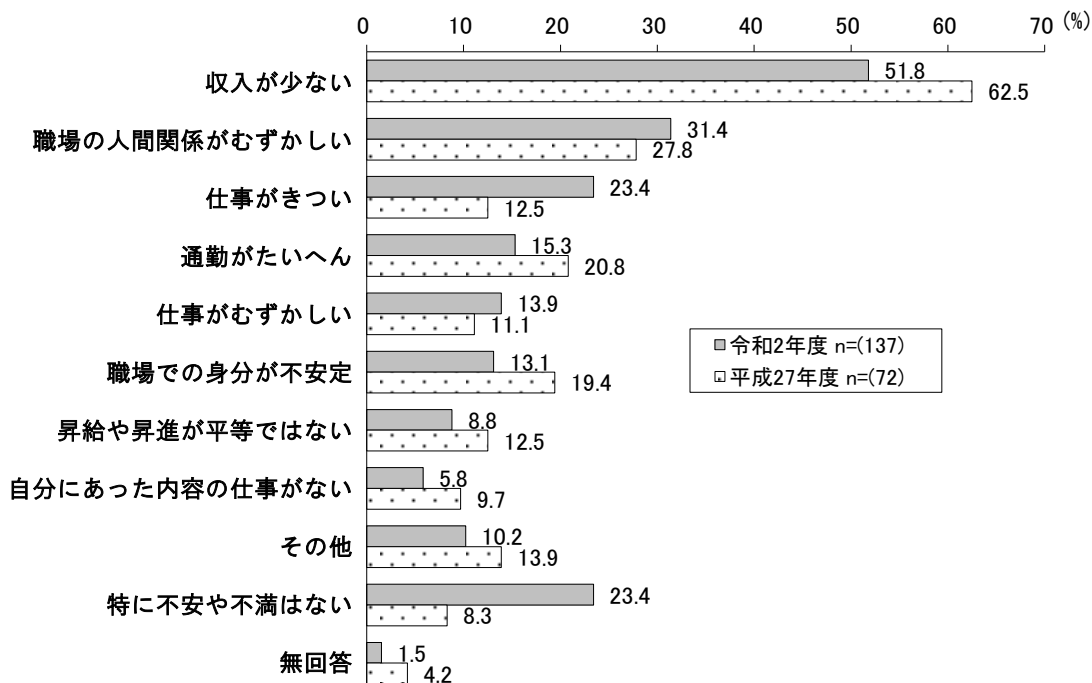
平成27年度の調査結果と比較すると、「週に5日以上」が41.7%から59.1%で17.4ポイント増、「週に3~4日」が36.1%から23.4%で12.7ポイント減となっている。

仕事の形態別で見ると、形態を問わず「週に5日以上」が多くなっている。

		n	週に1~2日	週に3~4日	週に5日以上	決まっていない	その他	無回答
全体		137	6.6	23.4	59.1	7.3	1.5	2.2
仕事の形態別	自営業	5	20.0	20.0	-	60.0	-	-
	家業の手伝い	1	-	-	-	100.0	-	-
	会社・団体等の正規の職員、役員	32	-	15.6	84.4	-	-	-
	臨時、パート、嘱託等	58	5.2	36.2	46.6	6.9	1.7	3.4
	内職	1	-	-	100.0	-	-	-
	就労系事業所	28	3.6	14.3	71.4	3.6	3.6	3.6
	福祉作業所等の地域活動支援センター	7	28.6	-	57.1	14.3	-	-
	その他	5	40.0	20.0	40.0	-	-	-

(4) 仕事への不安や不満

問9で「1. 収入を伴う仕事をしている」を選んだ人にかがいます。  
 問9-3 仕事をする上で不安や不満がありますか。(○はいくつでも)



仕事をする上で不安や不満では、「収入が少ない」が51.8%で最も多く、以下、「職場の人間関係がむずかしい」(31.4%)、「仕事がきつい」(23.4%)、「通勤がたいへん」(15.3%)となっている。一方、「特に不安や不満はない」は23.4%だった。

平成27年度の調査結果と比較すると、「特に不安や不満はない」が8.3%から23.4%で15.1ポイント増となっている。また、「収入が少ない」は62.5%から51.8%で10.7ポイント減となっている。

障害の程度別でみると、「2級」と「3級」で大きな差異はみられない。

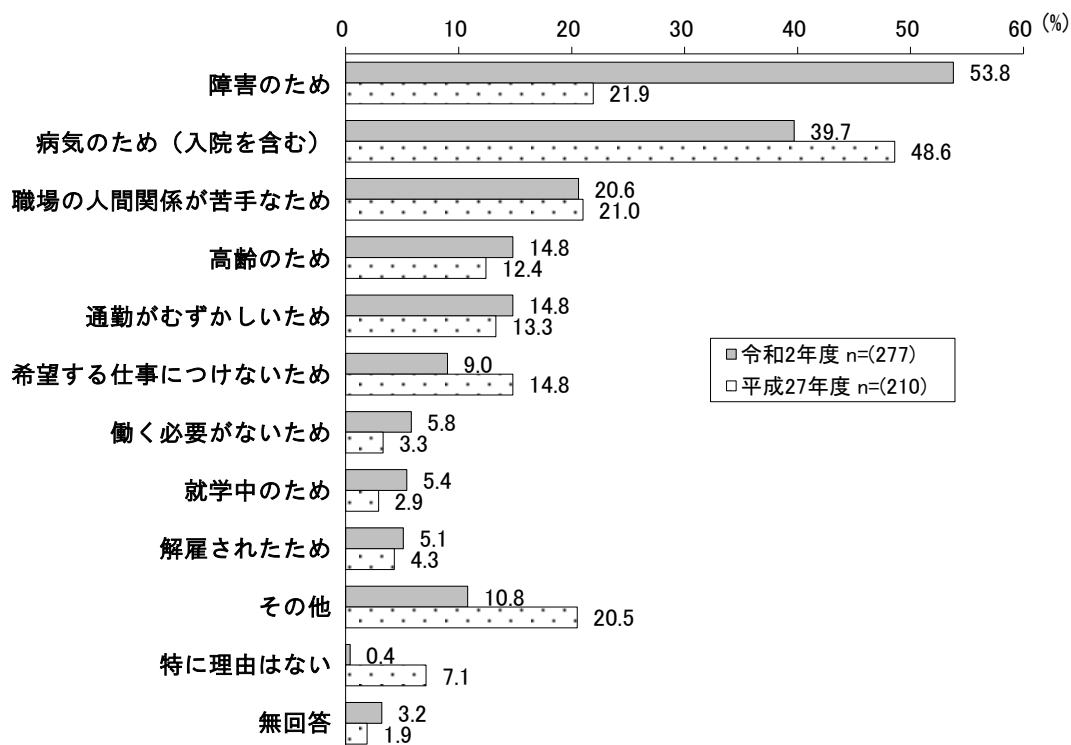
仕事の形態別でみると、「会社・団体等の正規の職員、役員」で「職場の人間関係がむずかしい」や「仕事がむずかしい」が比較的多くなっている。

		n	収入が 少ない	職場の 人間関 係がむず かしい	仕事が きつい	通勤がた いへん	仕事がむ ずかしい	職場での 身分が 不安定	昇給や 昇進が 平等では ない	自分にあ った内 容の仕 事がない	その他	特に不安 や不満は ない	無回答
全体		137	51.8	31.4	23.4	15.3	13.9	13.1	8.8	5.8	10.2	23.4	1.5
障害 程度 別	1級	5	60.0	20.0	-	20.0	20.0	-	20.0	-	40.0	20.0	-
	2級	60	53.3	26.7	21.7	13.3	8.3	10.0	5.0	5.0	10.0	25.0	1.7
	3級	64	48.4	32.8	26.6	15.6	17.2	14.1	9.4	7.8	9.4	25.0	1.6
仕事 の形 態別	自営業	5	40.0	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	60.0	-
	家業の手伝い	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	会社・団体等の正規の 職員、役員	32	46.9	43.8	31.3	15.6	28.1	18.8	21.9	3.1	12.5	21.9	-
	臨時、パート、嘱託等	58	60.3	25.9	24.1	15.5	10.3	13.8	5.2	8.6	5.2	17.2	-
	内職	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	就労系事業所	28	50.0	35.7	21.4	17.9	10.7	14.3	7.1	3.6	17.9	28.6	7.1
	福祉作業所等の地域活動 支援センター	7	42.9	42.9	-	14.3	-	-	-	14.3	-	28.6	-
その他	5	20.0	20.0	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	40.0	-	

## (5) 働いていない理由

問9で「2. 収入を伴う仕事はしていない」を選んだ人にかがいます。

問9-4 あなたが働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



※選択肢「障害のため」は、平成27年度調査では「障害が重いため」となっている。

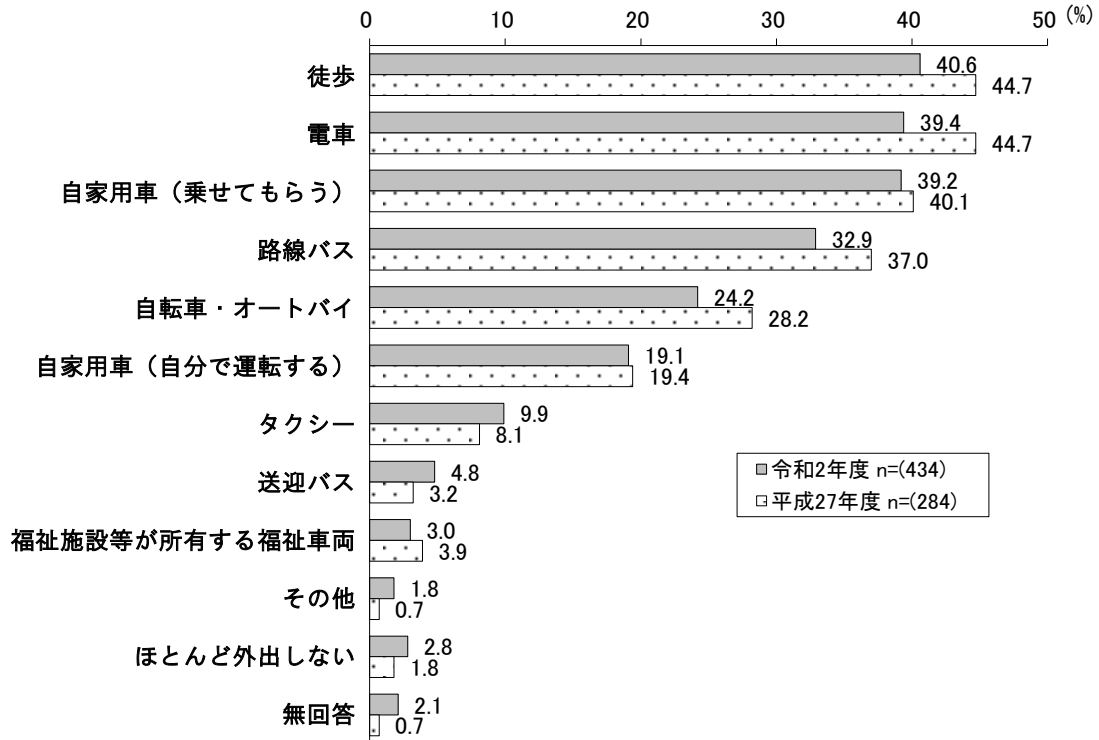
働いていない理由では、「障害のため」が53.8%で最も多く、以下、「病気のため (入院を含む)」(39.7%)、「職場の人間関係が苦手なため」(20.6%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「障害のため」が21.9%から53.8%で31.9ポイントの増加、「病気のため (入院を含む)」は48.6%から39.7%で8.9ポイント、「希望する仕事につけないため」が14.8%から9.0%で5.8ポイント、それぞれ減少している。

## 6. 外出・社会参加の状況

### (1) 外出時の交通手段

問10 外出の際によく利用する交通手段は何ですか。(〇はいくつでも)

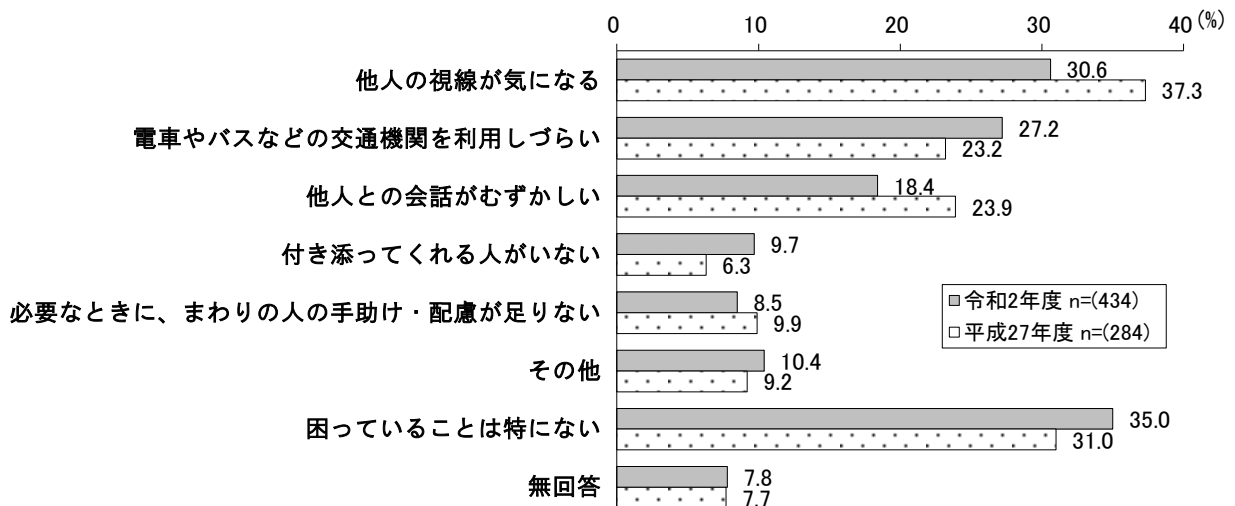


外出の際の交通手段では、「徒歩」が40.6%で最も多く、以下、「電車」(39.4%)、「自家用車(乗せてもらう)」(39.2%)、「路線バス」(32.9%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、上位項目は軒並み減少傾向にあり、「電車」が44.7%から39.4%で5.3ポイント減となっている。

### (2) 外出の際に困っていること

問11 外出の際に困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

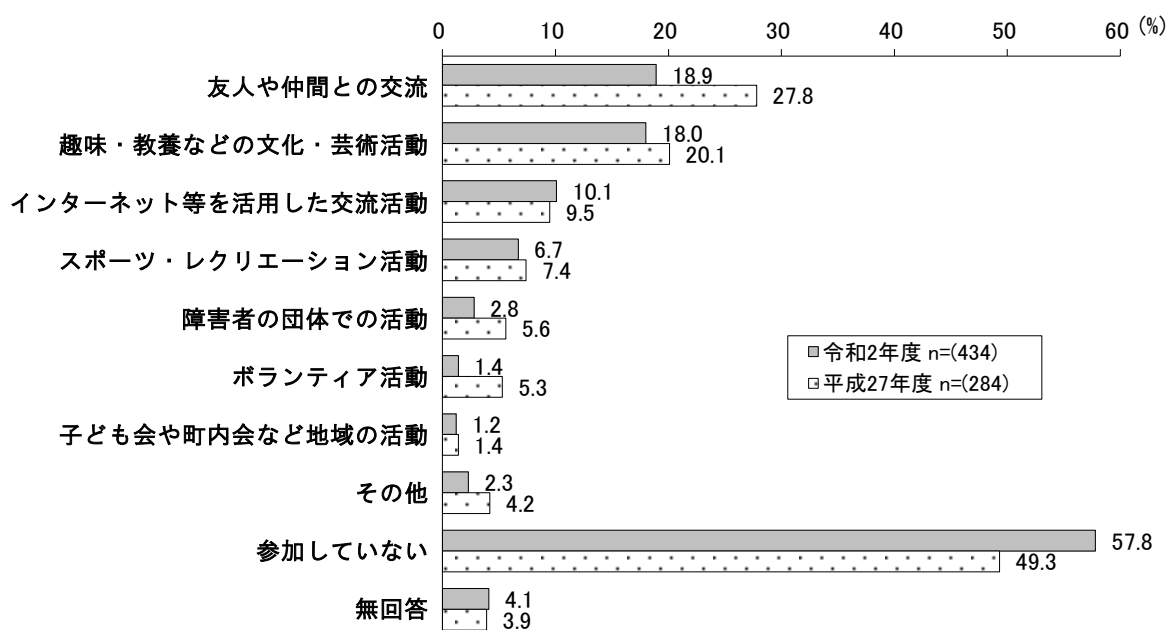


外出の際に困っていることでは、「困っていることは特にない」が35.0%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「他人の視線が気になる」(30.6%)が最も多く、以下、「電車やバスなどの交通機関を利用しづらい」(27.2%)、「他人との会話がむずかしい」(18.4%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「他人の視線が気になる」が37.3%から30.6%で6.7ポイント、「他人との会話がむずかしい」が23.9%から18.4%で5.5ポイント、それぞれ減少している。

### (3) 各種活動状況

問12 あなたは、次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

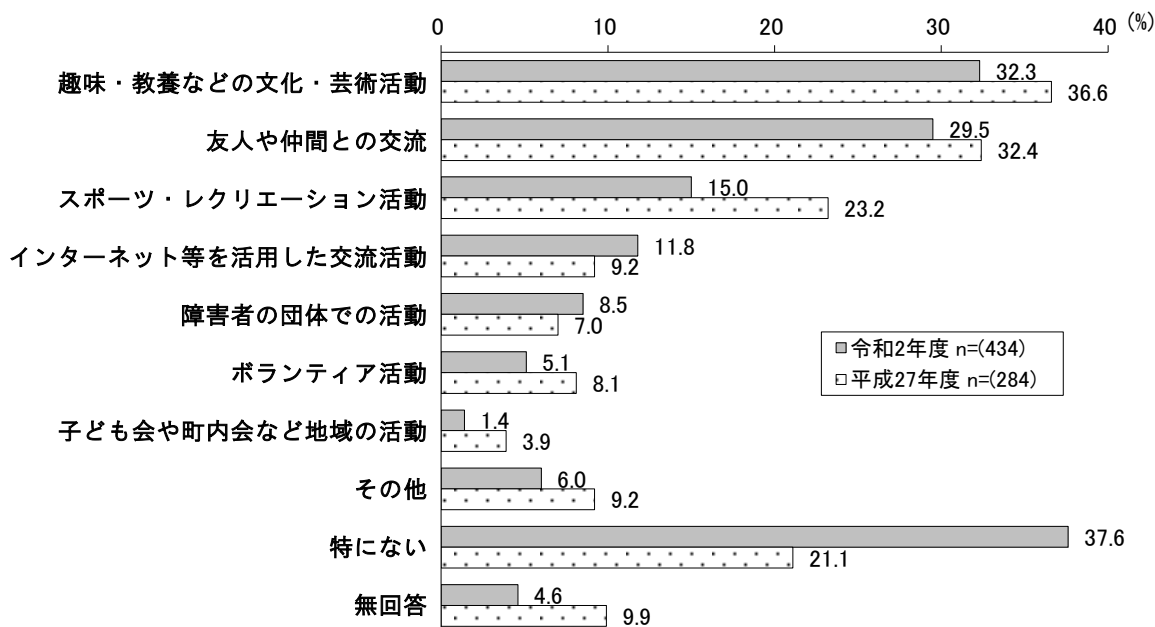


各種活動状況では、「参加していない」が57.8%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「友人や仲間との交流」が18.9%、「趣味・教養などの文化・芸術活動」が18.0%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「参加していない」が49.3%から57.8%で8.5ポイント増加している。また、「友人や仲間との交流」が27.8%から18.9%で8.9ポイント減となっている。

(4) 今後充実させたいこと

問13 今後の生活の中で、どのような面をもっと充実させたいですか。また、新たに始めたいことはありますか。(〇はいくつでも)



今後充実させたいことでは、「特にない」が37.6%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「趣味・教養などの文化・芸術活動」(32.3%)が最も多く、「友人や仲間との交流」(29.5%)が次いでいる。

平成27年度の調査結果と比較すると、「特にない」が21.1%から37.6%で16.5ポイント増加している。また、「スポーツ・レクリエーション活動」が15.0%から23.2%で8.2ポイント減となっている。

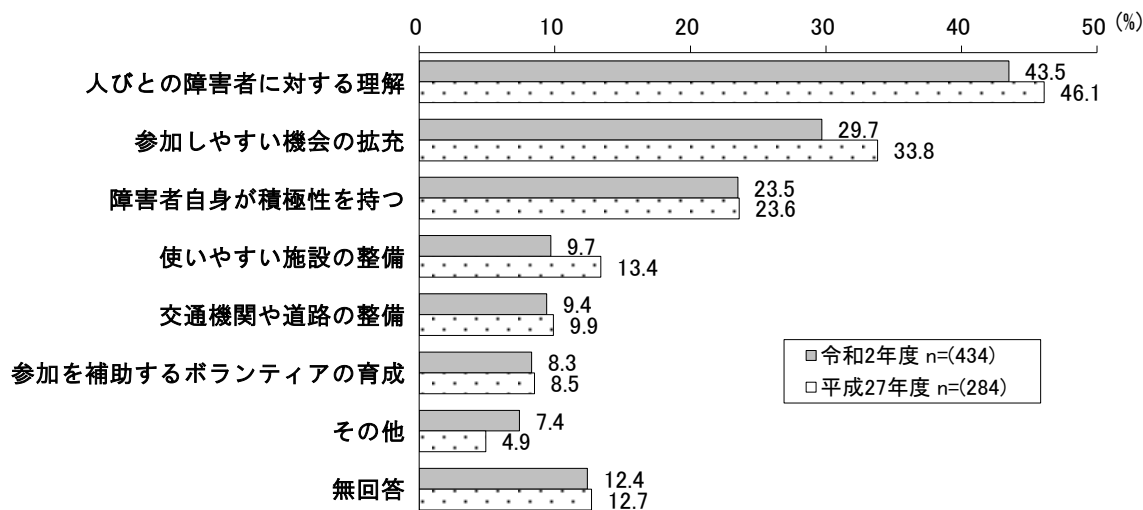
年代別で見ると、「18～40歳」では「インターネット等を活用した交流活動」が23.6%と多く、「65歳以上」では「特にない」が半数を超えている。

		n	趣味・教養などの文化・芸術活動	友人や仲間との交流	スポーツ・レクリエーション活動	インターネット等を活用した交流活動	障害者の団体での活動	ボランティア活動	子ども会や町内会など地域の活動	その他	特にない	無回答
全体		434	32.3	29.5	15.0	11.8	8.5	5.1	1.4	6.0	37.6	4.6
年代別	18歳未満	13	30.8	15.4	7.7	23.1	-	-	-	-	46.2	-
	18～40歳	106	40.6	38.7	13.2	23.6	12.3	6.6	1.9	10.4	27.4	1.9
	41～64歳	241	32.4	28.6	16.6	7.5	6.6	5.4	1.7	5.8	39.0	4.1
	65歳以上	49	14.3	14.3	10.2	6.1	6.1	-	-	-	51.0	14.3



(5) 地域活動や社会参加のために必要なこと

問14 あなたが、地域や社会に積極的に参加できるようにするため、特に大切なことは何ですか。(〇は主なもの2つ以内)

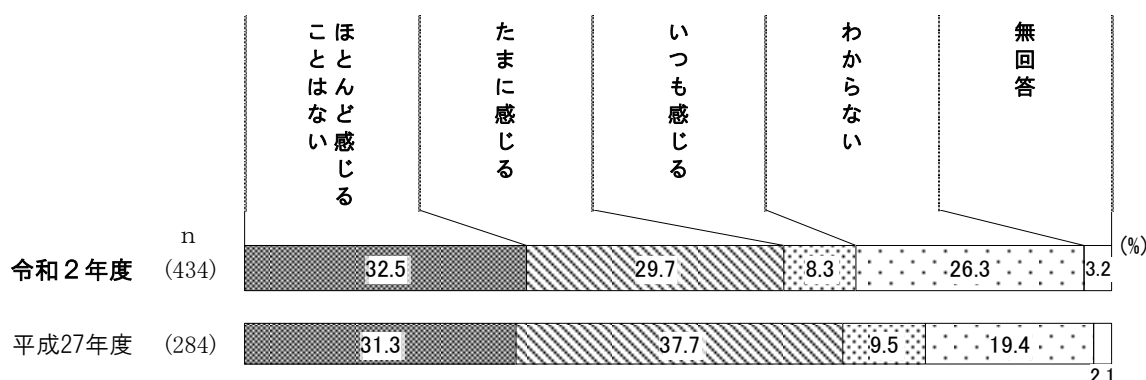


地域活動や社会参加のために必要なことでは、「人びとの障害者に対する理解」が43.5%で最も多く、以下、「参加しやすい機会の拡充」(29.7%)、「障害者自身が積極性を持つ」(23.5%)となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(6) 差別や人権侵害、虐待の有無

問15 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(〇は1つ)



差別や人権侵害、虐待の有無では、「ほとんど感じない」が32.5%、「たまに感じる」が29.7%、「いつも感じる」が8.3%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「たまに感じる」が37.7%から29.7%で8.0ポイント減となっている。

(7) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じるとき

問16 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

【周囲の言動、反応】

- ・精神的な病気のため、まともな考えが出来ないなどと遠回しに言われた事があります。(女性・48歳)
- ・自分が出来ない事や苦手な事を、努力不足や、やる気が無いだけだと評価される。(女性・26歳)
- ・様子や態度で周りの人が明らかにに違う目で見えてくる。(女性・37歳)
- ・パニック障害なのですが、ドキドキすると夫やまわりの人に言うと、気の持ちようだと分かってもらえない。(女性・50歳)

【理解不足、偏見】

- ・精神病というだけで距離をおかれた事もあります。生きづらいです。(女性・38歳)
- ・うつ病への偏見を感じることもある。(男性・36歳)
- ・個人的に感じることはないが、社会が精神障害についてもっと情報を発信していくべきだと思う。(現状では身体障害者の方が仕事やサービス制度が整っている) 精神障害者手帳が「持ってるだけ」の存在になっているので、利用価値を広げるべきだと思う。(女性・34歳)
- ・一般の人と比べて気にしすぎと言い怒り出す。(女性・52歳)

【雇用、就業の場】

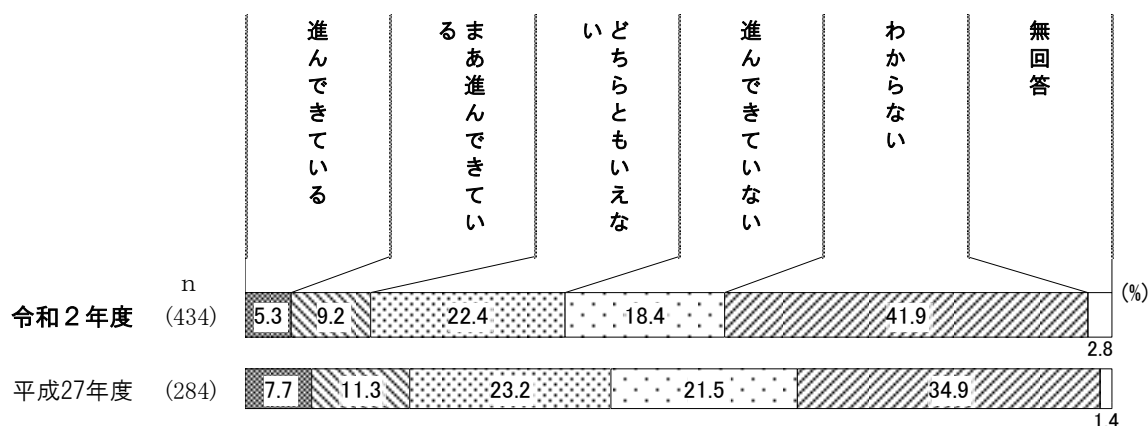
- ・面接を受けても障害の事を言うと必ず落とされる。(女性・41歳)
- ・作業が遅いと言われるやさしく話される。(普通にして欲しい) (男性・46歳)
- ・一つミスをしたって障害者だから何も出来ないと思われる。(男性・39歳)

【その他】

- ・感情をコントロール出来ず、人と交わると、トラブルばかり。(男性・72歳)
- ・バスの運転手さんからの差別はたまに感じます。(女性・45歳)
- ・電子パスのようにタッチすると、認識するような障害者手帳システムが欲しい。(良くも悪くも手帳が目立つため。)(女性・37歳)

(8) 障害に対する市民の理解

問17 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(〇は1つ)

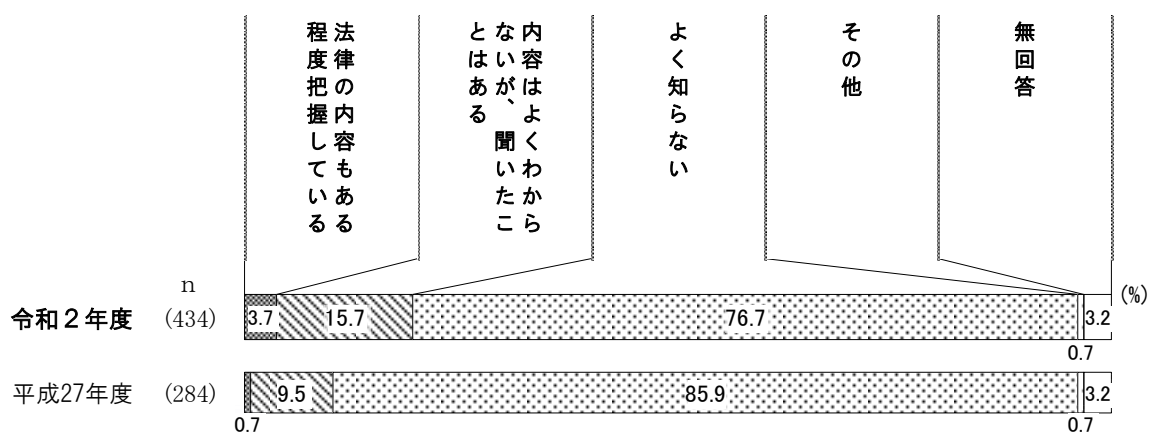


障害に対する市民の理解では、「進んできていない」が18.4%、「まあ進んできている」が9.2%、「進んできている」が5.3%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

(9) 「障害者差別解消法」の認知度

問18 あなたは「障害者差別解消法」という法律が施行されていることをご存じですか。(〇は1つ)



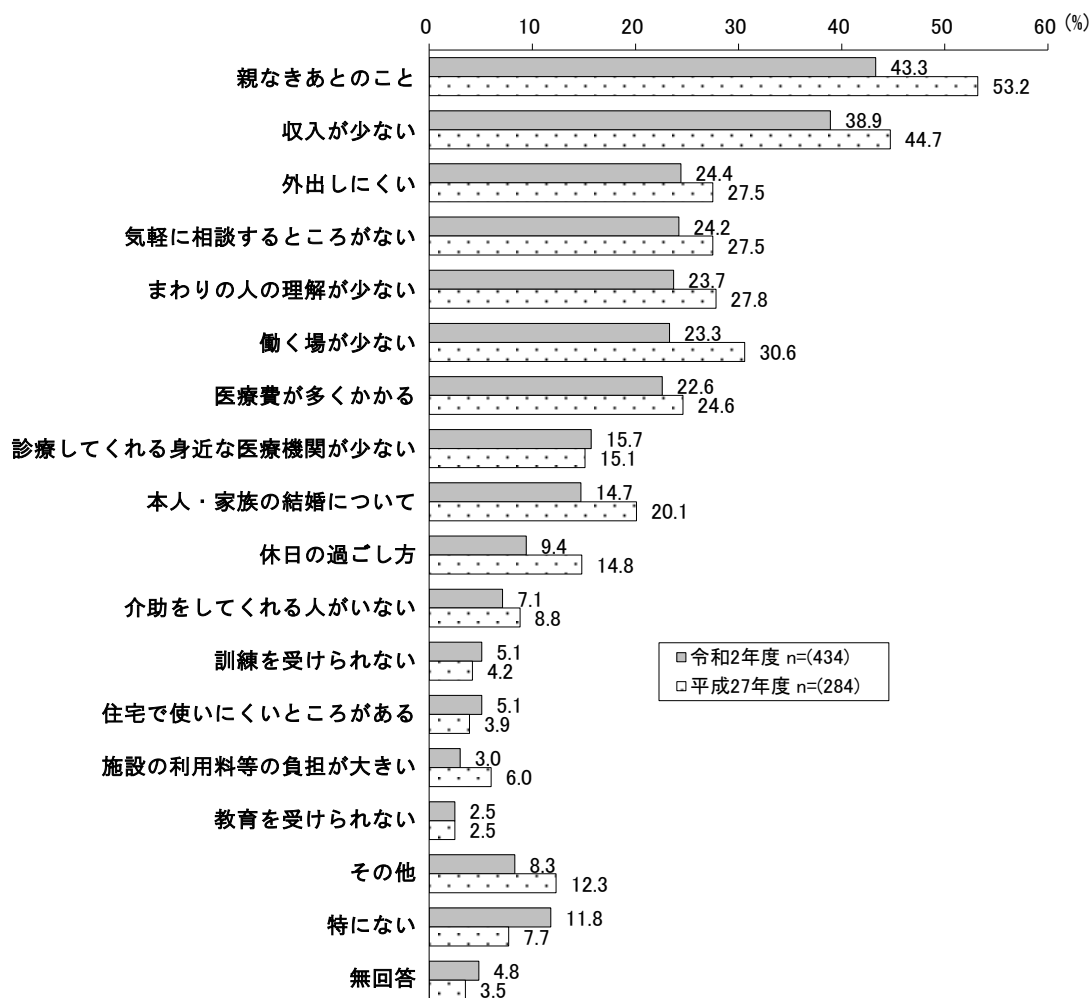
『障害者差別解消法』の認知度では、「よく知らない」が76.7%を占め、「内容はよくわからないが、聞いたことはある」が15.7%、「法律の内容もある程度把握している」が3.7%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「よく知らない」が85.9%から76.7%で9.2ポイントの減少となっている。また、「内容はよくわからないが、聞いたことはある」は9.5%から15.7%で6.2ポイント増となっている。

## 7. ふだんの生活の困りごとなど

### (1) 現在の生活で困っている、不安を感じていること

問19 あなたは、現在の生活で困っていること、あるいは不安を感じていることはありますか。(〇はいくつでも)

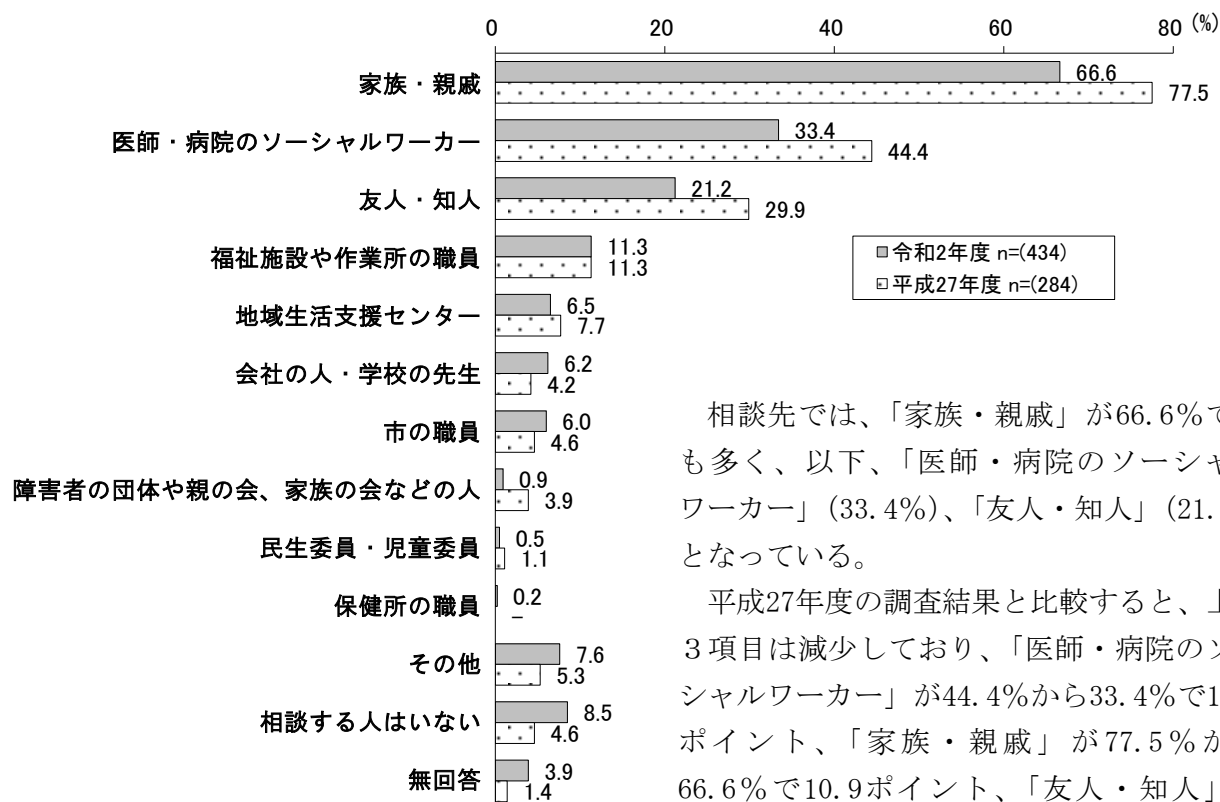


現在の生活での困りごとでは、「親なきあとのこと」が43.3%で最も多く、次いで「収入が少ない」(38.9%)となり、以下、「外出しにくい」(24.4%)、「気軽に相談するところがない」(24.2%)、「まわりの人の理解が少ない」(23.7%)、「働く場が少ない」(23.3%)、「医療費が多くかかる」(22.6%)が僅差で続いている。

平成27年度の調査結果と比較すると、全15項目中11項目で、特に上位項目は総じて減少しており、なかでも「親なきあとのこと」が53.2%から43.3%で9.9ポイント、「働く場が少ない」が30.6%から23.3%の7.3ポイントの減少となっている。

(2) 相談先

問20 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(〇は主なもの3つ以内)

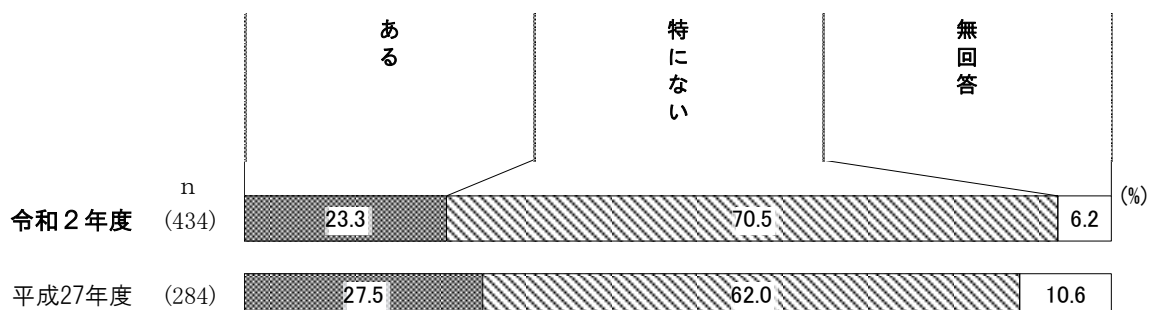


相談先では、「家族・親戚」が66.6%で最も多く、以下、「医師・病院のソーシャルワーカー」(33.4%)、「友人・知人」(21.2%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、上位3項目は減少しており、「医師・病院のソーシャルワーカー」が44.4%から33.4%で11.0ポイント、「家族・親戚」が77.5%から66.6%で10.9ポイント、「友人・知人」が29.9%から21.2%で8.7ポイント、それぞれ減少となっている。

(3) 相談したいことの有無

問21 現在、障害に関することなどで相談したいことはありますか。(〇は1つ)



相談したいことの有無では、「ある」が23.3%、「特にない」が70.5%となっている。平成27年度の調査結果と比較すると、「特にない」が8.5ポイント増となっている。

#### (4) 相談したい内容

問21で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問21-1 それはどのようなことですか。具体的にお書きください。

具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

##### 【病状、症状の不安】

- ・薬をやめる時期がわからない。(女性・61歳)
- ・仕事中に突然の発作状態また不満やトラブルといった些細な事 (男性・50歳)

##### 【就労、雇用】

- ・障害者求人が少ない。仕事の内容が限られてしまう。(男性・50歳)
- ・職場での配慮・考慮 (全く他の職員と同じ及いなので)。(男性・53歳)
- ・精神障害者だからといって、差別しないでほしい。(女性・28歳)

##### 【付き合い、社会参加】

- ・地域の人とどのように交流してよいかわからない。(女性・42歳)
- ・四街道で同じ病気で同じ悩みを持って人などと交流したいし、苦しい事を相談したい。(女性・50歳)

##### 【経済的不安】

- ・収入が少なすぎて困っていること。障害年金だけでは生活が難しいと感じる。(男性・44歳)
- ・障害年金受給中であるが、病状が重く働く場もなく、医療費など払えるのか。又、生活保護をいざ取りたいと思った時、一人で住めない。(女性・50歳)

##### 【医療、サポート関係】

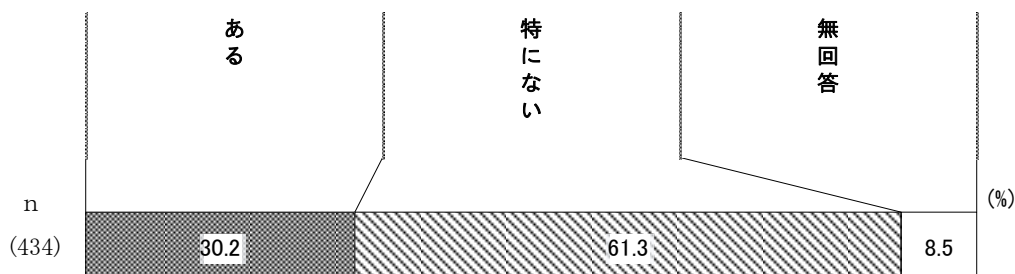
- ・もっと楽に受診したい。(予約を取り、当日も1時間位並び、その後診察まで1時間以上待つ)  
(女性・58歳)
- ・現在通院しているところが合っているのかわからない。(女性・45歳)
- ・具合が悪い時、家事援助を受けたい時がある。(女性・55歳)
- ・平日でないと受けられないサービスが多い。(24歳)

##### 【相談、情報提供】

- ・悩みや困った事を気軽に相談出来る場所が少ない。(女性・26歳)
- ・家族が亡くなった時、施設に入るのか、お金はいくらぐらいかかるのかなどの情報 (女性・51歳)

(5) 相談支援事業所の利用状況

問22 市内には、日常生活における悩みや困りごと、障害福祉サービスの利用について相談を受ける相談支援事業所があります。利用されたことはありますか。(○は1つ)

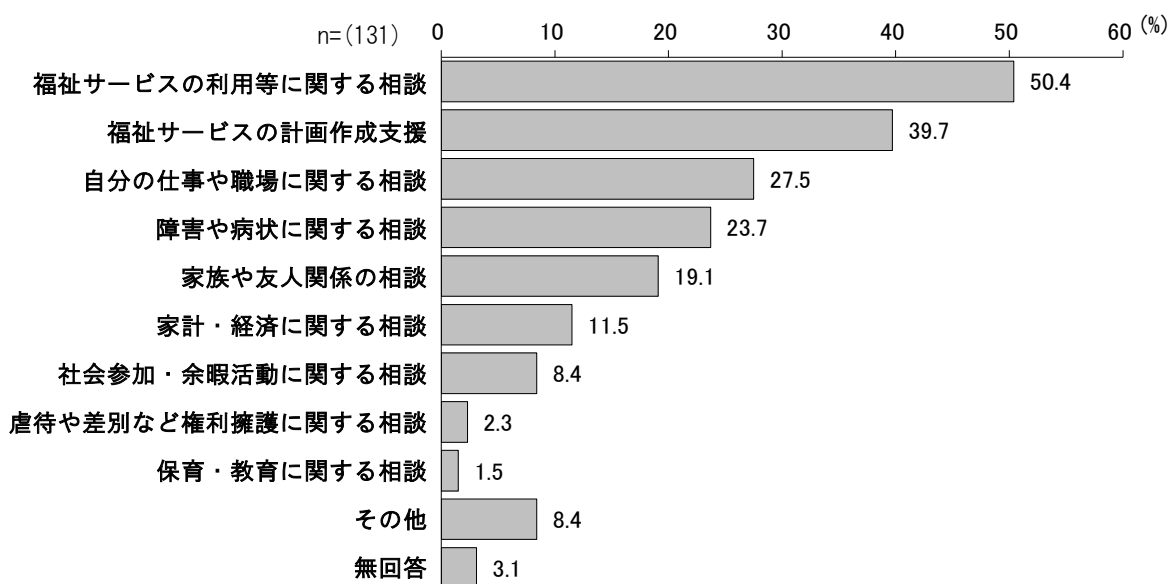


相談支援事業所の利用状況では、「ある」が30.2%、「特にない」が61.3%となっている。

(6) 具体的な利用内容

問22で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問22-1 どのようなことで利用したことがありますか。(○はいくつでも)

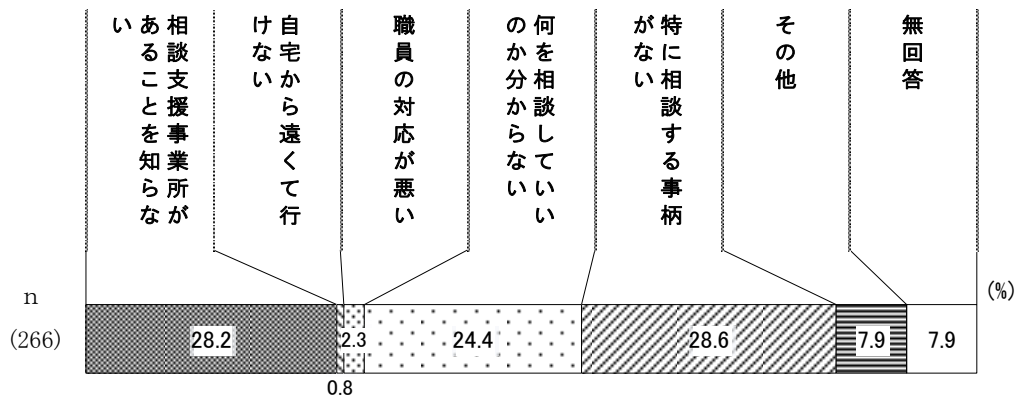


具体的な利用内容では、「福祉サービスの利用等に関する相談」が50.4%で最も多く、以下、「福祉サービスの計画作成支援」(39.7%)、「自分の仕事や職場に関する相談」(27.5%)、「障害や病状に関する相談」(23.7%)となっている。

(7) 利用していない理由

問22で「2. 特にない」を選んだ人にうかがいます。

問22-2 利用していない理由をお答えください。(〇は1つ)



利用していない理由では、「特に相談する事柄がない」が28.6%、「相談支援事業所があることを知らない」が28.2%と多く、「何を相談していいのかわからない」も24.4%となっている。



## (8) 相談支援事業所に期待すること

問23 今後、相談支援事業所に期待することを具体的にお書きください。

相談支援事業所に期待することの具体的な内容としては、次のような記入があった。

### 【サービスの充実】

- ・もっと病気の特性を学んで適切なアドバイスが欲しい。(女性・49歳)
- ・予約をしなくても、いつでも相談出来る様お願いしたい。(女性・46歳)
- ・必要な福祉サービスに迅速に繋いでもらえるようにして欲しい。(男性・44歳)
- ・どのようなことをしているのか、どんな人が利用したほうが良いのかなどわかりやすく、情報発信してほしい。(女性・45歳)
- ・人と関わるのが怖いため、それを少しでも無くするための第一歩となる何かがあるといいと思います。(女性・44歳)
- ・もう少し長い時間話を聞いてほしい。働くことを強く要求しないでほしい。(女性・39歳)
- ・親が亡くなった時の事を考えると不安しかないので、一人で生活していくための準備について相談出来たら助かると思います。(女性・43歳)

### 【就労、職場関係】

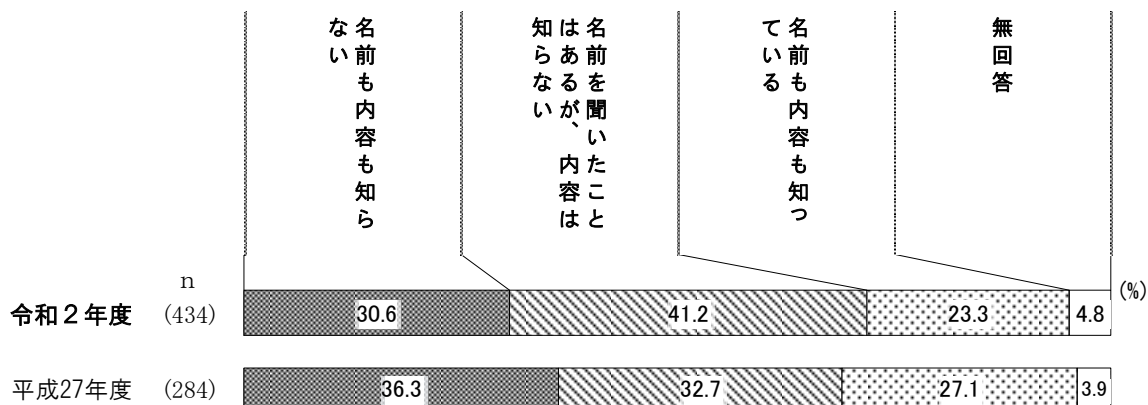
- ・就労訓練や就労の際に個人の事情に合わせて適確なアドバイスをしていただけることを期待します。(男性・53歳)
- ・働ける場所などの相談をきちんと支援してもらえると助かると思います。(男性・47歳)

### 【経済的援助】

- ・助成金を引き続き、手厚くしてほしい。(女性・50歳)
- ・障害及び傷病の国民健康保険料の減額、免除措置を提案します。高額すぎて、不安により傷病を悪化させてしまう人が沢山いると思います。(男性)

(9) 成年後見制度の認知度

問24 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない人の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。  
(○は1つ)



成年後見制度の認知度では、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が41.2%、「名前も内容も知らない」が30.6%、「名前も内容も知っている」は23.3%となっている。

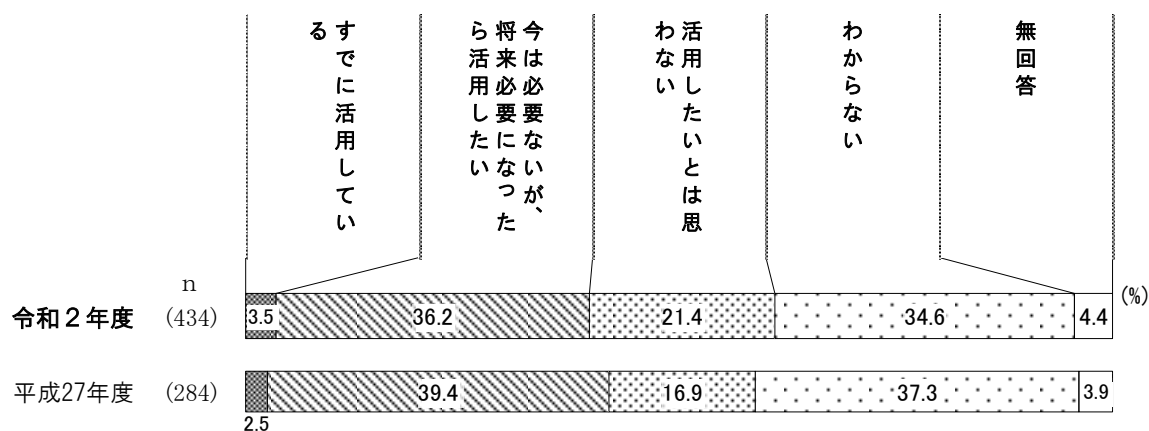
平成27年度の調査結果と比較すると、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が32.7%から41.2%で8.5ポイント増、「名前も内容も知らない」が36.3%から30.6%で5.7ポイント減となっている。

年代別にみると、“65歳以上”で「名前も内容も知らない」は22.4%となっており、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた《内容を知らない》割合は53.0%と半数を超えている。

		n	名前も内容も知らない (%)	名前を聞いたことはあるが、内容は知らない (%)	名前も内容も知っている (%)	無回答 (%)
全体		434	30.6	41.2	23.3	4.8
年代別	18歳未満	13	46.2	23.1	23.1	7.7
	18～40歳	106	34.0	47.2	17.0	1.9
	41～64歳	241	29.0	43.6	24.1	3.3
	65歳以上	49	22.4	30.6	32.7	14.3

(10) 成年後見制度の利用意向

問25 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)



成年後見制度の利用意向では、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」が36.2%と多く、「活用したいとは思わない」が21.4%となっている。一方、「すでに活用している」は3.5%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

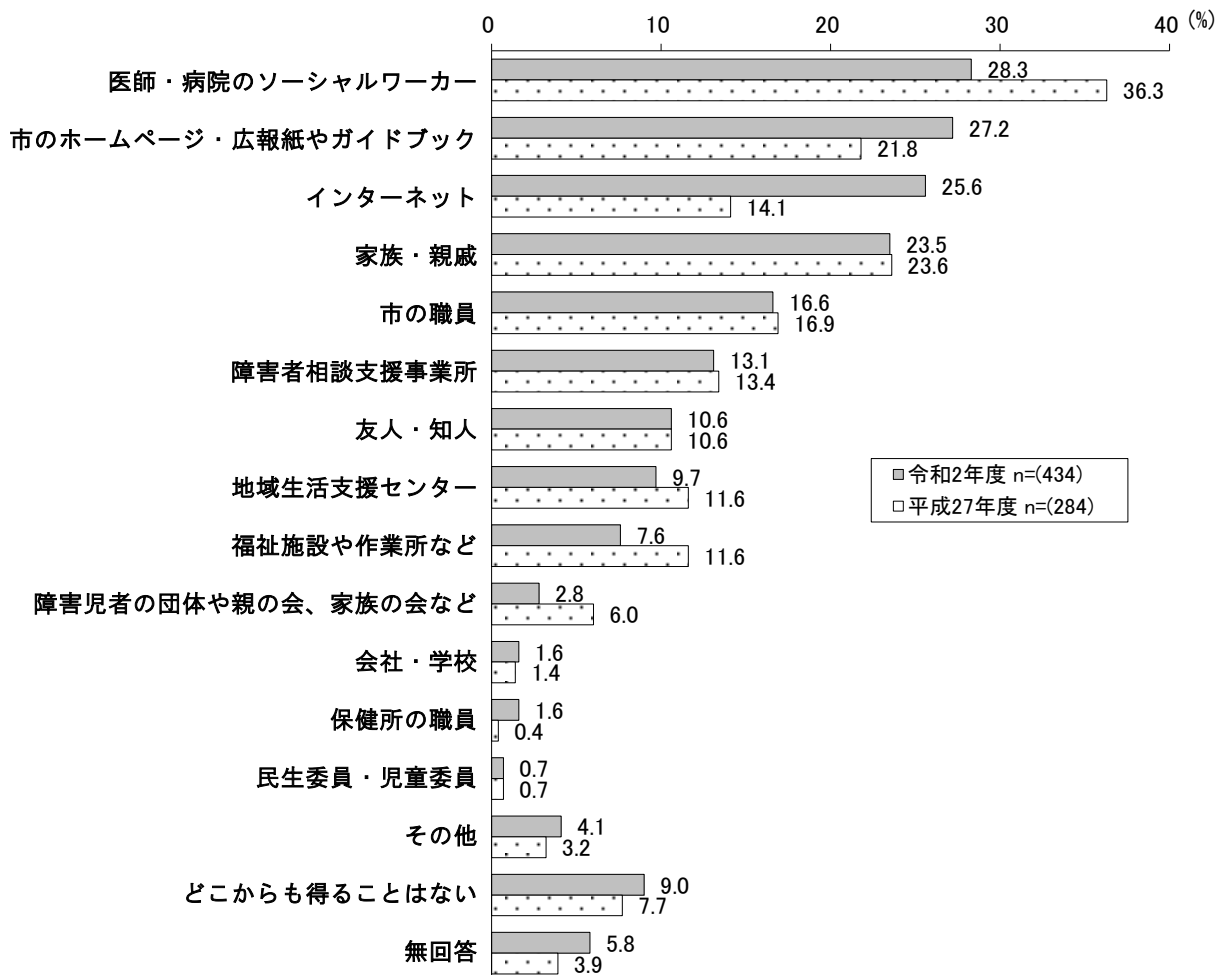
年代別にみると、“65歳以上”で「すでに使っている」は14.3%となっている。

		n	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要になったら活用したい	活用したいとは思わない	わからない	無回答
全体		434	3.5	36.2	21.4	34.6	4.4
年代別	18歳未満	13	-	53.8	-	38.5	7.7
	18～40歳	106	-	34.9	20.8	43.4	0.9
	41～64歳	241	2.9	36.9	23.2	33.6	3.3
	65歳以上	49	14.3	26.5	24.5	22.4	12.2

## 8. 福祉情報の入手状況

### (1) 福祉に関する情報の入手先

問26 あなたやご家族は、福祉に関する情報をどこから得ますか。(〇は主なもの3つ以内)

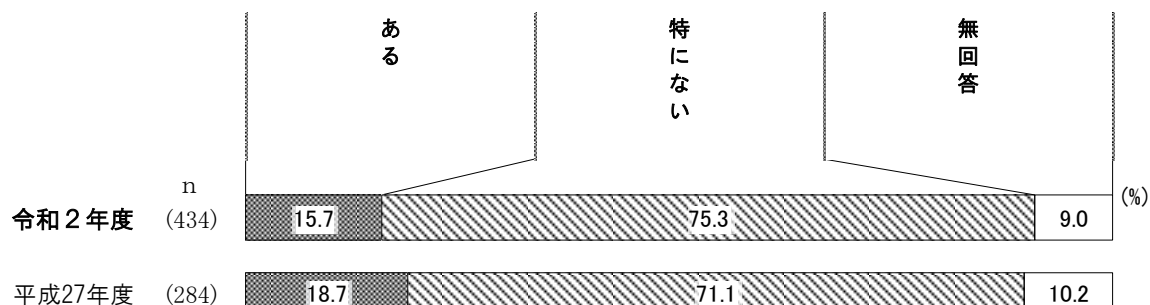


福祉に関する情報の入手先では、「医師・病院のソーシャルワーカー」が28.3%で最も多く、以下、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」(27.2%)、「インターネット」(25.6%)、「家族・親戚」(23.5%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「インターネット」が14.1%から25.6%で11.5ポイント、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」が21.8%から27.2%で5.4ポイント、それぞれ増加し、「医師・病院のソーシャルワーカー」は36.3%から28.3%で8.0ポイント減少している。

## (2) 情報が取得できないことでの困難経験の有無

問27 あなたが生活する上で、福祉サービスなど障害者のための情報が得られないで困ったことがありますか。(○は1つ)



情報が取得できないことでの困難経験の有無では、「ある」が15.7%、「特にない」が75.3%となっている。

なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

## (3) 困難経験の具体的内容

問27で「1. ある」を選んだ人にうかがいます。

問27-1 それはどのようなときでしたか。具体的にお書きください。

情報が取得できないことで困ったことの内容としては、次のような記入があった。

## 【情報アクセス関連】

- ・福祉サービスについて何も知らない。誰も教えてくれない。(男性)
- ・医療費の一割が戻ってくる事もずっと長い間知らなかった。病院や役所で詳しい説明が欲しかった。(女性・46歳)
- ・こっちから言わないと教えてくれない。(女性・48歳)
- ・書面の内容が難しい。調べなくても情報が郵送されて来てほしい。(女性・37歳)
- ・時間がたってから他のサービスやこれも、受けられるんだという事が分かる。(女性・44歳)
- ・作業所に通いたいと思ったが、どうやって探したらいいか困った。(女性・51歳)

## 【施設関係】

- ・地域活動支援センターに通所しているが、10年前に知っていたらもっと早く社会復帰出来たと思う。(男性・37歳)
- ・施設についての情報が欲しい。(女性・51歳)

## 【手続き】

- ・障害年金などについて、手続きも大変であったり、手続きの仕方もよく分からない事が多かったりがあります。(女性・62歳)

#### (4) 今後ほしい情報

問28 現在または今後どのような情報がほしいですか。具体的にお書きください。

今後ほしい情報の具体的な内容としては、次のような記入があった。

##### 【福祉サービス全般】

- ・福祉サービスをこちらが発信ではなく、役所等が発信してほしい。(女性・40歳)
- ・障害者の等級により、どんな福祉サービスが受けられるのか、すべて一覧にして公開してほしい。(男性・67歳)
- ・「市政だより」にでも、もう少し障害者向けの内容を入れてほしいと思います。(女性・62歳)
- ・手帳の更新の時などにもう一度説明が聞きたい。(女性・43歳)
- ・障害者に係る法律が変わった時、わかりやすく教えてほしい。(女性・45歳)
- ・大人の発達障害等気軽に相談でき、医療機関等を紹介するなど仲介してほしい。(女性・37歳)
- ・最新の精神へのケア技術に関して。(女性・49歳)

##### 【就労】

- ・精神障害者が就労訓練した後、どのような職に就いているのか知りたいです。(男性・53歳)
- ・体調悪くても自宅で軽い作業や出来ることがあればやってみたいと思う。(女性・40歳)
- ・障害者の働く環境や、収入、どんな仕事があるのかの情報が欲しい。(男性・38歳)

##### 【経済的支援】

- ・障害者年金等の制度がある事を行政から積極的に伝えてほしい。(男性・41歳)
- ・生活保護の申請の仕方、1人暮らしの方法。(女性・40歳)
- ・金に関わる話、税金、公共機関の料金減免など。(24歳)

##### 【施設】

- ・将来利用するかもしれないグループホームの情報が欲しいです。(女性・45歳)
- ・より細かな“その施設等での活動内容”を知りたい時があります。(男性・40歳)

##### 【交流の場】

- ・障害を持った人が、もっと心の内を話せる様な自由な場所があればとずっと思っていました。(女性・38歳)
- ・自分と同じ悩みを持った障害者がどのような生活をしているかネットワークが欲しい。(女性・31歳)

##### 【相談】

- ・不安な事があればどこに聞いていいのかが分からないので、すぐに相談できる場所が少しでも近くにあるか知りたい。(女性・42歳)

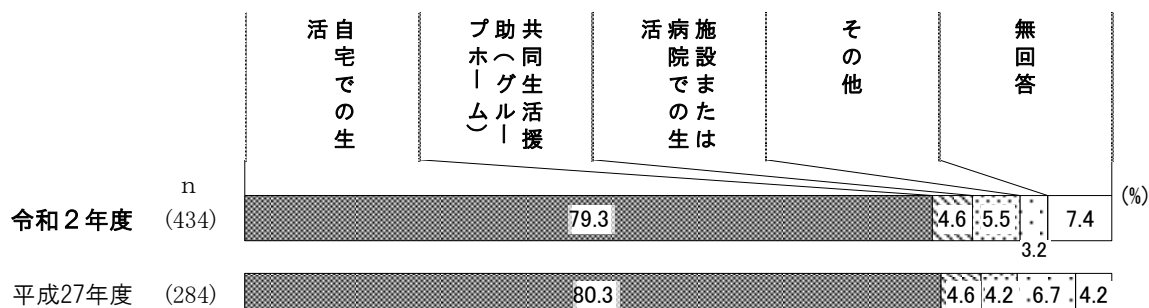
##### 【その他】

- ・自分が体調が悪くて、家で1人である時、ヘルパーさんみたいな人がきてくれればよいなど。(女性・51歳)
- ・障害者でも住みやすい住居の情報が知りたい。(女性・50歳)

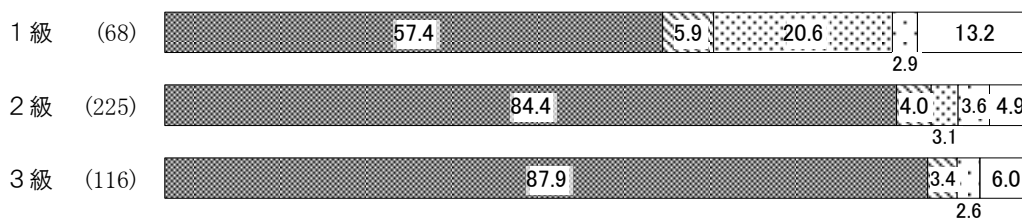
## 9. 今後、希望する暮らし方

### (1) 希望する生活形態

問29 今後、どのような生活形態を望みますか。(○は1つ)



#### 【障害の程度別】



希望する生活形態では、「自宅での生活」が79.3%を占めている。

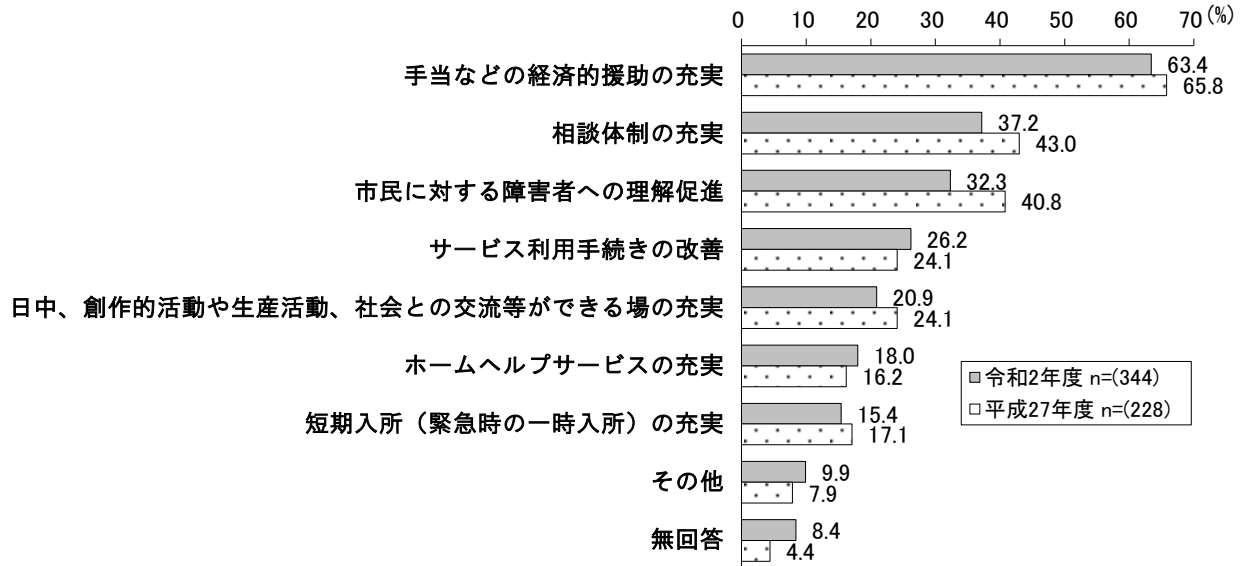
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

障害の程度別で見ると、“1級”では「施設または病院での生活」が20.6%と多くなっている。また、“2級”“3級”では「自宅での生活」が8割台となっている。

(2) 自宅での生活を続けるための条件

問29で「1. 自宅での生活」を選んだ人にうかがいます。

問29-1 自宅での生活を続けるための条件は何ですか。(〇はいくつでも)



自宅での生活を続けるための条件では、「手当などの経済的援助の充実」が63.4%で最も多く、以下、「相談体制の充実」(37.2%)、「市民に対する障害者への理解促進」(32.3%)、「サービス利用手続きの改善」(26.2%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、上位3項目は減少しており、「市民に対する障害者への理解促進」が40.8%から32.3%で8.5ポイント減、「相談体制の充実」が43.0%から37.2%で5.8ポイント減となっている。

障害の程度別でみると、“1級”では「短期入所（緊急時の一時入所）の充実」(33.3%)と「ホームヘルプサービスの充実」(28.2%)が多くなっている。

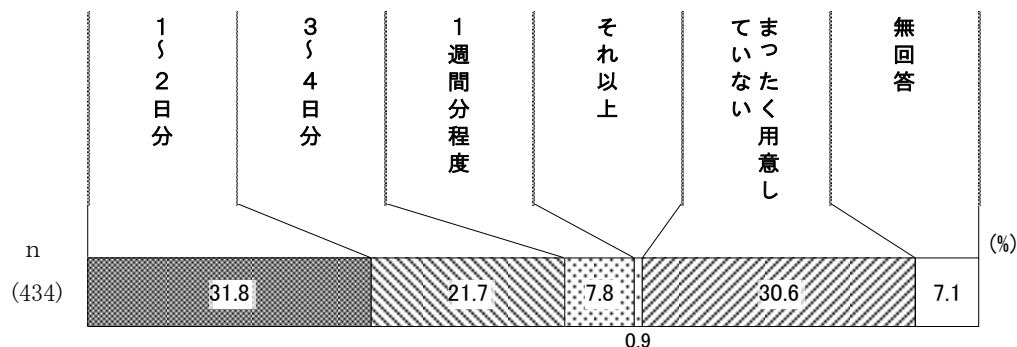
		n	手当などの経済的援助の充実	相談体制の充実	市民に対する障害者への理解促進	サービス利用手続きの改善	日中、創作的活動や生産活動、社会との交流等ができる場の充実	ホームヘルプサービスの充実	短期入所（緊急時の一時入所）の充実	その他	無回答
全体		344	63.4	37.2	32.3	26.2	20.9	18.0	15.4	9.9	8.4
障害の程度別	1級	39	53.8	30.8	25.6	30.8	20.5	28.2	33.3	5.1	5.1
	2級	190	65.8	39.5	38.4	28.4	21.6	21.6	17.9	9.5	7.4
	3級	102	62.7	36.3	25.5	21.6	19.6	8.8	3.9	13.7	10.8



## 10. 洪水や地震等の災害時の対応

### (1) 非常食と水の準備状況

問30 災害が起きたときのための非常食と水を、どのぐらい用意していますか。(○は1つ)

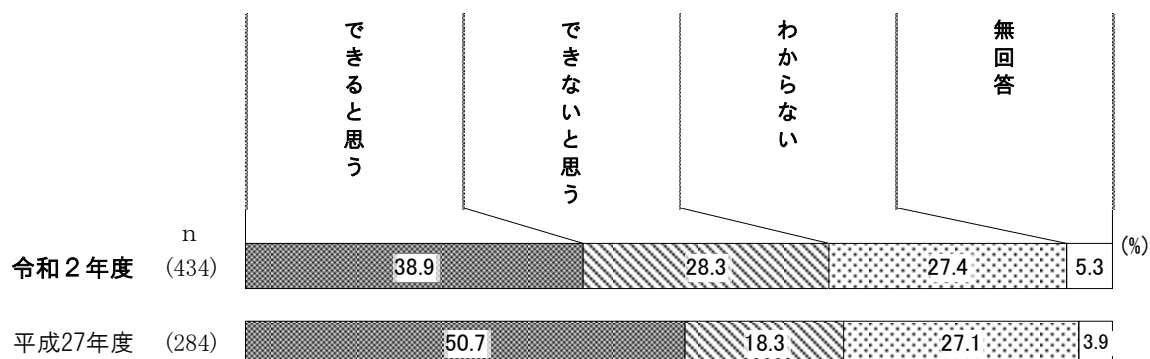


非常食と水の準備状況では、「1～2日分」が31.8%、「3～4日分」が21.7%となっている。一方、「まったく用意していない」は30.6%だった。

また、「それ以上」と回答した4人中3人が〈4週間分以上〉、1人が〈4週間分程度〉としている。

### (2) 災害時における一人での避難

問31 災害時に、あなたは一人で避難できますか。(○は1つ)

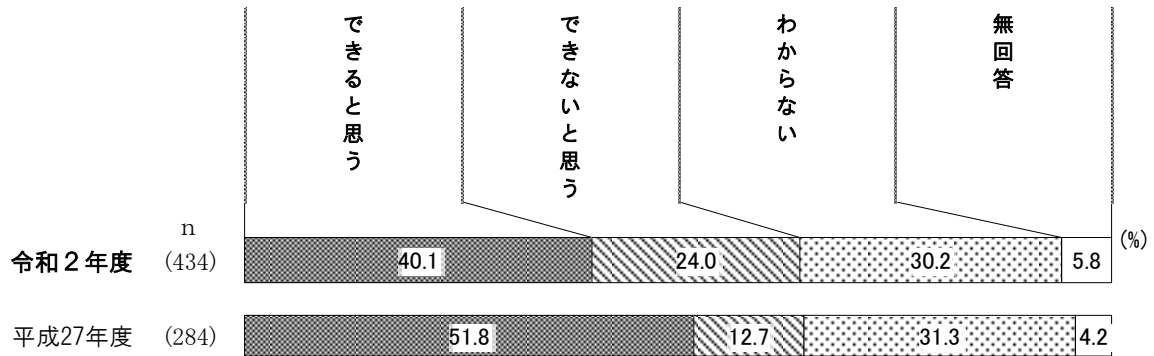


災害時に一人で避難できるかどうかでは、「できると思う」が38.9%、「できないと思う」が28.3%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「できないと思う」が10.0ポイント増、「できると思う」11.8ポイント減となっている。

(3) 災害時での周囲への伝達

問32 災害時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(○は1つ)

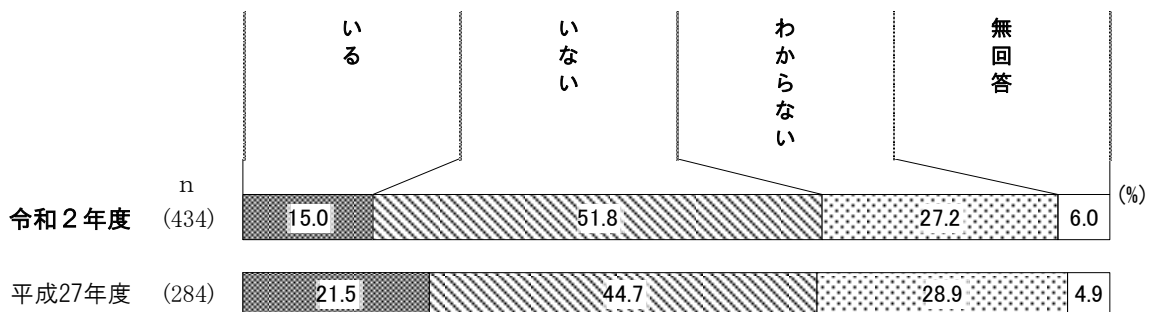


災害時での周囲への伝達では、「できると思う」が40.1%、「できないと思う」が24.0%となっている。

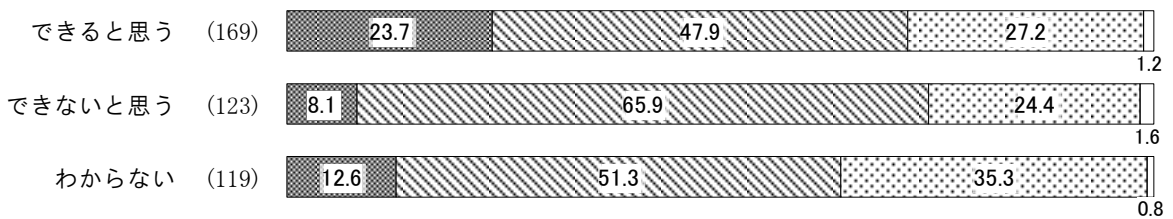
平成27年度の調査結果と比較すると、「できないと思う」が11.3ポイント増、「できると思う」が11.3ポイント減となっている。

(4) 近所で助けてくれる人の有無

問33 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)



【一人避難不可別】



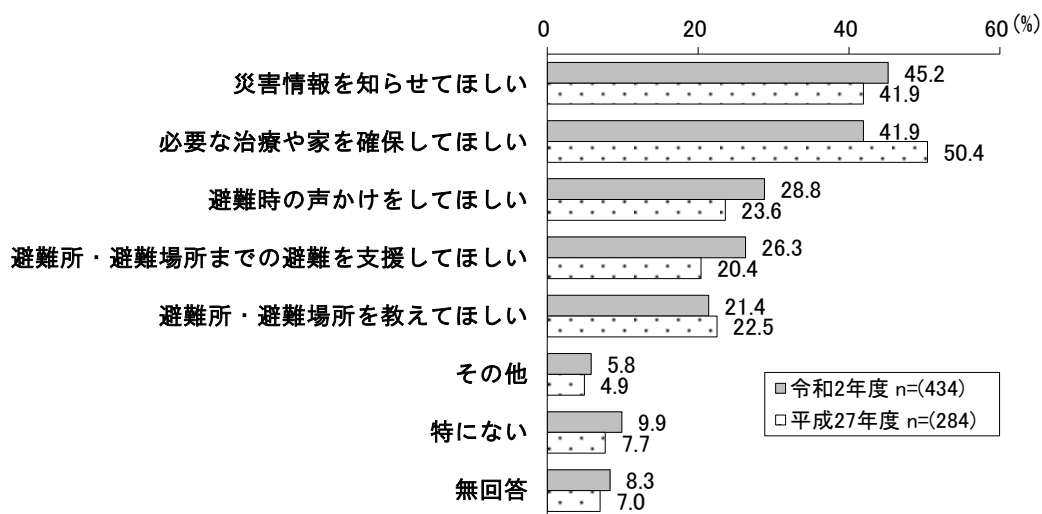
近所で助けてくれる人の有無では、「いる」が15.0%、「いない」が51.8%となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「いない」が7.1ポイント増、「いる」が6.5ポイント減となっている。

災害時に一人で避難ができるかどうか別でみると、“できないと思う”では「いない」が65.9%となっている。

(5) 災害発生時に支援してほしいこと

問34 あなたが、災害発生時に支援してほしいことは何ですか。(〇は3つまで)



災害発生時に支援してほしいことでは、「災害情報を知らせてほしい」が45.2%で最も多く、以下、「必要な治療や家を確保してほしい」(41.9%)、「避難時の声かけをしてほしい」(28.8%)、「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」(26.3%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」が20.4%から26.3%で5.9ポイント、「避難時の声かけをしてほしい」が23.6%から28.8%で5.2ポイントの増加となっている。また、「必要な治療や家を確保してほしい」は50.4%から41.9%で8.5ポイントの減少となっている。

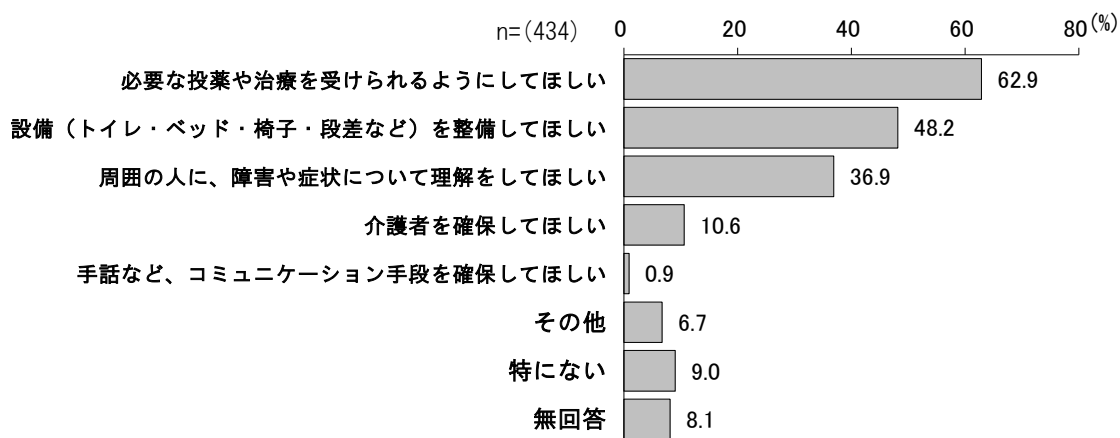
災害時に一人で避難ができるかどうか／近所の助けの有無別でみると、“避難できる／手助けあり”という層で「災害情報を知らせてほしい」が62.5%と多くなっている。また、“避難できない・わからない／手助けなし・わからない”という層では「避難所・避難場所までの避難を支援してほしい」(39.3%)が多くなっている。

(%)

		n	災害情報を知らせてほしい	必要な治療や家を確保してほしい	避難時の声かけをしてほしい	避難所・避難場所までの避難を支援してほしい	避難所・避難場所を教えてほしい	その他	特にない	無回答
全体		434	45.2	41.9	28.8	26.3	21.4	5.8	9.9	8.3
一人の避難可否無別・近所	避難できる／手助けあり	40	62.5	42.5	17.5	10.0	20.0	7.5	15.0	-
	避難できる／手助けなし・わからない	127	55.1	43.3	27.6	13.4	21.3	6.3	13.4	2.4
	避難できない・わからない／手助けあり	25	52.0	28.0	40.0	28.0	24.0	-	12.0	4.0
	避難できない・わからない／手助けなし・わからない	214	40.7	47.7	34.1	39.3	24.3	6.1	7.5	3.7

(6) 避難所での生活で配慮してほしいこと

問35 あなたが、避難所での生活で配慮してほしいことは何ですか。(〇は3つまで)



避難所での生活で配慮してほしいことでは、「必要な投薬や治療を受けられるようにしてほしい」が62.9%で最も多く、以下、「設備（トイレ・ベッド・椅子・段差など）を整備してほしい」（48.2%）、「周囲の人に、障害や症状について理解をしてほしい」（36.9%）となっている。

(7) 災害時に困ると思われること、不安なこと

問36 その他災害時に困ると思われること、不安なことをお書きください。

災害時に困る具体的な内容は、次のような記入がみられた。

【環境適応、プライバシー】

- ・パニックになりやすいため、自分をコントロールできるかわかりません。(女性・44歳)
- ・人間の声が気になり始めること。集団の中にどれくらい居られるか。(女性・30歳)
- ・精神の不調から胃腸の不調につながる人が多いので、そこがだいぶ不安。(女性・27歳)
- ・人の話し声が自分の悪口に聞こえるので、集団での避難所生活は出来ないと思う。(女性・45歳)

【医療環境関連】

- ・薬が切れた時に体がつかどうかわかり不安……。 (男性・47歳)
- ・薬が飲めなくなってしまうことが心配です。(男性・61歳)
- ・スピーカーが充分聞こえない。(男性・15歳)

【その他設備関連】

- ・トイレが不安。すごく暑い、寒い時に災害があると困る。(女性・68歳)
- ・座ると立てなくなってしまうので、ベッドで眠れるようにしてほしい。(女性・55歳)
- ・ライフラインの確保。(男性・43歳)
- ・個室とは言わないが気密性が高い事が嬉しい。(男性・40歳)

【移動】

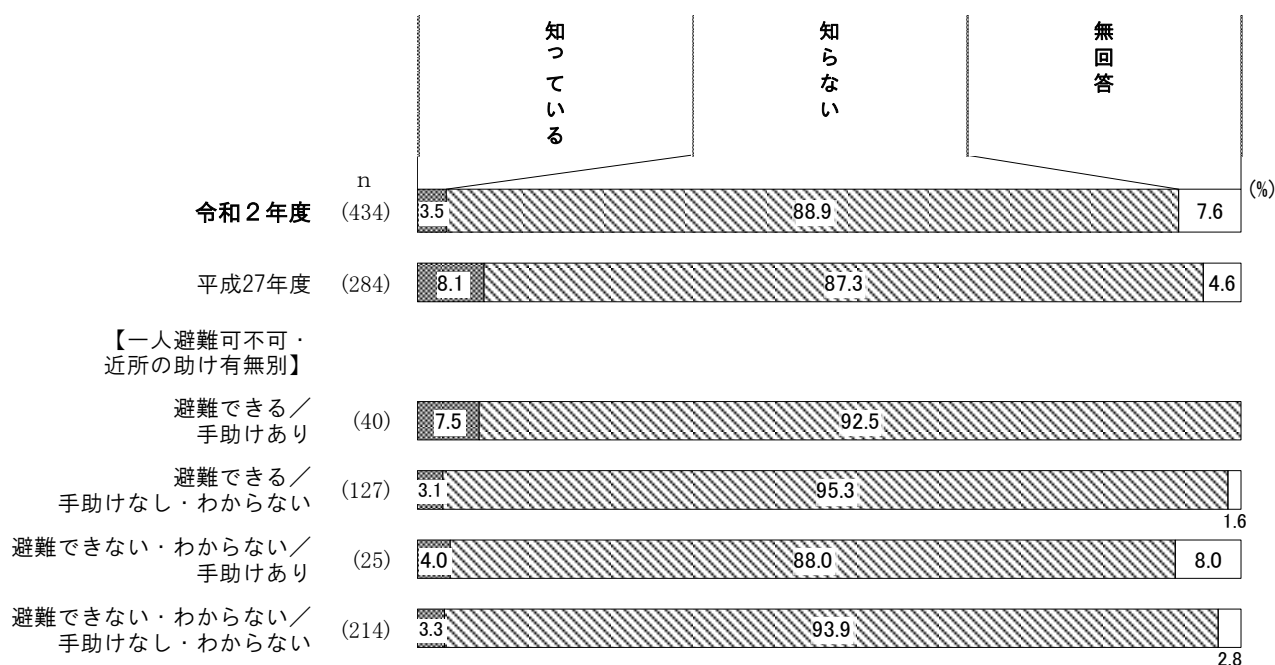
- ・精神の他に身体的障害もあるので、避難する場合は急げないという事と、言葉がうまく通じないこと。(男性・63歳)

【その他】

- ・我家にはペットが居るので、避難所に行ける(入れる)とは思ってはいません。ただ、食料等の配給はしてほしい。(女性・58歳)
- ・家が被災した時、1人になってしまった時、相談する人がいない。(男性・38歳)

(8) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知度

問37 あなたは、市の「避難行動要支援者避難支援制度」を知っていますか。(〇は1つ)



『避難行動要支援者避難支援制度』の認知度では、「知っている」が3.5%、「知らない」が88.9%となっている。

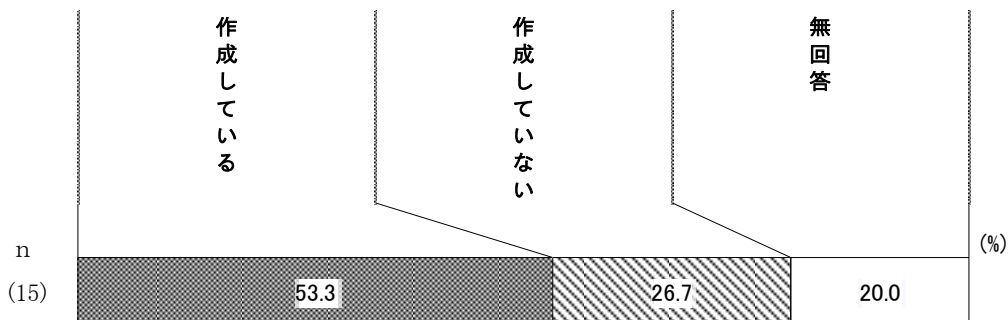
なお、平成27年度の調査結果と比較しても、大きな差異はみられない。

災害時に一人で避難ができるかどうか／近所の助けの有無別でみると、“避難できない・わからない／手助けなし・わからない”という層では「知らない」が(93.9%)と多くなっている。

### (9) 個別支援計画作成の有無

問37で「1. 知っている」を選んだ人に伺います。

問37-1 個別支援計画作成していますか。(○は1つ)



個別支援計画作成の有無では、「作成している」が53.3%、「作成していない」が26.7%となっている。

### (10) 作成していない理由

問37-1で「2. 作成していない」を選んだ人に伺います。

問37-2 作成していない理由を具体的にお書きください。

個別支援計画作成していない理由は、具体的に次のような記入がみられた。

#### 【知らなかった】

- ・知りませんでした。(女性・50歳)
- ・知らないから作成していません(男性・47歳)
- ・制度自体知らないから(女性・36歳)
- ・知らなかった。(女性・34歳)

#### 【必要ない】

- ・特に必要と思わない。(女性・42歳)
- ・被災の少ない地域に住んでいるから必要ない(女性・37歳)

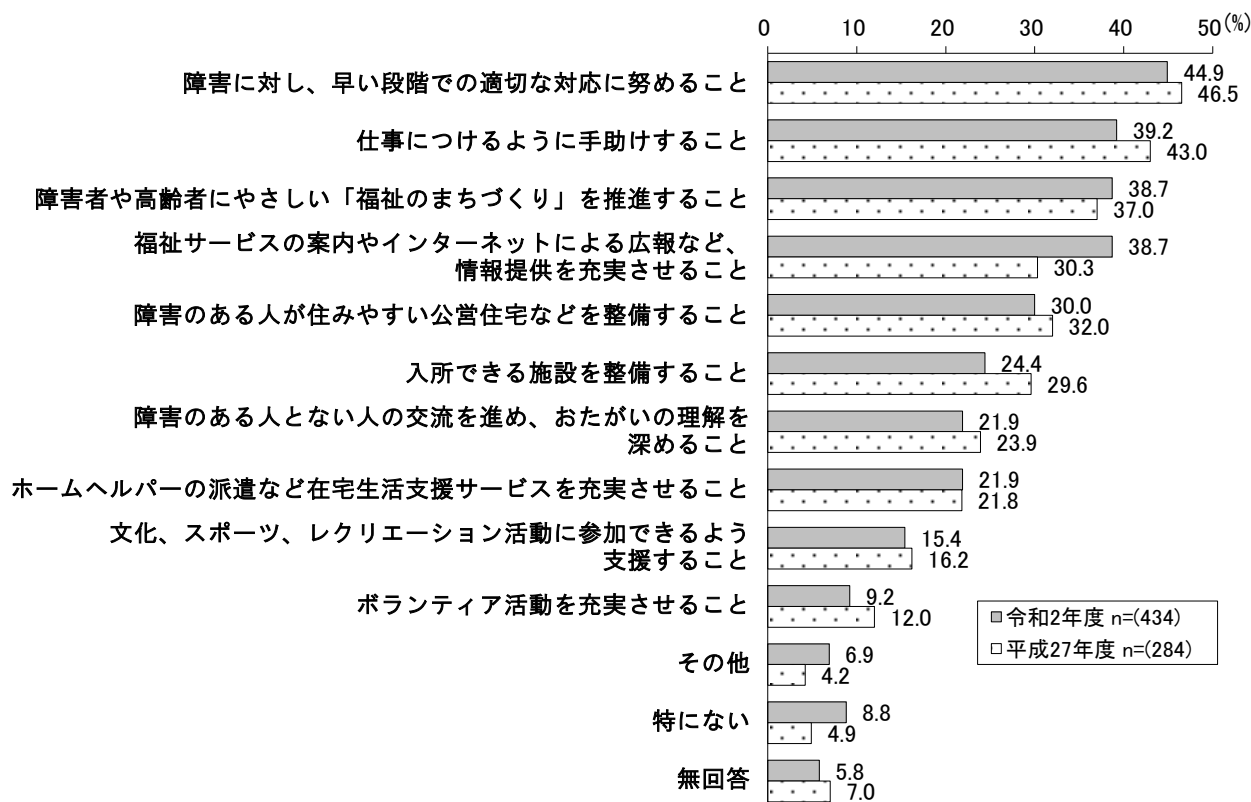
#### 【個人情報に関する不安】

- ・個人情報が、自治会の方々にまで届くのが不安。障害者ということで不利益を受けたりすることへの不安があるため。(女性・58歳)

## 1.1. 福祉施策

## (1) 市への要望

問38 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○つけてください。(○はいくつでも)



市に要望することでは、「障害に対し、早い段階での適切な対応に努めること」が44.9%で最も多く、以下、「仕事につけるように手助けすること」(39.2%)、「障害者や高齢者にやさしい『福祉のまちづくり』を推進すること」「福祉サービスの案内やインターネットによる広報など、情報提供を充実させること」(ともに38.7%)となっている。

平成27年度の調査結果と比較すると、「福祉サービスの案内やインターネットによる広報など、情報提供を充実させること」が30.3%から38.7%で8.4ポイント増、「入所できる施設を整備すること」が29.6%から24.4%で5.2ポイント減となっている。

## 12. 自由記述

最後になりますが、この調査を通じて、選択肢だけでは表現しきれなかったことや、四街道市の障害者施策に関するご意見やご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にお書きください。

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、延べ125件の意見をいただいた。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

### 【福祉サービス全般】

- ・インターネット上で様々なサービスを利用できるようにしてほしい。(男性・22歳)
- ・精神障害者に対するサービスが少なすぎるかと思えます。(女性・30歳)
- ・国でも市でも福祉の改制があったら書面で知らせてほしいです。(女性・43歳)
- ・見た目は「健常者」と言われている「グレーゾーン」の人にも光をあててほしい。(女性・48歳)
- ・差別や偏見のない街づくりをすすめてほしい(女性・32歳)
- ・生活の中での心配(経済面、対人面)を気軽に相談できる機会と場所があったらいいと思っています。(女性・51歳)

### 【経済的支援】

- ・デイケアに通所していますが、交通費半額免除をして欲しいです。(女性・46歳)
- ・障害者は収入が少なく医療費が高い為、ベーシックインカムを導入をお願いします。(男性・40歳)
- ・傷病、障害、災害などによる国民健康保険と、固定資産税の減免措置を考慮していただきたいです。(男性)

### 【交流、理解】

- ・障害者の交流の場所、簡単な仕事、楽しみがある時間が過ごせる様な仕組みを考えてほしい。(男性・53歳)
- ・障害者のいる家を時々、一軒一軒回ってほしい。話を聞いてほしい。(女性・55歳)

### 【雇用、就労】

- ・通勤しないで自宅で仕事をして収入を得ることが出来る仕組みを構築してほしい。(男性・51歳)
- ・精神障害者の作業所や仕事へつながる経験ができる所を作ってほしいです。(女性・51歳)

### 【移動手段】

- ・市役所に行く事が年数回あるのに、行き帰りの交通の便が非常に不便。(男性・38歳)



【手続き】

- ・とても良い対応をされていると感じます。このまま頑張って下さい。(男性・31歳)
- ・代理の者が行くと委任状等が必要で手続きが面倒である。(女性・35歳)

【感謝】

- ・日々、病気やケガ、障害など、援助ありがとうございます。僕のような者にも配慮して下さい感謝します(男性・37歳)

【その他】

- ・災害時における障害者への配慮をして欲しい。(男性・44歳)
- ・特別支援教育のあり方を見直して頂きたいと思います。(男性・16歳)
- ・とにかく、きちんと、診てくれる病院が、少なすぎる(女性・58歳)



---

## 四街道市障害者福祉に関する調査

2021年3月発行

発行 四街道市 福祉サービス部 障害者支援課  
四街道市鹿渡無番地  
電話 043-421-6122

---